

事項一三 露国革命關係一件

三八七 二月十五日 在露国内田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

露国ノ不安ナル内政事情及戦局ニ関シ英国大使談話ノ件

第一三三三号

二月十四日初メテ英大使ト会談セルニ同大使ハ開口第一ニ閣下ハ露国ノ時局及戦局特ニ不愉快ナル時ニ着任セラレタリトテ大要左ノ通り語レリ
自分ハ休養ノ為十日内外旅行シタキモ留守中如何ナル事變發生セズトモ計リ難ク甚ダ懸念ニ堪ヘザルヲ以テ下院議長ニ対シ次回開会セラルベキ議會ノ形勢如何ヲ尋ネタル処開會後政府攻撃等ノ演説アリテ多少ノ騷擾ハ免レザルベキモ戦争終結迄ハ左シタル事モナカルベシトテ頗ル樂觀的ノ挨拶ヲナシタルガ自分ハ爾カク樂觀スルモノニアラザルモサリトテ此際革命的變動ヲ惹起スルコトハ結局露国ノ破滅トモナルベキコトハ露国官民共ニ自覺シ居リ且ツ下層人民ハ

戦争ノ為却ツテ富裕ニナリ居ルニ付到底免レ難キ革命モ戦争中ハ或ハ(脱)無難ナラント信ゼラルルモ意外ノ事變ガ突発スルコトハ露国ニ於テ有勝ノ事ニ付安心ナリ難ク何分露国ノ民心現情ニ嫌タラズ特ニ露国皇后ニ関スル一般ノ不平甚敷ク曾テ大臣タリシ人々ノ内ニ於テサヘ遠慮ナク次ニ暗殺サルベキ人ハ皇后ニシテ問題ハ御一人ナルヤ又ハ他ニ同難者(暗ニ皇帝ヲ指ス)アルヤノ点ニアリト口外スル程ノ状態ニテ目下皇帝ガ從來ノ例ニ反シ永ク滯京セラルルハ皇后ガ心配ノ余引留メ居ラルルモノト察セラルル皇帝ハ善意ノ御方ナルモ意思弱ク全ク皇后ノ掌中ニアリ誠ニ露国ノ為ニ嘆ズベキコトナリ又閣臣中其人ナク総理大臣ハ寧ロ内務大臣ノ傀儡ニ過ギズ内務大臣ハ只其位地ヲ維持センガ為只管皇后ニ取り入り遂ニ其御信任ヲ博シ得タリ然ルニ同大臣近来ノ施設ハ殆ンド悉ク民衆ノ激怒ヲ挑発スルモノトモ称シ得ベク之ガ他国ナラバ早ク何等カノ事變ヲ惹起シタルベキモ追ガハ露国民ノ忍耐ハ又學ビ得ザルモノアリ云々将来

戦局ニ関スル本使ノ問ニ対シ独逸ハ未ダ食料不足ノ為降参スルガ如キコトハナカルベキモ国内ノ結合ニ余程困却シ居ル模様ナルニ付今春一大打撃ヲ与フルコトヲ得ベ意外ノ發展ヲ見ルコトアルベク成ルベク本年中ニ戦争ヲ終結セシメタク西方ノ戦場ニ於テハ必ズ何カ目覺マシキ態度ニ出ヅル筈ニ付露国側モ同一ノ態度ニ出デシメタク目下聯合國側ノ委員会モ当地ニ開キ居ル際ニ付露国当局者ヘ折角勸告中ナルガ露国ノコトハ到底常識ヲ以テ判断シ難ク殊ニ「オルガニゼーション」ノ能力ニ至リテハ甚タ欠乏シ之ヲ例セハ鉄道輸送ノ敏活ヲ計ルカ如キ自分等ノ忠告モ格別ノ効ナク依然トシテ各方面ニ於テ渋滞ヲ来タシ居ルモ英国トシテハ出来得ル限リ露国ヲ援助スル外ナキ次第ニ付日本モ此上出来得ル丈露国ニ助力センコトヲ希望スル旨ヲ語リタリ
英国大使ハ当地ノ任務ニ倦ミ居ル旨ヲ淡泊ニ本使ニ向ヒ自白シタル程ニ付其ノ意見モ斟酌ヲ要スヘキモ当國議會開会モ二週間後ニ迫リ居リ必ズ革命的事變ヲ見ルヘシトノ謠言頻リナルヲ以テ英大使談話ノ假御参考迄ニ内報ス

三八八 二月十八日 在露国内田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

露国ノ情勢ニ関スル悲觀的觀測ニ付英国大使來談ノ件

第一四五号

二月十七日英大使來談大要左ノ如シ
近頃独逸ヨリノ内報ニ依レハ独逸ハ国内ノ窮狀ニ拘ラズ余程終局ノ勝利ニ自信アルカ又ハ例ノ躊躇著手段ニ出デタルモノカ種々過分ノ条件ヲ言ヒ振ラシ其内ニハ独逸殖民地全部ノ還附及莫大ノ戦費賠償金ヲモ含メ居ルトノコトナリ又同大使ハ余程露国ノ将来ヲ悲觀シ居ルモノノ如ク往電第一三三号ノ趣旨ヲ繰返シ本年中ニ露国ノ腰ヲ固メ其ノ立場ヲ改良セシムルニアラザレバ明年ノコトハ憂慮ニ堪ヘザル旨ヲ語レリ目下当地滞在中ノ英国側委員長「ミルナー」卿不日本使訪問ノ筈ニ付會議ノ模様及同人ノ露國觀等聞ルシ電報スヘシ
在英仏伊大使ヘ転電セリ

三八九 二月二十三日 在露国内田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)
議會開会ノ直前ニ於ケル露国ノ国内情勢ニ関シ報告ノ件

第一五八号

議會開会ノ期日モ四日以内ニ迫レル処本議會モ単ニ二三日ニシテ停会ヲ命ゼラルベシトカ或ハ政府ハ議會ノ喧囂ヲ見越シテ全然開会セザルベシトカノ風評アル一方現政府ノ遣口ニ嫌焉タル一派殊ニ社会党ハ同盟罷工ヲ以テ之ニ對抗スベシトノ風説アリ来ル二十七日議會開会ノ日ヲ以テ陳情ノ為メ労働者議會ニ押寄スヘシトノ謠言流布セルヲ以テ二十一日附「ペトログラード」軍管司令官ハ此際同盟罷工スルモノハ祖国ニ叛逆ヲ企ツルモノトシ兵力ヲ以テ之ヲ制止スベキ旨ノ警告ヲ発シタリ

尚ホ新聞紙ノ報スル所ニ依レハ本期議會ニ於テハ開会劈頭食料品問題輸送及燃料品問題討究セラルベシト云フ

三九〇 三月八日 在ペトログラード石坂少將ヨリ
田中参謀次長宛(電報)

露国皇帝大本營ニ還御及一部労働者ノ暴動発
生ニ付報告ノ件

第二十三号

露国皇帝ハ昨七日大本營ニ還御セラル

(本八日露都各地ニ於テ労働者其他群衆シ一部ハ食品店及

第二〇八号

三月八日九日ノ兩日ニ渡リ当地諸工場ノ労働者同盟罷工シテ市中ヲ徘徊シ交通機關ノ一部モ停止セラレタリ憲兵及哥薩克兵ハ市中ノ秩序維持ニ努メツツアルモ只今迄罷工ハ鎮靜ノ模様見エズ同盟罷工ノ近因ハ麴麴ノ欠乏ニアルモノノ如シ麴麴屋ノ破壊セラレタルモノ及負傷者モ多少アル様子原因及今後ノ状況追報スベシ

三九三 三月十一日 在露国内田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

同盟罷工次第第二拡大シ革命運動ニ発展ノ危険

アル旨報告ノ件

第二一四号

往電第二一三号同盟罷工ハ今尚依然トシテ行ハレ砲兵工廠ノ労働者モ九日ヨリ罷工セリ

労働者等ハ示威運動ノタメ集ラムトシ軍隊及憲兵ハ之ヲ制止セムトシテ軍隊トノ小衝突ハ市内各所ニ行ハレ彼我ニ死傷アリト云フ十日「ペトログラード」軍管区司令官ハ告示シテ昨今「ペトログラード」ニ於テハ軍人及警官ノ生命ニ危害ヲ加フルノ乱暴行ハル市内ニ於テハ一切民衆ノ集会ヲ禁ズ

電車ニ向テ暴動ヲ行ヘリ警官ノ警戒嚴ナル為メ未タ大事ニハ至ラサルモ稍不穩ナリ)

三九一 三月八日 在ペトログラード石坂少將ヨリ
田中参謀次長宛(電報)

露都不穩ノ情勢險惡ノ度ヲ加ヘシ旨報告ノ件

露都不穩ノ状態ハ本日ニ到リ其ノ度ヲ増セリ從ツテ軍隊ノ警戒ハ甚タ嚴ニシテコサツク部隊モ出動シ群衆ノ解散ニ努メツツアリ今回ノ同盟罷工ハ間接工場ノ職工モ加ハリアルヲ以テ其ノ範圍可成広キモ未タ甚タシキ暴動ヲ惹起スニ到ラズ但同盟罷工ノ主原因タル食糧品供給ノ不行届ノ外ニ独逸派ノ煽動シ居レル疑アリ現ニ群衆中歐洲戰爭ヲ止メヨト叫フモノアリ又学生ノ一部モ加入シ在ルヲ以テ当局者ノ処置宜シキヲ得ザレハ今後ノ形勢益々險惡ニ至ルノ虞ナシトセズ

三九二 三月九日 在露国内田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

労働者ノ同盟罷工及首都ノ形勢不穩ニ付報告
ノ件

夜ハ軍隊カ都府ノ秩序恢復ノタメ命ニ從ハザルモノノアル場合ニ兵器ニ訴フルコトヲ許可ストノ布告ヲ以テセリ之レガタメ人心恟々タリ今回同盟罷工直接ノ原因ハ糧食殊ニ麴麴ノ不足ニ在リテ現ニ示威運動中ナル群衆ハ麴麴ヲ与ヘヨト叫ヒツツアリト雖其ノ罷工ハ發展シテ政事の同盟罷工トナリテ予テ内外人カ露国ニ於テ戰爭中カ又ハ戦後ニ革命ハ免ルヘカラズト覚悟セル通ニ遂ニハ革命運動ト化スルノ危険ナキニシモアラズト称セラレ又当市ノ電車ハ既ニ昨日ヨリ不通トナリ当地諸新聞社ニモ職工ノ同盟罷工起リ多数ノ新聞発行ヲ停止セリ

三九四 三月十二日 在露国内田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

警備ノ軍隊群衆ニ発砲並軍管区司令官ノ同盟
罷工停止ノ諭告発布ニ付報告ノ件

第二一六号 極秘

昨十一日当市内ニ於テ警備ノ兵士中群衆ヲ解散セシムルタメ発砲シタル者アリテ多大ノ死傷者ヲ出セリト云フ同日露都軍管区司令官ハ諭告ヲ発シ労働者ニ致命スルニ近來各工場ノ労働者ハ同盟罷工セルガ、コレ敵ニ買収セラレタル反

逆人ノ言ニ聴キ敵国ヲ援ケ祖国及戦場ノ同胞ニ背クモノナルヲ以テ明十二日ヨリソノ職ニ就クヘク若シ明后十三日迄ニ就職セザレハ直ニ兵役義務ヲ課シ戦地ニ送ルヘントノコトヲ以テセリ

今十二日正午頃高田商会、主任牧瀬用務ノタメ砲兵工廠往訪中流弾ニ中リ重傷ヲ負ヘリ委細取調中

三九五 三月十二日 在露国内田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

軍隊ノ一部ガ暴動ニ加担シ情勢一層危険トナ

リシ点ニ付報告ノ件

第二一七号

今十二日午前十一時頃ヨリ軍隊ノ一部モ同盟罷工ノ労働者ニ加担シ市内各処ニ於テ警官及ビ将校ヲ狙撃シ又ハ危害ヲ加ヘ形勢穩カナラズ暴動者中ニハ赤旗ヲ徴トシ市内ヲ徘徊スルモノアリ暴動ノ一中心ハ当館附近ノ砲兵工廠ニシテ兵隊ハ今尚同処ヲ襲撃中是同工廠ガ今朝ヨリ作業ヲ開始シタルガ故ナリト云フ風説ニ依レバ右暴動ニ加ハリタル兵隊ハ予備工兵一大隊ト歩兵四聯隊ナリト云フ

前記牧瀬ハ死亡セリ館員ノ実見ニ依レバ同人ハ即死セルモ

三九七 三月十三日 在露国内田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

露都ノ暴動次第第二革命の様相ヲ帶ビツツアル

点ニ付報告ノ件

第二一九号至急

「ペトログラード」ノ暴動ハ其後益々猖獗ヲ極メ近衛歩兵ノ大部分モ暴動ニ加担シタルモノノ如ク昨夜来市内ノ各所ニ銃声絶エス暴動ニ与ミセル兵卒等ハ赤旗ヲ翻シテ市内ヲ横行シ「ペトログラード」ハ全ク無警察ノ状態ニ在リ昨夜市内ニ新聞記者委員ノ名ヲ以テ配布セル印刷物ノ記事大要左ノ通

一、本月十一日附ヲ以テ議會停会ノ詔勅下レリ

二、下院議長ハ皇帝ニ電報ヲ送り帝都カ無警察ニシテ戦乱ノ巷ト化シタル(?)現政府ノ既ニ手ヲ下シ得サル現状ヲ述ヘ今ハ其国及皇室ノ運命ヲ決スヘキ最後ノ瞬間ナリトテ国民ノ信用スルモノヲシテ内閣ヲ組織セシムルノ急務ヲ説キタリ

三、暴徒ハ下院ニ押寄セ下院議員 Tchicheze 等ハ其ノ首魁等ニ面会シテ喝采セラレタリ

ノノ如シ高田商会ニ御通知アリタシ

三九六 三月十三日 在露国内田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

露都ノ暴動ノ状況ニ付報告ノ件

第二一八号

当地騷擾ニ関シ三月十二日夜迄ニ当館員及陸海軍武官ノ聞込ミタル所左ノ通但第二第三ハ単ニ風説タルニ止ルヤモ計リ難ク未ダ真偽ヲ確ムルニ至ラザルモ万一電信ニ故障アラソヲ慮リ不取敢電報ス

(一)当館附近ノ砲兵工廠ノ前面ニアル地方裁判所ハ今十二日三時頃放火スルモノアリテ猶ホ焼燃中又同所附近ニアル監獄ヲ破リタルモノアリテ囚徒ハ尽ク解放セラレタリ

(二)今夜下院ニ集会シ居ル議員ニ迫リテ下院議長ヲ推シテ仮政府ノ布告ヲ発セシムトノ風説行ハル

(三)上院議長農務大臣及内務大臣ハ暴徒ニ捕ヘラレタリトノ噂アリ

本電第二一六号及第二一七号電信在欧米各大使ヘ転電セリ

四、帝都秩序維持ノ為下院ニ臨時委員会ヲ組織シ Rojanko Nekrasow Kerensky Konobarow Tchicheze Schaligen Shidrowsky Miliukow Karavlow Libow Dmitriukow Rujevski ノ十二名之ニ当レリ

五、上院議長 Stechegrievetov ハ暴徒ニ捕ヘラレタリ

六、暴動ニ加担シタル軍隊ハ「ブレラブラジエンスカヤ」「ボリンスキー」「リトウスキー」「ケクスゴリムスキー」ノ各聯隊ニシテ其ノ数二五、〇〇(脱字)傷者ヲ出シ各兵營ニハ殆ト将校ノ姿ヲ認メズ

七、十二日午後首相「ガリツチン」ハ総理ノ職ヲ辞シタル旨下院議長ニ通告シタリ

風説ニ依レハ内務大臣「ポロトポポフ」ヲ除ク外皆辞表ヲ提出シタリト云フ

八、前記各聯隊兵營ノ外暴徒ハ砲兵工廠及冬宮対岸ノ旧砲台ヲ占領シタリ尚風説ニ依レハ芬蘭及(?)ノ部隊ヲ派遣スヘシトノコトニテ暴徒ハ砲兵工廠附近ニ小規模ノ築造ヲナシ野砲二門ヲ据附ケ之ニ備ヘツツアリ

右様ノ次第ニ付牧瀬ノ死体ハ今ニ收容スルヲ得ザルモ折角外務省ト交渉中ナリ

(十三日午前十一時発)

三九八 三月十四日

在露国内田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

露都ニ於ケル革命ノ進行ニ関シ報告ノ件

第二二二号至急

当地ニ於ケル革命運動其後ノ情況左ノ通り、(電報不通ノ為十二日以来発電セザリシモノナリ同夕以来ノ分ヲモ取纏メ電報ス)

第一、露国外務大臣及英國大使ト本使会談ノ概要ハ別電ヲ以テ報告済

第二、十四日午後五時仏国大使館参事官ノ丸毛参事官ニ為シタル談話要領

(一)、皇帝陛下ハ三月十二日大本営出發帰還ノ途ニ就カレタルモ中途ニ遲滞セラレ今尚到着ナシ議會特別委員ハ陛下ニ拝謁ノ上責任内閣樹立ノ希望ヲ開陳シ其認諾ヲ得ル為当地ヲ出發シタリ

(二)、皇后陛下ハ昨日「ツアースコイセロ」ヲ退去セラレタリ

(三)、「キリル」太公ハ既ニ議會ニ赴キ宣誓セラレタリ

ル事ナキヲ保シ難シト雖トモ余ハ革命派今日ノ運動ガ平和ノ要求ニアリトハ思料セズ

第四、三月十三日夕刻迄ニ知り得タル革命運動其後ノ情況

(一)、各方面ニ警察官ト革命派トノ衝突アリ市内警察署焼カレ海軍々司令部警視庁ハ暴徒ニ襲ハレ宮内大臣官邸モ焼払ハレタリ

(二)、往電第二九^(ニツ)号ノ議會特別委員ハ事実上革命運動ノ中枢トシテ一面秩序維持ニ努メツツアリ

(三)、「グチコフトルストイ」、「ツルベツコイ」公、「オルデンブルグ」公、「グリム」教授等十数名ノ上院議員ハ連署シテ皇帝ニ電報ヲ送り現下ノ急務ハ国民ノ信望アルモノヲ挙ゲテ内閣ヲ組織セシムルニアル旨上奏セリ

(四)、前首相「スチルメル」、警視総監「バルク」、軍医学校長、前内務次官「クウルロフ」中將、前交通次官「ボリツフ」、衛生大臣「レイン」、鉄道長官「バカシエフ」以下数名ノ陸海軍将官上院議員ハ孰レモ革命派ノタメニ拘禁セラレタリ

(五)、当地衛戍兵ノ多数ハ(將校モ追々加ハリツツアリ)議會ニ参集シ「ロヂアンコ」「ミリユウコフ」等之ニ対

(四)、「ミハイル、アレキサンドルウキチ」太公ハ過日來議會ト相通ジ其間ニ何等カノ疎通アルモノノ如シ其他ノ皇族中ニモ今回ノ革命派ニ反対セザル人アルハ事實ナリト史料ス

(五)、戦争継続ハ議會委員側一致ノ意見ニシテ平和速成運動ハ少数極左党ノ要求ニ過ギズ今日ノ処勢力アリトハ信ズル事能ハズ

第三、十三日午後四時仏国大使ガ丸毛参事官ニ為シタル談話要領左ノ通り

(一)、首相以下諸大臣ハ辭職ヲ聴許セラレズ其保留任スルコトナレリ

(二)、皇帝ハ「イヴァノフ」將軍ニ特別ノ権限ヲ委任セラレタレバ帝都ノ秩序維持ノ為ニ上京スベク同將軍ハ「タクト」アル人ナレバ議會側ト妥協スルヤモ知レズ

(三)、外務大臣ニハ十三日面会シタルガ同氏ハ極メテ冷静ニシテ樂觀ノ態ニ見受ケタリ

(四)、今回ノ事變ノ為露国ノ單獨講和ヲ惹キ起スベシトハ思ハレズ自分ノ知レル革命派ノ領袖連ハ皆熱心ナル主戰論者ナリ勿論事ノ成行如何ニ依リテハ斯ノ如キ結果ニ至

シテ演説ヲナシタルガ大体ニ於テ市内ノ秩序維持ニ努メ其將校ニ聴従スベキコトヲ論シ「ミリユウコフ」ハ外敵独逸アルコトヲ忘ルベカラザルコト力説セリ

(五)、市内ノ交通軍輪通信ノ各機關及ペトログラード旧砲台官庁等ハ皆革命派ノ占領スル所トナレリ

第五、三月十四日正午迄ニ知り得タル情報左ノ通

(一)、今朝來当地衛戍聯隊中未ダ議會ニ於テ宣誓セザリシモノ(パウロスク、フィンランドスキ及海兵団水兵等)ハ陸統隊伍ヲ整ヘ軍樂ヲ奏シツツ赤旗及聯隊旗ヲ擁シ下院ニ赴ケリ「クロンスタット」「ツアルスコイ」「クラスノイセロ」ノ各聯隊及水兵モ革命派ニ参加セル由市内昨日ニ比シ静穩ナリ

(二)、三月十三日夜全露国ノ都市ニ対シ議會特別委員ノ成立ヲ通知セリ右委員會ニテハ代議士ニシテ陸軍大佐タル「エンゲリハルド」ニ露都要塞司令官ノ事務ヲ委任シ「ガチニコフ」ハ糧食代議士「ブブリコフ」ハ交通ノ各部ヲ担任セル由

(三)、前記委員會ハ露都在任ノ將校ニ対シ十四日十五日兩日中ニ將校俱樂部ニ参集シテ自由通行券ヲ受取り都市ノ

秩序維持ノ任ニ当ルヘキコトヲ告示シ右兩日中ニ出頭セザルモノハ將校タル身分ヲ失フヘキコトヲ宣言セリ各聯隊ノ將校ノ一部ハ革命派ト行動ヲ一ニシツツアリ

(四)、前記委員会ハ下院議長ノ名ヲ以テ黒海、バルチック海ノ艦隊司令官各方面軍司令官大本營參謀總長ニ電報ヲ送り従前ノ内閣が存在セザルニ至レルヲ以テ政府ノ権限ハ議會ノ特別委員会ノ手ニ移リタルコト竝右委員会ハ帝都ノ秩序維持ニ全力ヲ尽スト共ニ現在敵国ニ対スル戦争ハ瞬時ト雖休止セズ又力ヲ殺グコトナカルヘキニ依リ陸海軍ノ將卒ハ祖国防禦ノ為メ戦争ヲ繼續セラレタシトノ旨ヲ申送レリ風説ニ拠レバ露国ノ總軍司令官ニハ「アレツキシエーフ」將軍之ニ任ゼラルヘシト云フ

(四)、其後拘禁セラレタルモノ左ノ通

内務大臣 プロトポポフ

司法大臣 ドブロボリスキー

交通大臣 ウォインスキー、クリーゲル

前警保局長 クリモブイッチ

警視總監次長 ベンドルフ將軍

(六)、ペトログラード市參事會ハ市内ノ秩序維持ノタメ民

兵ノ組織ニ着手セリ其多数ハ大学生ナリト曰フ

(七)、革命派新聞ノ報ニ拠レバ鐵道モ近ク復旧スヘク銀行モ開カルヘシト曰フ電車ハ未ダ開通セザルモ「パン」ノ分配ハ昨日以來著シク潤沢トナリタルモノノ如ク数日以前ニ比シ買入容易ナリ商店ハ未ダ開カズ市内ニハ赤色ノ「リボン」ヲ付ケタル市民ノ通行スルモノ頻繁タリ

三九九 三月十五日 在露国内田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

革命ノ事態ニ関シ露外相ト會談ノ件

第二二三号

三月十三日外務大臣ヲ往訪シタルガ同大臣ハ至極冷靜ノ態度ヲ以テ当市ノ騷擾ニ関スル本使ノ問ニ対シ知レル所甚ダ少キモ知リ居ル限リハ私談トシテ腹藏ナク語ルベシトテ大要左ノ通述ベタリ

(一)、当市ノ騷擾ハ先週木曜ヨリ一端ヲ発シ日曜日ニ漸次軍隊中之ニ参加スルモノヲ生ジ目下露都附近ノ軍隊ハ海陸共ニ革命側ニ加担セリ

(二)、内閣ハ辭職セズ依然其職ニ在ルモ閣員中ニハ總理大臣司法文部及内務諸大臣ノ如キ其所在不明ナルモノアリ

通信大臣ハ無事ナルモ其職ハ之ヲ執ラズ下院議員ブウブリコフ其実務ニ当リ居レリ(外務大臣ハ玆ニ現存シ居レリトテ自己ヲ指シ洪笑セリ)

閣議ハ月曜日以后之ヲ開カズ

(三)、下院内ニ組織セラレタル委員會ハ本大臣ト何等關係ナク又自カラ之ニ臨ミタルコトナキヲ以テ其實際ヲ斷言シ難キモ其目的ハ専ラ露都ニ於ケル秩序ノ回復及保安ノ維持ニアリテ彼等ハ多分其目的ヲ達スルコトヲ得ベシ

(四)、右ノ外ニ芬蘭停車場附近ヲ中心トスル労働側ノ組織スル委員會アリ前者ニ反シ其主張一層過激ニシテ其目的トスル所又(不明)ニアルガ如キモ其代表者ハ同ク下院内ノ委員會ニ参加シ行動シツツアルヲ以テ兩委員會間ニ妥協ノ途ヲ見出スコト又不能ニアラサルベシ

(四)、右様ノ次第ニテ下院内ニ組織セラレタル委員會ハ法律上及實際上新政府ト認メ難ク從ツテ英仏兩大使館トモニ其申込アリタルニ拘ハラズ国旗ヲ掲揚セズ唯ダ伊國大使館ノミハ爆彈又ハ銃火ノ危険アルヲ以テ其国旗ヲ掲揚セルノミ尤モ水道食料品其他ノ件ニ関シテ事実上下院内委員會ニ接觸シタル大公使館ハ有之ベシ

(六)、皇帝ハ「イワノフ」將軍ヲ露都方面總軍司令官ニ任命セラレ各大臣モ同將軍ノ命スル所ヲ行フヘシトノ勅命アリタルヲ以テ目下其ノ到着ヲ待チツツアリ同將軍ハ今十四日露都着ノ筈ナルモ未タ其ノ報ニ接セス

(七)、「イワノフ」將軍ノ方針ニ付テハ未タ公報ナキモ私見ニ依レハ武力ヲ以テ鎮圧スルニアラスシテ或程度迄ハ下院内ノ委員會ト妥協ヲ為スヘキヲ信ス

(八)、露都騷擾ハ歐洲戦争ニ対シ何等影響スル所ナカルヘシ現ニ今回ノ騷擾中ニ平和ヲ唱道スルモノハ頗ル少数ニシテ大多数ハ戦争繼續論者ナルガ之目下市中尚銃声アルモ秩序ハ一日ト其ノ緒ニ就キツツアルヲ以テ歐洲戦争ニ何等不利ノ影響ヲ及ホスコトナカルヘシ

(九)、皇室ノ事ニ関シ確答ヲ与ヘ兼タルコトハ甚ダ遺憾ナルカ實際未タ何等ノ公報ニ接シ居ラサル始末ナリ何等異変ナキモノト信ス皇帝ハ一昨日迄ハ大本營ニ在ラセラレタリ皇后陛下ノ「ツアルスコエセロ」ヲ出発セラレタリトノ風説ハ之ヲ信シ難シ現ニ只今接手セル通報ニ依レハ(此時給仕封書ヲ持来ル)皇后陛下ハ尚同所ニ在ラセラルトノコトナリ

本使ハ外務大臣ニ対シ現騷擾ノ速ニ鎮静セラレ秩序ノ恢復ト共ニ歐洲戦争ノ勝利ニ全力ヲ用キラレンコトノ早カランコトヲ希望スト述ヘタルニ同大臣ハ之ヲ感謝セリ右外務大臣ノ談話中閣員ノ所在ニ付テハ知ル所ナシト云ヘルモノノ多クハ革命派ノ捕虜トナリ下院内ニ監禁セラレツツアルナリ

然ルニ同大臣ノ態度頗ル沈静ナルハ同大臣ト下院トノ間ニ何等連絡アルモノノ如キ感ヲ懷カシメタリ

在欧米各大使ヘ転電セリ

四〇〇 三月十五日 在露国内田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

革命ノ勃発推移ニ関スル所見披露ノ件

第二三四号

当地革命今日迄ノ成行ニ対スル本使ノ所見御参考迄ニ左ニ電報ス

露国ノ現状及皇帝皇后ニ対スル露国官民共通ノ不満失望ニ関シテハ隨時電報スル所アリタルカ只国家ノ存亡ヲ賭シタル戦争中ナリトノ故ヲ以テ今日迄忍容シ来リタルモ二年有余ノ戦争ハ實際民心ヲシテ倦マシメ居ルニ相違ナク近来戦

地ヨリ当地ニ販来セル我觀戰武官等ノ実見談ニ依ルトキハ敵前ノ將校モ多クハ内心倦怠ノ状アルノミナラス独軍ヲ以テ到底打勝ち得ヘカサル敵ト看做シ居ルモノノ如ク彼等ハ却テ其ノ好奇心ヲ後方露都ノ政変ニ注ギ居ルノ状アリト云フ(脱語、不明)露都ニ於テハ故意ニ買占ヲナシタルモノアルカ或ハ露人ノ弱点タル「オルガニゼーション」ノ能力欠乏ノ為實際物資ノ不足ナキニモ拘ハラズ按排其ノ宜キヲ得サルモノカ近頃物価ノ騰貴甚シク終ニ麵麩ノ欠乏ヲ訴フルニ至リ各所麵麩屋ノ前ニハ此ノ酷寒ニ老若男女列ヲ為シテ其ノ順番ノ来ルヲ待ち三四時間モ空費シテ僅ニ一家ノ為一片ノ麵麩ヲ得ルニ過キサノ状態トナリ如何ニ辛抱強キ露人ト雖到底長ク之ヲ容認セサルヘント思ハシメタルガ一方当局者ハ之ニ対シナカラ救済ノ方法ヲ講セサルモノノ如ク人ヲシテ是レ全ク政府カ故意ニ斯ノ如キ状態ヲ作為シ騷擾ノ爆発ヲ招致シ一挙之ヲ撲滅シ其ノ威敵ヲ保持セントスル苦肉策ニアラサルカト疑ハシメタリ又議會ニ於テハ盛ンニ政府ノ不能ヲ攻撃スルモ寧ロ口舌ノ争ニ過キスシテ折角政府ト協議ノ結果糧食供給事務ヲ市参事会ニ一任スルコトトナリタルモ右市参事会ハ何等為ス所ナク時日ヲ空過スベキ敵国ノ進撃ヲ喰止メ得ルヤ至大ノ疑ナキ能ハザルアリ一朝不幸ニシテ対峙ノ戦局露国側ニ於テ潰裂センカ其聯合諸国ニ及ボスベキ影響ノ至大ナルハ想像シ得ベカラザルモノアラン

此有リ得ベキ変局ニ対シテハ予メ慎重ナル廟議ヲ尽サレンコト切望ニ堪ヘザルナリ尚時局ノ發展ハ隨時電報所見ヲ開陳スベキガ聯合諸国政府ノ態度ヲ本使ニ於テ一日モ早ク知ル事必要ニ付在欧大使ヨリ本省宛ノ本件關係電報ハ同時ニ本使ヘ直接電報セラルル様特ニ各大使ヘ電訓アランコトヲ希望ス

在欧各大使ヘ電報セリ

四〇一 三月十六日 在露国内田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

臨時政府ノ承認問題ニ関シ請訓ノ件

第二四三号

(三月十八日接受)

十三日以来英仏伊政府ハ革命新政府ヲ承認シタリトノ風説ニ関シ仏国大使館参事官ノ丸毛ニ語ル所ニ依レハ仏大使ニ於テハ単ニ燃料及食料品ノ補給方ニ関シ下院議長ニ依頼スル所アリタルニ止マリ承認云々ハ全然風説ニ止マル旨ヲ述

へ尚又議會側ノ報道トシテ皇帝ハ自己ノ退位皇太子ノ帝位繼承權ヲ抛棄スル旨ヲ記名セラレ同時ニ「リウオフ」公ノ首相タルコトヲ承認セラレタリト云フ尚風説ニ依レハ皇太弟モ帝位繼承ノ意思ナキコトヲ発表セラレタリト云フ革命政府ヲ事実上ノ政府トシテ認メザルヲ得ザル必要何時起リ来ルヤモ計リ難キニ付英仏大使ニ於テ之ヲ認メ若ハ之ヲ認ムルコトニ賛成ノトキハ本使ノ裁量ニ依リ之ヲ認ムルモ差支ナキヤ何分ノ回訓ヲ請フ因ニ云フ英仏大使ハ寧ロ革命政府ニ同情ヲ有シ居ルモノノ如シ

四〇二 三月十七日 在露国内田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

革命ノ戦争継続ニ与フル影響ニ関シ而様ノ親測アル点ニ付報告ノ件

第二四四号

今回ノ革命力戦争ニ如何ナル影響ヲ及ホスヘキヤ露人間ニ行ハルル樂觀悲觀ノ二説ニ関シ其ノ大要及之ニ対スル本使ノ所見御参考迄ニ左ニ電報ス
樂觀説ニ拠レハ革命ハ完全ニ成就シ国民間ニ信任アル者内閣ヲ組織シ内政ハ無事ナルヘキヲ以テ露国ハ専ラ力ヲ外ニ

キテ平和ヲ欲スレトモ内外諸種ノ關係上殊ニ当初戦争ヲ是認シタル關係上恰モ所謂親独派カ自己ノ利益上独逸ト单独講和ヲ欲スルモ之ヲロニスルヲ憚リテ主戰説ヲ唱フルト同様平和ヲロニスルヲ憚リテ戦争継続ヲ唱ヘ之ヲロニスルモノハ社会民主党ノ一部ニ過ギサリシニ革命後ハ平和ヲロニスルモノ次第ニ多ヲ加ヘ現ニ社会民主党ハ昨今檄文ヲ以テ露国ニ共和制ヲ布クト同時ニ速ニ戦争中止ヲ必要トセリ又憲法議會ニ於ケル政体問題ハ一大難関ニシテ革命派間ニ意見ノ衝突ヲ見ルノミナラス現在全然其ノ勢力ヲ失ヒタル右党保守派及官僚ハ必ス機會ヲ見テ勢力ノ恢復ヲ計リ又新政府ノ有セル障害ヲ与フルニ至ルヘシ要スルニ露国今後ノ問題ハ結局内政ヲ主トシテ戦争ヲ第二位ニ置クニ至ラントスル虞アリ

四〇三 三月十七日 露国外務大臣ヨリ
在露国内田大使宛

露国臨時政府ノ成立ニ関シ通告ノ件

Le 4/17 Mars 1917.

Monsieur l'Ambassadeur,

Par un acte en date de Pskov, le 2/15 Mars 1917, l'Empereur Nicolas II a renoncé au Trône pour Lui-

向クルヲ得ベシ現在事実上ノ政府タル下院臨時施行委員會ニハ労働及社会民主兩党総理モ加入シ又兩党ヲ中心トシテ成リタル兵卒及労働者代表者會議臨時施行委員會ハ新内閣組織ニ同意シタルヲ以テ兵卒労働者等ハ同内閣ヲ否認スルコトナカルヘク從テ兩委員會トモ同シク戦争継続ニ賛同スヘントアレトモ悲觀説ニ拠レハ革命ハ未タ容易ニ完成セズシテ将来憲法議會開クルニ至レハ内政ハ益々多事トナリテ露国ハ其力ヲ外ニ向クルヲ得ザルヘク從テ戦争ハ事実上継続不可能トナルニ至ルヘシ下院委員會ニハ労働及社会民主兩党総理加入シ労働党総理ハ新内閣ノ司法大臣タルモ右兩党ト下院委員會ニ加入セル他ノ諸党派トハ兩立スヘキ性質ノモノニアラサルニ加ヘ社会党ハ勿論労働党モ一般ニ下院委員會殊ニ新内閣ヲ悦ハザルモノ多ク現ニ下院委員會カ同盟罷工ヲ中止シ労働者ヲシテ其ノ職ニ就カシメントシタルニ労働者等ハ兵隊ト共ニ我目的ハ未タ全ク達セラレス此ノ目的ヲ達セラレサル間ハ労働ニ就クヘカラストテ之ヲ遮リタリ元来下院委員會ノ多数ハ戦争継続説ニシテ中止ノ論者ハ社会民主及労働兩党ノ一部ニ過サルモ右継続論者中ニハ内心ニ平和ヲ欲スルモノ尠カラス露国国民カ既ニ戦争ニ倦

même et pour le Grand Duc Héritier Alexis Nicolaevitch, en faveur du Grand Duc Michel Alexandrovitch. A la notification qui lui a été faite de cet acte, le Grand Duc Michel Alexandrovitch, par un acte en date de Péetrograd, le 3/16 Mars 1917, a renoncé à son tour à assumer le pouvoir suprême, jusqu'au moment où une assemblée constituante créée sur la base du suffrage universel, aura établi la forme du Gouvernement et les nouvelles lois fondamentales de la Russie. Par le même acte, le Grand Duc Michel Alexandrovitch a invité les citoyens russes en attendant la manifestation définitive de la volonté nationale, à se soumettre à l'autorité du Gouvernement provisoire, constitué sur l'initiative de la Douma de l'Etat et qui détiend la plénitude du pouvoir.

Le Gouvernement provisoire a été constitué sous la présidence de M. le Prince Georges Lvoff, Ministre de l'Intérieur. Au sein de ce Cabinet le sousigné a été appelé à se charger du portefeuille du Ministère des Affaires Etrangères.

Je n'ai pas manqué de faire connaitre aux représentants diplomatiques de Russie à l'étranger le changement de régime survenu en Russie, en les invitant

à le notifier aux Gouvernements des Etats auprès desquels ils se trouvent accrédités.

En Vous faisant part de ce qui précède et en me réjouissant de l'avantage d'entrer en relations personnelles avec Votre Excellence, je me permets d'espérer que Vous voudrez bien me prêter Votre précieux concours pour cultiver et raffermir encore les relations intimes d'amitié et d'alliance qui unissent si heureusement nos deux pays.

Veillez agréer, Monsieur l'Ambassadeur, l'assurance de ma haute considération.

Son Excellence

le Vicomte Yasuya Uchida
Ambassadeur du Japon
etc., etc., etc.

Paul Miloukov.

四〇四 三月十八日 在露国内田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

臨時政府ノ事実上ノ承認方ニ関シ請訓ノ件

第二五三号

(三月十九日接受)

往電第二四三三号ニ関シ皇帝讓位皇太弟帝位辞退ノ今日トナ

リテハ新政府ヲ事実上ノ政府ト認ムルノ外ナカルヘク而シテ右承認方ハ英仏兩國ヨリ余リ後レザル様致度シ若之ニ関シ英仏政府ヘ交渉ノ必要アラハ至急交渉アリタク左モナキ場合ニハ当地英仏大使ト行動ヲ一ニスル条件ニテ承認方本使ノ裁量ニ一任セラレタシ

四〇五 三月十八日 在露国内田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

臨時政府ノ「ミリウコフ」外相ノ來訪ニ関シ

報告及請訓ノ件

第二五四号

(三月二十日接受)

露国臨時政府外務大臣 Miloukov ハ三月十八日政体変更ニ関スル三月十七日附公文ヲ本使ニ送致シ尙自ラ当館ヲ來訪シ名刺ヲ残シ行ケリ右公文ハ往電第二四六号皇帝讓位ノ詔勅及往電第二四七号皇太弟宣言ノ次第竝 Livov 公ヲ首班トスル臨時政府成立シ自己ハ同内閣ニ於テ外務大臣ノ職ヲ負フニ至レルガ右政体ノ変更ハ列国駐在露国使臣ヲシテ各任国政府ニ通告セシメタル旨ヲ述ヘ最後ニ同大臣ハ右ノ趣本使ニ通牒スルト共ニ親シク本使ト交誼ヲ結フノ機ヲ得タルヲ悦ビ日露兩國ヲ結合スル親善及同盟ノ友好關係ヲ一

層増進シ且鞏固ナラシメムカ為本使ノ協力ヲ得ンコトヲ希望スル旨記述セリ就テハ往電第二五三号臨時政府承認ノ件至急何分ノ御電訓ヲ請フ

四〇六 三月十八日 在ハルビン佐藤總領事代理ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

ハルビンノ情勢ニ鑑ミ日本軍ノ出動ノ可能性

アリヤト「ホルワット」將軍ヨリ打診ノ件

第一九号

今回露国ノ革命ニ関スル情報ヲ得ンガ為メ三月十七日本官「ホルワット」將軍ニ面談ノ処只今「ニコライ」二世ノ讓位ニ関スル宣言ノ電報ヲ接シタリトテ本官ニ讀ミ聴カセタル後自分ハ同皇帝ノ為ニ知ラレ是迄誠忠ヲ擢ンデ來リシモノニテ今讓位ノ宣言ヲ手ニシ悲痛ニ堪ヘズ若新政府ニシテ自己ノ留任ヲ必要トスレバ現職ニ留マルベク然ラズンバ退職ノ外ナシト云ヒ尚ホ本官ヨリ昨夜ノ如キ市内各処ニ人民ノ集合アリ万歳ヲ唱ヘテ練リ歩クナド革命ノ気分ニ酔ヒ居ルヤノ懸念アルニ付暴動ノ起ル虞ナキヤト問ヒタルニ對シ同將軍ハ形勢混沌タル有様ナレバ万一ノ事ナキヲ保シ難ク或ハ自分ノ生命ニ危害ヲ加ヘントスルモノ出ヅルヤモ

計ラレズ自分ハ決シテ死ヲ怕ルルモノニアラザルモ市内ノ秩序維持困難トナリタル場合ニハ日本總領事館ハ日本兵ニテ守護スベキヤ又日本軍隊ノ出動アルヘキヤトノ意外ノ反問アリタルニ付本官ハ如斯擾乱ノナカラムコトヲ希望スルモノニシテ万一ノ場合ニ對シテハ未タ何等確タル意見ヲ有セズト答ヘ置キタリ同將軍ハ更ニ進ンテ予ハ日本領事ト会見セリ或ハ日本軍隊ノ出動ヲ見ルニ至ルヤモ知レサル旨必要ノ場合口外スルヤモ知レス差支ナキヤト反問シタルニ付本官ハ之ニ對シ同將軍自身ノ意見トシテ之レヲ述ベ本官ノ言明ニ基ク旨ヲ附言セサルニ於テハ異議ナキ意味ニ答ヘタルト同時ニ必要ノ場合応分ノ助力ヲ辞セサルヘシト附言シ置キタリ日本軍隊出動ニ関スル同將軍ノ真意俄ニ判斷シ難シト雖其ノ語氣ヨリ察スレハ一身上及當市ノ革命運動ニ對シ同將軍ハ可ナリ憂惧シ居ルモノト見受ケラレタリ

(長春經由三月十七日後六・四五)

四〇七 三月十九日 在露国石坂大使館附武官ヨリ
參謀本部宛

露国革命ノ經過概要及日本ノ執ルベキ措置ニ

關スル意見ノ件

露特報第一号

大正六年三月十九日

露国大使館附武官 石坂善次郎

露国革命動乱ニ関スル經過ノ概要

(露曆千九百十七年二月下旬ヨリ三月上旬ニ亘ル)

緒言

其一、革命動乱ノ起因

其二、經過ノ概要 附録、付記共(革命動乱經過概覽 地方諸都市ニ於ケル状況)

其三、結論

(註 右緒言、其一及其ニヲ省略ス)

結論

以上記述セシ如ク今回ノ革命動乱ハ其進行迅速ニシテ其成効ノ著大ナリシコトハ当事者ト傍觀者トヲ問ハス何人モ意外トスル処ナリ糧食問題ニ基ク労働者ノ示威的運動僅カニ三四日ニ過キス而カモ其行動ハ頗ル平靜ナリシニ拘ラス形勢ハ全然政治的革命ニ變シ第五日ニハ露国民族ノ中堅ヲ始メ露都屯在ノ軍隊及ヒ下層民衆ノ全部之ニ和シ武庫ノ占領ヲ発端トシテ形勢ハ急転直下シ同日午後ニハ大勢既ニ革命軍ノ成効ニ歸スルニ至レリ第六日以後ノ騷擾ニ至リテハ已

ニ官僚系統ニ屬スル文武大官及遁伏セル警察官吏ノ搜索逮捕ニ過キスシテ鎮壓ノ目的ヲ以テ逐次帝都ニ到着セシ地方軍隊ノ如キハ殆ント一彈ヲ発スルコトナク革命軍ニ投合スルノ状態ヲ呈シ第七第八日ニ於テハ最早市民ノ男女老幼慄々トシテ街頭ニ群リ快感ヲ以テ革命ヲ迎フルニ至レリ有力ナル一市會議員ノ言ニ依ルニ彼レカ去ル三月十日市会ニ於テ糧食問題ニ関シ労働党ノ首領「ケレンスキー」ト会谈セシ時「ケレンスキー」ハ尚本動乱カ此ノ如ク急速ナル發展ヲ見ルコトヲ予期シ居ラサリシト而カモ「ケレンスキー」ハ三月十二日成立セシ時局收拾委員會ノ一員ニ列シ十五日ニハ更ニ新政府ノ閣員トナレリ變遷ノ意外ニ迅速ナリシコト推シテ知ルヲ得ヘシ然リ而シテ時局進轉ノ如此ニ至リシハ一ニ氣運ノ漲溢セルニアリテ十数年官民不和ノ趨勢ハ最近一、二年ニ於テ一層其強度ヲ加ヘ昨秋以後ニ至リ殆ト鬱積其極ニ達シ今次愈々糧食問題ヲ導火線トシテ爆發シ社会ノ中堅タル人士ハ此好機ヲ捕捉シテ政治的革命ト化セシメタリ是ニ於テカ親独派、官僚及一部ノ豪商ヲ除クノ外ハ上ハ貴族ヨリ下ハ労働者ニ至ル迄国民ノ各階級ヲ通シテ革命ノ成功ヲ助ケ都下ノ軍隊亦立ロニ之ニ和セリ其贊同者ノ範

囲大ナルコト世界幾多ノ革命史上稀ニ見ル所ノ現象ナリト謂フヘシ

今ヤ臨時政府ハ設立セラレ銳意秩序ノ恢復ニ努力シ戦線ノ諸軍ヲ始メ地方ノ都市モ亦日ヲ追フテ新政府ニ結合スルニ至リ満都ノ人士胸間ニ赤布ヲ附シ自由ナル新露国ヲ謳歌スルノ時トナレリ然リト雖モ政体ノ確定ハ将来設立セラルヘキ建国大会ニ於テ決セラルヘキモノニシテ政府ノ確立モ亦其時ヲ以テセラルヘキ要スルニ露国ノ近キ前途ニハ尚次ノ諸問題ヲ控ヘアルモノト云ハサルヘカラス

(1) 革命指導者中比較的穩健ナル者ト極端ナル社会主義ヲ有スル極左党ニ屬スル者トノ間ニ於ケル確執大ナリ今ヤ社会ノ大部ハ既往皇室ノ失政ト官僚ノ横暴ニ對スル反動トシテ共和政体ノ出現ヲ予測シアリト雖モ此兩派ノ異見ハ建国大会ニ於ケル政体ノ議論ヲ始トシ将来尚幾多ノ波瀾ヲ見ルナラン現ニ言論界ノ一部ハ既ニ新内閣一部ノ企画ニ関シ揣摩評論シ如斯新政府ハ貴族政治ノ復活ナリト云ヘリ

(2) 勤王派ノ現出ニ関シテハ目下革命動乱ノ直後ニ於テハ尚屏息シテ殆ト其徴ヲ認メスト雖モ「ロマノフ」家三百

年ノ禄ヲ喰ミシ近親者ト其百万ノ貳貅中此王家ノ末路ニ際会シ一人ノ起テ君側ニ殉スルモノナカルヘシト殆ト想像シ難キ所ナリ而シテ勤王派蹶起ノ好機會ノ一ハ實ニ建国大会ニ至ル迄ノ時期トス

(3) 軍隊紀律ノ弛緩大ナリ革命動乱ノ經過中兵卒ハ幾多高級將校ヲ逮捕殺害セルノ結果其心裡ニ一時無政府の傾向ヲ映シ今日ニ於テモ都下ノ軍隊中殆ト軍紀ヲ認メス下士卒中ニハ今尚街道上無力ノ將官ヲ見テ嘲笑ヲ与フル等上下ノ秩序綱紀ノ眩靡著シキモノアリ加之ナラス革命動乱ノ報一度戦線ニ伝ハルヤ野戦軍ニモ其志氣上ニ惡影響ヲ与フヘキハ殆ト想像ニ余アリ英国大使ハ語テ曰ク今回ノ事件ハ軍ニ損失ヲ与フルコト恰モ「リガ」ヲ失フタルニ等シト「リガ」ノ喪失尚可ナリ今ヤ既ニ之ヲ恢復スルノ氣力サヘナカラン而シテ如斯軍隊ノ素質崩壞ノ状況ハ尚今後数ヶ月ノ間容易ニ復旧スル能ハサルヘシ

(4) 民心ノ堅実ヲ失ヘリ元來露国民ハ教育ノ程度低キヲ以テ本次動乱ニ味ヲ占メタル下層民衆ハ今後当分不滿アル毎ニ輒モスレハ則チ騷擾ヲ事トスルノ風ヲ生セン今ヤ官憲ノ權威地ニ落チ新政府ノ威令成熟セス国体ノ基礎ハ動

揺シ而モ数多ノ武器ハ下層民衆ノ手ニ落チ加フルニ数千ノ重刑囚ハ獄ヲ出テ市中ニ彷徨スルノ状態ニアリテ社会ノ秩序ハ弛解シ市民安堵スルヲ得ス而シテ此ノ如キ形勢ノ持続ハ産業及經濟ニ悪影響ヲ及ホスコト大ナルノミナラス戰線ノ背後ニ倦怠ノ氣ヲ醸生スルノ恐アリトス

(5) 政府ノ顛覆軍隊ノ離反ハ露国ノ内部ニ於テ甚シク組織力ヲ崩解セリ且下新政府ノ現出ニヨリ露都ハ糧食品ノ豊富ヲ致セリト云フト雖モ此ノ如キハ一時奸商富豪ノ貯品ヲ押収利用セルノ結果ニシテ今後從來ノ弊政ヲ改善シ交通ヲ整備シ殊ニ現下一時モ忽諸ニ附スヘカラサル軍需品補給ノ業務ヲ全フセンニハ尚幾多ノ時日ト当局ノ励精ヲ要スルコト必セリ

之ヲ要スルニ露国ハ目下動揺セル地盤ノ上ニ立テリ元ヨリ露国民族ハ大ナル潛勢力ヲ有スルノミナラス今回ノ革命事業ハ甚ダ円滑急速ニ決行セラレ國民多年ノ希望タル興望内閣ハ茲ニ現出セルヲ以テ遠キ将来ニ於テハ自覺セル國民的發展ヲ遂クルノ日アルヘシト雖モ現下ノ狀勢ハ前記ノ如ク諸種難境ノ輻輳スルアリテ之カ解決ニハ尚若干ノ時日ヲ要スルナラン此時ニ於テ新政府ハ其標榜セル戰爭繼續ノ主義

前ニ控ヘタル英仏伊三国タルモノハ恐ラクハ方サニ動揺セントスル恐アル露国ノ基礎ヲ確立シ之ニ依テ將ニ来ラントスル其窮境ヨリ救脱センカ為メ帝國ヲ誘フテ現下ノ危機ヲ救済スヘキ凡百ノ手段ヲ尽クサシムルニ到ランコト予メ逆睹スルニ難カラス

翻テ帝國ハ既ニ公然独塊ニ對シ對敵行動ヲ採リ今ヤ進ンテ露国ト戰後渝ルナキ親善ノ締盟ヲ約セリ故ニ此際國情許ス限リハ露国ヲ支援シ因テ我宣言ヲ履ミ又國家ノ信義ヲ示シ茲ニ帝國ノ威信ヲ發揚スヘキコト敢テ言フ須ヒスト雖モ浩大ナル國是就中其使命ノ第一歩ヲ東洋ニ有スル帝國タルモノハ其採ルヘキ手段ニ於テ更ニ之ヲ遠ク且ツ高ク觀察スヘキモノアルヘク其或ハ妄リニ国力ヲ賭シテ戰乱ノ渦中ニ投スルカ如キ又或ハ徒ニ片小ナル利權ニ眩惑シテ此機會ヲ憐ムヘキ國家ニ對スル脅迫ニ弄スルカ如キ共ニ大ニ慎マサルヘカラサルコトト信ス

漸次自覺ノ域ニ進メル露国ハ一時内憂外患ニ襲ハルルモ窮極ニ於テ大ニ發展ノ日アルヲ思ハサルヘカラス國民ノ智育發ラケ諸般ノ産業進ミ國民固有ノ資性タル柔軟性ニ活動力ヲ副ヘ来ルノ日ニ於テハ豊富ナル天然ノ資源ト相待テ露国

ヲ取リテ連合列國ト共ニ外敵ニ當ラサルヘカラス其苦心想像ニ余リアルト共ニ事態ノ變遷ニ依リテハ必スシモ平和ノ形勢ヲ馴致スルノ止ムナキニ到ランコトナキヲ保セス

今ヤ英仏伊ハ聯合作戰ニ於テ兵力上其重鎮タル露国ノ戰鬪能力保持ニ焦慮セルノ秋ニ當リ其實力ニ於テ既ニ疑問ナキ能ハサル露国ノ国力カ本次ノ騷乱ニ因リテ自ラ求メテ其力ヲ消摩シツツアルノ感ナキ能ハス果シテ此ノ如クンハ露国カ今後数ヶ月ノ間ニ於テ遺憾ナキ攻勢的行動ニ出テ能ク爾他聯合國ノ信賴ニ副ヒ得ヘキヤ大ニ疑ナキヲ得ス況ンヤ独塊軍ニシテ若此機ヲ逸セス決意露軍ニ向テ攻勢ヲ取リ露野戰軍ニシテ之カ為一朝打破セラルルカ如キコトアラハ聯合作戰ノ地盤ハ茲ニ瓦解シ形勢ノ變転スル所或ハ露獨提携ノ芽之ヨリ萌サンコト亦ナキヲ保セス而モ翻テ爾他聯合諸國ノ情勢ヲ見ルニ如斯形勢ノ下ニ立チテ果シテ能ク英仏伊ノ三国カ其主動者タル重責ニ耐ヘ顏勢ヲ支ヘテ各自ノ作戰方針ヲ貫徹シ得ヘキヤハ之ヲ從前ノ經過ニ徴シテ其期待頗ル空賴ミタルノ感アリ思フテ茲ニ至レハ今後独塊側ニ何等カ重大事變ノ突發セサル限リハ戰局ノ前途ハ余リニ樂觀ヲ許ササルモノアリト謂フヘシ此ニ於テカ此憂フヘキ凶兆ヲ眼

ノ将来ニ洋々タルモノアラン予メ大ニ之ニ備フルハ可ナリ之ヲ蔑視シテ小策ヲ弄スルハ甚タ不可ナリ露国ノ上下カ張目聳耳シテ細大トナク我意嚮ヲ窺ヘルハ既ニ我等ノ朝夕直覺スル処更ニ今後彼カ窮境ニ入ルノ日ニ於テハ其神經ノ興奮シテ猜疑ノ益々之ニ加ハルヲ予期セサルヘカラス況ンヤ日露ノ親善ハ今ヤ漸ク其第一歩ニ就カントス凡テ事物ノ定マルハ始メニ在リ新政府樹立ノ日ニ於テ帝國ノ態度一步ヲ誤ラハ後恨挽回ニ余地ナケン斯ノ如キ情勢ニ於テ帝國上下ノ覺悟ハ方ニ拳テ益々其真摯ナル同情ヲ寄スルニアルヘキ之カ為誠実ナル物質的援助ヲ与フルカ如キハ刻下機宜ヲ得タル政策ノ一ニシテ日露將來ノ親交ヲ堅クシ牽ヒテ帝國々是ノ遂行ニ裨益スル所大ナラント信ス

是レ小官ノ曩ニ電報ニ依リ私見ヲ披瀝シタル次第ニシテ目下ノ時期ニ於ケル帝國処決ハ細心ナル考慮ト敏活ナル機宜トニ須ツ所大ナリト信ス

四〇八 三月十九日

本野外務大臣ヨリ
在露国内田大使宛(電報)

臨機ノ措置トシテ仮政府ト事実上交渉シ差支ナキ旨回訓ノ件

第二一九号

貴電第二四三号ニ関シテハ英仏大使ト接触ヲ保チ貴官限りノ臨機措置トシテ事実上仮政府ト交渉セラルルハ差支ナシ尤モ右政府ヲ正式ニ承認スルハ帝國政府ノ訓令ヲ俟ツテ取計ハレタシ

貴電第二四三号及本電ノ要領ヲ参考トシテ在欧米各大使ヘ転電アリタシ

四〇九 三月二十日

在浦潮坪上総領事代理ヨリ
本野外務大臣宛

革命ガ浦潮ニ及ボシタル影響ニ関シ報告ノ件

第五四号

(三月二十四日接受)

大正六年三月二十日

在浦潮斯德總領事代理 坪上貞二(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

露国政変ニ関シ当地状況報告ノ件

本件ニ関シテハ事件発生以来時々電報ヲ以テ報告申進置候得共本日マデノ経過ノ大要別記ノ通り及報告候ニ付御査閲相成度候 敬具

(別紙)

露国政変ニ関スル当地一般状況

本月十六日政変ノ報達スルヤ当市会ヲ初メ其他ノ公共団体ハ臨時会ヲ開催シ下院議長ニ新政府設立ノ祝電ヲ発シ市ハ新政府ノ綱領ニ基キ保安委員会ヲ組織シ各団体ヨリ代表者ヲ選出シ市保安委員会ニ参加セシメ以テ市内ノ秩序ヲ維持シ居レリ政変ト共ニ組織セラレタル労働者ノ兵員代表者会モ亦大会ヲ開キ秩序維持ニ関シ決議ヲナシ市保安委員会ニ代表者ヲ参加セシメタリ而シテ市内警察ニ任スル為メ国民軍(ミリチカ)組織セラレ市會議員タル陸軍一將校之ヲ統率シ東洋学院学生積極的ニ之ニ参加シ居レリ尤モ旧巡查モ目下依然其職ニ在リ

陸海軍ノ態度ニ関シテハ執レモ新政府ヲ認メ其命ニ從ヒ何等不穩ノ舉動ニ出ツル様ノコトナク陸軍ニ於テハ北軍司令官ヨリ沿黒竜江軍管区司令官ニ宛テタル新政府成立皇帝讓位ニ関スル電報ヲ当要塞司令官ニ於テ各部隊長ヲシテ下士卒ニ朗読セシメ且ツ平穩ヲ旨トシテ從來ノ所屬上官ノ命ニ服シ敵ニ規律ヲ守ルヘキ旨諭示シ尚労働者兵員代表者会ニ委員ヲ選出スルコトヲ許シ又十八日付ヲ以テ要塞司令官ハ陸軍大臣ニ対シ当地駐屯軍カ新政府ニ帰屬シタルコト秩序

維持及紀律嚴守ニ関シ命令シタルコト及当地軍隊カ軍需品ノ引受監視及転送等ニ関シ倍旧ノ力ヲ致スヘキヲ信スル旨ヲ電報シ海軍ニ於テハ艦隊司令官及軍港司令官ヨリ下院議長及總理大臣ニ対シ当地海軍カ全部何等ノ事故ナク新政府ノ手ニ帰シタルヲ電報シ尚艦隊司令官ハ所屬下士卒ニ対シ市保安委員会及労働者兵員代表会ニ代表者ヲ選出スヘキコトヲ命令シ同会ノ事業ヲ翼賛シ以テ新政府ノ目的貫徹ヲ容易ナラシメ速カニ敵国ニ対シ全勝ヲ得ルヲ期スヘキ旨諭告致候当州庁其他各官庁ニ於テモ同様新政府ニ対シ其命ニ服スヘキ旨ヲ電報シ各委員ヲ選出シ保安委員会ニ参加セシメタリ

今回ノ変革ニ対シ当地住民ハ一般ニ満足ノ意ヲ表シ公衙商店等ノ皇帝及皇族ノ肖像ハ速ニ撤セラレ市況又靜穩露貨ノ變動モナク商人中ニハ既ニ当面ノ問題タル貨車増給糧食供給ノ改善ヲ期待シ居ルモノアリ却テ活氣ヲ呈シ来リ排独ノ氣勢ハ一層高マリ独系ノモノハ総テ之ヲ一掃スヘシト称スルモノ少カラス

地方ニ於テモ一般平穩ニシテ秩序乱レス村落ニ在テハ農民官ヨリ農民ニ諭示シテ委員ヲ選出シ以テ公安ヲ保持セシメ

居ルト云フ「ハバロフスク」市ニ於テハ市内平穩ナルモ十八日当浦潮斯德市ヨリ帰着セル沿黒竜江軍管区司令官「ニシチェンコーフ」大將総督「ゴンダツチ」及同官房長ハ同市執行委員会ノ手ニテ拘引セラレタリ
在留帝國臣民ハ事變ノ為メ今日マテ何等損害ヲ受クルコトナキモ平穩戒心ヲ加ヘツツアリ
二十日浦潮斯德ニ於テ同市執行委員会ノ決議ニ依リ商港長「タウベ」男沿黒竜江地方軍事裁判所檢事「シンカレンコ」中將當要塞工兵部長「アグテ」少將同砲兵部員「フオンウイッケン」大尉及当監獄署長「ウイリッキー」等執レモ拘禁セラレタリ

四一〇 三月二十日

在露国内田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

ミリウコフ外相ニ答礼ノ為往訪シタル件

第二五九号

(三月廿二日接受)

仮政府承認方請訓未ダ何等御回訓ナキモ新外務大臣ノ訪問ニ対シ永ク答礼ヲナサザルモ面白カラズ且支那事件及ヒ露国借款等緊急問題モアルニ付今廿日同大臣ヲ外務省ニ往訪本使一己ノ挨拶ヲ述べタル処満腔ノ喜悅ヲ以テ本使ヲ迎ヘ

曾ツテ閣下ト親交アリシ旨ヲ述ベ大要左ノ如ク語レリ
革命モ案外都合宜ク終了人心ノ激昂モ甚敷ニ至ラズシテ鎮
静シ御覧ノ如ク市内ノ秩序モ漸次回復シ明日頃ハ電車モ全
部開通（本廿日ヨリ一部開通）ノ筈ナリ戦争継続ニ対シテ
ハ一部反対論者アルモ其反対力ハ仏伊ニ於ケルモノヨリモ
寧ロ薄弱ナリ新政府トシテハ飽迄戦争継続ノ決心ニテ不日
反対論者モ政府ノ主張ヲ容認スルニ至ルヘシ云々本使ハ革
命ノ影響カ戦局ニ寸毫ノ累ヲ及ボサザルコトヲ切望スル旨
述ヘ置ケリ

在欧各大使へ転電セリ

四一一 三月二十日

在露国内田大使ヨリ
本野外務大臣宛（電報）

英仏両国政府ノ臨時政府ニ対スル態度ニ関シ

報告ノ件

第二六三号

（三月廿一日接受）

三月二十日仏国大使館参事官ノ丸毛ニ内話スル処ニ依レハ
仏国大使ハ本国政府ヨリ新政府ニ対シ総テノ協力ヲ与ヘ其
ノ戦争継続ノ尽力ヲ極力支持スヘキ旨訓令ニ接シタリ該訓
令中新政府承認ノ文字ナキモ事実ニテ承認シタルモノナリ

ト云ヘリ尚同参事官ハ英国政府モ同様ノ措置ニ出ヅヘシ
信スル旨ヲ附言シタル由

四一二 三月二十日

在本邦露国大使ヨリ
本野外務大臣宛

露国臨時政府ノ成立ヲ日本政府へ通告方ニ関
スル同国外務大臣ノ訓電写送付越ノ件

Copie d'un télégramme adressé par le Ministre
des Affaires Etrangères de Russie, Son Excellence Mr.
Miliukoff, à l'Ambassadeur de Russie à Tokio, en
date du 4/17 Mars 1917.

Les nouvelles transmises par l'agence télégraphi-
que de Pétrograd Vous ont déjà fait connaître les
événements des derniers jours et la chute de l'ancien
régime politique en Russie qui s'est effondré lamenta-
blement devant l'indignation populaire provoquée par
son incurie, ses abus et sa criminelle imprévoyance.
L'unanimité de ressentiment que l'ordre de choses
aujourd'hui déchu avait suscité parmi tous les élé-
ments sains de la nation a sensiblement facilité et
abrégé la crise. Tous ces éléments ayant rallié avec
un enthousiasme admirable au drapeau de la révolu-

tion et l'armée leur ayant apporté un appui rapide et
efficace le mouvement national a rapporté, au bout
de 8 jours à peine, une victoire décisive. Cette rapi-
dité de réalisation a heureusement permis de réduire
le nombre des victimes à des proportions inouïes dans
les annales des bouleversements de pareille envergure
et de telle gravité.

Par un acte daté de Pskow le 2/15 Mars 1917,
l'Empereur Nicolas II a renoncé au Trône pour Lui-
même et pour le Grand-Duc Héritier Alexei Nicola-
ievitch en faveur du Grand-Duc Michel Alexandro-
vitch. A la notification qui lui a été faite de cet acte
le Grand-Duc Michel Alexandrovitch, par un acte
daté de Pétrograd le 3/16 Mars 1917, a renoncé à son
tour à assumer le pouvoir suprême jusqu'au moment
où une Assemblée Constituante créée sur la base du
suffrage universel aura établi la forme du Gouverne-
ment et les nouvelles lois fondamentales de la Russie.
Par le même acte le Grand-Duc Michel Alexandrovitch
a invité les citoyens russes, en attendant la manifes-
tation définitive de la volonté nationale, à se soumettre
à l'autorité du Gouvernement Provisoire constitué sur

l'initiative de la Douma de l'Etat et qui détient plénitude
du pouvoir. La composition du Gouvernement Provisoire
et son programme politique ont été publiés et transmis
à l'étranger.

Ce Gouvernement qui prend le pouvoir au moment
de la plus grave crise extérieure et intérieure que la
Russie ait traversée au cours de son histoire a pleine-
ment conscience de l'immense responsabilité qui lui in-
combe. Il s'appliquera tout d'abord à remédier aux
fautes accablantes que lui a léguées le passé, à assurer
l'ordre et la tranquillité dans le pays, à préparer enfin
les conditions nécessaires pour que la volonté souve-
raine de la nation puisse se prononcer librement sur
son sort futur. Dans le domaine de la politique exté-
rieure le Cabinet dans lequel Je me suis chargé du
portefeuille du Ministère des Affaires Etrangères
restera respectueux des engagements internationaux
assumés par le régime déchu et fera honneur à la
parole de la Russie. Nous cultiverons soigneusement
les rapports qui nous unissent aux autres nations
amies et alliées et nous avons confiance en ce que ces
relations deviendront encore plus intimes et plus solides

sous le nouveau régime établi en Russie qui est décidé à se guider par les principes démocratiques de respect d'aux peuples petits et grands, à la liberté de leur développement, à la bonne entente entre les nations; mais le Gouvernement ne saurait oublier un seul instant les graves circonstances extérieures dans lesquelles il assume le pouvoir. La Russie n'a pas voulu la guerre qui ensanglante le monde depuis bientôt 3 ans, mais victime d'une agression préméditée et préparée de longue date, elle continuera comme par le passé à lutter contre l'esprit de conquête d'une race de proie qui s'est imaginée pouvoir établir au-dessus de ses voisins une hégémonie intolérable et faire subir à l'Europe du XX siècle la honte de la commination du militarisme prussien. Fidèle au pacte qui l'unit indissolublement à ses glorieux alliés, la Russie est décidée comme eux d'assurer à tout prix au monde une ère de paix entre les peuples sur la base d'une organisation internationale stable et garantissant le respect du droit et de la justice. Elle combattra à leurs côtés l'ennemi commun jusqu'au bout sans trêve ni défaillance. Le Gouvernement dont je fais partie vouera toute

son énergie à la préparation de la victoire et s'appliquera à redresser au plus vite les fautes du passé qui ont pu paralyser jusqu'ici l'élan et l'esprit de sacrifice du peuple russe. Il a la ferme conviction que l'enthousiasme merveilleux qui anime aujourd'hui la nation toute entière décuplera ses forces et hâtera l'heure du triomphe définitif d'une Russie régénérée et de ses vaillants alliés.

Je vous prie de communiquer à Mr. le Ministre des Affaires Étrangères la teneur du présent télégramme et de lui en laisser copie.

(横外註記)

「大正六年三月二十日露国大使持参」

四一三 三月二十二日 在露国内田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

英米伊仏各国政府ノ臨時政府承認ニ関シ報告

ノ件

別電 同日内田大使発本野外務大臣宛電報第二七二号
英国政府ノ露国臨時政府承認通告ノ件

第二七二号 (三月廿四日接受)

今二十二日英国大使館参事官ノ丸毛ニ内話セル所ニ依レン

英国大使ハ別電ノ如ク二十二日附ヲ以テ英国政府ハ公然ノ承認ヲ臨時政府ニ通告シ尚米伊両国大使モ本日略ホ同意味ニテ承認ヲ与ヘ仏国大使ハ承認ノ文字ヲ使用セサルモ實際承認ヲ与ヘタル趣ナリ

(別電)

三月二十二日在露国内田大使発本野外務大臣宛電報第二七二号

英国政府ノ露国臨時政府承認通告ノ件

No. 272 Urgent Betsuden

I have the honour to inform Your Excellency my Government, understanding that new Russian Provisional Government are prepared to carry out engagement entered into by their predecessor with the Allied Governments, more especially as regards prosecution of the war to victorious finish, have instructed me to recognize them, and enter into official relations with Your Excellency. In making above communication, I would desire to express to the members of new Government most fervent wishes for the greatness and prosperity of Russia.

Uchida

四一四 三月二十三日 在英国珍田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

英国政府ハ三月二十二日露国臨時政府ヲ承認

濟ノ旨ハアジング卿談話ノ件

第一二二号 (三月廿六日接受)

貴電第二〇七号ニ関シ

三月二十三日「ハアジング」卿ニ会见相尋ネタルニ既ニ新政府承認ノ訓電ヲ在露大使ニ発シアリ昨二十二日執行済ノ答ナリ尚ホ承認ニ際シテハ de jure 又ハ de facto ト云フカ如キ區別ヲ立シルコトハ此際ノ事情ニ照シ複雑ニ失スルニ付右様ノ區別ヲ為サス单ニ承認ト云フコトトセリ尚ホ米、仏、伊各政府モ同様ノ手續ニテ既ニ承認済ノ趣ニ承知セリト答ヘラレタリ

在欧米大使ハ転電セリ

四一五 三月二十三日 在露国内田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

露国新外相ノ新聞記者ニ対スル談話ノ要領報告

ノ件

第二八一号

外務大臣カ二十三日新聞記者ニ為シタル談話ノ要領左ノ通
政府ノ變更ハ露西亜ノ対外政策ニ何等ノ變動ヲ及ホスモノ
ニアラス我同盟諸国ハ今回ノ政変ガ露国ヲシテ旧ニ倍シ戦
争ノ為メニ協力スルモノナルコトヲ認メ英仏伊ノ三国ハ既
ニ我臨時政府ヲ承認シタリ外務大臣目下ノ急務ハ現下ノ戦
争ニ関スル露西亜ノ真意ヲ信用セシムルニアリ自由ナル露
国ノ戦争ニ対スル理想ハ聯合國ノ理想ト同一ナリ露国ハ侵
略ヲ希望セズ其目的ハ我國民の任務ヲ遂行シ埃洪国内ニ在
ル「スラブ」民族ニ自由ヲ与ヘ（脱）タル此戦争ヲ一掃シ小
民族ニ自由ヲ与フルニアリ新露国ノ対芬蘭政策ハ其好適例
ナリ（新政府ハ芬蘭ニ対シ広義ノ自治ヲ与フル方針ナリ）
米國ハ旧露国ヲ好マザリシモ自由ノ露西亜ヲ歓迎シ在露米
國大使ハ既ニ新政府承認ノ訓令ヲ受ケ嘗テ露西亜嫌ヒナリ
シ「シフ」氏ハ予ニ新露國歡迎ノ電報ヲ寄セタリ

四一六 三月二十四日 在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛（電報）

米國政府ノ露國臨時政府承認決定及米獨關係
等ニ関シ國務長官談話ノ件

第一一四号 (三月廿四日接受)

露國臨時政府ハ從來ノ對露懸案交渉ノ相手方
トスルニ足ルヤニ付意見提示方訓令ノ件

第二四一号

重砲供給ノ件ニ関シ今回更ニ在本邦露國大使ヨリ申出ノ次
第アリ帝國政府ニ於テモ相当考慮ヲ加フヘキ次第ノ処本件
ノ外尚ホ東支鐵道割讓問題等懸案モ少ナカラサル際今回成
立ノ新政府ハ基礎十分鞏固ニシテ此等案件ノ交渉ヲ繼續シ
後累ヲ来タスノ虞ナキモノト認メラルヘキヤ貴官ノ腹藏ナ
キ御意見回電アリタシ

四一八 三月二十四日 在仏國松井大使ヨリ
本野外務大臣宛（電報）

英米伊三国ガ露國臨時政府ヲ承認シタル以上
仏國亦承認スル外ナキ旨仏國外務省当局談話
ノ件

第六〇号 (三月廿五日接受)

在英大使宛貴電第二〇七号ニ関シ三月二十四日「マルジュ
リ」氏ノ答ニ目下戦争中ノ事ニモアリ之カ為一日モ露國ト
ノ接触ヲ忽ニスルコトヲ得ザルニ付革命後間モナク在露仏
國大使ヘハ戦争ノ関スル限り兎モ角モ現ニ存立スル「オー

貴電第八五号ニ関シ二十二日國務長官ニ面會開合セタルニ
米國政府ハ露國新政府ヲ承認スルニ決シ既ニ其旨在露大使
ヘ訓令セリ尤モ右報道ハ当分ノ内日本政府ニ於テモ秘密ノ
取扱ヲ為サレタシト述ヘタリ尚ホ序ニ米獨關係等ニ言及ヲ
試ミタル処独逸トハ既ニ交戦状態ニ向ヒツアルハ否ムヘ
カラザル事實ナルモ具体的決定ハ四月二日ニ召集スヘキ議
會ノ協賛ヲ待テ実行スヘク又埃洪國ヨリハ曩ニ潜航艇戰ニ
関スル回答ヲ受ケ独逸ト主義ヲ同ウスルコトヲ確カメタル
モ同國ノ艦隊カ米國ニ危害ヲ与フヘキ憂甚タ乏シキ実情ニ
鑑ミ去二月ニ着米セル新大使ハ之ヲ承認セザルモ同國トノ
關係ハ暫ク現状ヲ維持スルニ止メ置クヘシト述ヘ尚ホ露國
ノ革命ハ久シク民衆ノ間ニ醸成セラレツツアリタルモノト
認メラレ從テ新事態ハ相当確乎タル基礎ヲ有スルモノト信
スル旨竝独逸ニ於テモ追テ同様ノ變調ヲ見ルナルヘク戦争
ハ斯クシテ終局ヲ告クルヨリ外ナカルヘシトノ意ヲモ語リ
居タリ

四一七 三月二十四日 本野外務大臣ヨリ
在露國內田大使宛（電報）

トリテ」ト交渉スヘキ旨ヲ訓令シ置キ政府承認ノ義ハ英伊
政府トモ相談ノ上追テ決定スルコトニナリ居リタルニ何等
カノ誤解ニテモアリタルモノト見エ英伊ニテハ仮政府ヲ承
認シ米國政府ニテモ之ヲ承認シタル上ハ仏國政府モ速ニ之
ヲ承認スルノ外ナク在露仏國大使ヘハ其同僚ノ為シタル振
合ニ依リ承認ノ手續ヲ為ス様訓令スル積ナリト云ヘリ尚ホ
在英大使ヨリ閣下宛電報中ニ指摘セラレタル事実上ノ政府
云々ノ義ニ付マ氏ノ注意ヲ喚起シタルニ矢張何トナク現政
府ヲ承認シ公式ノ關係ニ入ルベシト云フ様ノ式ニテ然ルヘ
キカト云ヘリ尚ホ同日新任披露ノ為メ本使ヲ來訪セル新総
理兼外相「リボー」氏モ本件ニ関シ英伊兩國政府ニテ何カ
誤解アリタルモノノ如シ併シ仏國政府ニテモ露國仮政府ヲ
承認スル積リナリト云ヘリ

四一九 三月二十五日 本野外務大臣ヨリ
在露國內田大使宛（電報）

革命發生ノ主要ナル動機其他將來ノ形勢洞察
ニ資スベキ情報及觀察詳細報告方訓令ノ件

第二四二号

露国今回ノ革命ニ関シテハ段々ノ御報告ニヨリ事態漸次ニ明瞭トナレル次第ナルモ露国将来ノ形勢ハ帝国ニ取リテモ重大ノ關係アル次第ニ付此際革命ノ動機其経過ノ詳細ナル事情ヲ審ニシ置クコトハ今後ノ形勢ヲトスル上ニ最モ緊要ナルハ申迄モナク旁閣下ハ此上トモ何等詳報ニ接セラレタル都度右ノ諸点特ニ今回革命ノ導火トナレル同盟罷工ハ革命其者ノ予定行動ノ一部ナリシヤ若クハ該同盟罷工ハ單純ナル突然ノ事變ナリシヲ一部革命政治家ノ乗スル機会トナリタル次第ナリヤ將タ又敵前ノ陸海軍カ斯克速ニ革命ニ響應シタルハ予メ革命派ト連絡アリタル為メナルヤ又軍隊ノ旧皇室ニ対スル意向ハ如何ナル情態ナリヤ此未反動の行動ニ出ヅルカ如キ虞ナキヤ其辺ニ関スル御觀察ノ詳細隨時電報アリタシ

四二〇 三月二十五日 在英國珍田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

露国皇帝ノ英國ヘノ亡命問題ニ關スル件

第一二七号

(三月二十六日接受)

三月二十三日「ハーシング」卿ニ面会ノ機ヲ以テ露国ノ事態ニ談及シ前皇帝ノ身ノ上如何ニ成リ行クヘキヤト尋ネタ

ルニ卿ハ内密ノ談トシテ実ハ露国臨時政府ヨリ我政府ニ於テ陛下ニ対シ「アサイラム」ヲ提供シ呉レ間敷ヤトノ内議アリタルニ付之ヲ承諾スルコトトシ既ニ政府ニ対シテ右ノ手續ヲナシタリト語レリ在露大使ヘ転電セリ

四二一 三月二十五日 在英國珍田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

英國首相ガ露国新政府ニ対シ祝電ヲ送附シタル件

第一二九号

(三月二十六日接受)

三月二十二日英國首相ハ政府ノ名ニ於テ露国新政府首相ニ対シ大要左ノ意味ノ祝電ヲ送レリ
同盟国タル露国カ今日責任アル政府ヲ根本組織トスル各国民ト同列ニ立ツニ至リタルヲ知ルハ英帝国一般ノ満足措ク能ハサル所ナリ英國政府ハ過去二年間前皇帝及露国軍隊ノ忠誠不拔ノ協力ヲ深く認識スルト共ニ自由ノ基礎ノ上ニ露国ノ国運ヲ樹立セル今次ノ革命ガ聯合各国開戦ノ大目的ニ対シテ立テタル最大功績タルヲ確信スルモノナリ今次ノ革命ハ本戦争ノ根本目的カ国民政治ト自由ノ為ニ外ナラズトノ真理ヲ表明スルト同時ニ世界平和ノ唯一且ツ確實ナル徵

在露大使ヘ転電ス

四二二 三月二十六日 在露国内田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

露国臨時政府ニ対スル連合諸国ノ承認ニ鑑ミ

日本ノ方針至急決定方稟請ノ件

第二九六号 至急

(三月廿七日接受)

露国新政府ニ関シテハ曩ニ往電第二五三号ヲ以テ稟申致置タル次第モ有之タル処米国外使ハ二十二日館員一同ヲ帶同シテ新内閣員一同ニ会見承認ノ通告ヲ為シ英仏伊三国外使ハ同日予メ書面ヲ以テ承認ヲ通告シタル後二十四日米大使同様新内閣員ニ会見シタル次第ニテ日本ガ此曖昧ノ態度ヲ持シ在再時日ヲ経過スルハ露国ノ上下ニ対シ面白カラザル印象ヲ与フルノミナラス同盟諸国ニ対シテモ一日モ早く我方ノ立場ヲ明カニスルコト必要ナルヤニ思考ス就テハ本件至急御詮議ノ上御回訓相成タク若シ此際至急承認ヲ与ヘラレ難キ事情アルニ於テハ本使心得迄ニ右事情御回示アリタシ將又貴電第二二四号支那公使ニ対スル交渉ノ件ハ電報遲着漸ク二十六日接到シタルガ前記事情ニ鑑ミ我方ノ立場ヲ明白ニシタル後ニアラザレバ十分先方ヲ納得セシムルコ

ト困難ナルヤニモ愚考セラルルニ付旁成ルヘク速ニ御回電
相仰キタシ

四二三 三月二十七日 閣議決定

露国臨時政府ニ対スル我承認ニ関シ閣議請求
ノ件

露国ニ於ケル今次ノ政変ハ漸ク一段落ヲ告ケ新ニ組織セラ
レタル臨時政府ハ既ニ事実上政権ヲ掌握シテ着々国内ノ秩
序回復ヲ計リ帝国其ノ他連盟諸国ト協戮シテ外敵ニ当ラム
トスル鞏固ナル決心ヲ示セリ之ト共ニ臨時政府外務大臣ハ
露都駐劄帝国全權大使ニ三月十七日附公文ヲ以テ露国臨時
政府ノ成立ヲ通告シ更ニ三月二十日在本邦露国大使ニ訓令
シテ同様ノ通告ヲ帝国政府ニ致サシメタリ今ヤ露国ニ於テ
ハ事実上政権ヲ把持スルモノ臨時政府ヲ措イテ他ニ之ヲ求
ムルコトヲ得ザルニ当リ該政府ノ國際上ノ地位ヲ不定ノ状
態ニ置クハ連盟各国協同作戰上其ノ他各種ノ点ニ於テ多大
ノ支障ヲ見ルヘク且英米伊ノ三国政府ハ本月二十二日公然
露国臨時政府ヲ承認スル旨ノ通告ヲ為シ仏国政府モ亦略々
同様ノ措置ヲ執リタルノ報アルニ顧ミ帝国政府独リ久シク

内田大使ヨリ露国外務大臣宛回答公文案要旨

I have the honour to inform Your Excellency
that my Government have received with profound
satisfaction the communication made by H. E. the
Russian Ambassador at Tokio, under your instructions,
declaring the determination and readiness of the new
provisional Government of Russia to fulfil all interna-
tional engagements entered into by their predecessors,
and to prosecute the war to a successful issue. Taking
note of the said communication, my Government have
authorized me to recognize the Russian provisional
Government, and to enter into official relations with
that new administration. Believing, as the Japanese
Government do, in the great and glorious future of
Russia, I am further charged to embrace this opportunity
to express to Your Excellency their confident hope
that the sentiments of cordial friendship which have
so conspicuously marked the relations of the two
countries in these recent years will continue to grow
in strength and solidity under the regime just inau-
gurated in Russia.

(右和文)

其ノ態度ヲ宣明セザルトキハ徒ニ露国民心ニ不良ノ影響ヲ
及ボスノ虞ナシトセズ就テハ帝国政府ニ於テモ右ノ趣旨ニ
基キ至急右露国臨時政府ヲ承認スルヲ適當ト認ム

右閣議決定ヲ請フ

(欄外註記)

「大正六年三月二十七日上奏御裁可済」

四二四 三月二十八日 本野外務大臣ヨリ
在露国内田大使宛(電報)

日本政府ハ露国新政府承認ヲ決定シタルニ付

其旨露国外相ニ通告方訓令ノ件

別電

同日本野外務大臣宛内田大使宛電報第二六〇号
露国新政府成立ノ通告ニ対シ日本政府ニ於テ右新
政府承認ノ旨内田大使ヨリ露国外務大臣宛回答公
文案要旨

第二五九号

帝国政府ニ於テハ露国新仮政府ヲ承認スルコトニ決定シタ
リ就テハ貴官ハ別電第二六〇号ノ趣意ニヨリ公文ヲ調成セ
ラレ貴任国外務大臣ニ交付セラルヘシ

(別電)

三月二十八日本野外務大臣宛在露国内田大使宛電報第二六〇号
露国新政府成立ノ通告ニ対シ日本政府ニ於テ右新政府承認ノ旨

以書簡致啓上候陳者露国新仮政府ハ其先任者カ締結シタル
一切ノ國際協約ヲ実行シ且勝利ヲ獲得スル迄戰フノ決心ト
用意トヲ有スルコトヲ宣言スル旨閣下ノ訓令ニ基キ在東京
露国大使閣下ノ致サレタル通牒ニ対シ本使ハ茲ニ帝国政府
ハ右通牒ヲ甚深ノ満足ヲ以テ受領スル旨閣下ニ通報スルノ
光榮ヲ有シ候 上記ノ通牒ヲ領承スルト同時ニ帝国政府ハ
露国仮政府ヲ承認シ且該新政府ト公式ノ關係ニ入ルノ權限
ヲ本使ニ附与致候 帝国政府ハ露国ノ偉大ニシテ且光輝ア
ル将来ヲ信スルモノニシテ此機會ニ於テ本使ハ閣下ニ対シ
近年両国ノ關係ニ表彰セラレタル顯著ナル友情カ露国新制
度ノ下ニ益々其鞏固ヲ加ヘムコトヲ深ク期待スル旨併セテ
言明セムコトヲ命セラレ候

四二五 三月二十八日 本野外務大臣ヨリ
在露国内田大使宛(電報)

露国新政府成立ニ関シ在本邦露国大使ヨリ提

出ノ公文要領通報ノ件

第二六一号

往電第二六〇号ニ関シ在本邦露国大使提出ノ公文要領次ノ
如シ御參考マテ電報ス

這回政変ノ顛末ハ既ニ御承知ナルヘシ抑々国民健全分子ノ旧政ニ対スル憤慨ノ一致、熱誠ナル革命協力及有力ナル軍隊ノ援助カ斯克容易且迅速ニ政変ヲ成就セシメ少数ナル犠牲者ヲ出スニ止マリタリ、而シテ皇帝ハ既ニ自己及皇太子ノ讓位ヲ宣明シ皇太弟モ亦普通選挙ニ依ル憲法議會カ新憲法ヲ確定スル迄即位ヲ辞退シ且夫レ迄ハ臨時政府ノ權力ニ服従スヘキコトヲ全市民ニ勸告セリ

臨時政府ハ既ニ其ノ組織及政綱ヲ公表セシカ内外最多事ノ際其ノ責任ノ重大ナルヲ自覺シ内政上先ツ積弊ヲ廓清シ安寧秩序ヲ保持シ将来ノ国運ノ決定ニ付国民ノ自由発言ニ必要ナル条件完成ニ尽力セム外政上ニ於テハ旧政府ノ締結セル条約ヲ尊重シ誓約ヲ嚴守スヘク友邦及盟国トノ友好關係ハ之ヲ厚クスルニ努ムヘク且民本的原则ヲ奉スル新政府ノ下ニ益親交鞏固ナルヘキヲ疑ハス尚現下ノ重大ナル外部ノ形勢ヲ忘却スルコトナク現政府ハ軍国主義ノ下ニ歐洲ヲ屈從セシメント夢ミル敵ノ異心ニ抗シテ依然奮闘ヲ継続セムコトヲ誓フト同時ニ将来權利正義ノ尊重ヲ確保スル堅実ナル国際組織ノ上ニ国民間ノ平和ヲ設定スルノ時代ノ現出ヲ天下ニ保障セムト決意セリ故ニ妄リニ干戈ヲ戢メ士氣ヲ沮

露国革命ニ関スル第一回報告書送附ノ件

附屬書 上田書記官作成ノ右報告書

附記 「露国政変其ノ後ノ成行及将来ニ対スル觀測」

機密第一〇号

(四月十八日接受)

大正六年三月三十日

在露特命全權大使子爵 内田康哉(印)

外務大臣子爵 本野一郎殿

露国革命ニ関スル第一回報告送附ノ件

本月中旬当国ニ勃発シタル革命ニ関シテハ隨時電報ヲ以テ及報告置候得共其源因經過及其後ノ成行等ニ関シ上田書記官ヲシテ別紙作製セシメ第一回報告トシテ及進達候間御査閱相成度此段申進候 敬具

(附屬書)

露国革命(第一)

露國ニ於テ戰爭中又ハ戰後ニ一大革命ノ起ルヘキハ夙ニ世人ノ一般ニ期待セル所ナリシカ果セル哉戰爭未タ終ラサルニ這回ノ革命勃發シ皇帝ハ位ヲ辞シテ皇后ト共ニ其自由ヲ奪ハレ「ツアルスコエセロ」宮殿ノ一角ニ拘禁ノ身トナリ政權ハ下院臨時施行委員會カ労働者及兵卒代表者會議施行

喪スルコトナク最後迄与国ト協働シテ共同ノ敵ヲ倒スニ努力セム仍テ現政府ハ勝戦ノ準備ニ全力ヲ尽スヘキヲ誓ヒ之ニ対スル旧来ノ欠点ヲ矯正スヘシ將又目下国民ノ異常ナル熱心ハ精力ヲ百倍シ覺醒セル露国及勇敢ナル同盟国ノ最終勝利ノ期ヲ促進スヘキコトヲ疑ハス云々

註 前掲四一二文書

四二六 三月三十日

在露国内田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

日本政府ノ露国臨時政府承認ニ関シ不取敢電

話ヲ以テ通告シタル件

第三一二号

(四月一日接受)

貴電第二五九号ニ関シ露国外務省ヘ同三十日不取敢電話ヲ以テ帝國政府承認ノ旨ヲ通達シ公文交付ノ為会见ヲ求メタル処各新大臣ハ本日大本營ニ赴クニ付正式会见ハ来ル四月二日以後ニ致度旨ヲ述ヘタリ右承認ノ義ハ外務大臣ヨリ總理大臣ニ本日伝達スヘシトノコトナリ
莫斯科ヘ電報セリ

四二七 三月三十日

在露国内田大使ヨリ
本野外務大臣宛

委員會ト協議シテ組織シタル臨時政府ニ帰シ以テ今日ニ至レリ

下院臨時施行委員會ハ同院改進黨ニ屬シ又ハ同團ト其目的ヲ一ニスル諸黨即チ立憲民主、改進黨、十月、中央、國民改進黨其他無所屬諸黨代表者ヲ中心トシテ成リタルモノナリト雖同委員會ニハ右諸黨ノ政敵タル極左翼ノ労働及社會民主兩黨代表者モ亦之レニ加ハリ而モ兩黨代表者ノ勢ハ同委員會内ニ於テ他ノ諸黨代表者ノ夫レヲ凌駕シ爲メニ諸黨ハ兩黨ノ爲メニ左右セラレツツアリ

元來改進黨ニ屬スル諸黨ハ各々異リタル主義方針ヲ有スト雖兎モ角モ是迄院内ニ於テ政府ニ對シ同一ノ態度ニ出テテ而モ同一ノ目的ヲ有シタリ乍併此等諸黨ト極左黨タル労働及社會民主兩黨トハ根本的ニ其主義方針ヲ異ニシテ氷炭相容レサルモノアリ故ヲ以テ兩者ハ院内ニ於テ其態度ヲ異ニシタリ(尤モ同團ニ屬スル立憲民主黨ハ第一及第二議會ニ於テ政略上一時院内極左黨ト提携シテ政府ニ對抗シ現ニ所謂「ウイボルグ」會議ノ決議案ニ署名シタルノ歴史アリト雖尔來立憲民主黨ハ院内ニ於テ極左黨ト關係ヲ斷チ其後其右翼ニ位スル國民改進黨及其他ノ諸黨ト提携シ所謂改進黨ヲ

組織シ以テ左右兩極端ノ政敵ト戦ヘリ從ツテ同團ニ屬スル諸黨ハ戰時議會ニ於テ労働及社會民主兩黨ト何等同一ノ態度ニ出ツルコト無ク兩者ノ關係ハ犬猿啗ナラサルモノアリシカ今ヤ同團ニ屬スル諸黨代表者ハ自ラ進ンテ労働及社會民主兩黨代表者ニ接近シテ彼等ニ懇望シ相協議シ以テ下院臨時施行委員會ヲ組織スルニ至レリ

今回ノ革命ハ下院極左黨タル労働及社會民主兩黨ノ統率ノ下ニ在ル労働者及兵卒ニヨリ行ハレタルモノニシテ兩黨ハ當初ヨリ此革命ニ直接又ハ間接ニ關係ヲ有シタルヲ以テ兩黨代表者ハ夙ニ事ノ今日ニ立至ルヘキヲ豫期シテ準備スル所アリキ然トモ改進黨ニ至リテハ最初此革命ニ何等關係ヲ有セス革命發生シテ始メテ之ヲ知リタル次第ニシテ而モ事件カ斯克モ發展スルニ至ルヘシトハ想像セサリシト云フ此故ニ同團ニ屬スル諸黨代表者ハ豫メ何等準備スル所無ク事件發生後始メテ下院臨時施行委員會ナルモノヲ組織シ委員會ノ名ヲ以テ皇帝ニ其位ヲ退カシメ臨時政府ヲ組織シテ今ヤ露國ニ共和的の制度ノ實現ヲシテ已ムヲ得サラシムルニ至ラシメタル次第ナリト称セラル

下院臨時施行委員ノ大多數ハ改進黨ニ屬スル諸黨代表者ヨ

ヲ以テ下院改進黨ニ屬スル諸黨代表者カ同院労働及社會民主兩黨代表者ヲ引入レテ下院臨時施行委員會ヲ組織スルニ至ルヤ兩黨代表者ハ一方ニハ同委員ニ加入スルト同時ニ又他方ニハ自ラ別ニ労働者及兵卒代表者會議ナルモノヲ組織シタリ同會議ハ院外ニ大々の勢力ヲ有シ今ヤ同會議ノ同意ヲ經ルニアラスンハ何事ヲモ爲シ得ラレサルヲ以テ下院臨時施行委員會ハ同會議施行委員會ト交渉シ同施行委員會ノ主張ヲ容レ而モ其幹部員タル下院労働黨總理ケーレンスキーヲ内閣ニ入レテ漸ク臨時政府ヲ組織スルヲ得タリ故ヲ以テ労働者及兵卒代表者會議ハヨシヤ現在臨時政府ヲ支持スト雖同會議ハ下院臨時施行委員會ノ如ク徹頭徹尾敢テ政府ヲ支持スル者ニアラサルナリ要スルニ同會議ハ臨時政府カ同會議ノ主義目的ニ背反スルノ態度ニ出テサル限り臨時政府ヲ支持スルコトニ決セリ

現在露國ニ於ケル實際ノ政權ハ臨時政府ヲ組織シタル下院臨時施行委員會ト労働者及兵卒代表者會議トノ兩者ニ在リト雖兩者中裡面ニ於テ大ナル勢力ヲ有スル者ハ後者トス殊ニ下院臨時施行委員會其者ノ中ニハ後者ノ幹部員二人加ハリテ而モ其二人ノ意見ハ事實下院臨時施行委員會ヲ動カシ

リ成リ現ニ十二人ノ委員中労働及社會民主兩黨代表者ハ僅カニ二人ニシテ其他ノ十人ハ改進黨派ニ屬スト雖同委員會ニ於テハ改進黨ニ屬スル諸黨ノ主義綱領ハ行ハルコト無ク却ツテ労働及社會民主兩黨ノ主義綱領ノ全部行ハレ而モ臨時政府ノ法規命令トナリテ着々實現セラレツツアリ斯ノ如ク下院臨時施行委員會ニ於テ少數派ノ説カ行ハレテ又多數派ノ意見ノ行ハレサル所以ハ畢竟院内労働及社會民主兩黨カ院外ニ労働者及兵卒ヲ同志トシテ有スルカ為メニ外ナラス

労働者及兵卒ハ刻下少クモ露都ノ一大勢力トシテ殆ント露國全體ヲ左右セントスルノ力ヲ有スルヲ以テ下院改進黨ニ屬スル諸黨代表者ハ自己ノ本領ヲ曲ケテ労働者及兵卒ニ對シテ勢力ヲ有スル労働及社會民主兩黨代表者ノ意見ヲ容レ以テ之ヲ自己ノ意見トシツツアリト雖若シ兩黨代表者ノ要求カ次第ニ増大ヲ來シ而モ其意見過激ニ亘ルニ至ル場合ニハ自然其進退ニ窮スルニ至ルヘシ労働者及兵卒中ニハ過大ノ要求ヲ提起スル者多クシテ現ニ土地平均論ノ實現ヲ主張スル者アルヲ以テ右兩黨代表者ノ要求モ自然増加ヲ來スニ至ルヘシ斯ノ如ク労働者及兵卒ノ勢力ハ偉大ナルモノアル

ツツアルト同時ニ又直接ニ臨時政府ノ閣員中ニ自己ノ代表者ヲ有シテ此代表者ヲシテ自己ノ目的ヲ貫カシメツツアリ然ルニ元來同會議ヲ代表スル労働及社會民主兩黨ト改進黨ニ屬スル諸黨トハ全然其性質ヲ異ニシ兩者ハ永遠ニ一致提携シ得ヘキモノニアラサルノミナラス労働者及兵卒代表者會議中ニハ自己ノ代表者「カグチコフ」、「ミリユコフ」等ト同一ノ内閣ニ在ルコトヲ好マサル者少カラサルヲ以テ労働者及兵卒代表者會議ト下院臨時施行委員會及臨時政府トノ關係ハ將來如何ニ變化スルニ至ルヤモ知ルヘカサルナリ労働者及兵卒代表者會議カ下院臨時施行委員會ト現在ノ關係ヲ維持シ且臨時政府ヲ支持スル間ハ臨時政府ハ堅固ナルヘシト雖然ラサル場合ニハ臨時政府ノ基礎ハ直ニ動揺スルニ至ルヘシ

労働者及兵卒代表者會議ハ革命ヲ企テテ而モ之レニ参加シタル労働者及兵卒ヲ網羅シタルモノニシテ諸種ノ職工モ亦多ク此内ニ加ハレリ然レトモ労働者兵卒職工等ニシテ同會議ニ加入セスシテ別派ニテ同會議ト歩調ヲ合セテ行動スル者少カラス此別派ノ重ナルモノハ露國社會民主労働黨及社會革命黨ニシテ此兩黨ハ日露戰爭中及其後一時大ニ活動シ

テ第一及第二議會ニ於テ院内ニ黨員ヲ有シタルモ第三議會以來院内ニ全ク黨員ヲ有セスシテ表面其存在ヲ失ヒタリ然ルニ今回右兩党再興シ就中露國社會民主労働党ハ大ニ活動ヲ始メテ今ヤ「ペトログラード」及「モスクワ」ニ機關新聞ヲ有シテ以テ其主張貫徹ニ努ムルニ至レリ

露國社會民主労働党ハ社會革命党ト共ニ下院労働及社會民主兩党ト略ホ同一ノ目的ヲ有シ労働者及兵卒代表者會議ト直接又ハ間接ニ關係ヲ保チ相共ニ步調ヲ合セテ行動シツツアリト雖之ヲ詳細ニ分析スレハ右諸党中ニハ其主義方針ニツキ多少ノ相違アルノミナラス又露國社會民主労働党中ニモ多數派ト少數派ノ兩者アリテ最近ニ至リ兩者ハ各自ニ機關新聞ヲ發行シテ自家ノ主張貫徹ニ努メツツアリ

此度ノ革命ノ動機ハ種々ナリト雖其重ナルモノハ議會カ政府ト衝突シ閣員ニ對シ不信認ノ意思ヲ表示シタルニ拘ラス皇帝ハ議會ノ言ニ耳ヲ傾クルコト無クシテ輿論ヲ無視シ又都市ニ糧食殊ニパン欠乏シテ市民就中労働者困難シ其結果ペトログラード諸工場ニ労働者ノ同盟罷工起リ之ニ對シ官憲カ憲兵及可薩克兵ヲシテ武壓ヲ加ヘテ之ヲ制止セシメ而モ無數ノ死傷者ヲ見ルニ至ラシメタルコトニシテ此等ノ事

占領シ諸大臣高官ヲ拘引シテ之ヲ下院ニ引致シテ拘禁シ又ハ獄ニ投シタリスノ如ク革命ノ徒カ「ペトログラード」全市ヲ占領シ而シテ同市カ一時無政府無警察トナルニ至ルヤ下院議長ロドジャンコハ同院各派代表者ヲ代表シテ皇帝ニ更ニ第二回ノ電報ヲ以テ形勢ハ非ニ非ヲ加ヘ來リタルカ爲メ直ニ必要ナル措置ヲ執ルノ急務ナルコトヲ報シタリ又之ト同時ニ下院各派代表者ハ市内ノ秩序恢復ノ爲メ同院議長ロドジャンコヲ之カ委員長トシテ十二人ノ委員ヨリ成レル下院臨時施行委員會ヲ院内ニ組織シタリ同委員會ノ組織ト同時ニ同院労働及社會民主兩党ハ自ラ企起シテ更ニ別ニ労働者及兵卒代表者會議ナルモノヲ組織セリ下院臨時施行會ハ革命發生ノ日ヨリ事實上ノ政府トナルニ至リシモ前述ノ如ク實権ハ労働者及兵卒代表者會議ニ在ルヲ以テ下院臨時施行委員會ハ労働者及兵卒代表者會議施行委員會ノ同意ヲ經テリウオフ公ノ下ニ左ノ人士ヲ以テ臨時内閣ヲ組織スルニ至レリ

總理兼内務大臣
リウオフ公
外務大臣
ミリユコフ
陸海軍大臣
グチコフ

ハ労働者ハ勿論一般人ヲシテ政府ニ對シテ惡感情ヲ抱カシムルニ至レリ玆ニ於テ豫テ社會民主及労働兩党其他社會民主労働黨社會革命諸黨員カ労働者及軍隊間ニ吹込ミ置キテ而モ最近ニ至リ一般ニ傳播シ居リタル革命ノ思想ハ此機ニ乘シ直チニ外ニ發シテ革命實現シ本年三月十二日「ペトログラード」ニ在ル軍隊ハ直チニ革命軍ニ化シテ労働者ト相共ニ革命ヲ起シ同市ハ一時全然革命ノ巷トナリ數日ヲ出テスシテ全部革命徒ノ手ニ歸スルニ至レリ

是ヨリ先政府カ同盟罷工シタル労働者ニ對シ武壓ヲ加フルコトニ決スルト同時ニ議會ニ休會ヲ命シ爲メニ國民激昂シテ形勢險惡トナルニ至ルヤ三月十一日下院各派代表者ハ會議ヲ開キ内政問題ニ關シ意見交換ノ結果此際速カニ責任内閣ヲ組織スルヲ必要ナリトシテ議長ロドジャンコノ名ヲ以テ皇帝ニ電報ヲ上ルニ至レリ然ルニ翌十二日形勢ハ一層險惡ヲ加ヘ市内ニ駐屯スルウオリンスキー、グレブラゼンスキー、リトフスキー、ケクスゴリムスキー諸聯隊其他ノ兵卒約二万五千人ハ革命ニ加擔シ其日マテ憲兵ト共ニ労働者及公衆ノ群集ニ向ケ發砲シツツアリタル兵隊モ亦革命軍ニ投スルニ至レリ玆ニ於テ革命ノ徒ハ砲兵工廠其他要所ヲ

司法大臣
ケーレンスキー
交通大臣
ネクラソフ
農務大臣
シンガリヨフ
商工大臣
コノワローフ
大藏大臣
テレシチエンコ
文部大臣
マヌーイロフ
宗務院長
リウオフ
會計検院長
ゴードネフ

是ヨリ先キ下院臨時施行委員會カ労働者及兵卒代表者會議ト臨時政府組織ノ交渉ヲ開始スルヤ皇室問題モ亦交渉案件ノ一トナリ尼古來二世ニ退位ヲ迫ルコトハ直ニ決定セラレタルモ當時末タ皇嗣問題ハ決定セラレサリキ其三月十四日下院臨時施行委員會ハ臨時政府ノ成立ニ前後シ皇帝ニ退位ヲ促ス爲メ使節トシテグチコフ及ヒシルユルギンヲプスコフニ派シ三月十五日皇帝ハ同地ニテ自ラ位ヲ辭シテ皇位ヲ皇弟ミハイル親王ニ讓ルノ詔勅ヲ下サレタリ皇弟ミハイル親王カ位ニ即クコトニ關シテハ下院臨時施行委員會ノ多數派側ニ於テハ當初何等異議無カリシト云フト雖少數派即チ労働及社會民主兩党代表者ハ共和制ヲ希望スル關係上ロマ

ノフ皇統ノ繼續ヲ非ナリトシテ之ニ反對シタリ茲ニ於テ同十六日臨時政府ノ閣員ハ拳ツテ皇弟ミハイル、アレキサンドロウイツチ親王ノ邸ニ集リテ閣議ヲ開キテ協議シ其結果同日親王ハ其令旨ヲ以テ近キ將來ニ開カルヘキ憲法議會カ露國ノ政體ヲ決定シ即位ヲ勸ムルマテハ皇位ヲ受クルヲ辞スル旨宣言スルニ至レリ

露國將來ノ政體如何ハ刻下世上ノ問題ナルガ當初立憲君主制說ハ多少有力ニシテ立憲民主黨ノ如キモ同說ニ左袒シ現ニミリユコフノ如キモ其演說ヲ以テ之ニ賛成ノ意ヲ漏ラシタリ然レトモ勞働及社會民主兩黨ハ最初ヨリ之ニ反對シテ共和制說ヲ主張シ而シテ其後共和制說ハ次第ニ有力トナリ今ヤ立憲民主黨モ亦共和制說ニ賛同スルニ至レリ從ツテロマノフ家排斥ノ聲ハ頗ル有力トナリ之カ爲メ一時國民ヨリ歡迎ヲ受ケテ人望ヲ有シタル高架斯大守兼軍司令官ニコライ、ニコライウイツチ大公サヘモ今ヤ國民ヨリ其在職ヲ喜ハレサルノミナラス辭職ヲ強要セラレ以テ其職ヲ去ルノ已ムナキニ至レリ形勢斯ノ如クナルヲ以テ將ニ來ルヘキ憲法議會カ結局共和制ヲ採用スルニ至ルハ疑無キモノノ如シ憲法議會召集期ハ未タ詳カナラサルモ勞働者及兵卒代表者

ニ屬スル諸黨機關ハ臨時政府ヲ支持スル關係上依然戰爭繼續論ヲ唱道セリ但右黨機關紙ハ此度ノ革命ニテ悉ク皆廢刊トナリタルト同時ニ該黨ハ全ク其勢力ヲ失ヒテ沈黙スルニ至レリ

前記社會民主勞働機關紙ハ平和說ヲ鼓吹シツツアルカ就中同黨多數派機關ブラウダ新聞ノ平和說ハ最初頗ル極端ニ亘リ現ニ同機關紙ハ速カニ戰爭ヲ中止セシムルヲ必要ナリトシテ熾シニ軍隊ヲ煽動シタリ之カ爲同紙ハ臨時政府ヲ支持スル改進黨機關紙ノ大多數ヨリ敵國独逸ノ利益ヲ計ルモノナリトノ攻撃ヲ受クルニ至レリ故ヲ以テ今ヤ同紙ハ平和問題ニ關シ多少其論鋒ヲ改メテ同黨少數派機關ト共ニ勞働及社會民主兩黨及其他ノ社會主義諸新聞ト略ホ論調ヲ一ニスルニ至レリ

今度ノ革命後露國ニ於テハ社會民主主義ハ大ニ勢力ヲ増加シ之カ爲自由主義ヲ抱ク人士ノ大多數ヨリ成レル臨時政府ハ其政綱ニ社會民主主義ヲ容ルルノ已ムヲ得サルコトナリタリ社會民主主義ヲ有スル諸黨中ニハ如上革命突發當時一時極端ナル平和論者アリタリ同論者ハ勞働者ト共ニ革命ヲ起シタル兵卒ヲ煽動シテ戰爭ヲ中止セシメンカ爲メ軍隊

會議ヲ首トシ一般ニ勞働者職人等ハ同議會ノ速開ヲ希望シツツアルヲ以テ同議會ハ案外ニ早ク開カルルニ至ルヤモ料ラレス然レトモ憲法議會ノ開催ヲ見ルニ至レハ内政益々多事トナリテ更ニ戰爭ニ惡影響ヲ及ホスニ至ルヘキヲ以テ下院改進黨ニ屬スル諸黨員ハ同議會ノ召集ヲ戰後マテ延期スヘシトノ說ヲ有スト雖現在ノ形勢ニテハ延期說カ勝利ヲ制スルコトハ不可能ナルヘシ今回ノ革命ハ早ヤ既ニ戰爭ニ大ナル惡影響及ボシ國民ノ注意ハ今ヤ第一ニ内政ニ拂ハレテ戰爭ニ對スル注意ハ自然事實第二トナルニ至レリ之カ爲メ臨時政府ハ独逸軍ノ襲來ヲ警告シテ國民ヲ鼓舞シツツアルモ何等其効無クシテ反ツテ國民ニ恐怖心ヲ起スニ至ラシメタルノ感アリ

露國ニ於テハ是迄平和ヲ欲スル者ハ畜ニ親独派ニ止マラスシテ其他ニモ多數ナルモ何人モ之ヲ口ニスルヲ敢テシ得スシテ心中独逸ト單独講和ヲ欲スル者ト雖口ニハ戰爭繼續ヲ唱ヘタルカ今回革命發生スルニ至ルヤ社會主義ヲ主唱スル人士間ニ公然平和說ヲ主張スル者ヲ見ルニ至レリ平和說ヲ主張スル新聞ハ社會民主勞働黨機關紙ニシテ院内勞働者及兵卒代表者會議機關モ亦平和說ヲ主張セリ然レトモ改進黨

内ニ檄文ヲ配布シテ兵卒ニ干戈ヲ棄ツルコトヲ勸告スルト同時ニ將校ト兵卒トノ間ヲ益々惡シクスルノ方法ヲ講シ併セテ臨時政府ヲ否認セシムル策ヲ弄シタリ之カ爲メ兵卒ハ勞働者ト同シク一時將ニ同論者ノ勸告ニ從ツテ臨時政府ヲ否認セントスルノ傾向ヲ有シタリ故ヲ以テ政府ハ兵卒ヲシテ右ノ勸告ニ從ハサラシメンカ爲メ一方ニハ勞働者及兵卒代表者會議ト交渉シテ兵卒ニ廣大ナル權利ト自由トヲ與ヘタルト同時ニ又他方ニハ將校代表者會議ヲ經テ將校ト兵卒トノ親密ヲ計ルノ方法ヲ講シ併セテ臨時政府ハ其機關ヲシテ右檄文ハ独探ノ意ニ成リタルモノナリトシテ此事ヲ兵卒ニ諭サシメ其結果勞働者及兵卒代表者會議ノ主要分子タル兵卒ハ兎モ角モ今日マテハ表面一般ニ戰爭繼續說ニ一致シテ此事ヲ声明スルニ至レリ茲ニ於テ同會議ヲ主宰スル下院勞働及社會民主兩黨代表者ハ右兵卒ノ聲明ヲ顧慮シ同會議ノ名ヲ以テ檄文ヲ全世界殊ニ兩交戰國ノ同志ニ飛ハシテ平和ノ必要ヲ説クト同時ニ独逸ニ促スニ独逸ノ社會黨カ露國社會黨ノ例ニ倣ヒ先ツ自國ノ政府ヲ倒シテ始メテ彼我ノ國民ハ直接ニ平和ヲ締結スルヲ得ヘキヲ以テ独逸社會黨ハ須ラク先ツ自國ノ政府ヲ廢スヘシトノコトヲ以テスルニ至レ

リスノ如ク露國ニ於テ現在大勢力ヲ有スル労働者及兵卒代表者會議カ兵卒ノ聲明ヲ顧慮シテ平和説ヲ主張スルニ至リタルヲ以テ當初極端ナル平和論戰爭中止説ヲ唱ヘタル社會民主労働党多數派機關紙モ亦其後其主張ヲ改メテ今ヤ下院労働及社會民主両党ノ平和説ト院外諸社會党ノ平和説トハ略ホ同一トナリタルト同時ニ一般ニ社會党側ノ平和論ハ内外ニ勢力ヲ有スルニ至レリ

(附記)

秘

露国政変其ノ後ノ成行及将来ニ対スル観測

(大正六年四月七日政務局第二課調)

露都騒擾ニ関スル情報摘要ハ當時不取敢配付済ノ処其ノ後ノ成行及露国政変ノ将来ニ関スル各方面ノ観測ニ付今日マテ接手セル諸情報ヲ綜合摘要スルコト左ノ如シ

一、臨時政府ノ拮据經營

露國ノ政変ハ臨時政府ノ成立、皇帝ノ讓位詔勅竝「ミハイル」皇弟ノ宣言ニ依リ一段落ヲ告ケ新政府ハ専ラ国内秩序ノ維持ニ努メ露國ノ都市ハ大体鎮靜ニ帰シ遠隔ノ地方ニ於テモ流血ノ慘ヲ見スシテ次第革命ヲ遂行シタリ唯々地方ニ於テハ農民ノ一部土地制度改革運動ヲ起シ一揆ニ類スル

動搖アリ又「クロンスタット」等ノ軍港ニ於テハ水兵及革命派ノ市民相合シテ海軍將校及士官ヲ殺戮スルアリ其ノ他芬蘭ノ獨立運動アリテ多少ノ騒擾ヲ免レサリシモ新政府ノ經營機宜ニ適シ保守党及官僚派ノ反動モナク兵卒及労働者ノ叛乱モナク少クトモ表面上ハ至ツテ平穩ニシテ国民一般ニ革命ヲ謳歌シ各自公安秩序ノ維持ニ努メ戰爭継続、新政府擁護ニ余念ナク新政府ハ着々自由主義ノ施政ニ歩ヲ進メツツアリ

新政府ハ先ツ退位セル皇帝ヲ三月二十二日「ツァールスコエセロ」ニ護送シ皇后及其ノ一族ト共ニ安全ノ地位ニ置キ一方英國ニ交渉シテ「ロマノフ」家ノ一族ヲ今後同国ニ送ルコトニ定メ且皇族ニシテ軍職ニ在ルモノノ職ヲ免シ保守官僚派ノ主要人物ニシテ監禁セラレタルモノノ裁判ヲ開始シ此ノ派ノ反動的陰謀ヲ根絶スルニ力メタリ

次ニ革命派中最モ過激ナル兵卒及労働者代表者會議ト新政府トノ調和ヲ計リ兵卒ノ待遇ヲ良クシ労働者ノ主張ヲ可成認容シ讓歩ニ依リテ内訌ヲ避クルニ汲々タリ

戦線ニ於ケル軍隊ノ調和及士氣振興ノ為兵卒ニ快カラサル將校ヲ罷メ統帥ノ幹部ニ大更迭ヲ断行シ革命ノ中心人物タ

二、新政府ノ承認

ル陸海軍大佐「グチコフ」自ラ戦線ヲ巡視シ且下院施政委員ヲ派シテ軍隊ノ視察激勵ニ尽力シ二十二日更ニ閣員連署ヲ以テ独逸軍ノ露都襲撃ノ危険アルヲ示シテ国民及陸海軍人ニ警告ヲ発シ更ニ論告ヲ公表シ戰爭継続ノ必要及国民ノ一致協力ヲ絶叫シテ士氣ノ振作ニ力ム

而シテ露國ノ新政体ニ関スル国内ノ異論分裂ヲ避クルニ力メ専ラ来ルヘキ憲法議會ニ於テ国民ノ輿論ニ依リ之ヲ決スヘキコトヲ以テシ其ノ開会地ヲモ可成国民ノ穩健確実ナル分子ノ中心地タル莫斯科ニ定メント努メ以テ極端論者ノ牽制ニ苦心セリ

国内異種族ノ調和ノ為人種平等ヲ宣言シ特ニ芬蘭人及波蘭人ノ自治ニ関シ讓歩寛容ノ宣言ヲ発シテ其ノ離反ヲ防クニ尽瘁セリ

外政ニ関シテハ逸早く露國ノ公正ナル態度ヲ明ニシ聯合諸國及中立諸國ノ援助及同情ヲ獲ルノ策ヲ執リ新政府外務大臣「ミリュコフ」ハ各國ニ対シ新政府ハ内政上ニ於テハ自由主義ノ政治組織及国民ノ協力ニ力メ外政上ニ於テハ縮盟諸國トノ旧約ヲ厳守シ且一層戰闘継続ニ努力スヘキヲ誓フ旨ノ宣言ヲ発シタリ

此ノ如ク露國ノ政変一段落ヲ告ケ新政府ノ基礎次第ニ強固トナリ事實上露國政權ノ中心ハ新政府ヲ措テ他ニ之ヲ求ムルヲ得サル状態ナルノミナラス歐洲大戰ノ形勢ハ聯合諸國ノ有力ナル一員タル露國ノ地位ヲ永ク不定ノ状態ニ置クラ許ササルモノアリ他方聯合諸國ハ進ンテ新政府ヲ援助シ露國內部ノ統一ヲ促進スルノ急務ナルヲ感シ速カニ之ヲ承認スルノ意アリ而シテ聯合諸國協力一致ノ精神ヨリセハ此等諸國同時ニ公式ノ承認ヲ与フルヲ可ナリトスルモ此ノ点ニ関スル打合ニ手違アリシ為カ二十二日英伊先ツ承認ヲ与ヘ仏國之ニ次キ帝國ハ閣議上奏ノ手續ヲ履ミテ二十八日公式ノ承認ヲ了シ白耳義モ亦少シク後レテ同様ノ手續ヲ為セリ中立諸國ニ於テモ米國最早ク承認ヲ与ヘ他ノ諸國之ニ次ク列國ノ新政府ニ対スル態度ヲ見ルニ英仏二國ハ政変前ヨリ這回革命ノ中心タル自由主義ノ諸黨所謂改進黨ニ同情シ保守及官僚派ノ動モスレハ独逸ト單獨講和ニ傾クヲ恐レ之カ制圧ニ苦慮セシ關係上此次ノ革命ヲ悦ヒ他ノ聯合諸國モ新政府ノ成功ヲ祈リ露國ノ強硬ナル態度ノ確定ヲ欲スルヲ以テ多少露國政府ノ将来ニ関シ不安ノ念ヲ抱クモ今後一層声

援ヲ与ヘテ新政府ヲ擁護シ相携ヘテ共同ノ敵ヲ倒ス為當面ノ戰鬪ニ努力セシメトスルモノト信セラル

三、政変前ノ政況

露国政変ノ将来ニ関スル露国内ニ於ケル識者ノ意見モ外国要路ノ觀測モ区々一定セス各種ノ情報ニ依リ判斷スルニ目下露国ノ内情ハ未タ混沌タル状態ニ在リト云ハサルヲ得ス斯クノ如ク政変ノ現狀猶不安ノ状ニ在リ且将来ノ見据着カサルハ遠ク政変前ノ露国ノ政況及革命突発ノ事情ニ基因ス仍テ玆ニ政変ノ遠因及近因ヲ略述セムトス

抑々露国皇室ヲ中心トスル專制政治家ノ勢力ニ對抗スル自由主義ノ政党ハ近年国民間ニ勢力ヲ占メ来リシカ開戦以來頓ニ其ノ勢力増セリ蓋シ這回大戦ノ性質全ク挙国一致ノ奮闘ヲ要シ勝敗一ニ軍需品ノ調達及兵員ノ補充ニ依ル有様ニシテ所謂国民ノ戦争ニシテ為政者ノ戦争ニ非サルナリ而カモ露国ノ戦運必スシモ有利ナラサルニ至リ政府ノ威信落チ国民ノ勢力頓ニ昂マレリ進歩の政見ヲ抱ク政治家ハ此ノ大勢ニ鑑ミ從來ノ政策ヲ變更シ民意ヲ尊重スルノ必要ヲ悟リ議會ニ讓歩セムトスルノ意嚮アリシモ保守党及官僚派ノ政治家ハ此際議會ニ讓歩スルハ政府ノ威信ヲ傷ケ皇室ノ權勢

ヲ抱クモノアリ且民間ニ於テモ二年有余ノ長期戦ニ倦ミ独逸ノ銳鋒ヲ畏レ国内經濟逼迫ニ苦ミ戦争中止ヲ欲スルモノナキニ非ス為ニ戦争ニ対スル露国ノ態度ニ付多少危惧ノ念ヲ抱カシメタリ聯合國會議ヲ露都ニ開キ英仏ノ有力者カ露国朝野ノ間ニ運動スル処アリシモ之カ為ナリト信スヘキ理由アリ

然ルニ露国諸都市就中「ペトログラード」ニ於テハ故意ニ買占メタルカ又ハ露国ノ特色タル国内組織ノ不完全ニ基クカ實際全国ノ物資不足セサルニ按排宜シキヲ得サル為食糧ノ欠乏ヲ告ケ市民ノ困苦日ニ甚シキ有様ナルニ政府ハ何等救済ノ方法ヲ講セス人ヲシテ政府ハ故意ニ斯カル状態ヲ作為シ騷擾ノ爆発ヲ招致シテ一挙之ヲ討滅シ反政府熱ノ一掃セムトノ苦肉策ニ出テタルモノナリト疑ハシムルモノアリ一般ノ不平ハ一度ニ爆破シ労働者ノ同盟罷工トナリ軍隊ノ加担トナリ形勢ハ急轉シテ革命ト変シタリ是ニ於テ民党ノ間ニハ未タ革命ニ関スル周密ナル劃策モ準備モ整ハサル中ニ急遽革命ヲ惹起セシ次第ナリ

由是觀之這回ノ政変カ意外ニ容易且迅速ニ成功シ而カモ其ノ後ノ成行猶混沌ノ状態ニ在ルモ亦故ナキニ非ラサルヘシ

ヲ危ウスル所以ナリト為シ強硬ニ之ニ反対シ此種ノ政治家ヲ斥ケ益々民意圧迫ノ政策ヲ行ハントス之ニ反シテ民党ハ此内外多事ノ際ニ乘シ政府ヲ屈スルニ非スンハ終ニ内政改革ノ機ナシト為シ穩健ナル各派ノ民党ハ聯合シテ改進黨ヲ作り過激ナル社会民主党及労働党ト相応シテ猛烈ニ政府ヲ攻撃シ内政改革責任内閣制ヲ主張シ両々相讓ラサル為内閣ハ瀕々トシテ更迭シ議會ハ屢々停会シ政界ノ風雲軋々急ナルニ至レリ然ルニ露国皇帝ハ時局ノ大勢及民意ノ趨向ヲ重視セラルルノ状ナク加フルニ宮中ノ醜声外ニ洩ルルニ至リ皇室ノ威信地ニ委シ軍隊ノ忠誠ノ念日ニ薄ラクノ觀アリ且又保守派政治家ノ腐敗ハ前々陸相ノ收賄ニヨリテ暴露シ單獨講和運動ノ内情ニヨリテ民ノ怒ヲ買ヒ最近压制政治ノ中心タル前内相「プロトポポフ」ニ対スル憎惡ノ念ハ日ニ甚シク殊ニ怪僧「ラスプーチン」ノ暗殺事件以來宮中及政府ノ内幕悉ク暴露シ露国ノ政狀愈々險惡ニ陥リ當時或ハ戦争中ニ一大変革ヲ起スノ虞アルヘシト觀察スルモノ多カリキ將又宮中ノ一部及保守派政治家中ニハ現制維持ノ為ニハ独逸ヲ屈服セシムルヲ不可トシ内心独逸トノ單獨講和ニヨリ戦争ヲ終了セシメ以テ国民制圧ニ全力ヲ注クヘシトノ意見

四、政変ノ将来ニ関スル觀測

露国政変ノ今後ノ成行ニ関スル觀測ハ大體樂觀、悲觀ノ兩說ニ岐レ其ノ意見ノ分歧点ハ(一)対独關係(二)革命派ノ内訌(三)軍隊内部ノ動搖(四)經濟狀態ノ變調(五)異種族ノ動搖ニ関スル見解ノ異ナルニ在リ以下少シク之ヲ説明セム

樂觀說

一、対独關係 親独派タル保守党及官僚派ハ革命ノ結果全然屏息シ今ヤ国民間ニ最信任アル有為ノ人物ヲ以テ新政府ヲ組織シ着々内政整理ヲ遂行シ軍隊及国民トノ關係一層親密ニシテ真ニ挙国一致ノ実ヲ挙クルヲ得ヘク自由ノ敵タル独逸ニ対スル戦争ニ一層努力スヘク最早單獨講和ノ陰謀ハ施スニ余地ナキ有様トナラム且戦線ニ於テモ將官ノ大更迭行ハレ親独臭味ノ徒淘汰セラレ兵卒ノ優遇ト共ニ軍隊ノ改善行ハルヘキヲ以テ新政府ノ声明ノ如ク一層準備ヲ整ヘ聯合諸国ト提携シテ戦鬪繼續ニ努力セム

二、革命派ノ内訌 革命派中ニ社会民主党及労働党ノ如キ過激派ト改進黨一派ノ穩健派トアリ為メニ内訌起ルヘシト憂フルモノアレトモ現ニ下院施政委員會ニハ社会党労働党ノ兩総理加入シ新政府ノ司法大臣「ケレンスキー」

ハ労働党ノ総理ナリ其ノ別働隊タル兵卒及労働者代表者會議ハ全然革命ニ同意シ新政府ヲ認メ多少相互ノ間ニ意見ノ相違ハアレトモ何等背反ノ兆ナク却テ新政府ノ中心人物タル「グチコフ」「ミリニューコフ」「ロヂヤンコ」等ハ一面労働者及兵卒ヲ優遇シ他面可成讓歩シテ彼等ノ主張ヲ容レ飽クマテ調和ヲ保チツツ巧ニ極端ニ走ルノ弊ヲ抑ヘツツアルヲ以テ革命派ノ分裂ハナカルヘシ

労働党及社会党一部ニ戦争中止論アレトモ新政府ハ既ニ国民ニ警告ヲ發シテ現時ノ危局及戦争中止ノ危険ヲ了解セシメ国民ノ多数ハ初メヨリ新政府擁護戦争継続ノ決意堅キモノアリ之カ為ニ内訌ヲ来スノ憂ナカラム

政体問題ニ付社会党及労働党ハ急激ナル共和政体論者ニシテ改進黨ハ寧ロ穩和ナル立憲君主制論者ナルモ後者ハ新政府ト共ニ此ノ問題ヲ以テ憲法議會ニ由ル国民一般ノ意志ヲ以テ決定スヘキモノナリト為シ輕々シク賛否ノ意見ヲ示サス人心ノ落着ク迄右議會準備ノ名ニ於テ遷延策ヲ取り国民ノ慎重ナル考慮ニ俟タムトスルヲ以テ此ノ問題ノ為ニ革命派内ニ急ニ紛擾ヲ起ササルヘシ

殊ニ近来過激派ハ次第ニ勢力ヲ失ヒツツアルノ状態ニ在

ル政策ヲ断行シ各派ノ調和ニ努メ国内ノ秩序物資ノ供給モ順潮ニ向ヒ外政上ニ於テハ聯合諸国ノ援助及中立諸国ノ同情ヲ受ケ政府ノ基礎鞏固トナリ軍隊モ亦士氣ノ振作ト物資ノ充實ニヨリ勢力ヲ加ヘ戦争継続ノ決意益々堅カルヘシ唯々革命ニ当然伴フ一時ノ動揺ノ虚ニ乗シテ独軍カ攻勢ニ出テ終ニ露軍ノ敗亡ヲ招クアラハ形勢一変スルナキヲ保シ難シト雖他ノ一面ヨリ見レハ是レ却テ露国内部ノ結合ヲ鞏固ニスルノ利ナシトセズ

悲觀説

一、対独關係 独逸カ革命ノ為露軍ノ動揺セル虚ニ乗シテ戦線ノ突破ヲ企ツルハ必然ノコトナリ加之自国ノ社会党ヲ利用シテ露国ニ於ケル戦争中止論者タル社会党及労働党ヲ動カシ単独講和ヲ試ミツツアリ且露国民ノ大部殊ニ革命ノ何タルヲモ了解セサル多数ノ下層民ハ既ニ戦ニ倦ミ居ルノ実情ナルカ故ニ露国ノ戦争継続ノ決意挫折シ戦局ニ大影響ヲ及ホスノ險惡ナル兆候アリ

二、革命派ノ内訌 ハ最モ憂フヘキ点ナリ本来極左党タル社会党及労働党ト民党ノ中堅タル改進黨トハ全然政見及立場ヲ異ニシ相容レサル分子ナリ偶々騎虎ノ勢兩者相合

リ

三、軍隊内部ノ動揺 元來軍隊ト革命派トハ予メ脈絡相通シ居リシヲ以テ革命ハ容易ニ成就セシ次第ナレハ新政府ト軍隊トノ關係ハ初メヨリ良好ナリ戦線ニ在ル軍隊ハ一時動揺シ軍規弛緩ノ徵候アリシモ之レ革命ニ伴フ必然ノ結果ナリ今ヤ軍隊ハ時局ノ真相ヲ解シ革命ヲ悦ヒ新政府擁護ニ一致シ其ノ主腦部ノ危険分子ノ免黜ト新政府主要人物ノ激励ニヨリ却テ士氣振興セリ

四、經濟狀態ノ變調 モ亦憂フルニ足ラス元來露国ニ於テハ物資欠乏セシニ非スシテ其運輸及按排ノ不完全ナル為分配宜シキヲ得サリシ結果ナリ今ヤ地方農民ハ是迄隱患セシ穀物ヲ吐出ス傾向アリ交通機關モ雪解ノ後ハ新政府ノ努力ニ依ツテ大ニ改善セラルヘク追々物資充實ノ状態ニ至ルヘシ

五、国内異種族ノ動揺 ニ関シテハ僅カニ独逸ノ煽動ニ因ル芬蘭ノ獨立運動アリシモ新政府ハ夙ニ此ノ点ニ留意シ各種族ノ平等ヲ政綱ノ一ニ掲ケ且最近芬蘭及波蘭ノ自治ヲ声明セシヲ以テ大ナル動揺ハナカルヘシ

要スルニ樂觀説ニ依レハ新政府ハ内政上着々国民ノ歡迎ス

シテ革命ニ協力シ共ニ下院施政委員會及新内閣組織ニ於テ提携セリト雖既ニ内訌ノ兆頭ハレ極左党ノ別働隊ト見倣サルル兵卒及労働者代表者會議ハ下院施政委員會及新政府ノ外ニ立チテ其ノ命ヲ奉セス却テ新政府ヲ左右スルニ至リ自己ノ首領タル閣員ヲモ疑ヒ殊ニ新政府ノ中心人物改進黨ノ首領連ヲ排斥スルノ傾向トナリ新政府ノ讓歩ニ拘ハラス其ノ要求愈々過大トナリ底止スル所ナク終ニ衝突ヲ免レサラム

政体問題モ亦今後ノ一大難関ニシテ極左ノ兩党ハ共和速成ヲ主張シ憲法議會ノ開會地ヲモ目下人心最不安ニシテ労働者ノ勢力アル「ペトログラード」ニ定メムトシ穩和カ堅實分子勢力アル莫斯科ニ開カムトスルニ極力反対セリ加之此ノ派ノ戦争中止論ハ労働党機關紙ニ於テ公然主張セラレ行懸上戦争継続論ヲ唱ヘシ者ノ中ニモ内心之ニ贊スルモノアリ近来戦争中止ヲ口ニスル者次第ニ多キヲ加フル有様ナルヲ以テ立憲君主制論戦争継続論者タル穩和派ト前記過激派トハ遂ニ乖離スルヲ免レサル趨勢ナルカ如シ

三、軍隊内部ノ動揺 ハ更ニ憂フヘキ現象ナリ兵卒ハ全ク

將校ノ命ニ從ハス恣ニ戦線ヲ離レテ自由ニ後方都市ヲ往來シ海軍ニ於テハ將官多ク兵卒ノ虐殺スル所トナリ陸海軍共ニ幹部間ノ意見扞格シ今ヤ軍隊ハ統帥ノ中心ナク、統一ナク、軍規全ク弛廢シ且將卒既ニ戦ニ倦ミ徒ラニ後方ヲ憂慮シ帰心矢ノ如キ内情ナリ新政府有力者ノ大本营ニ急行セシモ之カ為ナリ下院施政委員ノ戦線巡視モ之カ為ナリ國民ニ対スル警告モ軍隊ニ対スル諭告モ此ノ恐ルヘキ裏面ヲ反映セルモノト云フヘシ

四、經濟狀態ノ變調 モ露國人ノ資性タル組織能力欠々ニ基クモノニシテ無經驗ナル新政府ノ手ニ依リ交通機關俄カニ改善セラレ物資ノ分配宜シキヲ得ルトモ見エス一朝ニシテ国内ニ於ケル食糧ノ欠乏救済セラレ軍隊ニ対スル軍需品充塞セラレサルヘキハ明ナリ露都ニ於ケル掠奪、地方ニ於ケル百姓一揆、戦線ニ於ケル士氣ノ沮喪モ此ノ結果ニ外ナラサルナリ

五、異民族ノ動搖 モ亦決シテ輕々ニ看過スヘカラス芬蘭ノ運動ニ倣ヒテ各方面ニ独立運動起ラズトモ限ラズ要スルニ悲觀説ニ依レハ現政府ノ基礎ハ未タ鞏固ナラス革命派内ニモ内訌分離ノ原因多タアリ軍隊ノ士氣モ疑ハシク

知ラザレトモ露国外務省側ノ意向ハ連合国立国ヲ問ハス承認式未済ノ国々ハ同日ニ承認式ヲ挙クル(不明)トスルモ中立国トハ全ク別ノ日ニ為スコトニ(不明)ナル旨白公使ヘ回答スル筈ナリ

英大使ノ所作ハ本使着任以來見聞スル所ニ依ルモ多少白公使所説ノ如キ感ヲ人ニ起サシムル嫌アリテ常ニ自己ノ繁忙ト当地ノ勤務ニ倦ミ居ル旨ヲ口外シテ憚カラザルカ如キ次第ニテ自然筆頭大使又ハ此ノ重要ナル時局ニ於ケル英國ノ代表者トシテノ尽力ニ欠クル所アラザルカ極内々ノ御含迄ニ申添フ(四十語不足)

四二九 四月四日 在露国内田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

露国新政府承認ノ公文ヲ正式ニ交付ノ件

第三三五号 (四月七日接受)

往電第三一二号及第三一七号ニ関シ今四日白耳義、塞爾比、羅馬尼、葡萄牙ノ四連合国側公使ト共ニ「マリンスキー」宮殿ニ於テ新内閣員一同ニ会見シ新政府承認ノ公文ヲ正式ニ交付シタリ尤右公文ノ日附ニ対シ夫々回答ヲナシタルガ本使ニ対シテハ一層兩國ノ親交ヲ進メ同盟ノ誼ヲ厚クスル

紊乱セル經濟狀態ハ急ニ順潮ニ向フヘシトモ思ハレス一般民衆ハ既ニ戦ニ倦ムノ情アリ故ニ此ノ機ニ乘シ独逸側ノ急襲突破成功セムカ形勢一變直ニ政争内訌ヲ生シ第二ノ騷擾ヲ惹起スルノ虞ナシトセス露国ノ現状ハ俄カニ樂觀ヲ許サス聯合与国トノ共同戦ニ付テモ多大ノ望ヲ属シ難キ狀態ナリト云フニ帰着ス

四二八 三月三十一日 在露国内田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

露国臨時政府ノ承認ニ関スル英仏伊三国ノ措

置振ニ付白国公使不滿ノ旨來談ノ件

第三一七号 (四月二日接受)

昨三十日白耳義公使本使ヲ來訪シ先般英仏伊カ一団ヲ為シテ臨時政府ヲ承認シタルコトハ連合諸国協同一致ノ精神ニ背クモノニシテ英國大使ハ筆頭大使トシテモ全局ヲ顧慮スヘキニ其ノ事ナク殊ニ本件ニ関シテハ最初自分ヨリ申込ミタル所アルニ拘ハラズ前述ノ態度ニ出デ連合国ノ中ニ差別ヲ附ケタルコトハ甚タ面白カラズ白耳義ハ小国ナリトスルモ伊国ガ果シテ此ノ大戦鬭ニ幾何ノ貢獻ヲ為シツツアリヤト憤慨シ貴國ハ大国ナルカ故ニ特別ノ取扱ヲ為スヘキヤモ

コトニ極力尽瘁スヘキ旨ヲ述ヘタリ

四三〇 四月十六日 在露国内田大使ヨリ
本野外務大臣宛

露国新政府承認ノ公文ヲ送付ノ件

附屬書 三月三十日附内田大使ヨリ露国外務大臣宛

右公文ヲ

公第五〇号 (五月七日接受)

大正六年四月十六日

在露特命全權大使子爵 内 田 康 哉(印)

外務大臣子爵 本野一郎殿

露国新政府承認事ニ関シ貴電第二五九号ヲ以テ訓令ノ次第有之候ニ付本月四日「マリンスキー」宮殿ニ於テ本使新内閣員一同ニ会見シ新政府承認ノ公文ヲ正式ニ交付シタル次第ハ往電第三三五号ヲ以テ及報告タル通りニ有之候処右公文(三月三十日附)写別紙ノ通り(甲号)及御送附候間御査閱相成度此段申進候 敬具

追而曩ニ往電第二五四号ヲ以テ及報告候新政府外務大臣「ミリュニコフ」氏ヨリ本使宛新任挨拶状写別紙乙号併セテ及御送附候

註 別紙乙号ハ前掲四〇三文書ト同文ニ付省略ス
(附露書)

甲号号

三月三十日在露国内田大使ヨリ露国外務大臣宛公文
露国臨時政府ノ承認ニ関スル件

Le 30/17 Mars 1917.

Monsieur le Ministre,

J'ai l'honneur d'informer Votre Excellence que mon Gouvernement a reçu avec une satisfaction profonde la communication de Son Excellence Monsieur l'Ambassadeur de Russie à Tokio par laquelle Elle a bien voulu lui annoncer, sous les instructions de Votre Excellence, que le nouveau Gouvernement provisoire russe est résolu et prêt à remplir tous les engagements internationaux conclus par ses prédécesseurs et à poursuivre la guerre jusqu'à la victoire finale.

En prenant acte de la dite communication, mon Gouvernement m'a autorisé à reconnaître le Gouvernement provisoire russe et à entrer en relations officielles avec ce nouveau Gouvernement.

Convaincu de l'avenir prospère et glorieux de la Russie, le Gouvernement japonais vient de me donner en même temps pour instructions de saisir cette

occasion pour exprimer à Votre Excellence ses vœux et sa confiance que les sentiments d'amitié cordiale qui ont régné dans les relations entre nos deux pays ces dernières années tendront à se consolider et à s'accroître encore sous le régime qui vient d'être inauguré en Russie.

Pour ce qui me concerne, j'ai l'honneur d'acuser réception à Votre Excellence de sa note en date 17/4 Mars que je me suis empressé de transmettre à Mon Gouvernement, et très heureux d'informer Votre Excellence aujourd'hui de ce qui précède, je la prie d'être assuré que je me ferai un agréable devoir de lui prêter tout mon concours pour raffermir et développer encore les rapports de bon voisinage et d'intérêt commun qui existent si heureusement entre nos deux pays.

Veillez agréer, Monsieur le Ministre, l'assurance de ma très haute considération.

Yasuya Uchida

A Son Excellence

Monsieur Miliukow

Ministre des affaires Etrangères,

etc., etc.

四三一 四月二十四日 在露国内田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

露都群衆ノ米国大使館襲撃事件ニ関シ同国大使ト会谈ノ件

第三九〇号

今廿四日ノ新聞ニ一昨夜黒旗ヲ手ニセル群衆ガ米国大使館ヲ襲ハントシタルモ兵隊ガ大使館ニ先着シ之ヲ護衛シタル為群衆ハ途中ニテ遮ギラレ五十余名捕縛セラレタル旨記載アリタルニ依リ本日見舞旁米国大使ヲ往訪シタル処同館前ニハ二百名内外ノ兵卒幾組ニモ分レ調練シ居レリ是調練ニ托シ万一ヲ警戒シ居ルモノト思ハル大使ノ直話ニ拠レバ同大使ハ一昨夜劇場ニ在リタル処群衆大使館ニ推シ寄セントスルノ報ニ接シタルニ付十時半頃帰館シタル処既ニ若干ノ兵卒来リ大使館ヲ護衛シ居リタルガ其前平服ヲ着シタル数名ノ者大使館ニ侵入セントシタル由聴込ミタルニ付右護衛兵中警察長ト自称スルモノニ向ヒ何人ト雖トモ許可ヲ得ズ大使館ニ侵入セントスルモノアルトキハ直ニ銃殺スベシト請求シ其承諾ヲ得タルニ付大使ハ内ニ入り直ニ外務大臣及大蔵大臣ニ電話シタルモ夜半ノ事トテ要領ヲ得ズ翌朝ニ至

リ外務大臣ヨリ右ノ群衆ガ「レーニン」「レーニン」ハ過激ナル社会黨員ニシテ近頃独逸ヲ通過シ瑞西ヨリ帰来セルモノニシテ着後極端ナル平和説ト共產説ヲ民衆ニ演説シ居ルモノニシテ演説中米国ニ於テハ社会党又ハ無政府黨員ヲ死刑ニ処シ居ル旨ヲ述ヘ民衆ヲ煽動シタルニ依リ終ニ米国大使館ヲ襲ハムトスルニ至レリトノ風説行ハルルニ至レリ)ニ煽動セラレタリト云フコトハ事実ニアラズシテ伊国生ノ無政府黨員カ右同様ノ演説ヲ為シタルニ依ル旨ヲ申来レリ云々

同大使ハ本件出来事ヲ重要視シ居ラザルモ同大使カ率先臨時政府ヲ承認シ又近頃米国ハ戦争ニ参加シ精神的ニモ實質的ニモ露国ノ為極力尽力セムトスル矢先斯ル事ヲ試ミルハ遺憾ニ堪ヘズト称シ居レリ將又夫レトナク「クレイン」ノ事ヲ尋ネタル処今晚瑞典ヨリ当地ニ着スル管ナルカ私用ニテ来レルモノナリトナシ毫モ在米大使発大大臣宛第一一二号ノ事ヲ感附キ居ラザルモノノ如ク見受ケタリ又「ルート」一行ノ件ハ新聞紙記載ノ事ハ承知セズト答ヘタリ尚同大使ニ面会前先客アル旨ヲ以テ挨拶ニ来リタル同館員ハ前段大使館襲撃ノ件ニ関スル本使ノ問ニ対シ頗ル激昂ノ口調ヲ以

テ是レ全ク「レーニン」及其ノ一派ノ仕事ナリ「レーニン」ハ瑞西ヨリ露都ニ帰還スル途次独逸ノ特別列車ニテ同国ヲ通過シ独逸ニ買収セラレ其ノ間諜ヲ勤ムルモノナリト答ヘタリ

在欧米各大使へ転電セリ

四三二 四月二十五日 在露国内田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

過激派ノ活動及厭戦感情次第二一般ニ浸透シ
ツツアル点ニ付報告ノ件

第三九二号

往電第三九〇号ニ関シ革命後如何ニ当地一般ノ規律弛廃シ政府ノ威信微弱ニシテ其ノ政令行ハレサルトハ云ヒナカラ大使館ヲ襲ハントスルカ如キコトハ一場ノ演説ノミニテ煽動セラレ得ヘキモノニアラス他ノ原因ナカルヘカラスト思ハルルニ付尚探究シタル所ニ拠レハ米大使館員中ニハ大使ト見解ヲ異ニシ本事件ノ裏ニハ独逸アリト為スモノト又米國ノ戦争参加ヲ憤リタル当地平和論者ノ企ト為スモノアリトノコトナルカ今二十五日新聞記事ニ拠レハ日曜ノ示威運動ハ単ニ米國大使館ノミヲ目標トシタルモノニアラスシテ

二十二日ノ夜ニ黒旗ヲ樹テタル一団ハ米英仏ヲ倒セト叫ヒ廻リ又他ノ一団ハ同ク黒旗ヲ樹テ米英仏及戦争ヲ倒セト叫ヒ米大使館方面ニ向ヒタルモ何レモ格別ノ事ナク解散セラレタリトアリ此ノ外昨日ハ戦争廃止ノ旗ヲ樹テタル示威的行列ノ一団アリタリト云フ目撃者ノ言ニ拠レハ「レイニン」ハ毎日其ノ住宅前ニ(有名ナル女優「クセシレスカヤ」ノ家屋ヲ擅ニ占領シ居ルナリ)群衆ヲ集メ過激ナル共產的演説ヲ為シ甚シキハ富者ノ家屋物品ハ遠慮ナク之ヲ使用スヘシト主張シ又群衆中ニ偶々戦争継続ニ言及スルモノアルトキハ他ノ群衆ハ立地ニ之ヲ袋叩キニセムトスルノ形勢アリト云フ識者ハ素ヨリ冷淡ナルモ過日ノ革命ヲ成就シタルモノハ労働者ナリ今後時局ノ發展ニ対シテハ決シテ其ノ勢力ヲ輕視スルヲ得サルナリ近頃英仏大使ニ対スル当国社会党労働者等ノ非難攻撃漸ク盛シナラムトスル際米國大使館襲撃ノ事アラムトシ他方内地ニハ各所ニ土地問題ニ関スル百姓一揆アリ今後当国ノ形勢ハ誠ニ樂觀ヲ許ルササルモノアリ

之ヲ要スルニ革命当初第一ニ発セラレタル解禁令ニ依リ内外ノ追放先ヨリ当地ニ帰還シ来ル政事犯罪人ノ増加ト共ニ

社会党及労働派ノ勢力モ愈々増加シ来リ内政ニ対スル過激ノ主張ト戦争廃止平和克復ニ関スル希望公然提唱セラルルニ至リタル矢先ニ米國ノ歐洲戦参加ハ露國ニ対シ飽迄戦争継続ヲ慫慂スル英仏側ノ圧迫ヲ強大ナラシメ其ノ反動トシテ益々当地社会党及労働派ヲシテ英仏ノ態度ニ対シ嫌惡ノ情ヲ起サシメツツアルモノノ如シ結局革命ハ一般ノ予想ニ

ナル変局ヲ生シ来ラストモ云ヒ難シ右御参考迄ニ卑見開陳ス
在欧米各大使へ電報セリ

四三三 四月二十六日 本野外務大臣ヨリ
在仏國松井大使宛 (電報)

露國臨時政府ノ基礎ヲ強固ニスル為ノ援助ノ
必要ニ関スル仏國政府ノ觀測及对策ニ付問質
方訓電ノ件

附記 四月二十五日外務大臣及総理大臣間打合

露國新政府援助ニ付方針決定ノ必要ニ関スル件

第四七号(極秘)

露國政局ノ現状ハ稍々安定ヲ得居ルノ觀アルモ政府部内ニ於テハ労働党軍人派ノ意見重モニ行ハレ為メニ穩健ナル施政ヲ阻害シ又近時露独社会党相聯合シテ平和促進ノ運動ヲ為シ居ルヤノ情報モアリ在露内田大使ハ之ヲ以テ最モ関心スヘキ現象ト為シ居レリ万一右社会黨員ノ活動効ヲ奏シ露獨間ニ単独講和ヲ見ルカ如キ事態實現セハ兩交戦団体間ノ戦局ニ至大ノ影響ヲ及ホスノミナラス帝國及与國ノ前途ノ計画ニモ多大ノ違算ヲ来タスヘキニ付右等ノ憂ヲ除クハ一

ニ露国中央政府ノ基礎ヲ鞏固ニスルノ外ナク結局与国ハ速カニ適當ノ助力ヲ与フルノ外ナカルヘシト思料セラル
本大臣ハ四月廿五日在本邦仏国大使来訪ノ際上記ノ趣旨ヲ以テ談話シ仏国政府ノ觀察及ヒ所見ヲ承知シタキ旨述ヘタル処同大使ハ委細本國政府ニ電報スヘシト答ヘタリ就テハ右貴官御舍ノ上責任国外務当局ニ面会セラレタル節ニハ露国現状ニ対スル其觀測竝ニ之ニ対シ任国政府ノ執ラントスル対応策ニ関シ所見ヲ質サレ詳細電報アリタシ
右本大臣ノ訓令トシテ在英大使ヘ転電アリタシ

(附記)

四月二十五日外務大臣及総理大臣間打合

露国新政府ノ基礎ヲ鞏固ニスル為如何ナル程度迄軍需品及財政援助ヲ与フベキヤノ方針決定ノ必要ニ関スル件

露国政局ノ現状ハ臨時政府ノ組織ニヨリ稍々安定ヲ得タルノ觀アルモ政府部内ノ穩健論ハ常ニ急激極端ナル労働党軍人派ノ制肘ヲ受ケ戦争継続等ノ如キ積極的政策ノ遂行ニ至リテハ動々モスレハ其ノ阻害ヲ受ケ遲タトシテ進境ヲ見ス概シテ中央政府ノ根底ハ決シテ鞏固ナルモノト認ムルヲ得ス殊ニ最近ニ於テ最モ憂フヘキ現象ト見ルヘキハ露独社会党ノ接近ニシテ「ストックホルム」ニ於ケル両国黨員ノ会

合説ノ如キ將タ露国内ニ於ケル社会党ノ平和促進ニ関スル活動説ノ如キ報道相踵テ到リ在露都帝國大使ニ於テモ之ヲ以テ最モ関心スヘキ現象ト為シ或ハ遂ニ由々數大影響ヲ露独ノ關係ニ与フルニ至ルナキヤヲ深ク懸念シ居ル趣ハ昨今來電ノ通りナリ此際若シ万一ノ場合トシテ右等社会黨員ノ活動ニシテ其ノ効ヲ奏シ結局露独等ノ間ニ单独講和ヲ見ルニ至ルカ如キ事態ノ實現スルコトアランカ独リ両交戦団体間ノ戦局ニ至大ノ影響ヲ及ホスヘキノミナラス帝國竝与国ノ前途ノ計画ニモ多大ノ違算ヲ來タスヘキハ多言ヲ須キスシテ明ナリ而シテ此際ニ當リ露国内部ニ於ケル社会党ノ活動ヲ抑制シ其ノ单独講和促進ニ関スルカ如キ運動ヲ未萌ニ芟除スル所以ノ途ハ一ニ中央政府ノ基礎ヲ確実ニシ其ノ力ヲ鞏固ニスルニ在ルヘキヲ以テ結局与国ハ此点ニ留意シテ速カニ適當ノ助力ヲ与フルノ外ナカルヘク帝國政府ニ於テモ近ク英仏等ノ政府ニ対シ意見ノ交換ヲ試ムルノ必要アルヘキ処帝國政府カ各国ニ右ノ如キ措置ヲ試ムル前先以テ帝國政府ハ前記ノ事情考察ノ上此際露国ニ対シ如何ナル程度迄軍需品ノ供給竝財政上ノ援助ヲ与フベキヤニ関シ大体ノ方針ヲ決定シ置クコト極メテ必要ナリト思考ス

(欄外註記)

「大正六年四月二十三日起草、四月二十五日午後二時本野外務大臣寺内総理大臣ト会谈打合済」

四三四 五月五日 在本邦露国大使ヨリ
本野外務大臣宛

露国臨時政府ノ戦争継続ノ意思ニ付通報及政
府ノ布告書送付ノ件

附屬書 三月二十七日附露国臨時政府ノ布告書

Monsieur le Ministre,

Le Gouvernement Provisoire Russe a promulgué le 27 Mars a. c. un manifeste aux citoyens dans lequel il a exposé les vues du Gouvernement de la Russie libre sur les buts de la guerre actuelle.—

Mr. le Ministre des Affaires Etrangères me charge de Vous communiquer ledit document et de l'accompagner des considérations ci-dessous.—

Nos ennemis se sont efforcés dernièrement de semer la discorde entre les Alliés en propageant des nouvelles sur la prétendue intention de la Russie de conclure une paix séparée avec les Monarchies du Centre. Le document joint ci-près réfutera au mieux de pareilles inventions. Les principes généraux qui y

sont énoncés par le Gouvernement Provisoire concordent entièrement avec les idées élevées qui ont été constamment proclamées jusqu'en tout dernier lieu par des hommes d'état éminents dans les pays alliés; ces principes ont aussi trouvé une expression lumineuse dans les paroles du Président de notre nouvelle Alliée la grande république d'outre-mer.

Le Gouvernement de l'ancien régime en Russie, certes, ne se trouvait pas en mesure de se pénétrer et de partager ces idées sur le caractère libérateur de la guerre, sur la création d'une base stable pour la coopération pacifique des peuples, sur les libertés des nations opprimées etc.

La Russie affranchie peut actuellement tenir un langage qui sera compris par les démocraties modernes et elle s'empresse de joindre sa voix à celles de ses Alliés. Pénétrées de ce nouvel esprit d'une démocratie libre les déclarations du Gouvernement Provisoire ne peuvent naturellement donner le moindre prétexte pour en déduire que l'écroulement de l'ancien édifice ait entraîné un amoindrissement de la part de la Russie dans la lutte commune de tous les Alliés.

Bien au contraire la volonté nationale de mener la guerre mondiale jusqu'à la victoire décisive s'est encore accentuée grâce à ce sentiment de responsabilité qui incombe aujourd'hui à tous ensemble et à chacun en particulier. Cette tendance est devenue encore plus active par le fait même qu'elle se trouve concentrée sur la tâche immédiate et qui a envahi le territoire de notre patrie. Il reste entendu et le document ci-joint le dit expressément que le Gouvernement Provisoire sera strictement respectueux des engagements assumés vis-à-vis des Alliés de la Russie. Fermeement convaincu de l'issue victorieuse de la guerre actuelle, en parfait accord avec ses Alliés, le Gouvernement Provisoire est tout aussi assuré que les problèmes qui furent soulevés par cette guerre seront résolus dans le sens de la création d'une base stable pour une paix durable et que pénétrées de tendances identiques, les démocraties alliées trouveront le moyen d'obtenir les garanties et les sanctions nécessaires pour prévenir dans l'avenir le retour de conflits sanglants.

Veillez agréer, Monsieur le Ministre, les assuran-

ces de ma haute considération.

Son Excellence

(Signé) B. Kroupensky

M. le Vicomte Motono

Ministre des Affaires Etrangères.

(附屬書)

三月二十七日附露国臨時政府ノ布告書戰爭ノ目的ニ関スル露国臨時政府ノ見解闡明ノ件

Proclamation du Gouvernement Provisoire.

Le Gouvernement Provisoire ayant examiné la situation militaire de l'Etat Russe au nom de son devoir devant le pays décida de dire directement et ouvertement au peuple toute la vérité.

Le pouvoir actuellement renversé laissa la défense du pays dans une situation lourde et désorganisée. Par sa coupable inaction et par ses mesures inhabiles il introduisit une désorganisation dans nos finances, le ravitaillement, le transport et la fourniture des munitions à l'armée. Il ébranla toute notre organisation économique. Le Gouvernement Provisoire avec le concours vivace et actif de tout le peuple consacra toutes ses forces pour réparer ces lourdes conséquences

de l'ancien régime. Toutefois le temps presse. Le sang de nombreux fils de la patrie a coulé abondamment au cours de ces longues deux années et demie de guerre. Cependant le pays reste encore toujours sous les coups d'un puissant adversaire qui occupe des provinces entières de notre pays et qui actuellement, aux jours où naquit la liberté russe, nous menace d'une nouvelle et décisive poussée. La défense coûte que coûte de notre patrimoine national et la délivrance du pays de l'ennemi qui envahit nos confins constitue le problème capital et vital de nos guerriers défendant la liberté du peuple. Laisant à la volonté du peuple dans une étroite union avec nos alliés la décision définitive de toutes les questions ayant trait à la guerre mondiale et à son achèvement, le Gouvernement Provisoire croit de son droit et de son devoir de déclarer dès à présent que la Russie libre n'a pas pour but de dominer les autres peuples, de leur enlever leur patrimoine national, d'occuper de force des territoires étrangers mais d'établir une paix solide sur la base du droit des peuples de disposer de leur sort. Le peuple russe ne convoite pas le renforcement de sa

puissance extérieure pour le compte des autres peuples et n'a pas pour but de subjuguier et de rabaisser qui que ce soit. Au nom des principes supérieurs d'équité il enleva les chaînes qui pesaient sur le peuple polonais. Mais le peuple russe n'admettra pas que sa patrie sorte de la grande lutte rabaisée et ébranlée dans ces forces vitales. Ces principes constitueront la base de la politique extérieure du Gouvernement Provisoire qui exécute sans faillir la volonté populaire et sauvegarde les droits de notre patrie tout en obervant les engagements pris envers nos alliés. Le Gouvernement Provisoire de la Russie libre n'a pas le droit de cacher au peuple la vérité. L'Etat est en danger. Il faut déployer toutes les forces pour le sauver. Que le pays réponde à la vérité qui lui est dite non par un stérile abattement, non par le découragement, mais par un unanime élan en vue de créer une volonté nationale unique. Elle nous donnera des forces nouvelles pour la lutte et nous procurera le salut.

Qu'à l'heure de cette rude épreuve tout le pays trouve en soi les forces de consolider la liberté conquise et de s'adonner à un travail inlassable pour le

bien de la Russie libre.

Le Gouvernement Provisoire qui a fait le serment solennel de servir le peuple a la ferme confiance qu'avec l'appui général et unanime de tous et de chacun il sera lui-même en état d'accomplir jusqu'à la fin son devoir envers le pays.

(signé) Président du Conseil
Prince Lvov.

(右和訳文) (註 日本外務省ニ於テ作成シタル仮訳ナリ)

以書翰致啓上候陳者露国臨時政府ハ本年三月二十七日露国人民ニ対シ一ノ布告ヲ發シ現戦争ノ目的ニ関スル露国政府ノ所見ヲ説明致候露国外務大臣ハ右布告書ヲ閣下ニ送附シ且下記ノ通りノ趣意ヲ之ニ添フル様本使ニ訓令致越候
過般敵国ハ露国カ中央帝国ト单独講和ヲ締結スルノ意思アリトノ故意ニ作為セル情報ヲ伝播シ聯合諸国間ニ不和ヲ生セシメント努メタルカ本翰添附ノ布告書ハ右ノ画策ヲ全然画餅ニ帰セシムヘク候右布告書ニ於テ臨時政府ノ發表セル概括的主義ハ是迄聯合諸国ノ有力ナル政治家ノ常ニ宣言セル崇高ナル思想ニ全然相一致スルモノニシテ右ノ主義ハ亦吾人ノ新来ノ与国タル米国大統領ノ宣言中ニモ鮮麗ナル語

実ニ依リ更ニ激励セラレ居リ候而シテ猶ホ茲ニ申添ヘタキハ本翰添附布告書中ニモ明言致居候通り臨時政府ハ露国カ其ノ聯合与国ニ対シテ有スル約束ヲ嚴ニ確守スルコトニ有之候臨時政府ハ其ノ聯合与国ト全然協同シテ現戦争ノ終局ノ勝利ヲ確信スルモノニシテ現戦争ニ依リテ生シタル問題ハ永続スヘキ平和ノ為メ確乎タル基礎ヲ創設スルノ意義ニ於テ解決セラルヘク從テ聯合与国ノ民本的主義ハ戦争ノ惨禍ヲ将来再ヒ現出セシメサルカ為メ必要ナル保障ト制裁トヲ確保スルノ方法ヲ索出スルナラント確信スルモノニ有之候

本使ハ茲ニ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

露国臨時政府ノ布告書 (一九一七年三月廿七日
四月九日)

臨時政府ハ邦家ニ対スル義務ニ鑑ミ露国ノ軍事上ノ地位ヲ攻究シ茲ニ其ノ真相ヲ直截且明白ニ我國民ニ告グルコトニ決定セリ

現ニ顛覆セル旧政府ハ実ニ邦家ノ防備ヲ重大且ニ秩序ノ状態ニ放擲シ許ス可カラサル怠慢ト拙劣ナル計画トニ依リ財政變理、糧食補給、交通運輸、軍需供給ヲ悉ク紊乱ノ状態ニ置キ且一切ノ經濟組織ヲ壞廢シタリ茲ニ於テカ臨時政府

句ヲ以テ顯ハサレアルモノニ有之候

旧制度ノ下ニ於ケル露国政府ハ素ヨリ戦争ニ依リ自由ノ促進ヲ齎ラサントスルノ思想竝ニ人民ノ平和的協同ノ為メ確乎タル基礎ヲ創設スルノ思想其他虐政ニ苦ム國民ノ為メニ自由ヲ得セシメントスルノ思想ノ如キニ至リテハ之ヲ深ク領解スルコトナク又該思想ニ左袒スルコトモ無之モノニテ有之候

現下ノ覚醒セル露国ハ近世民本主義ノ真意義ヲ領解シ依テ以テ聯合諸国ノ民本主義ニ対スル主張ニ進ンテ賛同スルモノニシテ自由民本ノ此ノ新思想ヲ抱懷スル臨時政府ノ各種ノ宣言ハ旧制度ノ没落カ一切ノ聯合諸国トノ協同戦闘ニ於テ露国ノ方面ニ欠陥ヲ生セシメタルコトヲ論断セシムルカ如キ片影タモ認メシムルモノニアラサルコト固ヨリ言フ俟タサル所ニ有之候

否却テ國民ノ意嚮ハ現世界戦争ヲ終局ノ勝利ヲ得ルマテ遂行セントスルニ在リテ此ノ意嚮ハ今日國民カ全体トシテ將タ各個人トシテ有スル責任ノ觀念ニ基キ一層鼓舞セラレ居リ候此ノ傾向ハ露国ノ領土ヨリ其ノ敵ヲ擊攘スヘキ焦眉ニシテ且各人ノ目前ニ迫レル急務ノ為メ全力ヲ尽シ居ルノ事

ハ全國民ノ活潑有力ナル協戮ニ依リ全力ヲ尽シテ旧政府ノ遺セシ重大ナル事態ヲ拯フニ努メタリ然リト雖危機日ニ迫リ既ニ二年有半ノ長期ニ亘リ祖国無數ノ子民カ夥シク其ノ血ヲ流セルニ拘ハラス邦家ハ猶ホ強敵ノ侵襲ヲ蒙リ我國ノ州県ニシテ其ノ占領ニ歸スルモノ鮮カラス露国ノ自由初メテ呱呱ノ声ヲ挙ケシ日ニ当リ吾人ハ此ノ強敵ノ新ナル決戦的侵襲ノ下ニ威迫セラレツツアルナリ我祖宗ノ遺セル国土ヲ飽ク迄防護シ我境域ヲ侵セル敵手ヨリ邦家ヲ救出スルコトハ正ニ國民ノ自由ヲ防護スル我戦士ノ緊急且重大ナル問題ナリ世界ノ大戦及最後ノ勝利ニ関スル一切ノ問題ノ最終ノ決定ハ之ヲ我盟邦トノ強硬ナル一致ノ下ニ國民ノ意思ニ任セ臨時政府ニ於テハ自由ノ露西亞ハ他國民ヲ征服シ其ノ國民的遺産ヲ奪略シ又ハ他國ノ領土ヲ占領スルノ企圖ヲ抱クモノニ非ス唯列國民皆其ノ運命ヲ自ラ処理スルノ權利ヲ基礎トシテ堅実ナル平和ヲ確立スルヲ目的トスルモノナルコトヲ今茲ニ声明スルハ其ノ權利ナルト同時ニ其ノ義務ナリト確信ス。露國民ハ敢テ他國民ノ喪失ニ由テ自己ノ勢力ノ増進ヲ渴望スルモノニモ非ラス亦何人ヲモ屈從低落セシメムト欲スルモノニモ非サルナリ既ニ崇高ナル衡平ノ主義

ニ法リ波蘭人ヲシテ其ノ羈絆ヨリ脱セシメタリ然リト雖空
シク祖国ノ活力ヲ低落壞廢セシメテ此ノ大戦ヲ終結スルコ
トハ露国民ノ断シテ承認シ得サル所ナリ。以上ノ主義方針
ハ実ニ国民意思ヲ忠実ニ実行シ常ニ盟邦トノ約ヲ重シ祖
國ノ權利ヲ擁護セル臨時政府ノ外政ノ基礎ヲ構成スルモノ
ナリ自由ナル露國ノ臨時政府ハ素ヨリ国民ニ対シテ事ノ真
相ヲ陰蔽スルノ權ナシ。今ヤ正ニ国家危急存亡ノ秋ナリ之
ヲ救フニ全力ヲ尽ササルヘカラス。此真相ヲ其ノ前ニ披瀝
セラレタルニ対シ国民ノ之ニ答フル途ハ無益ノ爭論ニ非ス
士氣ノ沮喪ニ非ス正ニ国民意思ノ一致ヲ目的トスル挙國一
致ヲ以テセサルヘカラス此一致セル国民意思ハ目前ノ戰闘
ニ対シ新ナル勢力ヲ吾人ニ与ヘ邦家ノ急ヲ救フモノナリ
此ノ危急ノ際ニ當リテハ既得ノ自由ヲ確保シ且自由露國ノ
幸福ニ鞠躬努力スル為國民皆其ノ力ヲ尽サムコトヲ庶幾フ
國民ノ為尽スヘキコトヲ蔽正ニ誓ヒタル臨時政府ハ挙國一
致ノ援助ニ依リ最後迄邦家ニ対スル義務ヲ尽シ得ルコトヲ
確信シテ疑ハサルナリ

内閣議長 プリンズ、リヴォーフ（自署）

サル旨約束セシメ置キタルモ莫斯科ノ新聞ニ露都ヨリノ電
話通信トシテ右本使談話ノ趣旨ト大同小異ノ記事ヲ掲載セ
シメ居レリ

其他当地新聞紙中第一ニ本件ニ論及シタルモノハ「ノウオ
エ、ウレミヤ」ニテ國民自殺政策ト題シ露國ニ於テ独逸ト
单独平和ヲ締結スル場合ニハ日本ハ二百万ノ兵ヲ以テ背後
ヨリ露國ヲ襲撃スベシト説キ「デーニ」新聞ハ单独講和乎
新戰爭乎ト題シ同様ノ説ヲ掲ケ露國ハ聯合國ト開戦セザル
ヘカラザルコトトナリ日本ハ浦潮ヲ占領スベシト論セリ然
ルニ労働者側ノ勢力ハ追々電報ノ通漸次増加セントシツツ
アル此際我ニ於テ英仏ト共鳴シテ暗ニ右ノ襲撃説ヲ是認ス
ルガ如キ態度ヲ示スハ徒ラニ彼等ノ反感ヲ買フニ過キズシ
テ得策ニアラザルベク去リトテ右襲撃説ヲ否認シテ暗ニ露
國ガ聯盟ニ背クノ行為ヲ容認スルガ如キハ英仏側ニ対シテ
面白カラス前陳卑見ノ如ク當分此種ノ風説ヲ無視（ignore）
スル外致方ナシト信スルモ自然露國及英仏当局者ト会谈ノ
折談及セラルルコトモアルベク又此上新聞紙上ニ喧伝セラ
ルルトキハ或ハ何カノ措置ヲ要スルコトモ起ルベキニ付何
等本使ノ心得トモナルベキ義ハ予メ電訓アラシコトヲ請フ

四三五 五月八日 在露国内田大使ヨリ
本野外務大臣宛（電報）

露独单独講和ノ場合ニ対スル日本ノ背面攻撃
説ニ関シ報告及請訓ノ件

第四三三号

本月三日内閣員カ労働者兵卒代表者側ト徹宵協議会ヲ開キ
タル折内閣側ハ露國カ聯合國トノ約束ニ背キ今日直ニ单独
講和又ハ戰爭中止ト云フカ如キ態度ニ出ツルトキハ聯合國
ハ露國ヲ以テ叛逆者ト看做シ日本ハ背後ヨリ露國ヲ襲フニ
至ルヘシトノ威嚇ヲ用ヒ漸ク協調ヲ見ルニ至リタル旨當時
伝説アリタル処其後各方面ノ情報ニ拠ルモ右ハ全ク事実ヲ
シキノミナラス英仏側ニ於テモ右ノ背面攻撃説ヲ利用シ居
ルモノノ如ク甚シキニ至リテハ日本大使館引上準備説サヘ
行ハレ居ルトノコトナリ現ニ一昨七日「ルスカヤ、ウヨリ
ヤ」新聞記者ハ本使ヲ訪ヒ此際人心鎮撫ノ為新聞紙上ニ本
使ノ意見ヲ發表センコトヲ求メタレトモ本使ハ之ヲ謝絶シ
目下日本ハ忠実ナル聯合國ノ一員タルノミナラス露國トハ
最親密ナル聯盟國ナリ世説ノ如キハ本使ノ全然理解スルコ
ト能ハサル所ナリト答ヘ右会见ノコトハ一切新聞ニ記載セ

四三六 五月十二日 在露国内田大使ヨリ
本野外務大臣宛（電報）

日本ニ依ル背面攻撃説ノ流布ニ関シ請訓ノ件

第四三八号

往電第四三三三号ニ関シ本月三日ノ協議会ニ「ミリュコフ」
ハ日英兩國ヨリノ公文ヲ内示シ漸ク労働派側ト協調ヲ遂ゲ
タリトノ噂アリタル処今又流説ニ拠レバ「ミリュコフ」ハ
議院ノ秘密会ニ於テモ右ノ公文ヲ内示シタリトノ事ナリ其
真偽ハ未ダ判然セザルモ日本ガ露國ノ背面ヲ襲撃センガ為
メ軍備中ナリトノ説ハ最近又々在莫斯科伊太利総領事ノ談
話トシテ同地新聞ニ掲載セラレタルガ昨十一日ノ当地各新
聞ニ掲載セラレ益々一般ノ注意ヲ喚起シ居レリ貴大臣宛在
莫斯科事務代理發第四九号電報ニ依レバ右伊太利領事ハ一
応新聞社ニ取消ヲ申込ミタル由ナルモ公然ノ性質ヲ帶ビタ
ルモノニ非ラザルコトヲ言明シ却テ談話其ノモノヲ確認シ
タルモノノ如クニモ見エ又「スチエンコフ」ニ至リテハ我
領事ニ取消ヲ拒絶シタルノミナラス（不明）ノ処置ナリト
信ズル旨ヲ言明シタリトノ事ナルガ「エゴロフ」モ昨夜本
使ト談話中本件ニ談及シ彼ハ現政府擁護者トシテ寧ロ右ノ

新聞記事ヲ歡迎シ居タルガ本件ガ斯ク広ク速ニ伝播セラレ且ツ信用セラレツツアルヲ見レバ必ズ何等カノ根拠アルベク自然在日本露国大使カ本邦一部ノ議論ヲ誤認シテ恰モ帝國政府ノ意見ナルカ如クニ電報シタルモノニアラサルカ本使ノ心得迄ニ何等本件ニ関シ御心当ノ儀モアラハ直ニ電示アラムコトヲ希望ス卑見ニ拠レハ露国ノ形勢ハ内治外交共に追日悲境ニ其ノ歩ヲ進ムルノミニシテ遅速ノ差コソアレ早晚何等カノ變調ヲ見サレハ已マサルヘク当地我陸海軍大使館附武官ヨリ追々其筋ヘ電報ノ通露国陸海軍ノ状態ハ革命後何等ノ改良ヲ来ササルノミナラス軍規弛廢シ兵卒ハ傍若無人ニ振舞ヒ居ル実況ニテ殊ニ羅馬尼方面我觀戰武官最近ノ報告ハ拙電第四二八号羅馬尼總理大臣カ本使ニ為シタル談話ニ裏書スルモノニシテ何時彼ノ方面ヨリシテ時局ノ變調ヲ喚起シ来ラストモ云ヒ難ク極言スレハ露国対中欧同盟国目下ノ關係ハ露国側ヨリ襲撃ノ実力モナク又意志モナキモノノ如クナルヲ以テ独塊ハ露国ニ関スル限ハ单独講和ヲ為シタルモ同様ニシテ尠トモ休戰状態ニ在ルモノト看做シ得ヘク時日ノ経過ハ却テ独塊ニ有利ナル状態ヲ露国側ニ生出セシムル虞アリ一昨夜及昨夜当館ニ会食シタル露国人

件ニ談及ノ必要生スルヤモ計リ難キニ付本電及前電第四三三号ニ対シ至急御回訓ヲ切望ス

四三七 五月十四日 本野外務大臣ヨリ
在露国内田大使宛(電報)

日本ニ依ル背面攻撃説ニ対スル応接振ニ付回訓ノ件

第三九一号

貴電第四三三三号御請訓ノ件ハ極メテ delicate ナル問題ニシテ当地ニ於テモ時ニ話題ニ上ルコトナキニ非ザルニ付本大臣ハ斯ル場合ニ露国カ今日迄聯合國ノ一員トシテ何等背信ノ行為アリタルコトナク且ツ革命后ノ新露国ハ益忠実ニ聯合國共通ノ目的遂行ニ努力スヘキヲ信シテ疑ハサルカ故ニ日本カ背后ヨリ露国ヲ襲フ云々ト言フカ如キ事ハ未ダ念頭ニモ浮ヒタルコトナシトノ意味ニテ応答シ居レリ就テハ貴官モ今后右ノ振合ヒニテ可然御応接相成ル様致シタシ

四三八 五月十五日 在本邦仏国大使館ヨリ
日本外務省宛

露国時局ニ関スル仏国政府ノ觀察通報ノ件
AMBASSADE DE LA

ノ所説ニ拠ルモ殆ト一人トシテ暗ニ時局ニ対シ不安ト不平ヲ抱カサルモノナク多クハ独逸ヲ以テ最早露国方面ニ大襲撃ヲ企ツルモノト思惟セス

独逸人ハ寧ロ露国人ヨリモ露国昨今ノ実情ニ精通シ居ルヲ以テ独逸ハ此上露国方面ニ武力ヲ費消スルコトナクシテ結局露国攪亂策ニ成功スルモノト看做シ居ルモノノ如シ斯ル状態ノ下ニ前陳背面襲撃説ノ流布ハ結局我ニ対スル露国民ノ反感ヲ挑発スルコトナリ将来ノ為ニ不得策ナルノミナラス却テ日露ヲシテ独逸ノ術策中ニ陥ラシムル虞ナシトセス蓋英仏側ヲ初メ露国人中ニモ独逸ノ露国進撃ヲ以テ露国一致ノ実ヲ挙ケシムルモノトナシ寧ロ之ヲ歡迎スルモノアルモ卑見ニ拠レハ是ハ全然皮相ノ見ニシテ今日露国人ノ心理状態ハ爾ク健全ナルモノニアラスシテ假令一時拳国一致ノ状態ヲ呈スルコトアリトスルモ到底長ク外来ノ攻撃ニ対抗スルコト能ハサルヘク之ト同様ニ背面襲撃説モ露国民ヲ結束セシメ彼等ノ対独態度ニ一生命ヲ起サシムルモノトハ思ハレス一時政争ヲ緩和又ハ遅延セシムル位ノ効能ハ有リ得ルコトトスルモ結局ハ対日反感ヲ招来スルニ止マルヘシ就テハ本使ニ於テ何時「ミリューコフ」又ハ其他ニ会见シ本

REPUBLIQUE FRANÇAISE AU JAPON

La politique russe oscille depuis quelques semaines entre des forces contraires. Il est, en conséquence, très difficile de fournir des indications ayant quelque précision sur la situation intérieure du Pays.

Le Gouvernement provisoire reste attaché à la cause des Alliés; il n'a jamais nié les obligations qui lient la Russie et il fait ses efforts pour faire prévaloir ses vues.

Mais le Comité des ouvriers et des soldats exerce une influence qui s'inspire d'idées différentes. Il insiste pour obtenir que des négociations soient engagées avec les Gouvernements alliés afin, en revisant les buts de la guerre, d'amener une paix qui, d'après lui, ne devrait comporter aucune annexion, aucune indemnité imposée aux divers pays belligérants.

Cette tendance est vivement combattue par le Gouvernement provisoire. Il est encouragé dans cette voie par tous les Gouvernements alliés.

C'est dans la Douma que le Gouvernement provisoire peut trouver, espère-t-on, les points d'appui nécessaires pour atténuer ces difficultés et poursuivre,

conformément aux intérêts généraux des Pays alliés,
une politique d'action nationale russe.

Tokyo, le 15 Mai 1917.

註 右覚書ハ仏国大使ニ於テ之ヲ持参セリ

(右和訳文) (註 日本外務省ニ於テ作成ノ仮訳ナリ)

露国時局ニ対スル仏国政府ノ觀察

千九百十七年五月十五日 東京ニ於テ

数週日以来露国ノ政局ハ相反目セル勢力ノ消長ニ伴ヒテ変化シ居レリ故ニ同国ノ内政情況ニ関シ正確ナル観測ヲ試ムルハ至難ノコトニ属ス

露国臨時政府ハ聯合國ニ対シ密切ノ態度ヲ持シ未タ曾テ露国ノ負担セル義務ヲ否認シタルコトナク之カ実行ノ為メ努力シ居レリ

然レトモ労働者兵卒協会ハ之ト異ナル政見ヲ伝播スルニ務メ戦争ノ目的ヲ更改シテ平和ヲ招徠スルカ為聯合諸国ト協議ヲ開カムコトヲ慫慂セリ而シテ其ノ主張ニ拠レハ平和ハ何等領土ノ併合又ハ各交戦国ニ課スル償金ヲ包含スルコトナカルヘシトノコトナリ

斯ル傾向ハ露国臨時政府ノ極力打破セムト勗ムル所ノモノ

ニシテ此ノ点ニ関シテハ聯合諸国ノ後援ニ俟ツコト大ナルモノアリ

露国臨時政府ハ現下ノ難局ヲ緩和シ聯合諸国ノ一般的利害ニ從テ露国民意ニ基ク政治ヲ遂行スルカ為必要ナル支持ハ一ニ露国議會ニ於テ之ヲ求メ得ヘキナラン

~~~~~

四三九 五月十八日 在モスコイ渡辺事務代理ヨリ  
本野外務大臣宛

露国革命ニ関シ報告ノ件

政第一九号 (六月廿六日接受)

大正六年五月十八日

在莫斯科総領事館

事務代理 渡 辺 理 恵(印)

外務大臣子爵 本野一郎殿

露国革命ニ関スル件

露国今次ノ革命ニ関シテハ去三月十三日發往電第十三号以下屢次ノ電報ヲ以テ報告セル通露曆二月中旬露都ニ於ケル糧食欠乏ニ対スル示威運動カ動機トナリ漸次不穩ノ情況ヲ呈シ遂ニ同月廿七日(三月十二日)ニ至リ全ク革命的色彩ヲ帶ヒ事態容易ナラサルモノアリ依テ旧政府ハ一部軍隊ヲ

以テ之ヲ鎮圧セント試ミ同時ニ議會ノ停会ヲ宣シタルモ議員ハ之ニ応セサルノミナラス直チニ議院内ニ執行委員會ヲ組織シ自ラ政務ヲ執リ「ブレオブラゼンスキー」連隊ヲ始メ其他ノ軍隊統々之ニ応援シテ革命運動ノ遂行ニ全力ヲ注キタルカ為メ形勢頓ニ急転直下シ瞬時ニシテ旧政府ノ瓦解、新政府ノ成立乃至皇帝ノ退位トナリ三月四日(十七日)即チ革命發生ノ初日ヨリ約五日目ニ至リ殆ント一段落ヲ告ケ稍常態ニ復セルハ何人モ意外ノ感ヲ禁スル能ハサル所ナリ今左ニ重ナル出来事ニ就キ之ヲ概括シテ記載セントス

一、議會 露曆二月廿七日(三月十二日)「ガリーツイン」旧首相ハ議會停会ノ通牒ヲ發セルモ議員ハ執行委員會ヲ組織シ其ノ決議ヲ以テ之ヲ承認スルヲ拒ミ引續キ院内ニ在リテ協議ヲ繼續セリ下院議長「ロヂヤンコ」ハ其ノ前日皇帝ニ対シ刻下ノ狀況ハ急ク速カニ国民ノ信頼スル内閣ヲ組織セサルヘカラス一刻ノ躊躇ハ滅亡ヲ免カレストノ趣旨ヲ電奏シ廿七日(三月十二日)邦家及皇室ノ運命ハ旦夕ニ迫レリ速カニ応急ノ施設ヲ執ランコトヲ祈ル旨ヲ再電シ廿八日(三月十三日)同シク上院ヨリ議員「ワシーリエフ」外廿二名ノ連署ヲ以テ皇帝ニ電奏スル

所アリタルモ遂ニ親電ニ接セサリシヲ以テ議會ハ院内執行委員「ロヂヤンコ」以下十三名ニ依リ仮政府成立ニ至ル迄一切ノ政務ヲ裁決スルコトナレリ

二、仮政府成立 露曆二月廿七日(三月十二日)旧政府ハ総辭職ヲ為スト共ニ閣員ハ遁逃シ其ノ所在ヲ晦セルカ為メ政務ハ一時下院執行委員會ニ依リ進行セルモ三月二日(十五日)ニ至リ前記執行委員會及労働者兵士連合会等ノ熟議ニ依リ仮政府ノ成立ヲ見首相兼内相ニ「リウオフ」公爵、陸海軍ニ「グチコフ」、外相ニ「ミリウーコフ」、蔵相ニ「テレシチエンコ」、法相ニ「ケレンスキー」以下各党派ヨリ選拔セラレテ夫々就任セリ是ニ於テ仮政府ハ臂頭先ツ旧閣員其他頭官ヲ拘禁シ三月七日(廿日)ニ至リ旧皇帝皇后ヲ「ツアルスコエ、セロ」宮殿ニ幽閉シ各皇族ノ軍職ニ在ルモノハ悉ク革職シテ旧官僚派ノ隱謀ヲ根絶スルノ手段ヲ講シ尋テ内政上ノ改革トシテ政治上宗教上ノ犯人大赦、信教ノ自由、人種上ノ區別ヲ撤廃シテ同等ノ權利ヲ得セシメ、集会結社出版言論ノ自由ヲ与ヘ、廣ク普通選挙ニ基ク憲法議會ヲ召集シ政体ノ建設ヲ確定スヘキ旨等ヲ宣言シ着々実行スルトコロアリ尚ホ其後

ニ及ヒ芬蘭自治ノ承認、死刑廃止、陸海軍部内ノ免黜陞補ヲ断行シ波蘭ノ独立ヲ約シ地方自治制ノ改革、民団警察制度、穀類専売法乃至自由公債募集等ノ発布ヲ見タリ而シテ戦争ニ関シテハ償金ヲ要求スルコトナク且ツ他ノ領土ヲ占領シ若クハ他ノ国民ノ權利ヲ蹂躪スルヲ避ケ人道上個々ノ權利自由ヲ確保スルニ足ル永遠ノ平和ヲ得ルノ条件ヲ以テ之ヲ終結スヘキ旨ヲ声明シ土地問題ニ関シテハ来ル憲法議會ニ於テ根本的ニ之ヲ解決スヘキ旨ヲ誓言セリ以上ハ仮政府施政ノ主ナルモノニシテ此外軍紀振肅ニ関スル各種ノ命令、糧食供給ニ対スル措置、各鉄道輸送ノ改善、刑事犯一部ノ特赦、教育宗教上ノ革新等從來ノ秕政ヲ改メタルモノ鮮カラス然シテ労働者間ニ一時勢力ヲ有シタル八時間労働問題ノ如キモ政府ノ時局ニ対スル説明ノ努力ニ依リ漸次其ノ声ヲ潜メ昨今ニ至リテハ何人モ注意セサルニ至レリ然ルニ四月十八日(五月一日)「ミリュウコフ」外相ノ連合閣ニ致セル通牒ノ内容ニ関シ端ナク議論沸騰シ労働派ハ是ヲ以テ三月廿七日(四月九日)発表ノ戦争ノ目的ニ関スル宣言ノ主意ニ背戾スルモノトシ猛烈ニ政府ヲ攻撃シ露都ニ於テハ民衆ノ間ニ一

部衝突ヲ見形勢不穏トナリタルニ依リ遂ニ仮政府、労働者兵士連合会及下院執行委員会ノ間ニ協議ヲ遂ケ其ノ善後策ヲ講シタルカ結局外相ニ於テ之ヲ修正スルカ或ハ外相ノ地位ヲ辞シ他ノ閣員ニ転スルカノ窮地ニ陥ラントセル際突然陸海軍大臣「グチコフ」氏ハ權力ヲ有セサル責任ノ地位ニ在ルハ堪ユル所ニ非ラストノ理由ヲ以テ急遽辞表ヲ呈シ断然内閣ヲ去リタルヲ以テ茲ニ益々政府ノ基礎動搖ヲ来シ一時崩壊セントスルノ徵候ヲ現ハシタルモ単ニ外務、陸海軍両大臣ノ辞任ニ留マリ新ニ社会党ヨリ其ノ代表者ヲ選抜入閣セシムルコトナリ五月四日(十七日)連合内閣ヲ組織シテ漸ク難関ヲ經過セリ即チ従前ノ通りナルハ総理及内務「ゲ、エ、リウオフ」公爵、交通「ネクラースフ」(元下院副議長)、商工務「コノワールフ」(元「コストロマ」選出下院議員、「プログレス」、文部「マヌイロフ」(元上院議員、旧莫斯科大学総長)、ノ四名ニシテ新ニ入閣セルハ司法「ベンウエルゼフ」、農務「チエルノフ」、労働「スコーベレフ」、糧食「ベセホーノフ」、郵便電信「ツエレテルリ」、救済「デ、イ、シヤホフスコイ」公爵ノ六大臣ノ新任ヲ見前司法「ケレンスキ

ー」(元「サラトフ」選出下院議員、労働党)ハ陸海軍ニ、前農務「シンガレフ」(元露都選出下院議員「カデット」)ハ大蔵ニ、前大蔵「テレーシチエンコ」ハ外務大臣ニ孰レモ転出シ宗務院長「ウエ、エヌ、リウオフ」、会計検査院長「ゴトネフ」ハ依然留任トナリ以テ今日ニ至レリ

三、皇帝及皇族 革命当初皇帝ハ「ブスコフ」市ニ行啓中ナリシカ露曆三月二日(十五日)下院議長「ロヂヤンコ」以下拝謁シ露都其他ノ革命事情ヲ上奏シタル結果皇帝ハ予テ退位ノ決意ヲ為シタル由ヲ語ラレ皇弟「ミハイル、アレクサンドロウイチ」殿下ニ讓位スヘキ旨ノ同日付詔書ヲ下賜セラレタリ而シテ同殿下ハ翌三日(三月十六日)付ヲ以テ憲法議會ニ於テ国民一統ノ推薦ニ依ルノ外皇位ヲ繼承セサルヘントノ令旨ヲ公布セラレ斯克シテ一般国民間ニ何等ノ動搖ヲ生スルコトナク最モ平易ニ廢帝ノ拳ヲ終結シタリ引続キ仮政府ハ七日(三月廿日)ニ至リ旧皇帝皇后ヲ「ツアルスコエ、セロ」ニ幽閉スヘキ旨ヲ宣シ當時「ミンスク」市ニ於テ皇太后ト面謁中ナリシ皇帝ヲ護送シ来リ尔来同所ニ衛戍總督ヲシテ監視セシメ居レ

リ其他皇族ニシテ陸海軍職ニ在リシモノハ悉ク辞任シ仮政府ノ命令ニ服従スヘキ旨ヲ誓言シ「ニコライ、ニコラエウイチ」大公ノ如キ一時総司令官ニ復職セルモ須臾ニシテ「アレクシエーフ」大將之ニ補セラレタルカ為メ輓近他ノ皇族ト均シク閑散ノ生活ヲ送ラルト言フ皇族中幽閉セラルルハ旧兩陛下ノ外「マリヤ、パウロウナ」大公妃アルノミニテ帝位復古ノ隱謀ニ関係アリタリト伝ヘラル尚ホ労働派ノ一部ハ皇帝ヲ要塞監獄ニ投スヘントテ敦圉クモノアルモ政府ハ之ヲ有メ単ニ夫ノ從來皇室ノ御料地タリシ土地鉅山森林等一切ノ不動産ハ国民ノ財産トシテ没収シ旧御料局官吏ヲシテ姑ク之ヲ監督セシムルコトトナレリ

四、軍隊ト労働者兵士連合会 今回ノ革命成功ハ軍隊ノ一部之ニ参加シ下院執行委員ノ活動ヲ援助シタルニ縁由スルモノニシテ從來ノ是種運動ト其ノ趣ヲ異ニセルハ専ラ此点ニ存セリ從テ革命後軍人殊ニ兵卒ノ意氣軒昂ヲ極メ往々軍紀ノ弛廢ヲ来サントスルノ悪影響ヲ及ホセリ將校ノ免黜軍人会議ノ組織等稍軍隊内ノ刷新ヲ図リタルモノアリト雖モ一方士卒ニ対スル待遇ヲ向上セル為メ動モス

レハ情氣ヲ催フサシメ放縱偷逸ノ弊風ヲ馴致シ到ル処休戦状態ヲ演出スルニ至レリ更ニ言論ノ自由ヲ許セル為メ夫ノ一方ノ主動力タル労働者ト共ニ政治上一大勢力ヲ樹立スルノ現象ヲ呈セリ乃チ露都ニ於テハ二月廿七日（三月十二日）初メテ労働者及兵士連合会ナルモノ組織セラレ社会民主党首領「チヘーゼ」（下院議員）之カ会頭トナリ其後漸次莫斯科其他全国ノ都市ニ亘リ同連合会ノ成立ヲ見タルカ同会ハ仮政府及下院執行委員会ト鼎ノ三足ヲ成シ政治上軍事上侮ルヘカラサル勢力ヲ有スルニ至リタルハ明ニシテ今回ノ連合内閣組織モ亦タ同会ノ希望ヲ容レタルノ結果ナリ要スルニ兵士及労働者ノ意向ハ新政府ト雖モ之ヲ無視スルヲ得ス或ル場合ニ於テハ大ニ之カ制肘ヲ受クルノ情態ニテ三頭政治ノ觀ヲ呈セルハ亦タ止ムヲ得サルトコロナルヘシ昨今政事及戦争ニ関スル見地上同会ノ当局者ト大ニ融和セルノ形迹アルハ稍喜フヘキモ目下各地ニ惹起シツアル工場労働者或ハ各商店員ノ給料増加請求ニ関スル同盟罷業ノ如キ大ニ憂慮スヘキモノアリテ今後は等ニ対スル同会ノ行動ハ世人ノ最モ注意ヲ怠ラサル所トス

五、憲法議會 且下政府ハ選舉準備ノ為メ夫々委員ヲ任命シ各項目ニ涉リ審議中ニシテ遅クモ兩三月中ニハ完了スヘシト伝ヘラレ会場ハ露都ニ選定セラルヘシト云フ

六、莫斯科市ニ於ケル革命前後 露二月廿八日（三月十三日）早朝各官衙学校工場商店等一切休業シ労働者ハ各自赤旗ヲ樹テ市庁前広場ニ蟬集シ露都ニ於ケル革命運動ニ呼応シテ示威的運動ヲ開始セルヲ始メトシ漸次各軍隊ノ参加応援、旧官憲ノ拘禁、政治犯ノ解放等殆ント露都同様ノ径路ヲ執リ僅ニ数人ノ犠牲者ヲ出セルノミニテ比較的平穩ニ遂行セラレ三月二日（十五日）ニ至リ各新聞紙モ発刊シ人心稍鎮靜ニ帰シ新ニ軍管区司令官ニ就任セル「グルヂーノフ」中佐（現今大佐）ノ三月十七日檢閱式ヲ挙行スルヤ市民各安堵ノ思ヲ為シ同十九日工場商店等各業務ヲ開始シ殆ント常態ニ復シ尔後今日ニ至ル迄特筆スヘキ変化ナシ曩ニ八時間労働問題乃至戦争中止ニ関スル示威行列等屢々行ハレ大道演說亦昼夜ヲ分タス随所ニ見受ケラレタルモ各人稍事態ノ真相ヲ知ルニ從ヒ其ノ要求ノ正当ナラサルヲ認メタルモノノ如ク徐々平靜ニ趨キタルノ觀アリ又食料品需給關係ハ從來ト異ナルコトナク

公私各方面ニ亘リ和衷統一ノ実ニ欠クルモノアルヲ推知シ得ヘシ

七、各地方ノ情況 革命後從來ノ州知事ニ換ユルニ「ゼムストウオ」推薦ノ「コツミサル」ヲ以テシ民団警察（ミリチャ）之ニ加ハリテ地方行政警察ノ任ニ当ルト雖モ中央都市ヲ距ルコト遠キモノハ往々流言蜚語百出シ為メニ不穩ノ出来事間断ナキモノノ如シ加フルニ戦地ヨリ帰來セル兵卒ノ一部ハ俄カニ暴行ヲ逞フシ或ハ一部ノ「ミリチャ」ハ其權限ヲ悪用シテ擅ニ他ノ私財ヲ押収スルカ如キ又農民ノ一部ハ他ノ山林ヲ伐採シ田畑ヲ占有シ或ハ穀類ヲ勝手ニ搬出スルカ如キ遇々無政府ノ状態ヲ演出セルトコロ鮮カラス掠奪殺人等亦之ニ準シ劇増セルモノノ如ク心アルモノノ鑿鑿スルトコロナリ政府ハ是等ノ暴行ニ對シ屢々注意ヲ喚起シ犯人ヲ嚴罰ニ処スヘキ旨ヲ公布セラルモ容易ニ終熄セサルノミナラス益々無政府状態ノ徴ナキニ非ス

右及報告候 敬具

四四〇 五月二十日

在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛（電報）

時局ニ関スル露国新外相ノ通報報告ノ件

第四七〇号

五月二十日新外務大臣カ本使ノ問ニ答ヘタル要領左ノ通  
聯立内閣カ発表シタル宣言書第一項ハ決シテ今直ニ一般的  
平和ノ提議ヲ為スノ趣意ニアラズ一般的平和ハ戦争終結後  
始メテ起ルヘキ問題ナリ又戦争ハ決シテ中止セズ無論継続  
スヘシ抑自分カ革命ニ参加シタルハ対独戦争カ如何ニモ思  
ハシカラザルニ依リ之ヲ改良セムカ為ニシテ今回外務大臣  
ノ職ニ就キタルモ陸海軍大臣「ケレンスキー」ヲ援ケテ対  
敵行動ヲ敏活ナラシメムカ為ナリ不日必ス貴国観戦武官ヨ  
リ戦線ノ状況改善ノ報告ニ接セラルコト確信ス自分ハ  
独逸ニ対シ最初ヨリ一貫シタル観測ヲ有シタリ露国人中独  
逸人ノ暴虐非道ニ喫驚シタルモノ甚タ多キモ自分ハ四年間  
独逸ニ留学シ深ク其ノ国民性ノ面白カラザルヲ知り爾来非  
常ナル独逸嫌ヒトナリタルモノナルカ故ニ彼等今日ノ横暴  
ヲ奇異ニ感ゼザルナリ結局平和ハ徹底のナラサルヘカラズ  
戦後各国ノ予算ニハ一切戦備の費用ヲ計上セシメザルコト  
ト為サザルベカラズ云々尚新政府方針ノ詳細ハ労働者兵卒  
代表者委員側ノ提議立憲民主党ノ之ニ対スル反対意見、臨

Terestchenko

四四二 五月二十四日 在本邦仏国大使館ヨリ  
日本外務省宛

露国仮政府ノ通牒ニ対スル仏国政府ノ回答ヲ  
通報ノ件

(訳文) (註 日本外務省ニ於テ當時作成シタル仮訳ナリ)

露国仮政府ノ通牒ニ対スル仏国ノ回答

仏国政府ハ在仏露国大使ヨリ通牒セラレタル四月九日(露  
曆三月廿七日)附露国仮政府ノ布告ヲ閱悉シ欣懷ノ情ニ堪  
ヘス

露国仮政府カ露国ノ政治上經濟上軍事上ノ勢力復活ニ付懷  
抱セル満幅ノ自信ニ対シテ仏国政府ハ全然同感ヲ表スルモ  
ノナリカノ露国邦域ヲ侵迫スル兇敵ニ対スル戦争ニ於テ捷  
利ヲ博スルカ為露国現状ノ改善ヲ声明セル所ノ手段ハ必ス  
ヤ敵ヲ其領域ヨリ驅逐シ其ノ贏チ得タル自由ヲ鞏固ニ確保  
シ且聯合与国トノ協同戦争ニ対スル其有力ナル任務ヲ遂行  
スルニ足ルヘキコト仏国政府ノ信シテ疑ハサル所ナリ加之  
此等ノ手段タル聯合与国ノ間ニ誤解ノ因ヲ作出シ相互ノ決  
意ニ対スル無稽ノ流説ヲ播布セムカ為不斷ノ努力ヲ為セル

時政府ノ仲裁意見及自分カ新聞記者ニナシタル会见録都合  
四種ノ文書ヲ本日中ニ送付スヘキニ付之ニ就キ承知セラ  
レンコトヲ希望スル旨ヲ述ヘタリ右文書接手次第篤ト研究  
ノ上更ニ電報スル所アルヘシ在欧米各大使ヘ転電セリ

四四一 五月二十日 露国外務大臣ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

テレスチェンコ氏外相就任ノ挨拶電送ノ件

Petrograd, May 20, 1917, 11 p. m.  
(Received, "31," 3-50 a. m.)

Son Ex. Comte Motono,  
Ministre des Affaires Etrangères, Tokio.

En assumant le poste du Ministre des Affaires  
Etrangères au Gouvernement provisoire russe recon-  
stitué, je prie Votre Excellence être assurée de mon  
désir de collaborer intimement avec Elle à la pour-  
suite de la grande cause que se sont posées nos  
deux nations amies et alliées. Appréciant hautement  
le concours que le Japon accorde à cette cause, la  
Russie affranchie a une foi inébranlable dans le  
triomphe de la coalition des puissances de qui dépen-  
dent la justice, le droit et indépendance des nations.

敵ノ奸策ヲ徒勞ニ帰セシムヘシ

忠実ナル旧盟邦ノ情誼ニ常ニ信頼セル仏蘭西共和国政府ハ  
現戦争中絶エス其ノ政策上遵守シ居レル主義ニ関シ再ヒ露  
国ノ政府及国民ト全然感念ノ一致ヲ見ルヲ得タルハ其ノ大  
幸トスル所ナリ抑仏国ハ何レノ民族何レノ国民否今日ノ敵  
国民ト雖之ヲ圧迫セムトノ念ヲ有セス却テ今日ニ至ル迄長  
ク世界ノ頭上ニ懸リシ重キ压制ノ終ニ破却セラレムコトヲ  
期待シ且吾人ノ敵カ平時及戦時ヲ通シテ懷抱シ居リシ征服  
貪婪ノ精神ハ暫ク之ヲ吾人ノ敵ニ任カセ置キ吾人ハ現戦争  
ニ不滅ノ汚辱ヲ残セシ罪惡ノ元兇カ終ニ懲膺セラレムコト  
ヲ翹望ス、仏国ハ決シテ一片ノ領土ト雖其ノ正当ナル所持  
者ヨリ之ヲ奪取セムト企図スルモノニアラス仏国ハ実ニ平  
和維持ノ為其ノ尽シタル努力カ拒斥セラレタルニヨリ不正  
極マル侵襲ニ対シテ遂ニ干戈ヲ執ルノ已ムヲ得サルニ至リ  
タルモノニシテ仏国ハ其ノ自由及祖国ヲ防護スル為將又露  
国カ波蘭ノ昔日ノ独立ノ復活ヲ宣言セシト均シク誠意以テ  
各国民ノ独立尊重ヲ今後ニ保障セム為初メテ起チテ戦争ニ  
参加セシモノナリ歴史上非難セラルル從属關係ノ為今猶ホ  
拘束セラルル国民カ世界ノ各地ニ於テ尽瘁セル努力ニ対シ

仏国カ欣喜ノ情ヲ以テ之カ成功ヲ祝福(数字不明)所以ノモノ亦同一ノ精神ニ拠ル、是レ正ニ其ノ国民的独立ヲ獲得シ且恢復セムカ為ナリ其ノ昔日ノ文化尊重ノ權利ヲ確立セムカ為ナリ進歩ノ道程ニ於テ遅レタル国民ノ頭上ニ重ク懸リシ独逸ノ此ノ暴虐ヲ除去セムカ為ナリ此ノ故ニ仏国ハ權利ト正義トノ捷利ニ依リ初メテ戦争ノ終局ヲ看ムコトヲ欲ス仏国自身ノ為ニモ亦此等ノ国民カ解放セラレ曾テ暴虐ニ依テ奪ハレタル「アルザース、ローレーンヌ」ノ忠誠ナル二州カ仏国ニ復帰セムコトヲ期待ス仏国ハ同盟与国ト共ニ其ノ領土權ノ完全ナル恢復及其ノ政治上經濟上ノ独立カ保障セラレ且非道不正ノ損害ノ補償及敵ノ不断ノ挑撓ニ基ク禍害再生ヲ防止スルニ必要ナル保障ヲ得ル為最後ノ捷利ニ至ル迄奮闘セムトス。此ノ主義ヲ鼓吹スルニ依テ初メテ露国ノ外政カ正義及自由ニ熱心ナル国民ノ企図スヘキ目的ニ到達シ且聯合諸国カ戦勝ノ後權利ニ基ク恒久鞏固ノ平和ヲ設定シ得ルモノナルコトハ露国民ト共ニ仏国政府ノ確信スル所ナリ

終ニ臨ミテ仏国政府ハ独リ戦争継続ノ手段ノミナラス之ガ終了ノ手段ニ就テモ亦露国仮政府ト商議シ以テ現戦争中両

シメ露軍側ニハ僅カニ旧式ノ砲ヲ備フルノミ目下連合軍ハ死力ヲ尽シ惨害甚シキモノアリテ我軍ノ牽制援助ヲ要求シ居リ而シテ我軍隊ハ之ヲ敢行スルニ最も適當ノ時機ニシテ陸軍省ハ此際唯タ進軍ノ一途アルノミ士氣ノ外総テノ準備完キヲ明言セントスルモノナリ

二、輸送 革命後一時高潮ヲ呈セルモ漸次再ヒ弛廢シ露曆五月一日頃ニ至リテハ全ク兵卒ノ為メ秩序紊乱セラレタリ鐵道就業員ハ兵卒ノ威嚇ニ依リ職務執行ヲ妨ケラレ又各鐵道部ヨリハ政府ニ対シ無数ノ嘆願書ヲ提出スルモノアリ依テ五月廿八日仮政府ハ各駅ニ軍人及国民裁判ヲ創設シ是等犯人ヲ処罰スヘキ法案ヲ審議スル管ナリ

三、脱走兵 全軍ニ亘リ目下脱走セルモノ数百万ニ上リ之ヲ取締ルニ最も困難トスル所ナリ政府ハ是ノ不祥事ニ対シ無力ニシテ奈何トモスヘカラス後方ニ於ケル農民及兵卒乃至各団体ハ是等脱走兵ニ対シ極力制裁ヲ加ヘンコトヲ希望セサルヲ得ス斯カル現象ハ続々各地方ニ行ハルルモノノ如クノ「ウゴロドスカヤ」県ニ於テハ約七十名ノ脱走兵ヲ陸軍長官ニ引致セル老幼男女アリ「ツーリスカヤ」県ニ於テハ之等ニ糧食ヲ与ヘサル旨ヲ決議セル所アリ

国ノ行動(不明)ヲ支配セシ觀念ニ一致スル最終規約ニ到達スルノ望アル条件ヲ合意明定セムコトヲ冀望スルモノナルコトヲ茲ニ露国仮政府ニ保障ス

四四三 五月二十九日 在モスコイ渡辺事務代理ヨリ  
本野外務大臣宛

露国軍隊ノ近状ニ関シ報告ノ件

政第二一号 (六月廿六日接受)

大正六年五月廿九日

在莫斯科総領事館

事務代理 渡辺 理恵(印)

外務大臣子爵 本野一郎殿

露国軍隊ノ近状ニ関スル件

五月廿七日陸軍次官「ヤクーボヴィチ」大佐ハ露都ニ於テ戦地ヨリ派遣セル代表者協議会席上ニ於テ軍事ニ関スル一場ノ説明ヲ為シタルカ右ハ軍隊ノ近状ヲ窺知スルニ足ルモノ有之候ト被存候ニ付左ニ其ノ大要訳出致候

一、進軍 露国ノ運命及自由ノ防禦確立ハ軍隊ノ進撃ト相俟タサルヘカラス露国戦線ニ於ケル目下ノ休戦状態ハ独逸ヲシテ多数ノ軍隊及新式ノ巨砲ヲ英仏連合軍側ニ向ハ

四、憲兵及警官 目下戦地ノ予備部隊ニ送遣シ練習中ナルモ陸軍省ハ是等ヲ前線ニ送り祖国ノ自由ノ為メ奮戦セシメ自己ノ戦血ヲ以テ從來ノ罪障ヲ償ハシメンコトヲ至當ト思考ス

五、後方ニ於ケル軍規 後方予備卒ノ多数ハ自己ノ義務ヲ尽シ補充ニ赴カンコトヲ希望シ居ルモ危険ナル分子ヲ含マサルニ非ラス彼等ノ内予備隊ヲ解散センコトヲ企図スルモノアリ是等ニ対シ言論ヲ以テ説諭スルモ効果ナク而カモ亦強迫スルヲ得ス唯タ戦地ヨリ代表者ヲ各兵營ニ送り予備兵ヲ説服セシメ速カニ常備軍補充ニ向ハシムルニ在リ

六、飲酒、徐々蔓延ノ徴アリ是等ハ第二ノ革命ヲ起サシメントスル隠謀派ノ悪手段ニシテ政府ハ五月廿九日頃飲酒スルモノ又ハ酒類ヲ売却スルモノヲ処罰スルノ外之ヲ買取りタルモノモ嚴罰ニ処スルノ新法律ヲ制定スル管ナリ七、修道僧ノ召集 本件ニ付テハ何等ノ計画ナシ蓋シ修道僧ハ俗界ヲ去リ市民トシテ其ノ權利ヲ制限セラレ居ルモノニシテ其ノ数モ僅カニ数千人ニ過キサレハナリ但シ必要ノ場合ニハ衛生部隊トシテ戦地ニ送り兵卒ノ衛生班ト



交替セシムルモ可ナラン修道見習僧ニ関シテハ調査中ニテ多分軍役ニ召集スルコトナルヘシ  
八、士官、一人ト雖モ擅ニ其職ヲ辞スルノ権利ヲ有セサルコトトナリタルモ才幹ノ其職ニ堪エサルモノハ之ヲ免シ予備ニ編入ス隠謀ニ関連セルモノハ裁判ニ附シ官位勲章ノ褫奪及下士ニ貶職スルハ同シク裁判ノ結果ニ俟タサルヘカラス

九、防備事業 一般国防上ノ事業ハ順調ナルモ原料品及燃料ノ供給ハ不充分ニテ加フルニ労働者ノ要求過大トナリ状況困難ナリ例セハ「ドネツキー」炭坑業者ヨリ陸軍省ニ対シ其経営ヲ政府ノ手ニ収メシコトヲ請願シ来レリ其原因ハ同炭坑ノ一ヶ年収入ハ平均七千五百万留ニシテ持主ハ労働者ノ要求ヲ容レ六千四百万留迄ヲ給与セントスルモ尚ホ之ニ甘セス一日一人ニ付三十二留ヲ請求シ若シ之ヲシモ容ルレハ其全額二億四千万留ニ達シ到底経営スルヲ得スト而カモ労働者ハ自ラ之ヲ経営センコトハ亦至難ニシテ最初ハ熟練ニテ兎モ角之ヲ継続センモ漸次経験ノ乏シキト資金ノ欠乏トニ依リ事業ヲ中止セサラントスルモ得サル有様ナリ彈藥ノ供給ハ目下充分ニテ豊富ニ之

心ノ動揺ハ両国国交ニ面白カラザル影響ヲ及ホスヘキヲ以テ何トカ鎮撫ノ方法ヲ講シタシトテ懇談ニ及ヒタルニ付本大臣ハ何等御心付ノ方法アリヤト問ヒタルニ兩地ニアル日本領事ニ於テ行政委員會議長ニ面会ノ上非公式ニ日本国政府ノ露国ニ対スル誠意ハ申迄モナク日本国民ハ露国ニ対シ依然真正ノ同情ヲ有シ居ル旨披瀝セラレ同議長ヲシテ右ノ次第ヲ公表セシムルコトトセハ幾分ノ効果アルヘント思考スト答ヘタリ就テハ貴官ハ貴地人心ノ趨向ニ顧ミ前記露国大使ノ提案ヲ以テ有効ト思惟セラルルニ於テハ右議長ニ面会ノ上右ノ趣ヲ説示セラレ会谈ノ模様ハ之ヲ公表シテ差支ナキ旨附言セラレタシ  
右本大臣ノ訓令トシテ浦塩へ、参考ノ為在露大使へ転電アリタシ

四四五 六月一日 本野外務大臣ヨリ  
テレンジチエンコ 露国外務大臣宛 (電報)

露国外相ノ就任挨拶ノ電報ニ対シ返電ノ件

S. E. Monsieur Terestchenko,

Ministre des Affaires Etrangères

En vous accusant réception de votre télégramme

一三 露国革命関係一件 四四五 四四六

ヲ使用スルモ約半ヶ年間ハ之ヲ持続シ得ヘシ  
一〇、軍探 革命後芬蘭ヲ経テ露国ニ渡来セル独逸軍探ハ多数ニシテ内地及戦地ニ自由ニ徘徊セリ是等ノ多数ハ独逸ノ如何ナル方面ヨリ我国ニ侵入セルカハ悉ク陸軍省ニ於テ知悉シ居ルモ奈何セン証拠物件ヲ押収シ得サルヲ以テ之ヲ捕縛スルニ至ラス目下是等ニ対シテハ特ニ厳視ヲ怠ラス追跡ノ歩ヲ進メツツアリ云々  
右為御参考及報告候 敬具

四四四 五月三十一日 本野外務大臣ヨリ  
在ハルビン佐藤総領事代理宛 (電報)

露国側ノ日本ニ対スル懸念ヲ除ク為行政委員

會議長トノ会談ニ付訓電ノ件

等四三号

五月三十一日在日本露国大使ハ遣米特派大使「バクメテフ」同伴来訪「バクメテフ」氏ノ目撃スル所ニヨレハ哈尔賓及浦塩兩地方ニ於テハ一般民衆ハ今尚日本ハ露国ニ対シ悪感ヲ懷キ居ルモノニシテ或ハ露国ノ背後ヲ襲撃スルノ意図アルニアラズヤト懸念シ人心恟々タル有様ナリ勿論自分等ニ於テハ此ノ点ニ付何等疑念ヲ挟ムモノニアラザルモ一般人

en date du 20 Mai arrivé le 31, je prie Votre Excellence d'agréer mes plus sincères félicitations à l'occasion de votre nomination au poste de Ministre des Affaires Etrangères.

Appréciant hautement les sentiments d'étroite solidarité de nos deux Nations amies et alliées dans la poursuite de la grande cause commune que Votre Excellence veut bien m'exprimer, je vous prie d'être assuré que de ma part également, je suis bien sincèrement heureux de pouvoir collaborer intimement avec vous au triomphe de notre grande cause.

Motono

四四六 六月六日 本野外務大臣ヨリ  
在露国内田大使宛 (電報)

日本ノ露国背面襲撃説ニ関シ連合国側使臣等

トノ会談ノ場合ニ対スル心得訓電ノ件

第四六七号

貴電第五〇八号ニ関シ日本ノ露国背面襲撃説ノ如キ全然無根ノ風説ニ過キサルコトハ閣下モ御承知ノ通ニ有之而シテ右風説ノ伝播セラレタル当時公然之ヲ打消ス時ハ暗ニ露国ノ单独講和ヲ容認スルカ如ク解セラルルノ虞アリ旁帝国政

府ハ新政府ニ対スル同情的態度ニヨリ右襲撃説ノ無根ナルコトヲ事実上表明シ其ノ自然消滅ヲ期待シ居リタル次第ニシテ現ニ該風説ハ下火トナリタル様思料セラル右ハ世間ニ対スル態度ニシテ閣下カ在貴地連合国使臣又ハ盟約ニ忠実ナル政府当局者ト会谈セラルルニ当リテハ背面襲撃ノ如キハ帝国政府ノ企図スル所ニ非ザル旨ヲ言明セラレ連合国使臣ニ対シテハ万一露国カ単独講和ニ出ヅルトキハ如何ナル方法ヲ執ルヘキカニ関シ意見ヲ交換セラレ又政府当局者ニ対シテハ対敵共同策戦ニ関スル計画ヲ質問シ且万無之コトトハ信ズルモ露国人心鼓舞ノ為ニ日本ノ背面襲撃説ヲ用フル如キハ一時ノ小效果アルモ終局日露両国民反感ノ原因トナリ将来ノ為甚不得策ナル旨先方ヲシテ十分諒解セシムル様致シタシ

四四七 六月八日 小幡政務局長ヨリ  
川上満鉄理事宛

### 露国国情ノ視察ニ当リ特ニ注意ヲ要スル諸点 指示ノ件

川上理事露国々情視察ニ付参考ニ供スヘキ諸点  
下記諸点ハ川上理事民間視察上重要ナルモノト思考セラル

ル「ミリュウコフ」ノ辭職セルニ至レルモ右ノ主義ヲ認メサリシニ依ル而シテ此主義ハ連立内閣ノ政綱ノ第一項ニ明記セラレ居ル処仏国「リボー」氏及英国「セシル」卿ノ如キモ右主義ニ対シテハ夫々解釈ヲ与ヘ居レリ（別紙参考書類参照）右主義ニ対スル露国一般ノ感想如何竝ニ露国一般ノ露独単独講和ニ関スル觀念如何

#### ○日本ノ露国背面攻撃説

露独単独講和ヲ為スカ如キ場合ニハ日本ハ浦塩方面ヨリ西伯利亚ヲ突キ以テ露国ノ連合側ニ背ムクヲ牽制スヘク此ノコトハ連合国側ニ默契アリトカ誠シヤカニ風説ヲ流布スルモノアリ右ハ事実無根ノコトヲ声明シタレトモ猶ホ相当ノ方面ニ信用セラレ居ルトノコトナリ、民間ニ於テハ右風説ヲ如何ニ解シ居ルヤ

#### ○露国社会党ノ活動現況

露国革命成就ノ当初ニ在リテハ独逸社会党ハ暗ニ独逸政府ト気脈ヲ通シ露国社会党ト相結託シ之ヲ誘致シテ露独単独講和ヲ進捗セシメ以テ連合国ノ一角ヲ露国ノ方面ヨリ切崩スカ為メ革命ヲ利用セント試ミタルコトアリ、此ノ試ミハ結局成功スルコトナカリシモ其ノ運動ハ必スシモ全然終熄

ルニ付右ニ関連セル諸事項ニシテ必要ト認メラルル場合ハ隨時在外公館經由又ハ直接ニ本省ニ電報又ハ相当ノ方法ニテ報告相成タシ且別紙ハ機密ノ御含ミ願度シ

#### ○露国将来ノ政体

露国革命ハ一朝ニシテ成就シ一般ノ民意ハ目下ノ処勢ノ然ラシムル所トシテ或ハ共和政体ヲ採用スルニ至ルモノト觀察セラルルモ一般ノ民心ハ旧「ロマノフ」家三百年ノ統治ニ対シテ何等顧慮スル所ナク恰モ弊履ヲ捨ツルニ等シキ觀想ヲ有スルモノナルヤ、情報ニ拠レハ露国ノ有識者ハ共和政体ノ目下ノ露国民情ニ適セサルヲ知ルモ進ンテ之ヲ唱フルハ恰カモ旧制度ヲ謳歌スルニ似テ多少憚カル所アルカ為メ其ノ声ヲ潜メ居ルト云フ、故ニ「ロマノフ」家敬慕ノ念ノ如キモ表面ニハ顯ハレサルハ論ヲ俟タスト思ハルルカ一般ノ民情果シテ如何又立憲議會ナルモノハ連立内閣政綱中ニモ速カニ之ヲ開クコトヲ掲記シ居レルカ實際如何ニ進シツツアリヤ

#### ○無償金無賠償ノ主義及露独単独講和説

無償金無賠償ノ主義ハ兵士労働者団体ノ主張ニシテ過般内閣ノ更迭ヲ促シ連立内閣ノ成立ヲ見殊ニ前内閣ノ有力者ナ

シタルモノトハ思ハレス、加之露国革命党ハ逆マニ独逸社会党ヲ動カシ独逸ニ於テモ露国同様民本主義ノ政体ヲ齎ラサンコトヲ主張シ居ルヤニ伝ヘラルル処露国社会党ノ現状竝独逸社会党トノ關係如何  
又仏白及英ノ社会党ハ露国社会党ノ独逸社会党ニ誘ハルルヲ妨止スルカ為メ画策ヲ怠ラサルカ如シ此ノ各国社会党ノ角逐如何

#### ○陸海軍隊將卒ノ意向及兵役応募者ノ心理狀態

露国革命以来軍隊内ノ綱紀ノ紊レタルハ想像ニ難カラサル処連立内閣成立以来陸海軍大臣「ケレンスキー」氏ハ銳意軍紀ノ回復ニ努メ稍々改善シタリト云フ然リト雖モ戦線ニ在ル將兵ニ闘志ナク海軍ハ一個ノ共和団体ヲ為シ外ニ対シテ一身ヲ国家ニ捧クル奉公義勇ノ念ヲ欠カスルヤニ伝ヘラル從テ独逸ニ於テモ東方戦場ヨリ六個師団（或ハ十個師団位ト觀察シ居レリ）計リハ既ニ西方ニ移シ強テ露国ニ対シ攻勢ニ出ツルコトナク此方面ノ戦況ハ全然停止ノ狀態ニ在リテ或ハ事実上ノ休戦トモ見ラレ甚タシキハ戦線ニ於テハ露独將士互ニ手ヲ握レリトサヘ伝ヘラルル処實際如何又今後數ヶ月間ニ軍規ヲ振肅シテ連合国側ト協同策戦ニ出テ東

方ヨリモ攻勢ニ出ツルノ時機アルヘキヲ連合国側ハ期待シ居レル処スル場合ニ於テ後統部隊ハ更ニ国民中ヨリ徴兵ヲ要スヘキカ民間ニ於ケル応募者ノ心理如何又軍紀廢弛ノ結果逃亡兵卒相亜キ故国ニ帰還セル由ノ処此等ノ者ハ民間ニ於テ如何ニ待遇セラレツツアリヤ

#### ○食糧供給一斑

露国革命ハ食糧供給ノ不統一ニ其ノ端ヲ発シ居リ遂ニ大變乱ヲ誘致シタルカ如シ、新政府ニ至リテハ右供給方法多少改善セラレタリト云ヒ又近來成立ノ連立内閣ノ政綱ノ一トモ為リ居ル処目下食糧配分ノ状況如何又民間ニ於ケル意向如何

#### ○地方農民ノ態度

露国革命ハ主トシテ兵士労働者団体ノ協力ニ依リ遂ニ皇帝退位ヲ余儀ナクスルノ程度ニマテ立至リタルモノナルヲ以テ兵士労働者団体ノ鼻息荒キハ想像ニ難カラサルノミナラス其ノ意見ノ過劇ナルハ首都「ペトログラード」ヲ第一トシ莫斯科ニ至リテハ大ニ其度ヲ減スルカ如ク而シテ地方農民ニ至リテハ一層穩健ナル態度ヲ持スルカ如シ近時農民大会ノ如キモ強テ單獨講和ヲ主張セス最後ノ勝利マテ奮闘ス

国政界ノ安定ヲ得ルハ連合国ノ最モ希望スル所ニシテ其ノ政府ノ強弱ハ直ニ連合国ニ大影響ヲ及ホスヘシ而シテ之カ為メ最モ力ヲ尽シ居ルハ其ノ立場上竝ニ国際政局上英国ナリトス故ニ英露間ノ關係ハ此際最モ注意ヲ要スヘシ故ニ一般民間ノ對英感情ヲ察知スルコト必要ナリ

#### ○日露同盟ニ對スル一般感想並東清鐵道讓渡ニ関スル

##### 感想

現戦争開始當時ニ在リテハ露国上下ハ日本カ此ノ戦争ヲ利用シテ露国ノ背面ヲ攻撃スルヤヲ疑慮シタル処日本ハ連合側ニ加ハリ且露国ニ對シ与フ限リノ誠意アル援助ヲ為シ多大ノ軍器、軍艦、軍需品其ノ他軍事上ノ帮助ヲ為シタルハ露国ヲ挙ケテ頗ル感謝シ居リシ処ニシテ其後日露協約ノ締結トナリタルモノナルカ東清鐵道ノ讓渡ハ都合ヨク進捗シ殊ニ近來別項ニモ表題ヲ設ケ置キタル通り日本ノ背面脅威ノ訛伝流布セラレシヨリ露国人一般ニ日本ニ對スル好感大ニ阻却セラレタルコトハナキヤ、右ニ對スル露国人一般ノ感想如何

#### 註 別紙省略

ルノ鞏固ナル決意ヲ有スルモノナルヤニ伝ヘラル斯ク觀察シテ當レルヤ如何又農民党ナルモノハ從來露国ニハ存在セサリシモノナルカ近來農民漸次覺醒シ来リシト共ニ農民党ナルモノ成立セルヤニ見受ケラル從テ此等ノ者ノ代表者ト兵士労働者団体トノ關係ハ如何

#### ○土地分配制度ニ對スル輿論

露国革命以來地方農民ハ解放的ノ見解ヲ持シ土地所有權ノ確立及配分ヲ要求シ居レルカ如シ右ハ近時成立ノ連立内閣ノ政綱ノ一部ヲ為シ居レル処地方ニ於ケル本件ニ関スル運動竝其ノ一般状況如何

#### ○露国ノ對英感情

露国ノ政治狀態ニ付テハ政變前ヨリ英国ノ最モ憂慮シタル所ニシテ露国カ其ノ旧制度ノ下ニ屢々親独傾向的行動ヲ為スヤノ疑アリシ為メ英国ハ露国ニ責任内閣制ヲ採用セシメシコトヲ欲シ此点ニ付多少画策スル所アリ殊ニ「ミルナー」卿ノ如キハ客年末露都ニ開カレタル連合国軍事會議列席ノ機ニ於テ努ムル所アリタリ然ルニ其後露国改革運動ハ右予期以上ニ逸脱シテ端ナク露国ニ革命ヲ見ルニ至リ同國時局ノ收拾ニハ大ニ考慮ヲ要スヘキモノアルニ至レリ而シテ露

四四八 六月十一日

在ハルビン佐藤總領事代理ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

露国軍隊ノ建直シノ一方策トシテ日本軍ノ東部

戰場ヘノ派兵ニ付具申ノ件

第四三号

(六月十二日接受)

各方面ノ情報及露国軍人市民等トノ会谈ヨリ得タル感想ニ依レハ露国ノ国情甚タシク悲觀スヘキモノアリ革命ノ後援者タリシ軍隊ハ規律全ク弛緩シ脱走兵予想外ニ多ク何等ノ許可ヲ得スシテ随意ニ当地ニ帰還シ来ルモノ尠カラス甚タシキハ急行列車ニ便乗ヲ強要シ来ルモノアリ將校ノ威令全ク行ハレス兵士ハ一般露国人ヨリ蛇蝎視セラレ軍隊ハ全ク規律ナキ集団ト化シ當ニ戰意ナキノミナラス露独戰線ハ事實上休戰狀態ニアルカ如シ中央政府ノ権力極メテ薄弱ナル今日此似放任シ置カハ政府ハ軍隊ノ要求ニ余儀ナクセラレ遂ニ單獨講和ヲ為スニ至ルヘク次イテ英仏モ亦戦争継続ノ余力ヲ失シ極メテ不利ノ条件ノ下ニ講和ヲ締結スルニ至ルヘシ事茲ニ至ラハ帝國ノ存亡上由々數大事ニ付現時露国ノ危急ニ際シ帝國政府ハ何等カノ方法ヲ講シ露国軍隊ノ秩序ヲ恢復シ彼ヲシテ攻勢ニ転セシメサル迄モ少クトモ独逸ノ

兵力ヲ東部戦場ニ牽制セシムル必要アルコト多言ヲ要セス右ニ付当地駐在黒沢中佐ト会談研究ノ結果同中佐ノ意見ニテハ之カ救済策トシテハ露独戦場ニ日本ヨリ出兵スル外ナク之ヲ以テ一ハ露国及連合国ニ対シ帝國政府ノ他意ナキヲ示シ露國政府ヲシテ日本出兵ノ事実ヲ善用シテ軍隊ノ秩序ヲ恢復セシメ且安逸ノ意表ニ出テテ之ヲ狼狽セシムルト同時ニ他方講和會議上重要ナル発言權ヲ要求セントスルモノナリ右ハ本官ニ於テモ至極同感ニテ從來軍需品ノ供給ニ限ラレタル日本ノ援助ヲシテ国家多難ノトキニ方リ積極的援助ニ移ラシムルニ於テハ密ニ露國民ノ感謝ヲ購ヒ得ヘキノミナラス連合国ニ与フル精神上ノ影響極メテ大ナルヘン殊ニ米國ハ最近露國ニ鉄道専門家ヲ送り又特命全權大使ヲ派遣シタル等種々直接ノ援助ヲ与ヘツツアルニ際シ帝國政府ノミ何等積極的手段ヲ執ラサルニ於テハ甚シク露國民ノ帝國ニ対スル信望ヲ傷クヘキヤ必セリ出兵問題ノ如キハ国家ノ大事ニシテ滿洲僻地駐在ノ一領事ノ進言スヘキ筋合ニアラサルハ万々承知致シタルモ露國ノ国情極メテ非ニシテ此假ニテハ到底連合國側ノ勝利ヲ期待シ得サル実情ヲ現実ニ感スルニヨリ敢テ不遜ヲ顧ミス卑見上申ス勿論西伯利亜鉄

sur les résultats qu'on peut attendre d'une offensive, qu'on espère cependant voir entreprendre bientôt. Les optimistes croient à un succès qui réagirait favorablement sur toute la situation intérieure, tandis que les pessimistes prévoient le désastre suivi d'anarchie et de chaos. L'avenir seul pourra démontrer laquelle de ces prédictions est juste, mais il faut en tous cas accepter le risque, car une inaction plus prolongée exercerait sur l'armée l'effet le plus funeste. Le Ministre de la Guerre a été accueilli avec enthousiasme par le Conseil des Délégués des Ouvriers, qu'il a visité pour leur faire un rapport sur son récent voyage sur le front. Les soldats lui ont offert leurs croix et médailles en jurant l'obéissance absolue à ses ordres.

Le signe le plus favorable est que le Gouvernement se sent enfin la force d'agir avec fermeté. Un agent allemand haut placé a été arrêté et d'autres arrestations importantes sont imminentes. Enfin, Tseretelli, le Ministre Socialiste nouvellement nommé, a fait comprendre au Conseil des Ouvriers de Cronstadt qui avaient répudié le Gouvernement Provisoire,

道輸送力ノ關係上攻勢ヲ執ル丈ケノ兵力ヲ輸送スルコト不可能ナランモ銷沈セル露國軍隊ノ意氣ヲ恢復シ戦争ヲ続行セシムルコト敢テ不可能ニ非スト思考ス

露都及北京へ電報セリ

(長春經由六月十二日後一、四五)

四四九 六月十一日

在本邦英國大使ヨリ  
本野外務大臣宛

露國ノ現状ニ関スル在露國英國大使ヨリノ電

報通報ノ件

La situation actuelle présente des signes évidentes d'amélioration quoiqu'il soit encore impossible de prévoir l'avenir. L'absence des matières premières et les gages élevées qui sont en cours pourront amener plus tard la fermeture d'un nombre assez considérable de fabriques, ce qui ne manquerait pas d'occasionner des troubles. Cependant la grève qui menaçait à Donetz a été ajournée tandis qu'on en a décommandé une qui devait avoir lieu cette semaine à Petrograd.

Des nouvelles plus favorables nous parviennent du front tant au sujet des fournitures qu'à celui du moral des troupes. Les opinions sont très partagées

que s'ils agissaient en esclaves révoltés le Gouvernement saurait les traiter en conséquence. Le Conseil des Ouvriers se rendit aussitôt.

Tokio, le 11 juin 1917.

註 右ノ原書ハ大正六年六月十一日在本邦英國大使ヨリ本野外務大臣ニ手交セラレタリ

(右和訳文) (註日本外務省ニ於テ當時作成シタル仮訳ナリ)

(極秘)

在露英國大使ヨリ在本邦英國大使ニ著電セル露國現況ニ関スル情報電信

露國ノ現状ハ其ノ將來ヲ予見スルコト目下猶ホ至難ナルモ明カニ改善ノ諸徴候ヲ呈セリ原料品ノ欠乏及勞銀相場ノ昂騰ハ軼テ大多數ノ工場ヲ閉鎖スルノ已ムヲ得サルニ至ラシムルヤモ計ラレス此点ハ寒心スヘキ点ナルヘシ尤モ「ドネツ」ニ於テ起ルヘキ虞アリシ罷工ハ延期セラレ且今週露都ニ於テ起ルヘキ罷工モ見合セトナリタリ  
猶ホ一層悦フヘキ情報ハ戦線ヨリ接手セルモノニシテ右ハ軍需品供給及軍隊ノ風紀ニ関スルモノナリ吾人ハ露軍ノ攻勢ニ出ツヘキヲ期待シ得ヘキヤノ点ニ関シテハ意見区々ニ岐レ居レトモ一般ニ追テハ攻勢ニ出ツルナラント期待シ居

レリ樂觀說ニ拠レハ露国内政ノ一般ニ亘リテ好都合ニ成功ヲ齎ラスヘキヲ信シ居レルモ之ニ反シテ悲觀說ニ拠レハ無政府ノ混乱狀態ノ不幸ヲ見ルヘシトノコトナリ此ノ兩說中孰レカ当レルヤハ唯々之ヲ将来ニ期スルノ外ナキモ何レニシテモ此僣ニテ永ク不活動ノ有様繼續セハ軍隊ニ甚タシキ惡影響ヲ及ホスヘキヲ以テ現在ノ狀態ノ危險ナルハ之ヲ看取スルヲ要ス陸軍大臣ハ過般戦線視察ノ際報告ノ為メ労働者代表委員会ニ出席シタルニ熱心ナル歡迎ヲ受ケタリ又兵卒ハ其ノ際同大臣ノ命令ニ絶対ニ服従スヘキ旨ヲ誓ヒ其ノ有セル勲章及記章ヲ同大臣ニ捧ケタリ

最モ好徵候ト見ルヘキハ政府カ今回鞏固ナル勢力ヲ保持シタリト自認セルノ点ニ在リ高級ノ一独探ハ逮捕セラレ其ノ他有力者ノ逮捕モ近々行ハルヘシ又最近任命セラレタル社会党出身大臣「チエレテリー」ハ過般臨時政府ニ反抗シタル「クロンスタット」ノ労働者協会ニ対シ若シ労働者等カ奴隸ノ一揆ノ如キ態度ヲ學フニ於テハ政府ハ相当ノ措置ニ出ツヘキ旨ヲ以テ彼等ヲ諭シタルニ労働者協会ハ忽チ之ニ服シタリト言フ

四五〇 六月十二日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

ルート米使節団ノ露国来訪ニ対スル当地ノ反  
応ニ關スル件

第五四〇号 極秘 (六月十四日接受)

「ルート」一行ノ対露使命カ果シテ成功スヘキヤ否、露国国民ノ之ニ対スル待遇如何ニ関シテハ米人中ニモ尠カラザル不安ノ念アルモノノ如クナルガ、一行ノ浦塩ヨリ当地迄ノ旅行ハ特別列車ヲ提供シ当地着後ハ冬宮ニ宿泊スヘク露国政府トシテハ一ト通ノ待遇ヲ為スヘキコト勿論ナルヘキモ其ノ果シテ衷心ヨリ之ヲ歡迎シ何等具體的ノ結果ヲ生セシムルニ至ルヘキヤ甚タ疑ナキ能ハズ現ニ当地新聞ハ是迄一行ノ消息ニ関シテハ短簡ナル記事ヲ兩三回掲載シタルノミニシテ未タ何等歡迎の論評ヲ試ミタルコトナキ有様ナルガ昨十一日仏国大使館午餐會(「トーマ」ハ十四日当地出發帰國ニ付外務大臣及連合國各大公使ヲ招キタル留別ノ小宴ナリ)ニテ米國大使ニ邂逅シタルニ付夫レトナク其ノ意向ヲ探リタル処米國ノ一親友(本使ヲ指ス)迄極内々ノ私話ナリトシテ大要左ノ通語レリ

四五二 六月二十日 本野外務大臣ヨリ  
在露国内田大使宛(電報)

露国ノ現情視察ノ為川上滿鉄理事派遣ノ件

第五〇七号

露国ノ現状ニ関シテハ貴官ヨリ累次精細ナル御報告ニ接シ居レル処尚廣ク各地方各階級ニ亘リ其ノ実情ヲ詳知スルノ必要ヲ認メ今回川上南滿洲鐵道会社理事ニ右調査方ヲ囑託シタル為同人ハ表面同会社派遣ナル名義ヲ以テ宮川船夫(滿鉄社員ノ名義)ヲ伴ヒ六月二十九日哈尔滨發貴地ニ向フ筈ニ付同人出頭ノ節ハ貴官ヨリモ右任務ニ関シ御氣付ノ点御注意相成度將又相当便宜供与方可然配慮セラレ度シ尙当方ニ於テ囑託シタル調査事項等ハ直ニ郵報ス

四五二 六月二十九日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

露国ノ軍需品生産問題ニ關シ連合國會議開催

ニ付請訓ノ件

第五九七号 (七月三日接受)

露国工業界ノ現状カ軍需品生産ニ及ホス影響ニ付「ヘンダーソン」ノ調査ノ結果事態重大ニシテ連合國代表者間ニ意

一行ハ明晩当地着ノ筈ナルカ露国当局者ト握手シ大統領ノ宿志ヲ傳達スルモ果シテ何事ヲ為シ得ヘキヤ実ハ自分モ甚タ当惑シ居レリ恰モ自分ノ外交的手腕ヲ試験セラルルカ如キ心地スト諸謔シ更ニ語リテ曰ク御承知ノ通「ルート」ハ紐育ノ大資産階級ノ代表者トモ称シ得ヘキ人ニシテ「ブルジョア」征伐ヲ公称シ居ル革命的露國ヘノ使節トシテハ実ハ甚タ不適任ナリ矢張社会党又ハ労働党側ヨリ人選シタル方得策ナリシモ今ヤ致方ナシ只平和熱ノ最甚シキ時ニ来リ戦争繼續ヲ勧誘スルコト故甚ダ難役ナリトテ其ノ成效ヲ危ブミ居レリ將又右一行ノ別働隊トモ称スヘキ米國鐵道委員ノ消息ヲ尋ネタル処同委員一行ハ浦塩着後普通列車ニテ昼間ノミ旅行シ沿線鐵路ノ狀況ヲ視察シツツ来ルコト故当地着ハ今少シ手間取ルヘシトノコトナリ申迄モナク右委員ノ任務ハ直接間接我國ノ利害殊ニ滿鉄ニ至大ノ關係ヲ有シ居ルコトニ付当方ニ於テモ右委員一行ノ動靜ニ精々注意スヘキガ何等滿鉄側其他ヨリ得ラレタル情報ハ本使參考迄逐次電報アラシコトヲ希望ス

在欧米各大使ヘ転電セリ

見ノ交換ヲ行フコト望マシク思料セララルガ来ル七月四日  
英国大使館ニ日仏米白各使臣及ヒ「ルート」ト右ニ関スル  
会議ヲ開キ度キニ付本使ニ於テ同感ナラハ本問題ニ付有益  
ノ Information ヲ与ヘ得ヘキ人員ヲ帶同シ出席アリタキ  
旨英国大使ヨリ案内アリタル処時日切迫経伺ノ違ナキニ付  
本使ハ兎モ角出席ノ上各使ノ意見ヲ聴取シ「コムミット」  
セザル程度ニ於テ応酬スルニ止メ置キ委細ハ追テ電報致ス  
積リナルガ右ニ付本使ニ於テ何等心得置クヘキ廉アラバ折  
返シ御回電アリタシ

四五三 六月三十日 在英国珍田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

英国ヨリ露国仮政府ニ引渡シタル大砲ガ独逸  
側ニ売却セラレタル問題ニ関スル件

第二七四号 (七月五日接受)

英国陸軍部内友人カ吉田ヘ内密語ル所ニ拠レハ曩ニ英国ヨ  
リ露国ニ供給シタル Vickers 速射砲ヲ露国仮政府ヨリ独  
逸ニ売却シタル証跡アルガ其内四門「メシーヌ」ノ戦ニ於  
テ英軍ノ手ニ帰シ英国政府ニ於テ憤慨セル趣此類ノ例他ニ  
モアル由

四五五 七月五日 本野外務大臣ヨリ  
在露国内田大使宛(電報)

既存条約ノ再検討ノ為露国政府ガ連合国会議  
ノ開催ヲ申出デタル問題ニ関シ訓電ノ件

第五四九号

在英大使ヨリ貴官宛転電ノ本大臣宛同大使發第二六八号ニ  
拠レハ英国ハ既成条約再詮議ノ為メ連合各国会議開催方ニ  
関シ實際露国側ヨリ何等申越ニ接シ居ラザル由ノ処右申込  
ハ露国側ヨリ如何ナル方法ニテ何時何々国ニ為サレタルモ  
ノナリヤ回電アリタシ尚ホ六月二十一日貴地發本大臣宛無  
号暗号電信中「右通牒ハ曩ニミリウコフヨリ連合国ヘ通牒  
(往電第四一三号参照)シタル協約修正ノ希望ニ対シ回答  
シタル英仏二国ニ対シ發シタルモノ」トアリテ彼此一致セ  
ザルノミナラス前記往電第四一三号トアルハ四月九日公布  
ノルヴォフ公論告文ヲ指セル処該論告文中ニハ協約修正希  
望ノコトハ記載シアラス却テ末段ニ Sauvegarde les  
droits de notre patrie tout en observant les engage-  
ments pris envers nos alliésノ一句モアリ旁々本件ノ成  
行当方ニハ明瞭ヲ欠キ居ルニ付本問題ノ現状ト共ニ從來ノ

(露都經由七月三日後〇、五一第六一七号)

四五四 七月四日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

ルート使節団ノ帰国ニ際シ成果報告ノ件

第六一八号 (七月十日接受)

今四日外務大臣ハ来ル九日帰米ノ途ニ就クヘキ「ルート」  
一行ノ為メ午餐会ヲ催シ協商側各使臣ヲ招キタルニ付本使  
モ参会シタル処右兩人ノ間ニ交換セラレタル卓上演説及本  
使カ右兩人其他ト為シタル談話ニ依リ得タル印象ニ依レハ  
「ルート」使命中大統領祝意伝達満足ニ果サレタルモ具体  
的援助ニ関シテハ恐ラク何等纏マリタル協議ヲ遂ケ得ズシ  
テ帰国スルモノト思ハル尤モ鉄道委員ハ尚ホ当分滞在スル  
由ニ付協議ハ依然継続セラルルモノト思ハルモ委員長タ  
ル「スチーヴンス」ノ談話ニ依レハ其進行思ハシカラサル  
モノノ如ク又当日白耳義公使ノ内話ニ依レハ露国鉄道従業  
員ハ米国監督ノ下ニハ決シテ働カザル旨既ニ抗議シ居レリ  
トノ事ナリ尚ホ来ル六日「ルート」ト会见スル筈ニ付何等  
聞キ得タル事ハ追電スヘシ  
在欧米各大使ヘ転電セリ

經過大要御電報ノ上委細郵報アリタシ

四五六 七月七日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

ルート使節ノ露国情勢ニ関スル觀察ニ付報告  
ノ件

第六三一号 (七月十五日接受)

昨六日「ルート」ニ会见数時間談話セリ其ノ要領左ノ通  
(一) 自分ハ浦塩着後今日ニ至ル迄務メテ各種ノ露国人ニ面  
会シタルカ到底当国ノ状態ハ実見ニ依ラスシテ書面又ハ  
電報ニテ其ノ真相ヲ知得スルコト困難ナリ自分モ当地到  
着後発明シタル所甚タ多シ大統領初メ「ランシンク」及  
其他要路ノ人々ニテ当国ノ事情ヲ能ク了解シ居ラサル点  
多カルヘシト思ハルルニ付此上当地ニ滞在スルヨリモ成  
ルヘク速ニ帰国シ直接報告スルコト必要ナリト思考シ愈  
々来九日当地出發ノコトニ取極メタリ

(二) 時局ニ対シテハ樂觀悲觀共ニ之ヲ明言スルコト能ハス  
露人ハ今日ハ右シ明日ハ左シ貴説ノ如ク本月一日ハ平和  
ノ旗ヲ押立テ行列シタルモノカ翌二日ニハ進軍ヲ唱ヘサ  
ルモノハ露人ニアラスト至フカ如キ早變リヲナス人種ヲ

相手トシ将来ノ成行ヲ予測スルコトカ抑無理ナル註文ト  
思考ス今回ノ攻勢ニシテモ現ニ其ノ当日戦場ニ在リタル  
「ゼネラル、スコット」ノ電報ニ拠レハ諸般ノ準備完備  
シ殊ニ砲兵陣地ノ設備モ申分ナシトアリ且「ブルシロフ」  
ノ面目ヨリスルモ必ス一旦開始シタル攻勢ヲ半途ニシテ  
挫折セシムルカ如キコトハ万無カルヘント思ハルルモ実  
際如何ニ成行クヘキヤ

(三) 露国人カ組織的能力ヲ欠クコトハ何人モ唱道スル所ナ  
ルカ實際其ノ欠乏ヲ目撃シ一驚ヲ喫シタルコトアリ米国  
鉄道委員カ毎日ノ如ク露国鉄道当局者ト会见シ諸般ノ意  
見ヲ交換シ居ルニ拘ラス商工省ニ於テモ同一問題ニ関シ  
右当局者ニモ劣ラサルエラボレーシヨン(脱)ヲ調査シ  
ツツアルコトヲ発見シ米国委員ノ發議ニ依リ協同調査ヲ  
ナスコトトナレリ即チ同一政府部内ニ於テサヘ外国ノイ  
ニシアチーヴヲ待ツニアラサレハ戦時最必要ナル事柄ニ  
対シ統一ヲ計リ得サルカ如キ有様ニテ誠ニ嘆スヘキコト  
トス

(四) 日本ヨリ軍器軍需品供給ニ関シ談及シタルニ付一応ノ  
成行ヲ内話シタル処英仏ヨリハ余程多数ノ銃砲ヲ供給シ

タル由ナルモ實際使用シタルモノハ僅少ニシテ途方モナ  
キ処ニ右銃砲カ発見セラルルコトアリト伝聞シタル旨ヲ  
語レリ

(五) 米国ヨリ機關車貨車供給ノ件ハ往電第六三〇号ノ通り  
ナルカ米国鉄道委員カ露国ヘ勧告シタル(客車?)及貨車  
ノ件ニ関シ「ルート」ハ尚ホ語リテ曰ク華盛頓ニ於テモ  
新任露国大使「バクメチエフ」ヨリ直接米政府ヘ交渉  
シ居ルモノト思ハルルヨリ兩地ニ於テ交渉スル時ハ却テ  
齟齬ヲ生シ面白カラサルニ付当地ニテハ寧ロ深入リセス  
勧告位ニ止メ居ル次第ナリ將又右ノ製造ニハ多クノ日月  
ヲ要シ自然其中ニハ戦争モ終了スルヤモ計リ難ク又露国  
政府ニ於テモ右諸車製造ニ振り向クヘキ米国ヨリノ資金  
ヲ他ニ流用スルコトヲ希望スルヤモ知レサルカ米国トシ  
テハ既ニ英仏其他ニモ融通シタル次第ニ付實際戦争ニ使  
用セサルモノハ一文ト雖モ貸与セサル決心ナリ云々「ル  
ート」ノ口氣ニ依レハ右鉄道委員カ勧告シタル諸車輛代  
価ニ相当スル丈ケノ資金ハ露国ヘ貸与方ヲ内諾シタルモ  
ノト思ハル

(六)、之ヲ要スルニ「ルート」ハ其用意深キ性質ニ負カス時

局ノ發展ニ対シ容易ニ其断案ヲ明言セサルモ一昨日及本  
日兩回程当地駐在日英、仏、伊、白各大公使及ヒ「ルー  
ト」「ヘンダソン」会合シ開キタル露国軍器、軍需品製造  
力調査ニ関スル協議会ニ於テ「ルート」カ發表シタル意  
見等ニ依リ推測スルトキハ先ツ以テ露国ノ前途ヲ悲觀シ  
タルモノノ如シ右協議会ノ件ハ別電ニ譲ル  
在欧米各大使ヘ転電セリ

四五七 七月八日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

軍需品供給ニ関シ露国政府ニ共同勧告ヲ行フ

問題ニ関シ報告ノ件

附記 七月十七日附参謀總長ヨリ外務省宛参謀第二  
四八六号露都ニ於ケル連合国会議ニ関スル日  
本大使館附武官ノ電報通報ノ件

第六三四号

(七月十四日接受)

往電第五九七号ニ関シ五日英国大使館ニ於テ日英米仏伊白  
各使臣「ルート」「ヘンダソン」及外国武官数名會議ノ  
結果露国工業界ノ危機ヲ救ヒ軍需品供給ノ途ヲ講スル為露  
国政府ニ対シ穩便ナル共同勧告ヲナスコトニ決シ(右勧告

ハ成ルヘク露国側ノ感情ヲ傷ハンコトヲ避ケ不日「ルート」  
「ヘンダソン」帰国ヲ利用シ其ノ出発前協商国代表者間  
ニ交換セラレタル意見ヲ暇乞ノ際右兩人ヨリ外務大臣ニ通  
スル体裁トシ)先ツ独逸潛航艇ノ為船腹ノ不足ヲ来シ連合  
側ハ露国ニ対シ約束通ノ軍需品ヲ供給スルコト不可能トナ  
レルニ付其ノ補充ハ露国工業界ノ改善ニ待タサルヘカラサ  
ルニ至レルヲ述ヘ(一)米國カ本年中心ニ露国ニ供給シ得ル機  
関車及貨車ノ數ハ其ノ需要ノ約半数ニ過キサルヲ以テ国内運  
輪機關ヲ十分改善利用スルノ必要ヲ説キ(二)工業界ノ危機ハ  
原料ノ騰貴及労働者ノ要求過大ナルニ起因スルヲ以テ之カ  
調節機關ヲ設ケ收容セル捕虜不取締ノ為(以下數語不足)  
六日兩人外務大臣ヲ訪問シ右ノ通り取計タル処同大臣ハ  
(脱)喜ヒ更ニ一步ヲ進メ自ラ委員長トナリ軍需品供給  
露国側双方ノ代表者会ヲ設ケ時々會議シタキ旨申出タル  
ニ付七日再ヒ連合側ノ會議ヲ開キタル折右外務大臣ノ申出  
ニ応スルコトニ決シ(本邦ヨリ露国ヘ軍需品供給方ハ英仏  
又ハ米國カ自ラ資金ヲ貸与シ軍需品ヲ供給スル仕方ト較々  
趣ヲ異ニシ外務大臣ノ所謂供給國ナルモノノ内ニ入ルモノ  
ナルヤ疑義ヲ生シタルニ付列席者一同ノ意見ヲ求メタル所

元来今回ノ勸告ハ全ク露国側ヲ鞭撻スルヲ趣旨トスルモノニ付實際ノ供給如何ニ重キヲ措カス是非日本モ供給国トシテ加入ヲ一同ヨリ切望セラレタルニ付同意ヲ表シ置ケリ）同大臣ヨリ何分ノ通知ヲ待ツコトナレリ又連合側代表会ハ別ニ存シ置キ其ノ内部ニ陸海軍武官等ヨリ成ルサブコンミツチヲ設クルコトナレリ総テ本件ニ関スル會議ハ寧ロ相談のモノニシテ各使臣トモ本国政府ヘ請訓ヲ待タス同意シタル次第ナレハ本使モ之ニ同意シ愈々外務大臣カ發議セル會議成立セハ陸海軍武官及館員三名ヲ伴ヒ出席致ス筈ニ付右様御承知置アリタク尤モ何等帝國政府ノ責務トモナルヘキ事柄ニ付テハ無論請訓致スコトトスヘシ

（附記）

七月十七日附参謀總長ヨリ外務省宛参謀第二四八六号

露都ニ於ケル連合國會議ニ関スル日本大使館附武官ノ電報通報ノ件

参謀第二四八六号

（七月十八日接受）

大正六年七月十七日

参謀總長

歐洲戦争

露都發電報七月 六日午後零時十七分發  
十四日午後四時三十分着

キ意味ノ忠告ヲ為スコトニ決セリ尚會議ハ明七日モ開カルヘシ又英國大使ノ發議ニテ此會議ノ準備トシテ協商各國大使館附武官又ハ關係武官並外交官中ニテ時々準備會議ヲ開クコトニ決セリ目下露西亞ノ狀況ハ頗ル危殆ニ迫リ現在ノ攻撃實施ノ結果ニ依リテハ戦争繼續不可能ニ陥ルヘキ虞アル時機ニ於テ協商列國大使等力從來ニ於ケル露西亞ノ兵器補給問題ヲ攻究スルハ余リニ樂觀的ニシテ其真意ヲ知ルニ苦ム所ナルモ察スル所出来得ル限り露西亞ヲ懲誡シテ今後戦争ニ努力セシメ万已ムヲ得サレハ露西亞ヲ見捨ル覚悟ノ上ニテ将来ヲ画策シアルモノニアラサルカ

四五八 七月九日

在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛（電報）

テレスチェンコ外相日露兩國懸案解決ノ希

望表明ニ付報告ノ件

第六三八号

（七月十六日接受）

今九日外務大臣態々本使ヲ來訪シテ曰ク自分ハ今夜当地出發大本營及キエフニ到リ（往電第六三七号参照）土曜ニ帰京ノ筈ナルカ來週月曜又ハ火曜ニ更ニ御面会ヲ求メ從來日露間ニ横ハル大小総テノ問題ニ対シ腹藏ナク意見ノ交換ヲ

昨五日英國大使館ニ於テ英、仏、米及白耳義ノ各大（公）使及米「ルート」、英「ヘンダーソン」氏等会合シ各國大（公）使館附武官及外交官ノ一部モ之ニ参列セリ會議ノ目的ハ露西亞ノ兵器及軍需品供給補充ニツキ協商列國ニテ意見ノ交換ヲ為シ適當ノ方法ヲ案出セントスルニアリ而シテ英、仏、「セルビヤ」大（公）使館附武官ハ各々其視察シタル自己戰場ノ情況ヲ悲觀的ニ陳述シ又「ルート」氏ハ露國ノ鐵道運輸業務ノ不整頓及輪軸材料ノ損廢ハ頗ル甚シク輸送力増進ノ為至急之カ規正及改良ニ着手スヘキモ短時日ニテハ到底十分ノ成果ヲ期シ難シト述ヘタリ此會議ノ結果露西亞政府ニ対シ労働者ノ真面目ナル就業督励ヲ協商列國ヨリ勸告ストノ議出テタルモ斯克テハ露國官憲ノ感情ヲ害シ寧ロ不成功ニ終ルノ虞アルヲ以テ近日中ニ為スヘキ「ルート」及「ヘンダーソン」兩者其告別ノ機會ヲ利用シ露國外務大臣ニ本年一月ノ露都軍事會議ニ於テ決定セシ英國「ミルナー」提案ノ兵器及軍需品供給案ハ独乙潜水艇戰ノ為實施スル能ハサルニ至リシヲ謝シ先ツ露、英、仏ノ顔ヲ立テツツ円満ニ露西亞自ラモ労働者及資本家ノ調節ニ十分ノ注意ヲ払ヒ以テ将来ノ戦争準備ニ欠陥ナキヲ期セラレタ

行ヒ出来難キ事ハ致方ナキモ出来得ル事ハ可成速ニ之ヲ処分シ双方官民ノ誤解ヲ去リ一般ノ安心ヲ図リタキ希望ナリ自分ハ政治ナリ外交ナリ互ニ胸襟ヲ披キ商議スルコトヲ以テ第一義ト確信スルモノニ付一応出發前貴意ヲ伺ヒタク罷出タリトノコトニ付本使ハ全然同感ナル旨ヲ答ヘタル処目下自分ノ方ニテ協議ヲ要スルモノハ大要三項ニ別ツヲ得ヘシトテ左ノ如ク述ヘタリ

（一）東支鐵道讓渡ノ件ハ明日ノ閣議ニテ愈々確定スル筈ナリシモ自分出發ノ為留守中大藏大臣ニ於テ專ラ担当スルコトナレリ大体ニ於テハ異存ナク寧ロ大藏大臣ニ專屬スヘキ事柄ニ付尚審議ヲ要スル次第第二付自分ノ帰京迄ニハ何トカ決着スヘシ

（二）革命後イルクツク、哈爾賓、浦潮等ニ起リタル事件ニシテ双方官民（脱）タシ居ル諸問題

（三）過般ルート、ヘンダーソンヨリ聴取リタル件ニ関シ協商側諸大公使ト露國側代表者トヨリ成ル委員會ヲ自分ノ主宰ノ下ニ開設シタシ尤モ右委員會ハ十二人ヲ超ヘサル位ノ小集會トシ屢々会合シテ遺憾ナク自由ニ意見ヲ交換スルコトト致シタシ云々（往電第六三四号参照）



現政府諸大臣ハ多クハ年少氣鋭ノ連中ニシテ攻勢ノ結果案外良好ナルニ氣乗リヲナシタルモノカ各方面ニ其ノ手腕ヲ試ミントスル嫌ナキニシモアラサルモ兎モ角本件先方申出ハ我方ニ取り有利ナルコトニ付從來当館ニ知レ居ラサル事件ニシテ先方へ交渉若クハ弁明ヲ要セラルルモノアラハ折返シ電報アリタシ

四五九 七月十一日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

既存条約再審議ノ為ノ連合国会議開催ノ問題

二関シ報告ノ件

第六三九号

(七月十七日授受)

貴電第五四九号ニ関シ

一、六月十四日「トーマ」カ暇乞ノタメ露国政府ヲ訪問セル際外務大臣ハ同人ニ対シ戦争ノ目的ニ関スル既成条約再詮議ノタメ連合国会議開催ノ希望ヲ述ヘタル通牒文ヲ交付シ次テ外務大臣ハ十五日付ヲ以テ本使ヘ右ノ通牒文ヲ送付シ来レリ(往電第五四六号)尚当地英国大使ヘモ同様之ヲ送付シタル次第ハ英国議會ノ質問ニ対スル同政府ノ答弁ニ依リ明カナリ

二、英国外相カ珍田大使ニ対シ英国政府ハ本件ニ関シ露国政府ヨリ何等申出ニ接セスト語レルハ露国政府ヨリ右「トーマ」ヘノ通牒文ヲ接シタルノミニテ未タ正式ノ提議ニ接セサルヲ意味スルモノト察セラル

三、六月二十二日発拙電第五六一号中(右通牒ハ夫々英仏二国ニ対シシタルモノ)トアルハ同電記載ノ通新聞紙ノ報道ニシテ果シテ露国外相ノ談話ヲ正確ニ伝ヘタルモノナリヤ明カナラサルモ若シ同外相カ實際右ノ通語リタルモノトセハ其ハ当時労働者兵卒代表者会側カ本件会議開催ニ関スル政府ノ措置緩慢ナルヲ攻撃セルニ鑑ミ之レヲ緩和スル目的ニ出テタルモノト察セラル

四、往電第四一三号「ミリュウコフ」ヨリ連合国へ通牒セル「ルボフ」公ノ論告文中ニハ *La Russie libre n'a pas pour but de dominer les autres peuples, leur enlever leur patrimoine national, ou occuper de force territoires étrangers* 云々トアリ右ハ無併合無償金平和ノ主義ヲ宣明シ從來露国政府ノ執リ来リシ戦争ノ目的ヲ變更セルヲ示セルモノニシテ其ノ結果条約改訂ハ必然ノ問題ナルカ英仏兩國ハ既ニ右通牒ニ対シ回答ヲ發シ而シテ英国ハ(若シ露国

ニシテ希望セハ戦争ノ目的ニ関スル条約再會議ヲナスニ躊躇セサル)旨回答シタル次第ナルヲ以テ(珍田大使發大臣宛第二四五号)往電第五六一号新聞記事(曩ニ「ミリュウコフ」ヨリ連合国へ通牒シタル協約修正ノ希望ニ対シ回答シタル英仏兩國)トハ畢竟右事実ヲ指セルモノト察セラル

四六〇 七月十六日 在本邦英国大使ヨリ  
本野外務大臣宛

在露国英国大使ヨリノ電信摘要通報ノ件

(訳文) (註 日本外務省ニ於テ作成シタル仮訳ナリ)

在露英国大使ヨリノ電信摘要

芬蘭ニ於ケル情況ハ重大事タラントスルノ虞アリ、露国外務大臣ハ露国軍隊ノ措置カ右芬蘭ノ要求ヲ正当視セシムルモノナルコトヲ告白シ且芬蘭人側ニ於テハ瑞典ヲシテ秩序回復ヲ名トシテ干渉ヲ試マシムルカ為メ故意ニ軍隊ヲ挑発スルモノノ如シト本使ニ語レリ、芬蘭人ハ全然露国人ヨリ脱離シ露国ニ対シ独立ヲ宣言センコトヲ欲ス、尤モ芬蘭沿岸ヲ無防備ニ放任シ置クコト竝「ベトログラード」ヲ戦争中攻撃ノ危険ニ瀕セシムルカ如キハ之ヲ想像スルヲ得ス、

一三 露国革命關係一件 四六〇

労働者兵卒代表者委員会及農民委員会ハ本件ノ協議ノ為メ並軍隊給養費ノ補助の起債ニ関シ措置ヲ執ルカ為メ代表者ヲ派遣セリ之レ芬蘭人ハ露国ニ対スル一切ノ財政的援助ヲ拒絶セルニ由ル然レトモ右代表員ノ斡旋ハ終ニ失敗ニ帰シタリ蓋シ芬蘭人ニシテ右起債ノ好意ヲ有スルモノノ如キハ全然之アルヲ認メラレサルヲ以テナリ(?)外務大臣ハ余ニ告ケテ曰ク政府ハ今夜本問題ヲ審査シ之カ解決ノ為メ取ルヘキ方法ヲ決定セントスト

右情況ニ於テ憂慮スヘキハ譬ヘ芬蘭ニ於ケル露国軍隊ハ如何ナル暴変ニ対シテモ常ニ備フル所アリト雖モ露国政府カ一朝強圧手段ニ訴フルノ必要ヲ認メタル場合ニ於テ右軍隊カ果シテ命令ヲ遵奉シ軍紀ヲ維持シ居ルヘキヤハ何人モ確言スルヲ得サルノ点ニ在リト又他面ニ於テハ芬蘭人ハ一切ノ糧食品ノ供給ヲ全然露国ニ仰ケルニ依リ政府ハ彼等ニ対シ有効ナル圧迫ヲ加フル方法ヲ有スヘシ

又「ウクレーン」問題ハ軍事的ヨリモ寧ロ政事的方面ニ於テ心掛リノ一因ヲ為セリ蓋シ他ノ諸州カ右「ウクレーン」及芬蘭ノ例ニ倣フコトナキヤノ虞アレハナリ、依テ政府ハ「キエフ」ニ特派員ヲ送ルノ意アリ尤モ現ニ同地ニ於テ開

会中ナル「ウクレーン」代表者委員会(？)ニ於テ種々ノ意見起リタルカ為メ右特派員ノ出發ハ暫ク之ヲ見合ハセ事態ノ經過ヲ見ルコトナレリ

「クロンスタット」ニ於ケル政府特派員ハ再ヒ同地ヲ立去ルノ已ムナキニ至レリ右ハ前報ニテ申進メ置キタル無政府主義者ノ一派ニ属スル一水兵逮捕事件ノ結果同地ニ於テ起リタル紛擾ニ基因スルモノナリ

政府ノ地位ハ改善セラレ且労働者兵卒代表者委員会並露国全般會議ノ後援ヲ受ケツツアリト雖モ政府ハ必要ナル物質的勢力ヲ充分ニ恃ミ得ルニ至ル迄ハ目下無政府主義者ニ対スル強圧手段ヲ執ルノ外策ナカルヘク且無秩序ニ対シ權威ヲ以テ臨ムコト難カルヘシ

之ヲ要スルニ一切ノ事ハ挙テ攻勢的行動ノ結果如何ニ懸ル而シテ今日マテ右攻勢ハ順調ニ其ノ歩ヲ進メ居レリ

註 右ノ原書ハ七月十六日在本邦英國大使ヨリ本野外務大臣ニ手交セラレタリ

四六一 八月七日 在本邦露国大使ヨリ  
本野外務大臣宛

#### 露国政府ノ戦争続行ニ関スル決意ニ付声明ノ

ノ政府ノ機關ヲ通シテ其不屈不撓ノ決意ヲ宣明シ騒乱ハ既ニ鎮圧セラレ元兇ハ法庭ニ曳カレ軍隊ノ戦鬪力復活ノ為必要ナル一切ノ手段ハ執ラレタリ、露国政府ハ凡テノ危難ニ対抗シ革命的改新ノ途ニ国民ヲ導キ得ル権力確立ノ大業ヲ完フセンコトヲ期ス露国ハ如何ナル困難ニ際会スルモ其ノ革命ニ由テ宣明セル主義ノ最終ノ勝利ニ到ル迄戦争ヲ継続スル牢平タル決心ヲ翻スモノニ非ザルナリ今ヤ敵ノ威迫ノ面前ニ於テ国民及軍隊ハ更ニ勇ヲ鼓シテ革新ノ大業ヲ続行シ且戦争第四年目ノ初頭ニ於テ将来ノ戦鬪ノ準備ニ努力セムトス露国民カ其ノ敬愛スル祖国国防衛ノ神聖ナル事業完成ノ為協同一致シテ努力シ且其ノ胸底ニ燃ユル自由ノ勝利ノ熱心ハ祖国ヲ脅カス兇敵ニ対シ革命ノ不可侵的勢力ヲ以テ抗スヘキハ吾人ノ信シテ疑ハサル所ナリ

吾人ハ吾人ノ自由並人類全般ノ自由ノ将来一ニ繋リテ這回大戦ノ推移如何ニ在ルヲ熟知ス罪惡ト叛逆ハ此ノ自由ニ新危難ヲ蒙ラシメタリト雖是レ却テ祖国ノ救済ノ為全力ヲ尽シ全財産ヲ挙ケテ崇高ナル努力ニ捧クルノ必要ヲ感知セル露国民ノ確信ヲ一層切実鞏固ナラシムルニ過キサルヘシ此ノ確信強キ吾人ハ我軍ノ退却カ一時的ニシテ一度其兵力

#### 件

(訳文) (註 日本外務省作成ノ仮訳ナリ)

#### 露国政府ノ声明

露国カ新ニ重大ナル厄難ニ遭遇セル今日吾人ハ艱苦ヲ俱ニシ来レル吾盟邦ニ対シ戦争ノ続行ニ関スル吾人ノ見地ヲ明確ニ瀝陳スルノ義務アリト信ス露国革命ノ大業ハ之カ為ニ国家生活ニ起リシ広大ナル変革ヲ結了セリト雖面前ニ大敵ヲ控ヘテ国内一切ノ政治組織ヲ改新スルコトハ重大ナル紛擾ナクシテ克ク完成スルヲ得サリシ次第ナリ乍去露国ハ国家救済ノ途之ヲ措イテ他ニ手段ナキヲ確信シ一方盟邦ト相応シテ戦線ニ於ケル協同作戰ヲ遂行シタリ素ヨリ露国ハ此事業ノ至難ナルヲ十分認知シ軍隊及権力ノ改造中主動的作戰ノ重任ヲ敢行セシカ策戦ノ形勢上必要トナリシ我軍ノ攻勢ハ至大ノ障礙ニ遭遇セリ敵ノ間諜ニ利用セラレタル無責任ナル徒輩ノ戦線及国内ニ於ケル罪深キ煽動ハ露都ニ騒乱ヲ惹起シ同様ナル煽動ニ魅セラレタル戦線ノ一部隊ハ祖国ニ対スル義務ヲ忘却シ敵ヲシテ容易ニ我戦線ヲ突破セシムルニ至レリ

此事變ニ激怒セル露国民ハ革命ニ依テ創設セラレタル自己

ヲ恢復シ編成ヲ改善セハ祖国並ニ自由ノ防衛ノ為決然再ヒ攻勢ヲ執ルヘク終ニ大勝ヲ博シテ渠等カ余儀ナク干戈ヲ執ルニ至リシ所以ノ大任ヲ完ウスルニ至ルヘキヲ確信スルモノナリ

註 右声明ノ原文原書ハ八月七日露国大使持参シテ本野外務大臣ニ手交セリ

四六二 八月二十九日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

#### モスコイ會議ニ付報告ノ件

第八〇五号 (八月三十一日接受)

莫斯科會議ハ本月二十五日総理大臣主宰ノ下ニ開カレ同日総理、大蔵、内務、商工各大臣政府ヲ代表シ報告演説ヲナセリ総理演説ノ要旨ハ諸党派及団体ヲシテ政府ヲ支持セシメントスルニ在リ二十六日ハ諸党派各自ノ態度ヲ定ムル為休会二十七日第二日目ノ會議ヲ開キ総司令官「コルニコフ」及「ドンコサツク」司令官「カレヂン」及諸代表者ノ演説アリ「コルニコフ」將軍ハ軍紀振肅ノ為戦線以外後方ニ於テモ死刑ヲ適用スヘシト主張シ「カレヂン」將軍ハ軍委員會ハ革命後成立シタル兵卒側ノ会ニシテ事実上軍隊ヲ左右

ス廃止ノ急務ヲ説キ兩將軍ノ演説ハ「ブルジョア」派ニ歡迎サレタルモ「プロレタリア」派ノ反対ヲ受ケタリ二十八日第三日目ノ會議ニ於テ旧社会党一派ハ政府擁護ノ演説ヲナシ前総司令官「アレキセーエフ」將軍ハ將校ヲ代表シテ勞兵會ヲ攻撃シ軍委員會廃止ノ必要ヲ説キタル外著シキ事件モナク夜半閉會ヲ告ケタリ本會議ニ於ケル諸党派及団体ノ態度ハ未タ詳細ニ分明セサルモ大体「ブルジョア」派及「プロレタリア」派ノ二派ニ分レ立憲民主、十月諸党ヲ中心トスル下院委員會実業家及コサツク代表者ハ前者ニ属シ社会民主労働党社会革命党等ヨリ成ル勞兵會農民會ヲ中心トスル一派ハ後者ニ与ミシタルカ右兩者ニ対スル臨時政府今後ノ態度ハ右諸党派及団体等ノ態度ト共ニ逐次電報ス

四六三 九月十日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛

### モスコイ會議ニ関シ報告ノ件

附屬書 莫斯科會議報告書

政公第一五二号 (九月二十六日接受)

大正六年九月十日

在露特命全權大使子爵 内 田 康 哉 (印)

活動ヲ失ヒ獨探ハ天下ニ横行スルノ時ニ當リ莫斯科會議ハ開催セラレントス而シテ國民ノ信望アルモノハ舉テ之ニ參會スルヲ以テ彼等ハ國家ヲ救ハンカ爲メ政府ノ執ルヘキ方針ヲ指示セサルヘカラサルヲ説ケリ露國ノ現狀斯ノ如キモノアルヲ以テ同會議ハ單ニ各種公共團體ノ自由ナル意見開陳ノ趣旨ナリシニ拘ハラス世人ノ注意ヲ惹キタル所以ナリ左ニ同會議ノ成立、組織及演説ノ要旨等ヲ記述スヘシ

#### (一) 莫斯科會議ノ成立

露國ノ革命ハ軍隊及労働者ノ加擔ニヨリ頗ル迅速ニ遂行セラレタリト雖革命後ノ新政府ハ之カ對價ヲ拂フノ地位ニ立テリ兵士及労働者ハ革命ト共ニ過度ノ自由及待遇ヲ享クルニ至リタルヲ以テ益々其勢力ヲ發展シ各地ニ所謂勞兵會ナルモノヲ組織シ軍隊内ノ「コミサール」及軍委員會其他各種ノ社會主義ノ團體ト連絡シ社會主義者ノ指導ノ下ニ行動シ一方軍隊ヲ腐敗セシムルモノアルト共ニ他方商工業界ヲ紊亂セシメ其行動ハ屢々極端ニ走レリ然レトモ新政府ノ勢力未タ強固ナラスシテ之ヲ壓スル能ハス改變毎ニ寧ロ社會黨内閣タルノ色彩ヲシテ益々濃厚ナラシメ其主張ハ常ニ從來ノ溫健派ト一致セス益々露國新政府ノ基礎ヲシテ動搖セ

外務大臣子爵 本野一郎殿  
莫斯科會議報告書送付ノ件

莫斯科會議ニ出席セル花岡書記官ヨリ別紙報告提出ニ付及送付候間御査収相成度候 敬具

#### (附屬書)

莫斯科會議報告書

#### 莫斯科會議

獨逸側ハ西部戰場ニ於テ英仏及伊軍ノ攻勢ヲ防キ東部戰場ニ於テ羅馬尼亞方面ニ進撃シ且ツ「リガ」方面ニ攻勢ヲ準備スルト共ニ獨逸國ト關係深キ羅馬法皇ヲシテ講和ニ斡旋セシムル時ニ當リ露國ニ於テハ八月<sup>十二</sup>日ヨリ同<sup>二十五</sup>日ニ亘リ莫斯科市ニ於テ所謂莫斯科會議(直譯「モスクワ」ニ於ケル國家會議)ヲ舉行セリ同會議ニ先ツ二日「ノーボエ、ウレミヤ」紙ハ其社説ニ於テ「全露國ノ破壊」ト題シ政府ハ今ヤ兵士及労働者諸團體ノ爲メニ左右セラレ此等ノ團體ハ又タ街頭ノ群衆ニ支配セララル有様ナリ加之北ニ芬蘭ノ騷擾アリ南「ウクライン」問題アリ又タ先ニ酷寒ニ屈セス北方陣地ヲ固守セル軍隊ハ今ヤ豊富ニ兵器彈藥ヲ供給セラレ居ルニ拘ハラス敵ニ充分ノ抵抗ヲ示ス能ハス商工業ハ益々其

シメタリ前會計検査院長「ゴヅネフ」ハ一度莫斯科市ニ各團體ノ代表者ヲ集メ自由ナル意見ノ交換ヲナシ此等國內ノ不統一ヲ改良スルニ資セン事ヲ發議シ多少ノ反對意見アリシカ陸海軍相「ケレンスキー」等モ之ニ賛成シ七月<sup>三十一</sup>日開催ノ事ニ決シタルモ其決定餘リ急ニシテ幾多ノ反對アリシノミナラス時恰モ内閣ニ動搖アリ立憲民主黨ノ如キハ新内閣組織セラレ其政綱ノ定マルヲ見タル上ニアラサレハ參會ニ反對ナリトノ態度ニ出テタルヲ以テ暫ク延期セラレ其後新政府ノ組織成リ愈々之ヲ舉行スルニ決シ「ゴヅネフ」ハ既ニ其職ヲ去リタルモ首相「ケレンスキー」會長ノ下ニ八月<sup>十二</sup>日ヨリ開催セラレタリ

#### (二) 莫斯科會議ノ組織

莫斯科會議ハ所謂國論ノ統一ニ資スル爲メ舉行セラレタルモノナルヲ以テ其參會者ノ標準モ一般各種公共團體ノ代表者ヲ召集セリト云フニ過キスシテ別ニ法律的根據ナキカ如シ政黨ハ凡テ政黨トシテハ召集セラレス政黨員ニシテ同會議ニ參會セルハ第一乃至第四會議議員若クハ勞兵會々員等ノ資格ニ於テ參會セルモノナリ但シグルジン及アルミヤン人種政治團體ノ如キ非露國民族政治團體ハ其代表者ヲ參會

セシメタリ尚同會議ノ組織ニ就テ注目スヘキ事ハ(一)芬蘭及「ウクライン」ヨリ其代表者ヲ參會セシメサリシ事及(二)最近過激派ヨリ其解散ヲ主張セラレタル下院カ第一議會ヨリ第四議會ニ至ル迄其代表者ヲ出シ演說セシメタル事之レナリ今左ニ參加公共團體ノ名称ヲ列記シテ莫斯科會議ノ組織ヲ知ルニ便ナラシムヘシ

| 參加團體名稱      | 代表演說者ノ數 | 演說ニ割當ラレタル時間         |
|-------------|---------|---------------------|
| 第一乃至第三議會    | 各二名     | 各十五分                |
| 宗教家         | 二名      | 一名 二十分<br>一名 十五分    |
| 正教別派        | 二名      | 各十五分                |
| エバンゲリ教徒     | 一名      | 十分                  |
| 「カザツク」各地方團體 | 三名      | 各十分                 |
| 農民代表者中央委員會  | 三名      | 三十五分<br>二十五分<br>十五分 |
| 全露農民同盟會     | 一名      | 十分                  |
| 勞働者有識團      | 二名      | 各十分                 |
| 全露女子同權會     | 一名      | 三分                  |
| 第四議會        | 二名      | 各廿五分                |
| 勞兵會         | 一名      | 廿五分                 |

|                                                                                                                                                              |             |      |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|------|
| 都市自治廳                                                                                                                                                        | 二名          | 各二十分 |
| 地方廳吏員同盟會                                                                                                                                                     | 一名          | 十分   |
| 縣統一施行同盟會                                                                                                                                                     | 一名          | 十五分  |
| 學者團                                                                                                                                                          | 一名          | 十五分  |
| 教員同盟會                                                                                                                                                        | 一名          | 十分   |
| 右發表セラレタル割當演說時間ハ必スシモ精確ニ遵守セラレサリシモ大體ヲ察知スルニ足ルヘシ又タ一團體ニシテ一名以上ノ演說者ヲ出スモノハ同團體内ノ申合ニヨリ一名ヲシテ全團體ニ割當ラレシ演說時間ヲ占領セシメタルモノアリ尚ホ前記以外ニ參會セル團體左ノ如クニシテ其代表者數ハ概シテ各一名ニシテ演說時間ハ約十分乃至十五分ナリキ |             |      |
| 全露「ゲオルギー」騎兵同盟會                                                                                                                                               |             |      |
| 陸海軍士官同盟會                                                                                                                                                     | 莫斯科士官代表者委員會 |      |
| 露都士官代表者委員會                                                                                                                                                   | 全露廢兵同盟會     |      |
| 出征軍隊委員會                                                                                                                                                      | 艦隊委員會       |      |
| 社會革命黨委員會                                                                                                                                                     | 糧食委員會       |      |
| 共同組合                                                                                                                                                         | 露國技術業者會     |      |
| 全露鐵道郵便吏員同盟會                                                                                                                                                  |             |      |
| 技師及技工同盟會                                                                                                                                                     |             |      |

交通技師及技工同盟會 「グルジン」及「アルミヤン」

人種團體

「アルミヤン」人種政治團體

社會國民團體

「チエシユ、スロバツ」人種同盟會

猶太人團體

波蘭統一團體

商工業團體

軍事工業委員會

全露鐵道同盟會

專門家同盟會

農業協會

農業銀行團體

地主同盟會

私設鐵道團體

「リトフスク」人種團體

「エストン」人種團體

「ラトウイシユ」人種團體

白露細亜團體

回々教徒同盟會

莫斯科會議參會者ハ前記ノ如ク各種ノ團體ニ亘リ其範圍明瞭ナラサリシヲ以テ其他ノ團體ニシテ出席ヲ要求シ拒絶セラレタルモノアリ其許否ノ決定ハ多少ノ困難アリシカ如シ主トシテ其事務ヲ擔任セルハ郵電大臣「ニキチン」ナリシト云フ

莫斯科會議ノ會場ニハ舊帝室大劇場ヲ用キ舞臺ノ前方ヲ演

台及會長「ケレンスキ」以下各大臣ノ席トシ其後方ハ新聞記者席トシ平土間ノ左半部ハ下院議員其他ニ右半分ハ勞兵會其他社會黨側ニ割當ラレ演說者モ往々前者ヲ右黨後者ヲ左黨ト呼ヒタリ棧敷ノ中央ハ外交團席ニシテ其他ハ各團體ニ割當ラレタリ

(三) 莫斯科會議ノ演說

莫斯科會議ハ八月<sup>十二</sup>日ニ初マリ同日ハ首相「ケレンスキ」初メ商工大臣、内務大臣及大藏大臣ノ政綱演說アリ翌日ハ休會シ各團體ニ於テ政府ノ發表セル所ヲ評議シ八月<sup>十四</sup>日及同<sup>十五</sup>日兩日ニ亘リ各團體代表者ノ演說アリタリ又タ新旧總軍司令官「コルニロフ」及「アレキセーフ」兩將軍並ニ革命祖母「ブレシコ、ブレシコフスカヤ」及有名ナル革命家「クロボトキン」及「ブレハーフ」兩氏ハ前記各團體代表者以外ニ番外トシテ其意見ヲ開陳セリ第一日ハ午後三時開會午後七時閉會セルモ第二日ハ午前十一時ヨリ夜半ニ及ヒ第三日ハ午前十時ニ初マリ翌朝午前一時半ニ終結シ其間食事ノ爲短時間ノ休憩アリシノミ其演說ノ多カリシヲ察スルニ難カラサルヘシ從テ以下僅ニ重要ナル演說ノ要點ヲ記載スルニ止ム

第一日(八月<sup>十二</sup>日)

首相「ケレンスキー」 臨時政府ハ自己ヲ會長トスル國家會議ヲ召集セル事ヲ宣告シ臨時政府ノ名ニ於テ會衆ニ挨拶ヲ述ヘ國家危急ノ際互ニ祖國ノ爲メニ赤誠ヲ披瀝センコトヲ望ミ國家ヲ救フハ専ラ共同一致ニアリ臨時政府ノ使命ハ一ニ國家ヲ艱厄ヨリ救フニアリ吾人ハ露國カ世界ノ第二次國タルヲ欲セス吾人ハ他ニ哀ヲ求ムルモノニアラス又タ自ラ屈スルノ必要ナシト述ヘ對外關係ニ言及シ(別項參照)芬蘭問題ニ對シテハ強硬ナル態度ヲ取ルヘキヲ述ヘタルモ「ウクライン」問題ニ就テハ漠然「ウクライン」カ其途ヲ謬ラサラン事ヲ希望シ進ンテ軍隊ト政府ノ關係ニ付キ軍隊ハ政府以上ノ權力及意思ヲ有スルモノニアラスト云ヒ轉シテ死刑ヲ論シ司法大臣トシテ廃止セル死刑ヲ陸軍大臣トシテ一部ニ復活セリ國家ヲ救ハンカ爲メニハ己レヲ捨テサルヘカラスト弁シ軍規ノ振肅及服從ヲ説キタルモ軍委員會「コミサール」及軍規裁判所ハ之ヲ廃止セサル意見ヲ述ヘ最後ニ臨時政府ノ本會議ヲ召集セルハ國家及自由ヲ愛スル諸君ノ自由ノ聲ヲ聞カンカ爲メニシテ吾人ノ希望ハ一ニ國家ノ幸福ヲ求ムルニアリト結ヘリ

第二議會代表者「ゴロビン」及「アレキセンスキー」同シク強固ナル政府ノ必要ヲ説キ「アレキセンスキー」ハ進ンテ英仏労働者ノ愛國的ナルヲ述ヘ戰爭ヲ繼續シテ敵ヲ國外ニ驅逐セサルヘカサルヲ力説セリ

第三議會代表者「ロヂーチエフ」 熱誠國權統一ト人道ニ對スル義務ヲ説キ不撓露國ヲ救ハサルヘカサルヲ云ヘリ

總軍司令官「コルニロフ」將軍 ハ沈靜ノ態度ヲ以テ最近軍規ノ腐敗シ兵士ニシテ指揮官ヲ殺セルモノ及ヒ軍隊ニシテ敵前ニ於テ其義務ヲ守ラス命令ナキニ猥リニ退却セル實例ヲ舉ケ斯ノ如キ「アナルヒ」ノ危險ナル事並ニ軍規ヲ離レテ軍隊ナキヲ説キ之レカ爲ニハ軍規振肅ノ手段ヲ採ルト共ニ士官ニ相當ノ權限及待遇ヲ與ヘ其威嚴ヲ保タシメサルヘカラス又タ軍委員會及「コミサール」存置ニ反對セサルモ其行動ハ一定ノ範圍タルヘキヲ述ヘ軍隊ト内地ノ關係ハ離ルヘカサルヲ云ヒ兵器及糧食ノ供給ノ充實ヲ希望シ最後ニ斷然タル手段ヲ以テ軍規恢復ヲナスノ急務ナルヲ切言シ一般ノ拍手喝采ヲ受ケタルモ勞兵會側ハ初メヨリ將軍ヲ喜ハサルノ風アリタリ

内相「アブクセンチエーフ」 ハ國權ノ統一及治安ノ確保ノ必要ヲ説ケリ

商工大臣「プロコポビッチ」 ハ其所轄以外ニ糧食大臣、労働大臣、農務大臣及交通大臣所轄事項ヲモ説明セリ之レ同氏ノ此等ノ事務ニ通スル爲メナランモ農務大臣「チヨルノフ」ノ如キハ會場ニアリテ自ラ演臺ニ立タサリシハ其ノ問題ノ人タルカタメナラント云フ

大蔵大臣「ネクラソ」 ハ露國ノ國債、戰費、豫算、租税及專賣等ヲ説明シ且ツ財政ニ及ホス影響ノ大ナル事及財政ト國防ノ密接ナル關係ヲ有スルヲ論述シ國家ヲ救フノ條件トシテ秩序、犠牲及國防ノ三者ヲ擧ケタリ

莫斯科市長「ルーソネフ」 ハ歡迎ノ辭ヲ述ヘ莫斯科市ノ臨時政府援助ノ爲メニ努力スヘキヲ述ヘタリ

(八月<sup>十三</sup>日休會)

第二日(八月<sup>十四</sup>日)

第一議會代表者「ナーボコフ」及「セミヨノフ」 共ニ國家ノ顛覆ヲ免カルルハ一ニ強固ニシテ純粹ナル國權ノ樹立ヲ要スルヲ説キ「セミヨノフ」ハ尚ホ土地問題解決ノ必要ト其ノ時期ハ憲法議會ニ於テスヘキヲ云ヘリ

正教別派ノ代表者「ボリシヤコフ」 舊時代ノ壓迫ヲ説キ今ヤ自由ノ時代トナリシヲ以テ吾人ハ共同一致國家ニ盡ササルヘカサルヲ述ヘタリ

「コザツク」代表者「カレーヂン」將軍 ハ「コザツク」軍人氣質ヲ代表シ軍隊ハ政治以外ニ立ツヘク集會ノ如キハ之ヲ禁止シ軍隊及内地ニ於ケル各種ノ委員會(勞兵會及軍隊内ニアリテ之ト氣脉ヲ通スル軍委員會等ヲ指ス)ハ廃止スヘク兵士ノ權利ニ關スル布告ハ改正シテ兵士ノ義務ヲモ布告セサルヘカラス軍規ハ斷然タル方法ヲ以テ振肅セサルヘカラス内地及戰線一致シテ軍隊ノ戰鬪力恢復ニ努力セサルヘカラス又タ軍隊内指揮官ノ權威ヲ恢復セサルヘカラス國家ヲ危急ヨリ救フハ一ニ強固ニシテ統一アル國權ニアリト主張シ「コザツク」兵ハ軍規腐敗ノ際ニモ「デゼルチー」(逃亡)ヲ知ラサリシト述ヘ「コザツク」兵ノ爲メニ氣焰ヲ揚ク

第三議會代表者「グチコフ」 革命ノ歴史ヨリ始メ露國現下ノ狀態ハ國內不秩序ニシテ軍隊ハ規律ヲ失ヒ財政及工業亦タ危機ニ瀕ス之レ政權責任ナキモノノ手ニ歸シ國權強固ナラサルニ依ルト説キ尚ホ述フル所アラントセシモ時間

來り演臺ヲ去ル

労兵會及農民委員會代表者「チヘエーゼ」　ハ労兵會其他社會黨側ノ拍手ニ送ラレ演臺ニ立チ國家危急ノ際吾人ハ權力掌握ニ没頭スルコトナク苟モ國家及革命ノ利益ヲ保持スルニ足ルヘキ政府ヲ援助シ秩序ノ維持、軍規恢復及經濟狀態ノ改善ニ盡力スヘキヲ云ヒ世間ヨリ非難アルモ労兵會其他ノ團體アリシコソ革命後ノ國內一般ノ秩序及軍隊内ノ規律ノ壊敗ヲ防キタルコトヲ述ヘ政府ハ七月八日ノ宣言ニアル政綱ヲ實行シ軍隊ノ戰鬪力ヲ恢復シ以テ速ニ民主々義ニ基ク一般平和ヲ來スニ努力スヘク、之カタメ政府ノ執ルヘキ政策トシテ(一)糧食及其他ノ給養問題ニ付テハ(イ)穀物專賣及公定價格ノ制定(ロ)工業原料品モ公定價格ヲ定メ(ハ)勞銀ヲ制定スルコト等(ニ)商工業問題ニ付テハ(イ)運輸ノ整頓及生産力ノ増進ニ勉メ(ロ)政府ハ一部團體ノ利益ニ依ラス國家ノ利益ヲ目的トシテ産業ヲ監督助長シ(ハ)勞働者保護政策ヲ實施シテ勞働者ノ狀態ヲ改良シ其自覺ヲ促スコト(ニ)資本家及勞働者間ヲ調和セシムルコト等(三)財政問題ニ付テハ(イ)新所得税法、戰時収益税法、奢侈品税法ヲ實施シ相續稅ヲ改正スルコト(ロ)非常支出ニ對スル有力ナル稅源ヲ確定スルコト

「コミサール」ハ臨時革命時代中ノ行政機關トシ(ハ)選舉ニヨリ地方自治機關決定セラルト共ニ實施委員會ハ其權力ヲ失ハシメ(ロ)民族問題ハ憲法議會ニ於テ決定セラルヘク民族ノ分離ヲ認めサルモ(イ)臨時政府ハ憲法議會ノ定ムル所ニヨリ各民族ニ充分ノ自治ヲ與フルノ宣言ヲナスコト(ロ)又各民族ノ國語ノ自由及公私權ノ平等ヲ布告スルコト(ハ)臨時政府内ニ民族事務委員會ヲ設クルコト等ヲ舉ゲテ最後ニ有力ナル政府ニヨリ憲法議會ノ召集セラレ民主々義共和政體ノ建設セラレンコトヲ期待セリ

學者團代表者「グリム」　政府ハ強固且統一のニシテ文化ヲ重スヘク國民ハ一致シテ斯ル政府ヲ支持スヘキヲ述フ

第四議會代表者「シュウリギン」　革命後ニナサレタル誤謬トシテ(一)死刑廢止(ニ)平時ト戰時ノ差ヲ顧ス選舉政治ヲ重シタルコト及(三)「ウクライン」ニ過度ノ自治ヲ與ヘタルコトヲ舉ゲ反對的評論ヲナセリ

第四議會代表者「マクラコフ」　ハ其常ニ協力ヲ主張シ黨爭ニ反對セルヲ云ヒ政府カ國權ヲ統一シ名譽アル平和ニ至ル迄努力セントセハ國民ノ一致ヲ得ヘキモ閣員内ニ昨日迄戰勝ヲ欲セサリシ人(農務大臣ノ「チヨルノフ」ヲ指

(ハ)現稅率ヲ改メ財政の專賣ヲ實施シ(ニ)徵稅監督機關ヲ改正スルコト(ロ)國債ヲ整理スルコト(ハ)國庫準備ヲ増シ紙幣ノ亂發ヲ戒ムルコト(ハ)私設信用機關ノ監督ヲ嚴ニスルコト等(四)土地問題ハ憲法議會ニ於テ根本ヲ定ムルコトトシ(イ)個人、團體及會社ノ土地取得ヲ禁止スルコト(ロ)差當リ土地問題ヲ生セハ各地方土地委員會ニ於テ公益ヲ慮リ現状ヲ破壞セスシテ措置スルコト(ハ)土地委員會法ヲ制定スルコト(ロ)軍隊内ノ結社問題ニ付テハ(イ)軍司令部、「コミサール」及軍委員會ノ權利及義務ヲ定メ(ロ)軍司令部ハ何等ノ拘束ヲ受クルコトナク作戰及戰鬪準備ヲ掌リ(三)コミサールハ軍委員會ト密接ニ連絡ヲ保チ臨時政府ノ革命政策ヲ掌リ(四)軍委員會ハ兵士ノ機關ニシテ彼等ノ一般政治的指導者トナシ(ロ)革命的非常手段ハ只タ「コミサール」ノ同意アルトキノミ行ハレ、又タ司令部ノ威嚴ヲ保ツタメ司令部ヨリ反對革命ノ嫌疑アルモノヲ除キ實戰ニ功アリシモノヲ用ユルコト(ハ)地方自治問題ニ付テハ(イ)速ニ地方自治制ヲ行ヒ(ロ)一般普通選ニヨリ制定セラレタル地方自治機關ヲシテ地方國家機關ノ事務ヲ行ハシメ(ハ)都市及地方ノ警察、秩序、財政及勞働事務ノ管轄ヲ改正シ(ニ)各地方ニ於テ選出セラレ中央ノ承認ヲ得タル

ス)アラハ云々ト述ヘ會場ノ騷擾ヲ來シ「ケレンスキー」ノ注意アリ語ヲ繼ケ戰爭繼續ヲ第一要義トセハ軍規ノ恢復ヲ必要トス軍隊内ノ委員會等ハモハヤ其必要ナキヲ主張シ「チヘエーゼ」ノ說ニ反對シ最後ニ吾人ノ救フヘキモノハ露國ニシテ革命ニアラス革命ハ其露國ヲ救フノ効驗アルトキノミ之ヲ愛スヘシト結ヘリ

労兵會代表者「チエレチエリ」　ハ社會黨側ノ大立物トシテ左黨ノ拍手ニ送ラレ演臺ニ立チ「マクラコフ」ノ演說ニ對シ労兵會カ無政府及無秩序ヲ匡正シ國家ニ貢獻セルノ大ナルヲ論シ「コルニロフ」將軍ノ云ハルル如キ不幸ナル狀態ハ國民ニ刺激ヲ與フヘシト述ヘ更ニ吾人ハ所謂「ウイヘルム」式愛國心ナキモ革命ニ顯ハレタル愛國心ハ之レアリ國家ヲ救フモノハ只タ革命アルノミ吾人ノ取ルヘキ道ハ一ニ民主々義ニヨリ國家ヲ改造シ一般ノ利益ノタメ全革命ノ力ヲ結合スルニアリト斷セリ

第四議會代表者「ロヂヤンコ」　革命ハ獨逸軍國主義ヲ擊破シ普魯西ノ野心ヲ倒サントスル愛國の精神ニ起レルモノニシテ實ニ全國民のノモノナリシ、然ルニ五ヶ月半ヲ經過セル今日ノ狀態ハ如何、之レ政府カ國民ヲ代表スル下院

ト連絡ヲ保タスシテ終ニ階級的團體ノタメニ左右セララル  
ニ至レルニ依ル、若シ政府ニシテ強固ナランニハ軍隊モ軍  
規ヲ失フコトナカルヘク民族分離ノ傾向モ起ルコトナカル  
ヘシト述ヘ進ンテ第四議會側ノ決議ヲ發表セントセシモ時  
間來リ演臺ヲ去ル、「ケレンスキー」機宜ヲ失シ漸ク「ロ  
ヂヤンコ」ノ演臺ヲ去リタル後ニ立テ「他ノ弁士ニ對シ不  
公平ナランモ下院議長ニ決議發表ノ時間ヲ追加スヘシ」ト  
宣言シタレハ「ロヂヤンコ」ハ下院議長ハ規則ニ反シテ求  
ムルコトナシトテ之ヲ却ケ満場ノ喝采ヲ博シ終ニ會場ニ於  
テハ同決議文ヲ發表セサリシカ其大要ハ左ノ如シ（該決議  
ノ立案者ハ「ミユルコフ」ナリト云フ）

(一)協商諸國ト一致シ人類ノ將來ヲ保證スル最後ノ勝利ヲ得  
ル迄戰爭ヲ繼續シ敵ノ侵入ヲ防キ露國ヲ救フヲ現下ノ最大  
任務トス、之ニ反スル政策ヲ行フ政府ハ存在ノ意義ナシ(二)  
前記ノ目的ノタメニハ憲法議會召集迄軍隊ヨリ政治ヲ驅逐  
シ至急ニ軍ノ戰鬥力ヲ恢復シ軍隊指揮者ノ權力ヲ恢復シ委  
員會ノ行動ヲ經濟的範圍ニ限リ軍規ヲ嚴重ニシ軍總司令官  
ニ軍統裁權ヲ一任スヘシ(三)政府ハ國際社會主義ノ傾向ヲ戰  
爭最後ノ目的トスヘカラス、露國ノ國民的利益ノミヲ以テ

ノ思想ヲ說キ露國極端主義者ニ及ヒ農相「チヨルノフ」ヲ  
攻撃シ英佛社會民主主義者ノ平和及公安ニ盡ス所アルニ反  
シ露國ノソレハ却テ階級戰爭ヲ促スヲ云ヒ「コルニコフ」  
將軍ノ政府ニ對スル要求ノ容ルヘキヲ論シ最後ニ立憲民主  
黨ハ首相ニ援助スヘク首相モ其ノ政策ヲ用ユヘキヲ求メ  
タルカ同氏ノ演說中ニハ往々社會黨側ニ對シ挑戰的態度ア  
ルヲ見受ケタリ

労兵會代表者「チエレチエリ」(再度) 同氏ハ「ミユル

コフ」ノ演說ニ對シ労兵會側ノ答弁ヲナントシテ再度演  
臺ニ立チ社會黨員ノ入閣ニヨリ政府ノ帝國主義ヲシテ民主  
々義タラシメ其以來兵士モ進撃ヲナスニ至レルヲ述ヘ吾人  
モ其國土及自由ヲ外部ヨリ壓迫セラルル間ハ兵器ヲ捨テサ  
ルヘク單獨講和ハ吾人ノ欲スル所ニアラス、労兵會ハ政府  
トノ間ニ政權ヲ二分スルモノニアラス、又タ軍隊ニ規律ナ  
キハ革命ヲ危クスルモノニシテ軍隊カ命令ヲ批評スルカ如  
キハ無意味ナルヲ以テ軍規振肅ニハ賛成ナルモ之レ單ニ兵  
士ノミナラス指揮者モ規律ヲ守ランコトヲ要求セリ、社會  
黨ノ人トシテハ意見比較的穩健ニシテ弁舌亦タ流暢ナルヲ  
以テ獨リ労兵會ノミナラス右黨ヨリモ屢々拍手セラレタリ

決スヘカラス同盟國々際會議ニ無責任ノ委員ヲ許容スヘカ  
ラス、且ツ政府ハ敵國々民ヲ参加セシメタル國際社會黨會  
議ノ決議ニヨリ何等拘束セラルル所ナカルヘシ(四)政府ハ内  
政ニ關シ全國民ノ意思ヲ代表セサル委員會其他ノ團體ノ決  
議ニ拘束セラルル所ナカルヘシ(五)政府及其地方機關ハ民族  
問題ニ關シ憲法議會ニ於テ全國民カ發表スヘキ意見ニ先チ  
テ決定スル所アルヘカラス民族問題ハ凡テ全露國統一主義  
ヲ基礎トセサルヘカラス、又タ社會問題ニ關シテハ社會生  
活ノ圓滑ヲ期シ階級戰爭ヲ防キ或團體ノミノ意向ヲ以テ猥  
リニ決定スヘカラス其他地方糧食委員會ハ之ヲ廢シ地方自  
治機關ニ之ヲ經營セシムヘク、労働者ノ過當ナル要求ハ産  
業ヲ害シ労働者其者ニモ不利ヲ與フヘキヲ以テ之ヲ許スヘ  
カラス(六)財政々策ハ財政整理、生産力増進及支出節約ヲ其  
根本トス

第四議會代表「ミユルコフ」 民主主義ハ<sup>デモクラチヤ</sup>労兵會側ノ獨  
占物ニアラスト「チエレチエリ」ニ報ヒ軍規頽廢ニ關シテ  
「ケレンスキー」モ責任アルコトヲ述ヘ(特ニ兵士ノ權利  
ニ關スル布告ハ「ケレンスキー」ノ署名ナルコト等ヲ舉  
ケ)進ンテ「チンメルワルディアン」(極端社會主義者)

「モスクワ」新舊市長其他 ハ共同一致シテ政府ヲ支持  
スヘキニヨリ政府モ其政綱ヲ動カサルルコトナク遂行セン  
コトヲ希望セリ

「ゲオルギー」騎兵協會代表者「スカルヂンスキー」大尉  
ハ軍隊ニ於ケル軍規ノ重要ナルヲ說キ軍隊ヨリ政治ヲ驅逐  
シ軍規振肅ニ勉メ國家ヲ救フヘシトノ趣旨ニヨリ健全ナル  
軍人精神ヲ發揮セリ

(第三日ニ續ク)

第三日(八月<sup>十五日</sup>廿八日)

午前十時開會白露亞細亞「グルジン」「アルミヤン」及波  
蘭諸民族並ニ回々教徒代表者ノ演說アリタリ其ノ要旨ハ概  
シテ民族ノ分離ヲ主張セス民主主義ニ基ク政府ニ協力シテ  
之ヲ支持スヘキモ各民族ハ充分自治ノ自由ヲ與ヘラレタシ  
ト云フニアリタリ尤モ分離ヲ主張セントスル「ウクライン」  
及芬蘭兩民族ノ代表者ノ出席セサリシ事ハ既述ノ如シ  
舊露軍總司令官「アレキセーフ」將軍 ハ開戦以來露軍  
ノ歴史ヲ語り革命前ノ軍隊ニハ有名ナル命令第一號(革命  
ノ初メ發セラレ革命運動ニ對スル労兵會及兵士ノ關係其他  
兵士ハ職務以外ニ士官ニ敬禮ヲ爲ス必要ナキ事等ヲ規定セ

ルモノナリ、革命黨側ノ策ニ出テタルモノナルヘシ。發セラレ次テ各種ノ煽動ハ獨逸側間謀ノ運動ト共ニ行ハレ「ブラブダ」ノ如キ出版物ノ配布セラルルヤ軍規ハ益々亂ルルニ至レリ政府モ之カ防止ニ努力セシモ終ニ及ハサリキ、其後尙軍隊指揮者ノ權力ヲ失ハシムルノ法規制定セラレタルヲ以テ先ニ其身ヲ以テ士官ヲ掩ヒタル兵士ハ今軍隊長ヲ射撃スルニ至レリ次テ軍隊内ニ委員會ナルモノ設置セラレシカ經濟的事業以外ニハ常ニ軍隊ヲ害シ又タ五月十一日ニ「兵士ノ權利」ニ關スル布告發表セラルルヤ軍隊ハ愈々政治ニ干與シ屢々集會ヲ催スニ至レリ斯ノ如ク軍規頽廢ノ結果兵士ハ一ニ講和ヲ欲シ一連隊進撃ノ際士官二十八名下士二十名兵二名ノミ前進シ他ハ戦友ノ陣没ヲ傍觀セルノ實例ヲ舉ケ熱誠ヲ以テ軍規振肅ヲ主張シ満場ニ多大ノ感動ヲ與ヘタリ

「アレキセーフ」將軍ニ次テ軍隊内民主主義代表者ノ演說アリ第十二軍々委員會代表者「クーチン」ノ如キハ軍委員會及軍「コミサール」カ如何ニ軍規ノ頽廢ヲ防クニ効アリシヤヲ述ヘ永久ノ問題ヲ説クニアラサルモ現時ノ軍隊ニ此等機關ノ必要ナルヲ主張シ左黨ノ喝采ヲ博シタルモ右黨ハ

世ニ叩頭セル例ヲ舉ケ露國ノ茲ニ至ラサルヲ望ミ今ヤ新時代トナリ國民ノ活動ヲ要ス吾人ハ露國ニ「デモクラシー」ヲ完成セサルヘカラスト説キ又團體ニ就テ露國ハ北米合衆國ノ如ク連邦共和國タルヘキヲ希望シ最後ニ吾人ノ前ニハ左黨右黨ノ區別ナク一ノ國家アルノミト結ヘリ

「ブレハーノフ」(有名ナル温和社會主義者)ハ吾人ハ國內ノ分立ヲ云フ時ニアラス一ニ統一ヲ努ムヘキ時ナリト開口シ右黨ニ對シテハ民主主義ニ過失アランモ同時ニ非常ナル利益アルヲ述ヘ工業界ニ向テハ資本家ト平民ノ接近ヲ説キ露國ノ爲メニ必要ナル生産力増進ハ専ラ社會改良ニ依ルヘク「デモクラシー」ハ單獨講和ニ導クモノニアラストシ最後ニ左黨ニ説キテ其任ニアラサル權力ヲ收ムルハ労働者ノ不幸ナルヲ以テ讓歩シテ協調ニ勉ムヘキヲ云ヘリ

「ブレハーノフ」ノ演說後暫時休憩シタ刻再開ノ上農業、財業、工業及商業界代表者ノ演說アリ一般ニ國權ノ強固ナラサル無政府状態ノ弊害ヲ述ヘタリ次テ極端主義者「リヤザノフ」出テタルモ耳ヲ傾クルモノ少カリシ其要旨ハ吾人ノ欲スル所ハ一ニ贏チ得タル革命ヲ維持スルニアリト云フニ歸スルモノノ如シ其後「ナガエフ」ナルモノ出征「カザ

之ヲ喜ハサリキ又第五軍々委員會代表者「ラフマノフ」モ同シク軍隊内ノ民主的機關存在ノ必要ヲ説キ軍規ノ腐敗ハ舊政府時代ニ遡ルヘク軍規振肅ハ單ニ軍司令部ノミノ能クスル所ニアラス凡テノ協力ヲ要スヘク司令部ハ作戰ニ没シ「コミサール」ハ兵士ノ團體ト連絡シ政治ニ没スヘシト論シ次テ演臺ニ立テル艦隊側ヲ代表セル水兵「アブラモフ」モ同シク軍隊及艦隊内ニ司令部ト獨立セル機關ノ存在ヲ要スト云ヘリ

革命祖母「ブレシユ、ブレシコスカヤ」ハ露國々民ハ今ヤ試験ヲ受ケツツアリ諸君ノ云フ所ニ殆ト差異ナク悉ク國家ノ爲メニ努力スルヲ云ハルハ誠ニ喜フヘク只タ其ノ實行ノ速ナラン事ヲ望ムト云ヒ資本家及商人ノ攻撃ヲナシ右黨ニ向テ其有スル所ヲ以テ國民教化ノ爲メニ盡サレンコトヲ求メ態度温和ニシテ左右兩黨ノ喝采ヲ受ク

革命家「クロホトキン」ハ戰爭力常ニ其最後ニ激烈トナルヲ以テ協力一致其國家ヲ防禦スル國民ハ勝利ヲ得ヘク獨逸ニシテ戰勝者タラハ其結果恐ルヘキヲ云ヒ土地割讓及償金支拂ヲ想像セシメ更ニ尚ホ之以上ニ恐ルヘキハ戰敗者トナル時ノ心理状態ナリトテ佛國カ「アレキサンドル」二

ツク「軍七部ノ名ニ於テ演說シ「カレーヂン」將軍ノ所說ヲ痛評シ同將軍カ「カザツク」十二部ヲ代表スルノ權利アルヤヲ疑ヒタルヲ以テ軍人側ノ反感ヲ買ヒ「獨逸ニ買収セラレシモノ」等叫フモノアリテ場内騷擾ヲ極メ一時休憩スルノ止ムナキニ至レリ

「ケレンスキ」閉會ノ辭トシテ政府ハ故障ヲ排シテ本會議ヲ召集セルヲ悔キス政府ハ具體的結果ヲ得ラレサルモ國民相互ニ胸襟ヲ開キ其所見ヲ述フルハ頗ル有益ナラント考ヘタリ而シテ國民相互ニ相知リ相敬シ且ツ一朝事アラハ公ノ爲メニ私ヲ捨ツル事アルヲ互ニ了解スルノ目的ヲ達シ得タリ云々ト述ヘ會衆ノ協力シテ政府ニ援助セシヲ謝シ最後ニ吾人ノ國家ハ亡ヒス全國民ノ贏チ得タル自由ハ失ハルコトナカルヘシト宣言セリ

#### (四)「モスクワ」會議ニ顯ハレタル露國ノ現状

「アレキセーフ」將軍曰ク

(一)、今ヤ露國ノ兵士ハ「現戰爭ハ「ブルジョア」(有産者)タル英佛ノ利益ノタメニシテ貧民ノタメニアラス汝ハ何ノタメニ死セントスルヤ、寧ろ郷ニ歸テ地主ヨリ其正當ノ權利アル土地ヲ取ルニ若カスヤ」ノ語ヲ聞クト共ニ進



ムヲ欲セサルニ至レリ、今ヤ吾人ノ取ルヘキ途ハ二者ノ一トナレリ、即チ戦争ヲ中止スルカ若クハ獨逸ノ金ニヨリ及ホサルル軍隊ノ腐敗ヲ喰止ムルカノ一之レナリ

(二)、而シテ露國ニ於テ右ノ問題以上更ニ危險ナルハ輸送問題ナリ今夏季中ニ輸送機關ノ修繕ヲ終了セスンハ冬季ニ

入リ穀類及軍需品ノ輸送ヲ如何ニスヘキヤ

(三)、若シ夫レ農民力下落セル貨幣又ハ不當ナル價格ヲ有スル貨物ト交換的ニ穀類ヲ手放スコトヲ欲セサルカ如キ現象ハ最モ警戒スヘキモノナリ云々

第一ハ現戦争及軍規ニ關スル問題ニシテ第二及第三ハ内政殊ニ糧食問題ニ關スルモノニシテ露國ノ現状ヲ最モ實際的ニ説明スルモノナリ、從テ「モスクワ」會議三日ニ亘ル演説モ多ク此等ノ問題ヲ論議セリ、而シテ此等ノ諸問題ヲ解決スルハ政府ノ權力ノ確立ヲ第一義トス、之レ「モスクワ」會議ニ於テ黨派の間隔ヲ接近セシメ中央權力ヲ樹立セシメントスル演説ノ少ナカラサリシ所以ナリ

#### (四)「モスクワ」會議ト露國ノ外政

外相「テレスチエンコ」ハ開會第二日ヨリ出席シタルモ何等演説スル所ナク一般ノ演説モ多ク國內ノ統一及軍規ノ振

肅等ヲ論シ外政ニ言及セルモノ比較的ニ少カリシ、首相「ケレンスキー」ノ演説モ外交ニ關スル部分ハ單ニ從來敵側ノ試ミタル單獨講和ノ計畫ハ國民ノ意思ニヨリ協商諸國ト提携シテ之ヲ擊退セルニ獨逸側ハ最近更ニ中立ナル羅馬法王ヲ介シテ講和ノ提議ヲナセルコト及今ヤ艱厄ニ苦ミツツアル羅馬尼ニシテ其國土ヲ去ラサルヘカラサル場合アルニ至ラハ露國ハ其國內ニ厚ク之ヲ迎フルノ餘裕充分ナルヲ述ヘタルニ過キス

又タ同會議ニ關シ外國政府ヨリ電報等ヲ發シタルハ北米合衆國大統領「ウイilson」カ左ノ趣旨ノ電報ヲ送リタルノミ、同電報ハ會長「ケレンスキー」ニヨリ會場ニ讀上ケラレ會衆喝采セリ

今ヤ「モスクワ」ニ會合シツツアル大會々員諸君ニ其友人タル合衆國々民ノ敬意ヲ表シ諸君カ終ニ其民主主義及自治ニ對スル内外ノ敵ヲ擊破スヘキヲ信シ重テ兩國ノ相一致セル目的ヲ達スルタメ露國政府ニ精神上及物質上各種ノ援助ヲナスヘキコトヲ聲明ス

斯ノ如ク「モスクワ」會議ハ外交ニ關スル論議甚タ少カリシモ同會議ニ於テ看過スヘカラサル一現象アリタリ、即チ

タリ

#### (五)「モスクワ」會議ト軍事

八月三十日「ノーウオユ、ウレミヤ」紙カ「モスクワ」會議ニ於ケル外交政策」ト題シ從來露都勞兵會ニ於テハ「國家」ナル語ヲ發言シ得サル程「インテルナシヨナリズム」ノ思想發展シ彼等ニ對シテハ露國ハ重要ナラス國際労働者連合ノ強固ヲ欲シタリシカ「モスクワ」會議ニ於テハ殆ント一般ニ國家ヲ主題トシテ論セラレタルハ確ニ「インテルナシヨナリズム」ノ敗北ヲ示スト云ヘルコト之レナリ、尤モ下院議長「ロヂヤンコ」ノ發表スヘカリシ第四議會決議文ニハ獨リ「インテルナシヨナリズム」ニ反對ヲ明言スルノミナラス外交ニ關シテ協商諸國ト提携シ開戰當初宣言セル目的ヲ達シ勝利ヲ以テ戦争ヲ終結セサルヘカサルヲ明言シアリタルモ時間ナカリシタメ會場ニ於テ發表セラレサリシ爲益々同會議ニ於ケル外交ニ關スル言論ヲ少ナカラシメタリ

尚ホ一般演説者カ現戦争ニ關シ同盟諸國トシテ論セル場合ニ舉ケタルハ主トシテ英仏伊羅馬尼等ニシテ最近戦争ニ參加セル北米合衆國ヲ舉ケタルモノアリシモ日本ニ言及セルモノハ殆ント之レナク、現時ノ露國ヨリ見タル日本ハ戦争ニ參加シ協商側ノ一員タルモ全ク戦争外ニ立テルノ感アリ

戦争及軍規ハ「モスクワ」會議ニ於ケル一大題目ナリキ、今ヤ露國々民カ戦争ニ倦怠シ其繼續ヲ欲セサルハ公然ノ事實ナルモ國際信義及國家的自尊心ハ單獨講和ヲ許ササルコトモ亦タ露國一般ニ認メラルル所ナルカ如シ、從テ「モスクワ」會議ニ於テハ戦争中止ヲ言明セルモノ一人モナク皆同盟國ト共ニ戦争ヲ繼續スルノ趣旨ヲ述ヘタリ(尤モ極端主義者ニシテ演説セルハ「リヤザノフ」一人ノミニシテ彼等ノ戦争ニ關スル演説ナシ)殊ニ下院議長「ロヂヤンコ」ノ發表セントセシ第四議會側決議ノ如キハ堂々ト開戰當時ノ意氣ヲ維持シ「協商諸國ト一致シ人類ノ將來ヲ保證スル最後ノ勝利ヲ得ル迄戦争ヲ繼續シ敵ノ侵入ヲ防キ露國ヲ救フヲ以テ現下ノ最大任務トス」ト主張セリ

然レトモ戦争ヲ繼續セントセハ最近ノ如キ軍規ノ頽廢ハ許スヘカラサルコトナリ、之レ「アレキセーフ」及「コルニコフ」兩將軍等ノ専ラ軍規振肅ヲ痛言セル所以ナリ、而シテ兩將軍等ノ意見ノ要旨ハ(一)獨リ戦線ノミナラス内地ニモ死刑ヲ復興スルコト(二)軍委員會其他軍隊内ニ於ケル民主々

義機關ノ行動ヲ制限スルコト(三)士官ノ待遇ヲ改善シ其威嚴ヲ保タシムルコト(四)戰線ト内地ト相連絡シ内地ニ於テハ國內一致シテ軍隊ニ軍器及糧食ヲ充分供給スルコト等ニアリテ軍人ノ見地トシテ頗ル妥當ナルカ如シ、又タ「コサツク」代表者及「ゲオルギー」騎兵協會代表者ノ如キハ一步進シテ純然タル軍人氣質ヲ代表シ「軍隊ハ政治ニ關與スヘカラス」、「軍隊内ノ委員會ノ如キハ之ヲ廢止スヘシ」等ヲ主張シ、之ニ反シ軍隊内ニアリテ民主々義ヲ代表スルモノハ「軍隊内ノ委員會等ハ今日ノ如キ時期ニ於テハ軍規ヲ助クルコト大ナリ」ト云フヲ名トシ其存續ノ必要ヲ述ヘタリ

右兩説ニ對スル露國現時ノ輿論ハ軍人派及下院議員ヲ中堅トスル所謂右黨ハ全然兩將軍等ノ意見ニ賛成シ勞兵會ヲ中堅トスル社會黨側即チ所謂左黨ハ全然前記後説ヲ支持シ戰線以外ニ於ケル死刑復興ノ如キモ亦タ反對ニシテ其對照ハ既ニ「モスクワ」會議會場ニ於テ顯ハレタリ

「ケレンスキー」其他政府ノモノハ軍規振肅ニ異議ナキモ軍人派ノ主張ヲ全部採用スルニ於テハ社會黨側ノ反抗ヲ招クヲ以テ兩者ノ中間ニアリテ逡巡決セサルノ態度アリ、加之軍規廢止ノ結果最近戰線ニ於ケル士官ノ損害率甚シク増

#### (戊)「モスクワ」會議ト「モスクワ」市

「モスクワ」市ハ露國ノ中心ニシテ露都ノ如ク非露國人ノ跋扈スル所ニアラス、又タ「モスクワ」市ハ革命ノ發端地ニアラサルヲ以テ露都ノ如ク過激分子多カラス、從テ一般ノ景況露都ニ比シ穩健ナルモ今回ノ「モスクワ」大會ノ趨勢ハ極端社會主義者ニ不利ノ兆アリタルヲ以テ同派ノモノハ之ニ妨害ヲ加ヘント罷業ヲ煽動シタルモ一般人心ハ之ニ動カサルコトナク、同市勞兵會モ布告ヲ發シ同會側ノ代表者ハ會議ニ於テ内政及外政ニ關スル其要求ヲ主張スヘキヲ以テ敢テ輕舉スルコトナク必要アラハ一致シテ起ツヘキモ大會開會中ニ罷業ヲナスコトナキ様戒メタルヲ以テ開會第一日ニ同市ニ行ハレタル工場、電車及料理店等ニ於ケル從業者ノ罷業モ翌日ハ全ク常ニ復シ同會期間ハ平穩ヲ保チ「マキシマリスト」ノ徒モ終ニ手ヲ下スニ由ナカリシカ如シ、之レ元ヨリ「モスクワ」市當局者及同市有力者ノ尽力並ニ「カサツク」兵警戒ノ効與テ力アランモ同市カ露都ニ比シテ穩健ナルハ其主因タルヘシ、之ニ依テ見ルニ「モスクワ」市カ憲法會議ノ開催地ヲ同地トナサントセルハ一理アル主張ト云フヘシ

加セルヲ以テ軍人派ハ之レ「ケレンスキー」カ所謂「兵士ノ權利」ニ關スル布告等ヲ發シ軍規ヲ破壞セルタメナリトテ漸次「ケレンスキー」ニ反對スルノ聲ヲ揚クルニ至レリ若シ夫レ露軍ノ戰況如何ニ就テハ「モスクワ」會議ニ於テハ「コルニロフ」將軍カ羅馬尼方面ノ狀況ヲ説明シ「リガ」灣方面ニシテ守ヲ失ナヘハ敵ノ露都ニ至ルノ路ハ開クヘシト云ヘルノ外別ニ發表セルモノナキモ同會議當時「アレキセーフ」將軍カ語レル所トシテ各新聞ニ記載スル所左ノ如シ(同會議中既ニ「リガ」陥落ノ風評アリタリ)

若シ不幸ニシテ「リガ」陥落センカ其精神上ニ及ホス影響ノ大ナルハ疑ナキモ兵略上ヨリ云ヘハ戰況ニ及ホス所少ナカルヘシ、「リガ」ノ陥落ハ露都ノ陥落ヲ意味スルモノニアラス、獨軍カ露都ニ達セントスルニハ秋季ノ降雨及沼湖地方ナル自然ノ障害ニ遭遇スヘシ、軍人ノ立場ヨリ云ヘハ「リガ」陥落ヨリモ羅馬尼方面ノ戰況ヲ重大問題トス、敵ノ方略ハ羅馬尼軍ヲ殲滅シ其國土ヲ全部占領シ羅馬尼ヲシテ單獨媾和ヲ締結セシムルカ若クハ其同盟國トナサントスルニアルヘシ、吾人ハ凡ユル外交上ノ手段ヲ以テ之ヲ妨害セサルヘカラス云々

尤モ「モスクワ」市ニ於テモ食料品販賣所前ニハ常ニ多少ノ人衆ヲ見ルハ糧食問題ハ同市ニ於テモ尚ホ解決セラレサルモノト見ルヘク、聞ク所ニ依レハ本年ノ農作ハ南露鐵道沿線地方ハ豊作ナルモ鐵道輸送混亂シ居リ、夏期水運ヲ利用シ得ル「ウオルガ」河沿岸地方ハ不作ナリト云フヲ以テ「ウオルガ」河支流ノ水路ヲ利用シ得ル「モスクワ」市モ鐵道輸送不整頓ノ影響ヲ被ルモノナルヘシ

#### (己)「モスクワ」會議ト其反響

「アレキセーフ」將軍「モスクワ」會議前「ウトロ、ロシイ」紙記者ニ答ヘテ曰ク

「モスクワ」會議ノ目的及意義ハ充分明瞭ナラサルモ聞クカ如クニハ國內ニ於ケル相反スル利害關係ヲシテ互ニ相調和セシメントスルニアリト云ヘハ其事業ハ善事ナリ、然レトモ國民相一致スルハ單ニ同會議ニ於テノミナラス全露國ニ於テ之ヲナササルヘカラス、吾人ハ只タ愛國ノ熱誠ニヨリ國家ヲ破滅ヨリ救ヒ得ヘシト又タ首相「ケレンスキー」ノ演說中ニモ同會議ハ此ノ國難ノ際政府及國民カ露國ノ中心タル「モスクワ」市ニ會合シ國家ノ現狀ニ關シ胸襟ヲ開テ相談シ國家ヲ破滅ヨリ救ハン

トスルニアリト云ヘルヲ以テ會議ノ性質ハ決定的若クハ裁決的ノモノニアラサルモ革命後露國內ニ起レル各種相異レル意見ヲ一堂ニ相會セシメ人心調和ニ貢獻セシメントスルニアリシハ疑ヲ容レス、而シテ前後三日ニ亘リ相異レル各種意見ノ代表者ヲシテ無事ニ演說セシメ終結シタルハ先ツ成功ト稱シテ可ナルヘキカ、現ニ同會議後各名士ノ評論トシテ新聞紙上ニ表ハルル所ハ何レモ各團體及黨派間ノ接近ニ資スル所アリシヲ語り、只タ實際問題トシテ如何ナル程度迄協調ノ実現セラルルヤヲ問題トスルノミ、就中從來常ニ温健派ト衝突セル社會黨中ノ「チエレチエリ」ノ言明ノ如キハ協同的態度ヲ示スモノトシテ重ンセラレツツアリ人或ハ從來相容レスシテ同會議ニ於テモ相決セサル全國ニ於ケル死刑復興問題、軍隊内ノ政治運動問題其他ヲ舉テ同會議ノ不成功ト云フモノアランモ之レ斯ノ如キ問題ヲ「モスクワ」會議ニ於テ解決セント期待セルモノノ謬ノミ、露國現下ノ不秩序ヲ恢復スルハ時日ト機會ヲ待タサルヘカラス

リテ目下「コルニロフ」將軍ハ「デクタツール」政治ニ關連シテ世人ヨリ「デクタツール」ノ候補者ニ數ヘラレツツアリ

四六四 九月十一日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

コルニロフ事件ニ対スルミリュウコフノ調停  
失敗ニ関シ報告ノ件

第八五七号

(九月十四日接受)

昨十日「ミリュウコフ」臨時政府ト「コルニロフ」ノ間ニ調停ヲ試ミタルモ總理ハ妥協ノ余地ナシトテ之ニ応セス立憲民主黨大臣ハ総テ内閣ヲ去リタルカ執政官設置ノ件ハ社會黨側反對ノタメ中止セラレ總理ハ勞兵会ニ対シ内閣組織ノ交渉中ナル趣又「クレゴフスキー」將軍ハ総司令官タルコトヲ辞退セリ情報ニ依レハ当地ヘ進軍中ノ「コルニロフ」軍ハ六個師団ヨリ成リ既ニ「ウイツァ」「ルガ」「サチナ」ニ到着シタルカ戦線司令官ノ大部分ハ「コルニロフ」側ニ立チ兵卒ハ大部政府側ニ傾ケル如シ「バルチック」海軍「クロンスタッド」勞兵会ハ政府援助ノ電報ヲ送レリ政府ハ陸軍大臣事務取扱「サブインコフ」ヲ露都總督ニ任命セ

行ハントセハ右ニ障害ヲ來シ左ニ蹉跌ヲ生スルノ國狀ナルヲ以テ露國ノ統一及秩序ハ言辞ヲ以テ能クスヘキニアラス力ヲ以テセサルヘカラスト云フハ目下露國ニ於テ一般ニ信セラルル所ナルカ如シ、其ノ最モ進メルハ所謂「デクタツール」政治ヲ實現セントスルモノナリ、之レ軍人派及右党ノ一部ニ贊成者アルカ如キモ露國有識者中ニハ「ナボレオン」時代ト現今ノ時代ニ差異アルコト及露國ハ仏國ノ如キ小國ニ非ルヲ以テ單純ナル「デクタツール」政治ノ困難ナルヲ知り最モ適當ナルハ堅固ナル政府ヲ建設スルト共ニ露國內ノ一地方特ニ露都ノ如キ不秩序ノ方面ヲ臨戰地帯又ハ戒嚴令ノ名ノ下ニ總軍司令官ノ支配ノ下ニ編入スルニアリトナスモノアリ、更ニ根本ニ遡ルモノハ露國ノ「アナルヒ」ハ國民一般ニ戰爭ニ倦怠セルコト及獨逸軍ノ精銳ニ敵シ難シトノ失望ニ原因スルモノトシ外部ノ力ヲ借テ其秩序ヲ恢復セントスルモノアリ

(因ニ云フ「モスクワ」會議出席ノタメ「コルニロフ」將軍ノ同市ニ到着スルヤ自動車二十餘臺ノ儀仗ヲ從ヘ堂々會場ニ乘込ミ市民私語シテ未來ノ「デクタツール」ナリト云ヒ首相「ケレンスキー」之ヲ喜ハサリシトノ噂アリ

四六五 九月十三日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

連合國ノコルニロフ事件調停申入ニ關スル公  
表書ノ件

第八六八号

(九月十六日接受)

往電第八五五号ニ關シ十二日附英國大使ノ通牒ニ依レハ同大使ヨリ外務大臣ニ往電第八五四号ノ通申入レタルニ対シ同大臣ハ大ニ連合側使臣ノ人道的感情ニ謝シタルカ本十二日ノ新聞中右申入レノ趣旨ニ対シ非難ヲ加ヘ居ルモノアルニ依リ英仏伊米四國大使ハ外相ノ招キニ依リ訪問ノ上右申入レノ全文ニ説明的前置ヲ附シテ新聞紙ニ發表センコトヲ求メタルニ外相ハ右申入文中ノ「メデイアイション」ナル語ハ輿論ヲシテ連合國使臣カ臨時政府ト「コルニロフ」將軍ヲ對等ノ地位ニ置クモノト思ハシムル虞アルニ依リ削除スル方然ルヘントコトナリシカ他ノ各使臣協議ノ暇ナカリシニ依リ右削除ニ同意シ置キタリトテ外相カ新聞紙ニ發表スヘキ「コムミニケ」ノ「テキスト」ヲ送付シ來レリ右「コムミニケ」ハ連合國使臣カ今回ノ事件ニ付露國ノ

内政ニ容喙ケ間敷コトヲ為スカ如ク伝フルハ誤ニテ同使臣ハ単ニ民主的大露国ニ対シ同情ノ念ニ驅ラレ流血ノ慘禍ヲ避ケンカ為メ「ボン、ゾフィス」ヲ為スヲ其義務ト思惟スル旨申出タルニ過キサル意味ヲ前置トシテ右申入条件中  
**Leur médiation** ノ二字ヲ削除シアリ

最初調停案相談ノ折本使ハ「コルニロフ」將軍成功ノ場合ニ於テモ本件ハ労兵会側ノ反感ヲ挑発スヘク自然内政干涉ノ非難ヲ招ク虞アラント感知セザルニアラザリシモ英仏羅馬尼使臣ハ勿論(右三国ハ「コルニロフ」事件ニ直接間接關係アルモノノ如シ)他ノ大公使モ勿論「コルニロフ」側ニシテ其ノ成功ヲ信シ居ルモノノ如ク本使ノミ单独行為ヲ執リ協調ヲ破ルモ面白カラズト思ヒ結局現政府ノ同意ヲ得ザルトキハ「コルニロフ」將軍ニ勸告ヲ發セザルコトナリタルニ付同意ヲ表シ置キタル所果然前記ノ通批評ヲ惹起シ又万一調停ニ関スル字句削除ノ件暴露スルトキハ一層非難高マルヘキニ付今後本件ニハ成ルヘク關係セザル様ニ注意スル筈将又今日迄「ケレムスキー」ト同心一体ノ感アリタル外務大臣「テレスチェンコ」ハ昨日辞表ヲ提出セリ他ニ理由アルヘキカ本件モ或ハ其ノ一タルヲ保セサルナリ

ヲ悲觀スルモノ尠カラズ、又常ニ「コルニロフ」ノ割拠ヲ支援セル形跡アル英國大使館側モ之カ為メ多少ノ影響ヲ受ケタルコトト察セラル

四六七 九月十四日 在ベトログラード(石坂少将ヨリ  
 田中参謀次長宛(電報))

#### コルニロフ事件ニ関シ報告ノ件

第一九五号 (九月十六日接受)

政府ハ依然「コルニイロフ」事件カ自己ノ全勝ヲ以テ終局ヲ告ケタルモノトナシアリ然レトモ内閣組織ノ進行ハ猶紛糾シ「ネクラソフ」及「サビンコフ」ハ首相ト相容レスシテ全然退閣セリ一方労兵会ハ「カデット」党ノ入閣ヲ拒ミアリ又政府ハ続イテ「コルニイロフ」方ノ檢舉ニ努メ「カレジン」大將モ逮捕セラレシカ一方「コルニイロフ」軍ノ騎兵团ヲ率キタル将官「クルイモフ」ハ露都ニ来リ首相ニ面会セル後自殺ヲ遂ケ又在露都哥薩克協會ハ首相ノ措置ニ不滿ヲ抱キ首相ノ威圧ニ応セサルト共ニ露都ノ哥薩克部隊ノ露都警護ノ任ヲ解キテ郷里ニ帰還セシメンコトヲ要求シ又民間ニ於テモ「ケレンスキー」ノ権謀の行為ニ対シ漸次反感ヲ醸成セル等「ケレンスキー」反對熱ノ増加ヲモ認ム

四六六 九月十三日 在ベトログラード(石坂少将ヨリ  
 田中参謀次長宛(電報))

#### コルニロフ事件ノ真相ニ関スル見解報告ノ件

第一九三号 (九月十六日接受)

過激社会派ノ暴動ノ風説ニ引続キ「コルニロフ」軍襲来ノ為メ擾乱ノ避クヘカラサルヲ予期シ前週末人心恟々タリシ露都ハ何等ノ危険モナク静穩ニ經過シ市民ハ漸ク安堵スルニ到レリ、今回ノ「コルニロフ」事件ニ付テハ報道区々ニシテ帰着スル処ナク殊ニ政府側ノ深酷ナル抑圧ト檢舉ノ為「コルニロフ」派ニ傾キアル諸新聞ハ発行ヲ停止セラレ上下一般ニ沈黙ヲ守ルカ為メ事件ノ真相捕ヘ難キモ「ケレンスキー」ノ人格及ヒ平素ノ惡辣ナル利己の行為ト「コルニロフ」ノ真摯ナル性格トニ鑑ミ且ツ別電高柳少将報告ノ「コルニイロフ」ノ弁明書ニ依ルモ「ケレンスキー」ハ自己ノ不決断ト労兵会ノ機先ヲ制セシ威嚇ノタメ最初執政官ヲ辞シ遂ニ「コルニロフ」トノ盟約ニ叛キテ利己の慾望ニ亘リタル結果「コルニロフ」ヲシテ其計畫ヲ瓦解セシメ反乱者トシテ窮地ニ陥ラシメタルカ如ク考ヘラル、民間ノ有力間ニハ失敗セル「コルニロフ」ノ境遇ニ同情シ其ノ前途

之ニ反シ過激派ノ勃興モ亦其度ヲ高メ発刊物ヲ利用シテ外国政府カ露西亜政府ニ干涉セルヲ称ヘ又「ウイボルグ」ニ於テ将官以下八名カ兵卒ノ為海ニ投セラレシ事実ハ彼等ノ煽動行為ニ依レルカ如ク其他露都ニ於ケル労働者ノ大部モ今や過激派ノ掌中ニアリテ彼等ハ「コルニイロフ」事件ニ際シ政府ノ与ヘタル武器ヲ擁シ陰然武装出動ヲ準備スル等時局ハ猶紛糾ノ予期スヘキモノ多シ  
 英國大使ハ前記過激派ノ内政干涉ニ関スル論難ヲ弁駁センカ為政府カ(?)トノ間ニ行ハレタル交渉ノ一切ヲ公表セシコトヲ申込メリ外相ハ之ニ対シ本文中ノ調停ノ二字ヲ削リ之ニ同意セリト

四六八 九月十五日 在露国内田大使ヨリ  
 本野外務大臣宛(電報))

#### コルニロフ事件ノ政治的影響ニ関シ報告ノ件

第八七四号 (九月十九日接受)

既電ノ通「コルニロフ」將軍モ愈々降参シ其計畫全然失敗ニ終リタルカ其結果トシテ露國今後ノ内治外交ニ及ホス影響ハ甚大ニシテ現ニ「ケレンスキー」ハ苦心慘慚漸ク一ノ新内閣ヲ組織シ得タルモ労兵会ノ一喝ニ会ヒ之ヲ放棄セザ

ルヲ得ザルコトナリ急ニ往電第八七三号ノ五人内閣ヲ組織セントシツツアルカ仮令之ヲ組織シ得タリトスルモ斯ノ如キ薄弱ナル閣員ヲ以テ此時局ヲ救済シ得ンコト思ヒモ依ラザル義ニシテ忽チ其覆滅ヲ見ルニ至ル可シ近來「ケレンスキー」ハ大人氣ヲ失ヒ其私行ヲサヘ攻撃セラレ居リタル矢先今回ノ謀叛事件ニモ其態度曖昧ノ点多カリシニ拘ラズ労兵会ハ共同ノ敵ニ当ランカ為ニ之ヲ援助シ之ヲ押立テタルモ敵將倒レタル今日トナリテハ彼等ノ要求ヲ容レザル限リ其位置ハ甚タ危殆ニ陥リタルモノノ如シ即チ「ケレンスキー」ハ謀叛鎮圧ノ功ニ依リ其位置ヲ強固ナラシムルコトヲ得ザリシノミカ却テ自己没落ノ因ヲ作りタルモノノ如シ之ニ反シ労兵会就中其過激派ハ七月中旬ノ失敗ニ依リ一時勢力失墜ノ觀アリタルモ其後各市及各地方ニ於ケル各種選挙ノ結果ハ却テ其黨員ノ当選者ヲ激増シ漸ク其勢力過重シ來リツツアルノ時ニ際シ今回ノ謀叛事件ハ彼等ニ意外ノ好機會ヲ与ヘ彼等ハ結束シテ立チ一挙之ヲ撲滅シタル結果愈々其勢力ヲ強大ナラシムルヲ得タリ而シテ戦線ニ於ケル軍委員及兵卒委員会ハ何レモ謀叛撲滅ニ莫大ノ功ヲ顯ハシタルヲ以テ彼等ヲ對敵行動ニ妨ケアリトナシ之ヲ廢止セン

トシタル折角ノ企圖ハ画餅ニ帰シ後方ニ於ケル死刑復活ト共ニ今後其廢止ヲ見ンコト殆ト絶望トナレリ  
他面当市ニ於ケル労働者ハ一旦取リ上ケラレタル兵器彈藥ヲ今回更ニ供給セラレ革命当初ノ勢力ヲ恢復シ得ルニ至レリ而シテ労兵会勢力復旧ノ結果トシテ彼等ハ現ニ内閣組織ヲ左右シ居ル外其ノ第一着手トシテ七月中旬事件關係者ノ解放ヲ要求シ居レリ  
哥薩克兵ヲ後援トシ回天ノ事業ヲナシ遂ケ得ヘキ位置ニ在リタル「コロニコフ」將軍カ早計ニモ輕拳シ失敗セルコトハ主戰派殊ニ立憲民主黨ニ對スル非常ノ打撃ニシテ意外ノ變局現出セラレサル限リ「ミリユーコフ」一派ハ当分何事ヲモナシ能ハサルヘク天下ハ愈々社會黨ニ占有セラレ寧ろ極端ノ主張行ハレ漸次戦争廢止乃至休戰狀態ヲ現出スルニ至ルヘク茲ニ於テ連合國對露國ノ關係ハ根本的變動ヲ生スルニ至ルヘシ

熟々革命以來ノ成行ヲ通覽スルトキハ外面上ニ於テハ各種ノ觀察ヲナシ得ルトスルモ詮スル所革命ト謂ヒ其ノ後ノ改変ト謂ヒ永續セル戦争ニ倦ミハテタル人心ヲ基礎トセル平和派ハ常ニ勝利ヲ博シ主戰派ハ「グチコフ」「ミリユーコ

フ」等ノ隱退ヲ初メトシ政變毎ニ其ノ勢力ヲ失ヒ遂ニ今回ノ謀叛事件ニ因リ容易ニ回復シ難キ大打撃ヲ招クニ至レリ換言スレハ英仏側カ各種ノ大官及社會黨員等ヲ當國ニ派遣シ露國ヲ鞭撻シテ同盟與國タル責務ヲ尽サシメント試ミタル努力ハ尽ク失敗シ却テ反對ノ結果ヲ生スルニ至リタルモノト見ルヲ得ヘシ

右今日迄ノ時局ニ對スル卑見御參考迄ニ

在欧米各大使ヘ転電セリ

四六九 九月十七日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

#### 戦局及ケレンスキート労兵会トノ關係等二関

#### シ米国大使内話ノ件

第八八六号

(九月十九日接受)

九月十六日米国大使カ本使ニ内話要領  
在華盛頓瑞典公使館カ其本国外務省ヲ經由シ諸種ノ情報ヲ独逸ニ電報シ居リタルコトハ(脱)ヲ求メタル由ニテ行々ハ瑞典モ戦争ニ参加セザルヲ得ザルコトナリ露國ハ西歐ト遮断セラレ其形勢益々悲觀ニ陥ルヘク戦争ハ今後一年ハ愚カ二三年永續スルモノト覚悟セザルヲ得ザルベキガ実ハ

連合諸國皆既ニ疲勞シ果テ支那暹羅ハ問題ト成ラズ殘ル処日米兩國アルノミナルガ近頃兩國間ニ盛ニ交驩行ハレ誠ニ結構ナリト述ヘ暗ニ將來日本カ歐洲戰場ニ出兵スルニ至ルヘキコトヲ期待シ居ルモノノ如ク見受ケタリ次ニ目下当地ノ時局ニ談及シ「ケレンスキー」ハ「アレキシエーフ」將軍ヲ參謀長ニ就任セシメタル行懸上是非共立憲民主黨員ヲ加ヘタル内閣ヲ組織セザルヲ得ザル破目ニ成リ居リ兩三日中ニ愈々右内閣ヲ發表セムトスルコトヲ聞込ミタル労兵会側ハ極力之ニ反對シ「クロンスタッド」ヨリ水兵及軍艦ヲ出來得ル限リ呼寄せ「ケレンスキー」カ愈々其計畫通実行スルトキハ直チニ反對行動ヲ開始スル準備ヲ為シ居リ形勢甚タ險惡ナリト述ヘ連合國側ハ此際「ケレンスキー」ヲ支持スル必要アリ労兵会ノ天下トナルコトハ連合國側ノ大打撃ナリ「ケレンスキー」ハ「コロニコフ」ノ謀叛ヲサヘ鎮靜シ得タリ彼ニシテ斷乎其態度ヲ堅持セハ軍隊ハ彼ニ味方シ労兵会ニ當ルヲ得ヘシ貴見如何トノ事ニテ「ケレンスキー」ニ共同勸告ヲ試ミタキ模様アリタルニ付本使ハ之ニ對シ此際一切干涉ケ間敷事ヲ避クルヲ得策トスル旨ヲ說キ労兵会ノ勢力觀ニ同大使ト本使トノ間ニ大差アルコトヲ述ヘ

漸クニシテ本使ノ説ニ同意セシメ得タリ本使ハ米大使カ立憲民主党側ノ依頼ヲ受ケ此説ヲ主張スルモノト推断シタルヲ以テ殊更右本使ノ主張ヲ力説シ置ケリ英國側ハ余程時局ヲ悲觀シ始メタルモノト見エ本月十四日ノ新聞ニ緊急広告ヲ出シ三日以内ニ番地電話番号職業及家族ノ員数等ヲ領事館ニ届出ヅヘキ旨ヲ当市在留同国民ニ命令シ一般ノ注意ヲ喚起シタルガ米國側モ十六日ノ新聞ニ國務省ノ訓令ニ依ル海外在留民ノ戸籍調査ヲ理由トシ略ホ同様ノ広告ヲ為シ又十五日夕英大使館附武官ヨリ当館武官宛ニテ外務大臣ト協商ノ結果連合國大公所館ニ護衛兵ヲ置クコトニナリタル旨ヲ告ケ十六日午後七名ノ兵來館シタルヲ以テ米大使ニ会见ノ折本件ニ談及シタル処同大使館ニモ同様七名來着シタル由ニテ同國側ノ廣告ハ時局ノ險惡ニ顧ミ万一ノ場合ニ応スル用意ナル旨ヲ語レリ又同大使ノ談ニ英大使ハ兩三日前ヨリ病臥中ナルカ同國在留民ハ二千余人モアリ其保護ニ頗ル困却シ居リ近來露國人ノ英國ニ對スル感情益々面白カラズ愈々勞兵会全盛ノ内閣トモナラバ英大使ノ立場ハ他ノ協商國側使臣ニ比シ幾層倍モ困難トナルヘク予テ当地ノ在勤ニ倦ミ心身共ニ頗ル弱リ居ル折柄トテ一層痛心シ居ルカ如シ

ト語レリ

在歐米各大使へ転電セリ

四七〇 九月十七日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

新政府ノ方針ニ関シ露国外相内話ノ件

第八八八号 至急(極秘) (九月十九日接受)

今十七日外務大臣ヲ訪ヒ時局ニ對シ説明ヲ求メタル処腹藏ナク開陳スヘシトテ大要左ノ通内話セリ委細ハ後電ニ譲ル一、五人内閣ハ大決心ヲ以テ勞兵会員ヲ全部除却シタル軍人、実業家、立憲民主党员等ヲ以テ新内閣ヲ組織シ來ル金曜若ハ土曜之ヲ發表ス可シ

二、若シ勞兵会ニシテ之ニ反抗スルトキハ直ニ之ヲ鎮圧スル手段ヲ昨日來實施シタルヲ以テ今日トナリテハ寧ロ彼等ノ反抗センコトヲ希望シ居ル次第ナリ之レ彼等ト惡因縁ヲ絶滅スル唯一ノ機會ナリ

三、新政府ハ成立後機會ヲ見計ヒ莫斯科ニ移転スルコトニ決シ既ニ各大公使館用ノ家屋ヲモ準備セシメ居レリ  
在歐米各大使ニ転電セリ

四七一 九月十八日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

勞兵会側トノ絶縁ノ決意ニ付露国外相談話ノ

件

第八九〇号(極秘) (九月二十一日接受)

往電第八八八号ニ関シ

外務大臣ハ先ツ「コルニロフ」事件ヨリ説キ起シテ曰ク同將軍ノ心事ハ我等一同ノ諒トスル処ニシテ実ハ「ケレンスキー」ニ於テ同將軍ノ申出ヲ是認シ之ヨリ其實行ニ着手シ頗廢セル軍紀ヲ一新シ將ニ面目ヲ改メントスル矢先同將軍輕率ノ為折角ノ努力ヲ水泡ニ帰セシメタリ如何ナル善事モ之ヲ行フコト巧ニシテ初メテ其光輝ヲ発ス可ク之ニ反シ之ヲ行フコト拙ニシテ其道ヲ誤ル時ハ却テ惡結果ヲ齎ラシ寧ロ之ヲ為サザリシニ如カザルナリ將軍ハ事實ニ之ヲ例証セリ若シ「クリモフ」將軍(「コルニロフ」カ派遣セル先鋒隊ヲ引率シ当地ヘ向ヒタル將軍)カ其兵ヲ率ヒテ当地ニ到着シタル後ニ於テ徐ニ事ヲ挙クルニ於テハ仮令臨時政府カ全部之ニ同意スルコト能ハザリシ場合ト雖モ尚且容易ニ其目的ヲ達シ得ヘカリシナリ蓋シ將軍ノ企圖セル挙ハ真ノ愛

國者カ悉ク之ヲ企圖セルモノナリ將軍ノ一敗ハ今後此等ノ成就ニ幾層倍ノ困難ヲ來シタルモ國家ハ之ヲ遂行セザル可カラス自分ハ閣下ニ腹藏ナク我等カ抱懷スル將來ノ計画ヲ語ル可シ

獨軍カ「リガ」ヲ陥レタルモ時既ニ冬季ニ近ク今ヤ降雨頻リナルヲ以テ敵軍カ当市ニ迫ランコト絶對ニ不可能ナリ故ニ今後ハ寧ロ重キヲ羅馬尼方面ニ置キ同國ノ全滅ヲ防止スルコトニ努ム可シ而シテ全体ノ策戰計画トシテ此冬季中ニ恰モ昨年來羅馬尼軍カ銳意其軍紀振作ニ努メ見事成効シタル例ニ倣ヒ露軍ノ軍紀ヲ振肅シ其軍容ヲ改ムルニ極力尽瘁シ來春ヲ期シ大挙敵軍ヲ破ルコトニ出ヅル積ナリ從テ連合諸國ノ援助努力ヲ請フコトアル可シ

而シテ内政上ニ於テハ愈々勞兵会ト絶縁シ彼等ヲ除却シタル内閣即チ軍人タル陸海軍大臣実業代表者及立憲民主党员等(特ニ莫斯科ノ「キシキン」ヲ指名セリ)ヲ以テ組織シ之ヲ來ル金曜若ハ土曜ニ發表ス可シ云々茲ニ於テ本使ハ其勇斷ハ寔ニ嘆稱ノ外ナキカ果シテ勞兵会側ニ於テ強烈ナル反抗ナキヤヲ確カメタル処大臣曰ク無論反抗ハ覺悟シ居レリ又之ヲ鎮圧シ得ンコト實ニ一大難事ナリ從テ甚大ナル覺

悟ト努力ヲ要スル次第ナルカ国家救済ノ為ニハ此外ニ途ナシ  
シ労兵会ニ対スル健全分子ノ反感ハ甚大ナリ政府ハ昨日  
来夫々準備スル処アルヲ以テ今日トナリテハ寧ロ彼等ノ  
奮起ヲ希望シ之ヲ機会ニ一挙 (once for all) 彼等ヲ掃蕩  
シ尽サンコトヲ希望スルモノナリ而シテ愈々我等ノ目的通  
ニ時局ノ発展ヲ見ル時ハ莫斯科ニ遷都ス可シ之レ決シテ敵  
ノ進撃ヲ避ケンカ為ニアラズシテ全然国是ノ必要ニ応セン  
カ為ナリ遷都ノ上ハ当市ノ人口ハ激減シ糧食問題等モ自然  
解決セラル可キニ依リ之ヲ勢力威信アル將軍ニ委ネ専ラ対  
敵防禦ノ見地ヨリシテ軍制ヲ施スコトナル可シ由来当市  
カ国都ニ適セザルコトハ衆論ノ一致スル処ナルヲ以テ国都  
ハ永遠ニ莫斯科ニ定メ当地ニ於ケルカ如キ労兵会乃至外国  
の雰囲気ヨリ脱セシムル積ニテ既ニ人ヲ派シ各大公使館用  
トシテ最宏大美麗ナル家屋ヲ搜索保留セシメ居リ移転一切  
ノ手配ハ無論政府ニ於テ之ヲ担任ス可シ今明日中ニハ出張  
者モ帰来シ報告スル日取トナリ居レリ云々当日外務大臣ハ  
頗ル決心シ居ル模様ニ見受ケラレ最真摯ニ其意見ヲ開陳シ  
タルニ付本使ハ之ヲ深謝シ露国有史以来未曾有ノ難局ニ当  
ル事ニ対シ深甚ナル同情ヲ表シ其成效ヲ祈ル旨ヲ告ケ引取

レリ  
右談話ニ対スル本使ノ感想及時局ニ関スル卑見ハ後電ヲ以  
テ追報スヘシ  
在欧米各大使へ転電セリ

四七二 九月十九日 海軍軍令部ヨリ  
外務省宛

コルニロフ事件ノ真相ニ関スル情報通報ノ件  
海謀報第一七〇〇号 (九月二十日接受)

大正六年九月十九日 海軍軍令部

露国情報 (十三日發)

(一) 信スヘキ筋ヨリ聞ク所ニ依レハ「コルニロフ」將軍弁  
明要旨左ノ如シト云フ

一、「ケレンスキー」ハ「コルニロフ」將軍ノ提出ニ係  
ル死刑復旧ヲ戦線後方ニ及ホス件等ノ条件ヲ実行セン  
ト欲スルモ労兵會議ノ圧迫ニ依リ其目的ヲ達シ難キコ  
トヲ「コ」將軍ニ対シ内報セリ

二、「ケレンスキー」ハ「コ」將軍ニ独裁官タルヘキヲ  
慫慂シタルニ將軍ハ平素ヨリ露国救済ノ為切ニ其必要  
ヲ認メ居タル故之ヲ承諾セリ

三、九月十一日九月十二日ヲ期シ露都過激派ハ再ヒ暴挙

ヲ起シ全政權ヲ掌握シ同時ニ独国ニ対シ休戦ヲ申込ム  
ヘシトノ確報ヲ得タリ

四、首相ハ露都騷擾セハ政府ハ信頼スヘキ軍隊ヲ有セザ  
ルヲ以テ「コ」將軍ニ赴援センコトヲ要求シ同將軍ハ  
予メ準備セリ

五、「コ」將軍ハ此際一挙ニシテ過激派ヲ撲滅シ完全ナ  
ル政府ヲ建テ以テ国家ヲ救済センカ為其軍隊ヲ派遣セ  
ルモノニシテ他意ナシ

(二) 右ノ弁明ハ「コ」將軍ノ性格ヨリ見テ真実ナラント判  
断セラル即チ「ケ」首相ハ労兵會議ニ圧迫セラレシ為一  
面ニハ「コ」將軍ニ救援ヲ求メツツ他面労兵會議トモ断  
絶セズ情勢ノ推移ヲ細心注意セル中「コ」將軍ノ愈々事  
ヲ拳クルニ至リ予想ニ反シテ労兵會議ノ態度強硬ナルヲ  
見忽チ「コ」將軍ト断絶シ之ヲ叛逆者トシテ処置スルニ  
至レルモノト察セラルルモノ内情纏綿タルモノアリテ情偽  
ノ真ヲ穿ツコト容易ナラズ

四七三 十月一日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛 (電報)

露国ノ情勢ニ関シ米国大使及ルーミア公使

ト会谈ノ件

第九二〇号

(十月六日接受)

昨三十日米大使来談世界未曾有ノ大戦乱ニ際会シ露国ノ大  
ヲ以テシテ今日ノ窮状ヲ呈ス実ニ悲惨ノ極ナリ露人ニシテ  
廉恥心アラハ悉ク愧死スヘキモノナリト称シ從來ニナク露  
国ノ非常識ヲ罵リタリ然ルニ兩三日来市内各所ニ貼紙ヲナ  
シ米国ニ於テ露人ニシテ革命黨員タル「アレキサンダー、  
ベルクマン」ナル者ヲ死刑ニ処セントスルニ付労働者兵卒  
ニ昨夜示威的集会ヲ勸告シタルコトアリ米大使ハ右檄文翻  
訳ヲ本使ニ示シ臨時政府ハ極力右集会ヲ防止スル筈ニ付格  
別ノ事ナカルヘキモ用心ノ為大使館ニハ目下五十名ノ兵士  
ト装甲自動車ヲ送越アリト語り多少其ノ感情ヲ害セラレ居  
リタルモノノ如シ又同大使ハ語ヲ継キ實ニ露人ノ心理状態  
程不可解ノモノナシ今後如何ナルコトニ立至ルヘキヤ予測  
シ難キモ万一单独講和又ハ対敵交歓ノ趣旨ヲ進メテ目下露  
国内ニ拘留シアル百五十万内外ノ捕虜ヲ送還スルカ如キコ  
トアラハ誠ニ由々敷大事ニシテ独塊ハ直ニ之ヲ西部方面ニ  
使用シ戦乱ヲシテ愈々長引カシムルコトナルヘシト述ヘ

今後米國ノ責任カ愈々加重シ來ルコトヲ大ニ自覺シ居レリ  
話次日本出兵ニモ及ヒタルヲ以テ本使ハ其ノ実行絶体ニ行  
ハレ難キヲ陳弁シ置ケリ

將又昨日羅馬尼公使ヲ訪問シタル所同公使ハ愈々時局ヲ悲  
觀シ連立内閣ハ其ノ趣旨トシテハ可ナルモ畢竟革命後ノ情  
態ヲ繰リ返スニ過キズシテ何等時局ノ救済ニ効果ナカルヘ  
シ目下開会中ノ民主會議ノ成行ニ対シ過激派ハ大不満足ニ  
付早晚又々一大騷擾ヲ惹起スヘク「ケレンスキー」モ今日  
ハ下リ坂トナリ之ニ反シ新陸軍大臣「ウエルホフスキー」  
ハ非常ノ野心家ニシテ意志モ鞏固ナリ結局「ケレンスキー」  
ニ代ルモノハ彼ナルヘシ現政府ノ無勢力ハ芬蘭議會開会ニ  
依リ証明セラレタリ（芬蘭議會ハ解散令ヲ無視シ屢々開会  
ヲ試ミタルモ是迄ハ政府之ヲ防止シ得タルモ九月二十八日  
遂ニ開会セリ）「ヘルシングフォルス」ハ独探ノ本部ナル  
ヲ以テ右開会ニ関シテハ独逸側ト交渉ナシトハ（脱）「ケ  
レンスキー」カ過日民主大会ニ為シタル演說中独逸海軍カ  
芬蘭灣ニ上陸ヲ企図シツツアリトノ言明ハ勿論略略的ニ之  
ヲ為シタルモノナルヘキモ近來同海軍ノ活動ハ注目ニ値ス  
ルモノナリ不日何等カノ事態ヲ現出スルニ至ルヘシ云々

「ウエルデロフスキー」トス但シ現在ノ陸軍海軍大臣ハ寧  
ロ社会派ト称スルヲ得ヘシ今回ノ新内閣中ニアル「カデッ  
ト」黨員及莫斯科商工会ノ代表者ハ何レモ有力ナルモノニ  
シテ前内閣ニ比スレハ中堅派ノ地位幾分向上セルノ傾向ヲ  
有ス之畢竟最近ノ民主大会ニ於テ社会派自ラ其不統一ト不  
熟練トヲ暴露シ從テ内閣組織會議ニ於テ社会派代表者ハ殆  
ト非社会派ノ要求ヲ容レタルノ結果ナリトス又準備議會ノ  
設置ニ関シテモ略中堅派ノ主張ヲ容レテ該議員ハ政府自ラ  
之ヲ選フコトトナリ且内閣ハ準備議會ニ対シ明文上ノ責任  
ヲ有セザルコトニ決セリ、然レトモ大臣ノ過半数殊ニ時局  
ニ關係多キ陸海軍大臣社会主義ノ者ナルノミナラズ準備議  
会総員四百五十名中非社会派ハ百二十名ノ予定ナルヲ以テ  
将来ノ政局ハ事實上依然社会派ノ手ニ落ツヘク只過激派ノ  
横暴ニ対シ反駁ノ力ヲ増加シ比較的中堅派ト妥協シテ政局  
ヲ穩健ニ導クノ望ナキニアラスト考フ

露西亞鐵道同盟罷工ハ本日（脱）見込ナリ

四七五 十月十九日

在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛（電報）

露国政府ノ「モスコ」遷都ニ關スル件

一三 露国革命關係二件 四七五 四七六

在欧米各大使へ転電セリ

四七四 十月九日

在ベトログラード石坂少將ヨリ  
田中參謀次長宛（電報）

露国新内閣ノ成立及前途ノ見通ニ關シ報告ノ  
件

九日発二一〇

（十月十七日接受）

露西亞ノ内閣ハ約一ヶ月ノ動揺ヲ経テ昨八日略第四回ノ新  
組織ヲ終リタリ  
新内閣ハ十五名中社会派ヨリ八名、非社会派ヨリ七名ニシ  
テ細別スレハ社会派ハ社会革命党ヨリ首相「ケレンスキー」  
交通大臣「リベロウスキー」農務大臣「マスロッフ」ノ三  
名社会民主党ヨリ内相兼郵電相「ニキチン」法相「マリ  
アントウイチ」労働大臣「グオズデフ」糧食相「プロコポ  
ウ」ノ四名及社会派無所属文部大臣「サラズキン」ニ  
シテ又非社会派ハ「カデット」党ヨリ首相代理者兼商工大  
臣「コノワロフ」財政大臣「キシユキン」宗務大臣「カ  
ルタシェッフ」會計検査院長「スミルノフ」ノ四名中堅派  
無所属ノ外務大臣「テレスチェンコ」及經濟會議々長「ト  
レチャコツフ」其他陸相「ウエルホフスキー」海軍大臣

第九七八号

（十月二十日接受）

仮政府ハ十七日ノ閣議ニ於テ「ベトログラード」カ戦争地  
帯ニ編入サレタル結果近々莫斯科へ遷都ノ事ニ決シ所要ノ  
訓令ヲ発シタル趣尚遷都事務長官「キシキン」ノ談トシテ  
新聞紙ノ報スル所ニ依レハ政府ハ明二十日開会ノ仮国会ニ  
対シ右遷都ノ宣言ヲ為シ仮国会カ「ベトログラード」莫斯  
科ノ何レニ其居ヲ定ムヘキヤヲ自カラ表明セムコトヲ求ム  
ヘク又外交団ハ政府ト共ニ移転スヘシト

四七六 十月二十日

在ベトログラード石坂少將ヨリ  
田中參謀次長宛（電報）

巴里連合會議列席ノ露国民主派代表者ニ対シ  
勞兵会ヨリ講和条件訓令ノ件

第二一七号

（十月二十四日接受）

勞兵会中央委員會ハ露国民主派ノ代表者トシテ巴里連合會  
議ニ出席スヘキ「スコベレフ」ニ次ノ如キ會議參列ノ方針  
ニ關スル訓令ヲ作成セリ曰ク新条約ハ戦争ノ目的ニ關スル  
問題ヲ宣明スルト共ニ無併合無賠償ニシテ且ツ民族の独立  
ノ基礎トスル平和ヲ主義トセザルヘカラズト又其各項ニ就  
キテ要旨ヲ述ブレバ、第一、独軍ハ必ス露国内ノ占領地ヲ



撤退スルコト及露国ハ波蘭「リトワニア」並ニ「ラトウイシユ」ニ完全ナル独立ヲ与フルコト、第二、「土領」「アルメニア」ノ完全ナル自治ヲ受ケ同地方官憲整備セラレ國際的保障ノ成立スルニ至ラハ独立權ヲ与フルコト、第三、「アルサス」「ローレン」ノ問題ハ同地住民ノ自由ナル投票ニ問ウテ決セラルヘク此審査ハ交戦軍同地ヲ撤退セル後地方官憲ニ依リ組織セラル、第四、白耳義ハ従前ノ境界ニ復シ其損害ハ國際資金ニ依リ賠償ス、第五、塞墨国ハ復旧セラレ且ツ國際資金ノ分割的補助ヲ受クヘク且ツ塞爾比ハ「アドリアチック」海ニ出口ヲ得ヘシ又「ボスニア」及「ヘルツェゴビナ」ハ自治トス、第六、バル幹ニ於ケル係争中ノ地方ハ一時自治ヲ受ク、第七、羅馬尼ハ「ドブルジャ」ヲ分離シテ旧國境ヲ恢復シ「ドブルジャ」ハ一時自治ヲ受クヘシ又羅馬尼ハ伯林條約ヲ実行シテ猶太人ノ平等權利ヲ承認スルコト、第八、奥匈國領内ノ伊太利州ハ自治トシ其主權ノ所屬ハ民意ニ問フコト、第九、独逸ノ殖民地ハ返還スルコト、第十、希臘及波斯ハ復旧セラルルコト、第十一、内海ニ向フ各海峡ヲ中立トシ蘇士及巴奈馬運河モ中立トスルコト、第十二、各交戦國ハ名目ノ如何ヲ問ハズ損害賠償

ヲ辞退スヘク又戰役中徴収金ヲ返却スヘシ、第十三、通商條約ハ講和條約ト分離シ且ツ各國ノ自由トスヘク又戰後各國カ經濟的封鎖或ハ單獨的税関條約ヲ締結スルヲ禁ジ各國等シク最惠國條款ノ權利ヲ享有ス、第十四、講和ハ國民代表機關ノ選舉スヘキ代表者ヨリ成ル講和會議ニ於テセラレ其講和條件ハ議會ノ協賛ヲ受クヘシ

四七七 十月三十日

在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

# 戦争継続ニ関スル外務大臣ノ国会演說報告ノ件

第一〇〇九号

(十一月三日接受)

十月二十九日仮国会ニ於ケル外務大臣演說要領  
露國民ハ総テノ國民ト均シク平和ヲ熱望シ居ルモ屈辱不利益ノ講和ヲ承認スルモノ一人モアラザルヘシ露国外交方針ハ本年五月声明(往電第四六〇号別電参照)セル如ク敵ニ對シ領土ヲ略取セズ賠償ヲ課セズ又敵ヲシテ我ニ對シ賠償ヲ免セシメ我領土ヲ還附セシムルト共ニ自定及独立ヲ欲スル民族ニ對シテハ其希望ヲ保障スル主義ヲ一体不可分トシテ施行スルニアリ独逸ハ戰略上ノ勝利者ニアラズ平和ヲ欲

ニ對スル各政党殊ニ「カデット」派ノ反駁ニアルカ如シ

## 其二

本二日ハ過激派カ政府顛覆及資本家征伐ノ名目ヲ以テ武装出動ヲ予定セシカタ迄ハ未タ其實現ヲ見ス或ハ近ク再挙ヲ図ルヤモ知レス抑モ「カルニロフ」事件ノ反動トシテ逐次勢力ヲ拡大シ来レル過激派ハ其後露都勞兵會ニ於テ大多數ヲ占メシノミナラス露都及莫斯科市會議員ノ多數党トナリ此等無責任者ノ市政ハ遂ニ都市ヲ無警察ノ状態ニ陥ラシメ又地方ニ於テモ彼等ノ横暴ハ益々其度ヲ進メ騷擾絶ヘサルノ有様ナリ然ルニ近時政府ノ威令ハ益々衰ヘ殊ニ露都ニ於テハ衛戍兵及労働者ノ大部カ過激派ノ手中ニアル為政府ハ殆ント無力ニシテ「コサツク」及土官生徒ノ如キモ擾乱ニ際シ鎮庄ノ任ヲ完ウシ得ルヤハ甚タ疑ハントス将来假令過激派ノ武装出動ヲ見ザルモ前記ノ状態ヲ打破スヘキ中心勢力ナキノミナラズ戦線ニ於ケル兵卒ノ非戰熱ハ増大シ防禦寒具及糧食ノ不準備ト相俟テ軍隊ノ腐敗ヲ来シ内地諸所ニ於テモ亦糧食ノ不足ヲ訴フルノ徵アルニ於テ露國ノ前途ニハ当分改善ノ光明ヲ認ムル能ハサルモノト謂フヘシ

セリ然ルニ独逸ノ非併合主義者ハ併合論者ノ西方發展策ヲ排斥シ東方ニ於ケル經濟的發展策ヲ取り波蘭及波羅的沿岸地方ヲ独立セシメ露國ヲ西方ヨリ遮斷シ以テ平和的ニ露國ヲ征服セントスルカ故ニ露國ノ利益ニ反ス吾人ハ之ト奮闘シ且ツ国内ノ工業ヲ振興セサル可ラス奥匈國南部ノ「スラブ」族ハ「セルビヤ」民ノ自由ノ發達ヲ希望スルヲ以テ露國ハ之ニ同情ヲ表明セサルヲ得ス巴里會議ニハ同盟國ノ共同作戰問題ノ外戰爭終止ノ問題モ議セラルヘシ露國民主主義カ同會議ニ參列セシムヘキ自己ノ代表者ニ宛テタル訓令中ニハ露國ノ利益ニ反スル点尠カラス即チ吾人(以下脱)

四七八 十一月二日

在ペトログラード石坂少将ヨリ  
田中參謀次長宛(電報)

# 過激派ノ武装蜂起ノ形勢ニ関シ報告ノ件

二日發其一

(十一日六日接受)

陸軍大臣「ウエルホフスキー」ハ軍事工業復員ノ所管問題ニ関シ他ノ閣員ト異論ヲ生シ辭表ヲ出セリ或ハ留任スヘシト言フ若シ辭職ノ場合ニハ後任ニハ北方方面軍司令官「チェレミソフ」擬セラルルモ其諾否疑ハシ外相「テレスチエンコ」モ亦辭職スヘシト伝ヘ其原因ハ議會ニ於ケル彼ノ演說

四七九 十一月五日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

巴里會議、伊国軍ノ敗北、独軍ノ芬蘭上陸説  
等ニ関シ露国外相談話ノ件

第一一一二号 (十一月二十一日接受)

昨四日露国外務大臣ト面談要領

(一)、巴里會議ニ関スル本使ノ問ニ対シ、成ルヘク本週末ニハ当地ヲ発シ巴里ニ向フ積リナリ無論巴里會議ハ戦争ノ方法ヲ議センカ為ニシテ其目的ヲ今更彼此論議センカ為ニ開カルルモノニアラズ換言スレハ戦争會議ニシテ平和會議ニアラズ敵トノ講和ハ敵ヨリ適當 (reasonable) ナル講和条件ヲ提出シ来ラザル限り開談セラルヘキモノニアラズ云々ト答ヘタルニ付本使ヨリ「スコベレフ」ハ同伴セザルヤト反問シタル処一定条件ノ下ニ同伴スベシ即チ同會議ニ於テ結局露国ヲ代表スルモノハ自分一人ニシテ「スコベレフ」カ同行シ如何ナル注文ヲ為スモ勝手ナルガ之ハ自分ト彼トノ關係ニ止マリ自分ノ同意ヲ得ザルモノハ同會議ニ提議スルコトヲ得ザルコトヲ彼ニ於テ承知スルコトヲ必要条件トス右条件ノ下ニ行クモ行カザル

シ自カラ慰メ居ルモノニアラザル乎ト思ハル

(二)、過日来独軍芬蘭上陸ノ風説行ハレ又独軍ハ冬季中唯一ノ交通線タル「トルマン」鉄道遮断ノ計画ヲナシ居ルトノ噂アリ北軍司令官ノ如キハ独軍カ北方面ニ更ニ大攻撃ヲ準備シ居ル旨公言シテ憚カラザルニ付其實否ヲ尋ネタル処独軍ニ於テ一時右様ノ計画ヲナシタル形跡ナキニアラザリシモ最早結氷ニ二三週間ヲ余スノミナルヲ以テ来春迄ハ格別ノコトナカルヘシト答ヘ又本使ノ問ニ対シ莫斯科移転ハ当分行ハレザルヘシト語リ当地ニ於テ何等危険ヲ感セラルルコトナキヤトノコトニ付先月来屢々過激シ居ラザル旨答ヘタル処過激派ハ実ニ無法極マル徒輩ナリトテ盛ニ之ヲ罵詈雑言シタル末然レトモ彼等ヲ一掃セザレハ到底治安秩序ヲ維持シ難ク其内何トカ始末ヲ附クヘシト電話セルモ余程持余シ居ルモノノ如クニ見受ケタリ

(四)、最後ニ本使ハ暫時ナリトモ外務大臣ノ当地不在ハ外交団一同ノ惜ム所ニシテ帰國ノ速ナランコトヲ切望シ居ルモ同大臣カ露国ヲ代表シテ巴里會議ニ出席セラルルコトハ協商各國ニ多大ノ安心ヲ与フルモノナリト述ヘタル処

モ彼ノ勝手ニシテ自分ノ関知スル所ニアラズト答ヘ「スコベレフ」ニ対シ殆ンド喧嘩腰ノ態度ヲ有スルモノノ如ク看取セリ如何ニ当国目下ノ情勢上已ムヲ得ザルコトトハ言ヘ重要ナル國際會議ニ列席スヘキ代表者間ノ關係最初ヨリ右様ノ次第ニテハ愈々開會中ニ於ケル兩者間ノ關係想像ニ余リアリ尤モ右条件ノ下ニ果シテ「スコベレフ」カ同行スルヤ又「スコベレフ」若クハ他ノ労兵会代表者ヲ同伴セズ外務大臣一人ノミ出席シ得ルヤ疑問ナリ

(二)、伊国大敗北ノコトニ談及シタル処実ニ大失敗ニシテ捕虜十八万砲千五百ヲ失ヒタル由露国方面ニ於テ一挙ニ斯ノ如キ大敗北ヲ見タルコトナシ先般西南軍大退却ノ際ニモ斯ノ如ク多数ノ砲ヲ奪ハレタルコトナク英国ヨリ供給セラレタル砲ハ僅ニ六門ヲ失ヒタルノミナルカ今回伊太利方面ニ於テハ英国ヨリ送リタル砲ノ殆ント全部ヲ失ヒタル由ニテ英国ハ露国ニ対シ余リ苦情ヲ唱フルコト能ハザル訳ナリトテ暗ニ予テ英国ヨリ苦情ヲ受ケ居レルコトヲ洩セリ之ヲ要スルニ伊軍大敗北ニ対スル当国朝野ノ感想ハ往電第一一一〇号ノ通りニテ当日外務大臣ノ容貌語氣中毫モ痛心憂慮ノ模様ナク却テ敗北仲間ノ出現ヲ歓迎

甚々満足ノ体ニテ本使ノ好意ヲ謝シ他ヨリモ同様ノ希望アル挨拶ニ接シ居リ衷心感謝ニ堪ヘザル次第ナルガ自分ハ飽迄戦争継続ノ素志ヲ以テ一貫スル考ナリ又會議終了次第直ニ帰國スル積ナリト答ヘタリ

在欧米各大使ハ転電セリ

四八〇 十一月六日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

陸相ノ单独講和論新聞ニ掲載セラレ問題化シタル件

(欠号) (十一月十日接受)

「オブシチエ、ジェラ」新聞ニ陸軍大臣カ本月二日ノ仮國會國防委員會秘密会ニ於テ露国ハ連合國ニ通告スルコトナク講和ヲ締結スルヲ要スト述ヘタル旨記載シ同大臣ヲ攻撃シテ発行禁止ヲ受ケ同大臣ハ直ニ該記事ヲ否認シタルモ本件ハ朝野ノ問題トナリ昨五日同大臣ハ病氣保養ノ名ノ下ニ休暇ヲ与ヘラレ事實辞任シタル為「マニコフスキー」將軍陸軍大臣代理ヲ命ゼラレタリ元来同大臣ハ大ニ労兵会側ト接近シ過激派ニ対スル政府ノ強圧政策ニ反対ヲ表シ特ニ外交方針ニ関シ外務大臣ト意見合ハズ政府ガ平和ニ向ツテ有

効ナル努力ヲ為スニアラザレバ軍紀ノ矯正ハ不可能ナリトノ説ヲ持シ居リシコトトテ仮国会ニ於テノ外相ノ演説以来一層両者意見ノ確執ヲ増長シ何レカ一方ノ辭職ヲ見ルニ至ルヘキ模様ナリシカ労兵會過激派ハ陸軍大臣ニシテ辭職セハ軍隊ハ支離滅裂スヘント唱ヘ居レリ一方同派ハ昨今再ヒ政府乗取運動ヲ開始シタルニ付同大臣ノ進退ハ頗ル注目ニ値ス

四八一 十一月七日 在モスコ―熊崎總領事代理ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

首都ニ於ケル過激派蜂起ノ報道ニ関シ報告ノ件

第一四四号 (十一月九日接受)

露都社会党過激派ハ十一月七日同地帝國銀行郵便電報電話局、停車場等ヲ占領シ同派囚徒ヲ解放シ又「カデット」党大臣ヲ捕縛シタリトノ報アリ当地労兵會モ不穩ノ徵アルヲ以テ当局者ハ防遏策考中  
在露大使ヘ電報セリ

四八二 十一月七日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

過激派ノ軍事革命委員會組織及同派勢力ノ浸

兵ヲ呼寄セントスルモ之ニ応スルモノ少ナク偶々応スルモノハ一々途中ニ於テ阻止セラレ居ルモノノ如シ故ニ過激派ノ態度ハ七日騷擾ノ際ト全然其趣ヲ異ニシ未タ何等暴挙ニ出デズ泰然自若タルノ感アルニ引換ヘ政府側ハ周章狼狽ヲ極メ居ルモノノ如シ  
在欧米各大使ヘ転電セリ

四八三 十一月八日 在ハルビン佐藤總領事ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

ハルビン労兵會ノ權力掌握企圖及在留民保護

ノ問題ニ関シ稟請ノ件

第一三七号 (十一月九日接受)

十一月七日露都発八日当地着新聞電報ニ依レハ過激社会党ハ電信ヲ占領スルニ至リタル由ノ処其ノ外「ケレンスキー」モ過激派ノ為ニ逮捕セラレタルヤノ電報某所ニ達シタル由ニテ七日夜当地労兵會々議ニ於テハ会長「リウチン」ノ提案ニヨリ総テノ權力ヲ労兵會ニ収メ鐵道長官ヲ更迭スル議案ヲ提出シタルモ同會議ニ於テ多數ヲ得ルニ至ラザリシ処今八日ニ至リ「リウチン」ハ武力ヲ以テシテモ自己ノ主張ヲ貫徹セントシ着々計画中ノ由ナルガ午後八時ニ至リ革命

透狀況ニ関シ報告ノ件

第一一二二号 (十一月二十八日接受)

過激派カ仮国会ヨリ脱退シタル以来当市守備兵ハ勿論戦線ニ於ケル軍隊間ニモ手ヲ伸ハシ其勢力ヲ扶殖シ着々政權引受準備ヲ廻ラセルニ当リ仮国会ハ討論決議ニ是レ日モ足ラザル有様ナリシガ過激派ハ遂ニ軍事革命委員會ナルモノヲ組織シ四日当市各所ニ示威的演説會ヲ開キ翌五日露都軍管区司令官ニ迫リ一切ノ軍事命令ハ同委員會ノ承認ヲ要スル旨申込ミ次テ政府ニ対シ政權引渡ヲ要求シ盛ニ土地占有戦争中止ヲ主張シ居レリ

一方仮国会ハ昨六日、一〇ニ対スル一二三ノ多数ヲ以テ政府ヲ信任スルト同時ニ政府ニ対シ速ニ平和及土地問題ノ解決ニ着手センコトヲ勸告スル旨決議シ総理大臣ハ仮国会ニ臨ミ過激派ヲ以テ国家ニ対スル叛逆者ト見做シ臨時政府ハ仮令倒ルルトモ政權ヲ過激派ニ引渡サザル旨ヲ宣言シ政界又復混亂ニ陥リ居ルモ目下ノ処過激派優勢ノ地位ヲ占メ既ニ「ケレンスキー」ヲ捕ヘ政府ヲ乗取リタル旨ノ風説アルモ未タ確報ニ接セズ之ヲ要スルニ過激派ノ手廻シ行居居リ当地守備兵ノ大多數ハ過激派ニ加担シ政府カ戦線ヨリ軍

以来屢々革命党ノ為ニ逮捕セラレシコトアル元警察署長「アルノルド」中佐及鐵道憲兵隊長「ゴルゴツパ」大佐兩人当領事館ノ保護ヲ求メ来リ数日間館内ニ宿泊ヲ許サレタキ旨密使ヲ以テ懇願シ来レリ本官ハ同人等ト年来ノ交誼モアリ無下ニ拒絶スルコト情誼ニ於テ忍ビザル所アルヲ以テ当館内ニ宿泊セシムルコト丈ケハ避ケタキモ彼等ヲ日本旅館ニ残シ成ルヘク人目ニ懸ラザル様庇護スルコトニ致度キ考ナリ右ノ有様ニテ形勢何時逼迫セズトモ限ラザルニ付往電第一三五号及機密第四九号拙信稟請ノ警官増派ノ件至急御決裁願上度シ尚今後ノ形勢ニ関シテハ時々電稟致スヘキモ理由ナキ強奪、監禁等頻出シ在留外国人ノ生命財産ノ危殆ニ瀕スルニ至ラバ或ハ在留民保護ノ為緊急ノ処置ヲ執ララル様願出ヅルヤモ計リ難シ此義予メ御講究願上度シ  
露都、北京、天津ヘ転電セリ

(長春經由九日前九、五〇)

四八四 十一月八日 在モスコ―古谷中佐ヨリ  
上原參謀總長宛(電報)

モスコ―ニ於ケル過激派ノ動靜ニ関シ報告ノ件

a2 露古電第二号

(十一月九日接受)

昨七日以来露都ニ起レル過激派ノ出動ニ就テハ公衆通信絶ノ為メ未タ確報ナシ莫斯科ニ於ケル同派ノ活動ハ未タ甚タシク積極的ナラサルモ同派兵卒ヲ以テ郵便及電信局占領ヲ試ミントシ協會自動車庫ヲ占領セントシ又檄文ヲ撒布シ又露都過激派ノ成効ヲ誇張布告シ市民殊ニ兵卒労働者ヲ煽動シツアリ本日社会党新聞休刊原因不明  
軍管司令官ハ市民鎮撫及兵卒諭示ノ訓示ヲ出シ、「クレムリン」帝國銀行郵便電信局其他重要建築物ハ軍隊ニテ保護セラル。一般ノ希望ハ政府側ニ存シ当地労兵会モ寧ロ過激派ニ賛同セス軍隊ハ比較的健全ナル分子多キヲ以テ直ニ露都ノ如キ紛擾ヲ来ササルヘシト觀察セラル要スルニ目下当地方ニ於ケル現政府ノ權威ハ確実ニシテ秩序概シテ維持セラレツツアリ(八日正午迄ノ情况)

四八五 十一月八日

在モスコ熊崎総領事代理ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

モスコニ於ケル過激派ノ動向ニ関シ報告ノ

件

第一四五号

(十一月十日接受)

往電第一四四号ニ関シ当労兵会ハ曩ニ其ノ幹部カ過激派ニ変更セラレタル以来露都労兵会ト呼応シ政府奪取ヲ標榜シ不穩ノ態度ヲ示シ来レカ十一月七日ニハ当地郵便電信局ヲ占領セムトシ其ノ揚言ノ実行ヲ開始シタルニ依リ軍管区司令官ハ暴動防遏ニ関スル軍令ヲ発シ市会モ亦過激派ノ行動ヲ排斥シ仮政府ヲ擁護スヘキ旨ヲ決議セリ当地軍隊ハ目下官公衙銀行等ヲ警護シ居ルモ其ノ一部ニハ過激派ニ属(脱)向背確カナラス過激派ハ引続キ人心煽動ニ力メ居リ労働派以外ニ属スル新聞社ヲ占領シ其ノ発行ヲ差止メタリ但シ市内別ニ異状ナク一般ニ落着キ居レリ  
在露大使へ電報セリ

四八六 十一月八日

在モスコ熊崎総領事代理ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

首都ニ於ケル革命ノ状況ニ関シ報告ノ件

第一四六号

(十一月十日接受)

十一月七日夜当地市会ニ於ケル露都状況ニ関スル市長報告演説ニ拠レハ同地過激派ハ郵便、電信、電話局停車場銀行等ヲ占領シタル外一時閑員三名ヲ監禁シ兵士ノ一部ハ武力ヲ以テ予備議會ヲ散会セシメ又政府ニ対シ政權ヲ讓ラサル

ニ於テハ要塞及軍艦ヨリ砲撃ヲ加フヘシト威嚇シ居ルモ政府ハ要求ニ応シ特別軍隊ニ警護セラレ居リ(「キシキン」ヲ露都総督ニ任シタル由但シ「ケレンスキー」ハ前線ニ向ヒ居ル趣ナリ)又市内多少射撃行ハレ若干ノ負傷者アリタルモ重大ナル事故ナカリシト  
在露大使へ郵報セリ

四八七 十一月八日

在ハルビン佐藤総領事ヨリ  
本野外務大臣宛

ハルビンニ於ケル警察力恢復ノ措置方要請ニ

関シ英米領事ヨリ東支鐵道長官宛公文写送付

ノ件

附屬書

十月三十日附英國領事ヨリ東支鐵道長官宛公文写  
機密第五〇号 (十一月十四日接受)

大正六年十一月八日

在哈爾賓總領事 佐藤 尚武(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

哈爾賓市内秩序維持ニ関シ英國及ヒ米國各領事ヨリ

東支鐵道長官宛公文写送付ノ件

哈爾賓市内秩序維持ニ関シ在当地各國領事協議ノ上東支鉄

道長官ホールワットニ対シ申出ヅル所有之候次第ニ就テハ客月三十一日附機密第四九号(哈爾賓市内秩序維持ニ関シ稟請ノ件)拙信ヲ以テ申進置候処今般英、米各領事ヨリ東支鐵道長官宛公文写別紙ノ通り送越候ニ付右写御参考迄ニ及送付候 敬具

註 米國領事ノ公文写省略

(附屬書)

十月三十日附英國領事ヨリ東支鐵道長官宛公文寫  
ハルビンニ於ケル警察力恢復ノ措置方要請ノ件

Harbin, 30th October, 1917.

Sir,

My attention has been drawn by the members of the British community to the inadequate police protection which is now afforded in Harbin.

There have been numerous cases of armed robbery and murder during the past few months and latterly these have been getting more frequent. Immunity from arrest and punishment has made the robbers bolder and to ordinary highway robbery they are now beginning to add organized attacks on banks, business houses and private dwellings.

A few days ago there was a determined attack upon the Yokohama Specie Bank which was only beaten off owing to the presence on the premises of a sufficient number of armed defenders.

The agent of the Hongkong and Shanghai Bank has represented to me the danger in which his bank stands from a similar attack, owing to its lonely position and to the lack of any efficient means of protection on the premises.

The manager of the Produce Export Company has also represented to me the possibility of an attack upon the Company's factory where it is common knowledge that large quantities of preserved food-stuffs are stored.

I have therefore the honour to request Your Excellency to take measures to restore the efficiency of the Harbin police who were in the past, I understand, entirely able to maintain order and protect individual life and property, by restoring them to their full numbers and placing them under the control of efficient and experienced officers.

I have etc.

(sgd.) Harold Porter  
Consul.

His Excellency  
Lieutenant-General D. L. Horwath,  
Administrator, The Chinese Eastern Railway,  
Harbin, China.

四八八 十一月八日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

露都労兵会ハ十一月七日政府諸官衛其他主要  
機關及營造物ヲ占領シテ首都ノ支配權ヲ掌握  
シタル件

第一一二四号 (十一月二十三日接受)

露都労兵会ハ当地守備兵及「クロンシタット」水兵ヲ味方  
トシ昨七日政府諸官衛、仮国会、軍管区司令部、帝國銀  
行、各停車場及電信電話局等ヲ占領シ確實ニ当地ノ支配權  
ヲ其掌中ニ収メ全国ニ向テ臨時政府ノ滅落ヲ報シ速ニ新政  
府ヲ組織シ平和ヲ提議シ土地ヲ農民ニ分配シ生産機關ヲ勞  
働者ノ管理ニ帰セシムヘキヲ宣言セリ、臨時政府ハ同日無  
線電信ヲ以テ全国民ニ對シ支持ヲ求メ又自衛ノ為メ戰線軍  
隊ノ一部ニ召還命令ヲ發シタル趣ナルカ当地守備兵ハ殆ン  
ト全部過激派ニ与シ且当地哥薩克連隊ハ過激派ニ敵對セズ

又「ケレンスキー」ヲ支持セザル旨声明セリ「ケレンスキ  
ー」ハ戰線ニ向ケ出發シタリトノ風説アルモ其所在確ナラ  
ズ冬宮ハ昨夜射撃ヲ受ケ今朝占領セラレタリ露都労兵会ハ  
自ラ市内ノ秩序ヲ維持スヘキ旨布告ヲ發シ治安維持ニ任シ  
ツツアリ冬宮占領以外格別變事ナシ  
在欧米各大使ヘ転電セリ

四八九 十一月八日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

労兵会ノ首都支配狀況ニ關スル新聞報道報告

ノ件

第一一二六号 (十一月二十三日接受)

往電第一一二四号ニ關シ新聞紙報道左ノ通

(一) 昨七日ノ労兵会大会ニ於テ「レーニン」「ジノビエフ」  
「トロツキー」等ノ過激派ノ領袖ハ社会革命ノ端緒ハ今  
日ヨリ始マル旨ヲ述ヘ総テノ政權ヲ労兵会ニ掌握スヘキ  
コトヲ力説シタルカ社会民主及社会革命党ニ属スル會員  
ハ之ニ反対シテ会場ヲ退出セリ

(二) 仮政府ハ「キシュケン」ヲ露都軍知事ニ任シ防禦ニ当  
ラシメタルモ政府ニ忠実ナリシハ女決死隊及士官学校生

一三 露国革命關係一件 四八九 四九〇

徒ノミナリ其ノ一部ハ冬宮ノ周圍ニ於テ過激派ニ對シタ  
刻ヨリ漸次砲火ヲ交ヘタルガ「クロンスタット」ヨリ過  
激派ノ驅逐艦及小型巡洋艦到着シ対岸ノ旧砲台モ空砲ヲ  
發シ威嚇シタル為露都軍管区司令部ハ午後七時四十分、  
冬宮ハ八日午前三時過激派ニ占領セラレタリ  
(三) 「レーニン」ヲ総理トシ「トロツキー」ヲ外務大臣ト  
スル内閣出現ノ報アルモ未タ公表セラレズ目下冬宮内ニ  
臨時委員ヲ設ケテ執務シツツアリ  
(四) 銀行一切閉店シ居ルモ市内比較的静穩ニシテ今朝来銃  
声ヲ聞カズ鉄道交通何等故障ナシ尚立憲民主党ハ今回ノ  
事變ニ抗議スル張札ヲナセリ

四九〇 十一月八日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

在留民保護ニ關スル外交団會議開催並ケレン  
スキー其他ノ消息ニ付報告ノ件

第一一二七号 (十一月二十二日接受)

当地在留外国臣民保護ノ件ニ關シ今八日外交団會議ヲ開キ  
タルモ何等決スル所ナク各自適宜ノ処置ヲ執ルコトトシ散  
会セリ同會議ニ於テ得タル情報ニ拠レハ「ケレンスキー」

ハ軍隊ヲ呼寄セ来ルト称シ冬宮ヲ脱出シ已ニ大本營ニ到達シタル趣又外務大臣「テレスチエンコ」ハ愈々「ペトロパウロスク」要塞内ニ拘禁セラレ居ル由。外交団中過激派ヨリ何等交渉ニ接シタルモノ未タ一人モナシ英國大使ハ当分帰国ヲ見合セタリ

四九一 十一月九日 在ハルビン佐藤総領事ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

露都労兵会ノ首都占領ニ関スル報道ニ付報告  
ノ件

第一四〇号 (十一月十日接受)

十一月八日露都発新聞電報ニ依レハ露都労兵会ハ十一月五日五名ノ委員ヨリ成ル Revolutionary Committee ヲ組織シ内三名ハ「マキシマリスト」二名ハ社会革命党ヨリ選出セラレタルカ同七日「ケレンスキー」ハ臨時政府ノ決議トシテ全力ヲ挙げケテ「マキシマリスト」ノ行動ヲ抑制シ且右委員ノ逮捕ヲ宣言シタルカ八日ニ至リ右委員会ハ却テ臨時政府ノ大臣ノ一部ヲ逮捕シ且ツ臨時政府ノ消滅及權力ノ掌握ヲ宣言スルニ至リ臨時政府ハ又 General Bagratout 以下四名ニ政權全部ヲ委嘱セリ労兵会執行委員其他多数ノ社会

ナキ旨ヲ宣言シタリ 在露大使へ郵報セリ

四九三 十一月九日 在モスコ熊崎総領事代理ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

首都ニ於ケル過激派ノ動靜ニ関シ労兵会機関  
紙報道ノ件

第一四九号 (十一月十一日接受)

当地労兵会機関紙ノ報道ニ依レハ十一月八日冬宮過激派ニ占領セラレ仮政府閣員ハ首相及一二人ヲ除ク外前以テ Petrushevlovck 要塞ニ拘禁セラレタリト又別報ニ依ルニ過激派ハ新政府ヲ組織中ナリト  
在露大使へ電報セリ

四九四 十一月九日 在ペトログラード石坂少将ヨリ  
上原参謀総長宛(電報)

露国ハ戦争継続不可能ナルコト及日本ノ慎重  
ナル態度ヲ希望スル旨具申ノ件

九日発第二三五号 (十一月二十三日接受)

露国ノ現状ヲ觀察スルニ内地ノ紊乱ハ極度ニ達シ經濟工業及輸送上モ亦戦争継続ノ余力ナキノミナラス戦線内地トモ一般ニ戦ニ疲レ殆ント戦意ナク今ヤ平和ノ熱望ハ個人的ヨ

党ハ「マキシマリスト」ノ行動ニ反対ナリト云フ尚ホ露都電報通信社ハ革命委員会ノ武力的占領ニ遭ヒタル為メ通信不可能トナリタル由

(長春經由十一月九日後九、一〇)

四九二 十一月九日 在モスコ熊崎総領事代理ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

首都ニ於ケル革命状況ニ関スル件  
第一四八号 (十一月十日接受)

其後ノ露都情報左ノ通

過激派ハ十一月七日午前十時冬宮ヲ襲撃シタルモ撃退セラレタリト右ニ関シ仮政府ハ過激派ノ暴挙ヲ難シ大本營ノ援兵来着ヲ期待シツツアルニ付軍隊及国民ハ暴徒ニ對抗ス(脱)ニ電報セリ哥薩克軍隊ノ大部分ハ仮政府ニ忠誠ノ意ヲ表セルモ内第一、第四及第十四連隊代表者ハ市内ノ保安ニ当ルモ労兵会ニ対シ積極的行動ヲ取ラサル旨ヲ宣言セリ二十五日開会ノ筈ナリシ第二回全露各地労兵農連合大会ハ会内ノ穩健派之ニ反対シ退散シタル為開会ニ至ラス右ニ関シ労兵会中央委員会ハ各地ニ電報ヲ発シテ本次ノ大会ハ過激派ノミノ集合ナルヲ以テ各地労兵会ハ之ニ対シ何等責任

リ進ンテ社会的ニ公言セラレ政府当局者又之ヲ看過スル能ハサルノ形勢ニ推移シ僅カニ協商列国ノ監視鼓舞ニ依リ外観ヲ支持シ得タルニ過キス然ルニ最近社会過激派ノ勢力増進ハ遂ニ今回ノ如キ政權ノ強奪トナリ彼等自称主權者ハ民主的平和ノ促進ヲ天下ニ宣言スルニ至レリ但中堅派ハ固ヨリ社会党穩和派ノ大部並ニ露都以外ノ多数都市団体中ニハ過激派ノ権力下ニ服セサルモノアルヲ以テ此等ハ一時ノ氣勢ニ圧セラレテ逡巡シアル軍隊中ノ健全分子ト相提携シテ早晚政權ノ恢復ヲ図ルヤモ知レス從テ過激派カ主權強奪ノ瞬時ヲ利用シテ媾和運動ヲ徹底スルハ或ハ不可能ナルヘシト雖將來ノ主權者ノ何者タルニ論ナク露国ノ大勢ハ最早ヤ連合国ト共ニ戦争ヲ継続スルコト能ハザルヘキノミナラズ或ハ急転シテ单独媾和ニ著手スルコトナキヲ保セズ而シテ此際日本帝國ノ取ルヘキ方策ヲ案ズルニ此機会ヲ利用シ露国ノ背後ヲ脅威シ或ハ侵略スル事容易ナリト雖既ニ衰弱セル露国ヲ驅テ戦争ヲ継続セシムルコトハ事実上不可能ニシテ寧ロ露国社会ノ大部ヨリ長キ怨恨ヲ招クノ結果ヲ来シ而カモ歐洲戦ノ大勢ハ極東ニ於ケル帝國陸軍ノ出動ニ依リ影響ヲ受クルコト少キヲ以テ結局日本ノ軍事的行動ニ依リ得

タル利益ヲ確實ニ戦後ニ保全スルコト甚タ難キノ憂アリ故ニ露西亜自身又ハ独逸カ露軍及在露百五十万ノ独塊捕虜等ヲ利用シテ極東或ハ印度方面ニ出動ヲ企図セザル限りハ仮令英米等ノ勸告ヲ受クルモ日本ハ宣戦ノ大義ト東洋平和擁護ノ主旨ニ依リ慎重ナル態度ヲ持シ濫リニ行動ニ出デザルヲ適當ナリト信ズ但露西亜ト協商列国トノ間ニ絶縁ヲ来サバ我在露使臣モ亦之ト進退ヲ共ニスヘキ場合アルヲ以テ予メ在露日本武官ノ区処ヲ諱シ置クノ必要アリ小官ノ考ニテハ露羅兩國ノ駐在武官撤退ト共ニ此内ヨリ瑞典及西歐羅巴諸国ニ謀報機関ヲ残置シ露西亜ニ対スル謀報ヲ継続セシムル要アリト信ス右意見具申ス

四九五 十一月九日

在英國珍田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

露都ハ軍事革命委員會ノ手中ニ在ル旨及新政  
府ハ即時講和ヲ提議スベキ旨等レーニン自ラ  
ソウィエト會議ニ於テ演説シタル趣ノ報道ニ  
付報告ノ件

No. 474.

(十一月十日接受)

Telegram from official Petrograd telegraph agen-

cy now under occupation by armed naval detachment under orders of Maximalist Revolutionary Committee states substantially as follows:

In consequence of bloodless coup d'état 7/11 afternoon, Petrograd is in hands of military Revolutionary Committee of Soviet. Provisional Government no longer exist. Some Ministers arrested and Preliminary Parliament dissolved. New Government will propose immediate peace, hand land to peasants and summon constituent assembly. Lenin himself addressed Soviet in above sense.

British Admiralty wireless station announced 8/11 that proclamation radiated through wireless of Russian Government states that Garrison and Proletariat of Petrograd have deposed Kersensky Government and that Soviet has issued order to armies inviting them to send 25000 delegates to express will of soldiers at reunion of Soviet.

Chinda

四九六 十一月九日

在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

日常事務ニ関スル新政府トノ接触ニ付請訓ノ件

第一一三二号ノ三(註)

(十一月二十二日接受)

(a) 新政府確立ノ上ハ早晚(脱、承認問題?)現出シ来ルヘキモ其ノ解決如何ハ時局ノ發展ヲ待チ更ニ具申スヘキ処日常事務ニ関シ新政府ト接触ヲ必要トスヘキ案件何時發生スルコトナキヲ保シ難キニ付本使ノ裁量ヲ以テ之ニ対応スルコトヲ許可セラレタキコト本件ニ関シテハ特ニ折返シ何分ノ義御回訓ヲ請フ

右参考ノ為在欧米各大使ニ転電セリ

註 内田大使来電第一一三二号ノ一及二ヲ省略ス

四九七

十一月十日

在英國珍田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

過激派統制下ノ露都電報ニ依リ報道セラルル

革命ノ其ノ後ノ状況ニ関シ報告ノ件

第四七六号

(十一月十一日接受)

露都ヨリノ電報ハ引続キ「ボルシェウイッキ」ノ配下ニ在ル「オフィシアル、ペトログラード、テレグラフ」ヨリ路透社宛ノモノノミニテ各新聞社特派員等他ノ方面ヨリハ一切電報不着当地露国大使館モ同様ノ趣ニテ同国代理大使ハ露都発電報ハ皆「マキシマリスト」ノ「コントロール」ス

一三 露国革命關係一件 四九七

ル所ト想像セラルル旨ヲ公表セリ昨夜来ノ露都電報ヲ綜合スレハ左ノ通

(一) 十一月七日ノ全露「ソビエット」大会ハ会衆五百六十ニ達シ(二)政府ノ組織(三)平和並戦争(四)憲法議會ノ三点研究実施ノ任務ヲ以テ「レーニン」「デノビエフ」「トロツキ」其他七名ヨリ成ル委員會(レボリューションナリー、コミチー)ヲ組織シタルカ十一月八日朝左ノ宣言ヲ發表セリ

(a) 統治ノ全權ハ今ヤ「ソビエット」ノ掌握スル所ニシテ地方各「ソビエット」ハ新革命政府ニ連絡ヲ保ツヘシ「アグリカルチュラル、コミチー」委員ニシテ是迄投獄セラレタルモノヲ解放シ之ニ代テ彼等ヲ処罰セシモノヲ捕縛ス

(b) 「ケレンスキー」ノ復活セシ死刑ヲ廢シ戦線ニ於ケル政治運動ノ完全ナル自由ヲ恢復シ之ニ関連シテ是迄処罰セラレ居ル革命兵士及將校ヲ解放ス

(c) 旧政府大臣「コノバロフ」「キシキン」「テレスチエンコ」「マラントウイチ」「ニキチン」其他ハ逮捕セラレ「ケレンスキー」ハ戦地ニ向ケ逃走セルカ同人逮捕

五六七

方ニ全力ヲ尽スヘキヲ軍隊ニ命シ若シ之ニ与ミスルモ  
ノアラバ謀叛ヲ以テ処罰セラルヘシ

(二) 「レボリューションナリー、コミチー」ハ鉄道停車場並  
政府官造物等ヲ占領スヘキ旨引続キ命令ヲ発シ居ルカ此  
等命令ハ兵士及「レッド、ガード」ニ依リ迅速ニ遂行セ  
ラレ居リ冬宮ハ既ニ彼等ノ占有ニ帰シ「クロンスタッド」  
ヨリノ派遣兵士ハ続々「ペトログラード」ニ到着革命派  
巡洋艦「ヤーロラ」ハ水雷艇ト共ニ「ニコラス」橋附近  
ニ繫留中

右露都騷擾ニ関シ「ウキルトン」ハ本日ノ「タイムス」紙  
上ニ左ノ通説述セリ

革命ノ当初政府ハ「ソビエット」ノ強要ニ依リ所謂無併合  
無賠償ノ主義ヲ採用スルノ已ムヲ得サリシカ其後「デモク  
ラチック、ピース」ノ運動ノ失敗ニ拘ラズ政府ニ対スル  
「ソビエット」ノ威圧ハ毫モ減退セザリシモノノ如ク数日  
前「ケレンスキー」ハ米国新聞ニ向テ露国ハ既ニ worn  
out セリトノ宣言ヲナスニ至レリ而カモ此等政府側ノ讓歩  
ハ何等極端派ノ満足ヲ買フコト能ハザリシノミナラス露都  
ニ於ケル食料品及燃料ノ危機ハ冬季ノ切迫ト共ニ愈々急ヲ

告クルニ至レリ今回騷擾ノ近因ハ「ケレンスキー」カ初メ  
「ボルシェウィック」懷柔ノ為任用セル「ベルハウスキー」  
ヲ免黜セルモノノ如ク極端「ソビエット」派ハ之ヲ以テ  
「カウンター、レヴォリューション」ノ端緒ナリト解スル  
ニ至リ茲ニ「ボルシェウィック」派政府乗取計画実現ノ期  
ヲ促進セリ「レーニン」ハ七月革命失敗後再ヒ独逸ニ遊ヒ  
タルガ今日彼ハ公然自ラ騷擾指揮ノ任ニ當リ居レリ戦線軍  
隊ニ及ホス影響ニ付テハ未タ何等ノ報道ナキモ国内竝戦地  
ニ於ケル諸種ノ革命団体カ露都ノ顧使ニ甘ズルヤ疑ハシ  
キノミナラズ「ボルシェウィック」ガ単独講和ヲ議スルニ  
足ルヘキ十分ノ權威ヲ把握シ得ヘキヤモ疑問ナリ翻テ国民  
多数ノ意向ヲ見ルニ若シ彼等ニシテ意思発表ノ自由アラバ  
彼等ハ単独講和ヲ不可トスルニ躊躇セザルヘシ蓋彼等ハ連  
合与国ノ承認ナキ講和ハ即チ独逸ニ降服スルヲ意味スルモ  
ノナルコトヲ知レバナリ云々

將又十一月九日「アムステルダム」電報ハ独逸側露都情報  
トシテ北方戦線ノ露軍ハ「マキシマリスト」運動ニ加担シ  
其ノ一部ハ露都ニ向ケ進行中ニシテ「ケレンスキー」モ捕  
縛セラレタル旨ヲ報シ尚又(不明)着「ハパランダ」電報

四九九 十一月十日

在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

ケレンスキーノ軍隊首都ニ向ケ進撃中トノ諜  
報報告ノ件

第一一三七号

(十一月二十二日接受)

本十日当館諜報者ノ齎セル報道ニヨレハ「ケレンスキー」  
ノ率ユル哥薩克其他ノ軍隊ハ「ガツチナ」及「クラスノエ  
セロ」附近ニ於テ露都勞兵会革命委員会ノ派遣セル軍隊ヲ  
破リ当地ヘ進軍中ナリ

五〇〇 十一月十一日

在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

勞農政府成立シタルモ相当反對派アリテ政情  
混沌タルコト並勞農政府ノ運命ハケレンスキ  
ー軍ノ威力及態度ニ懸ル旨報告ノ件

第一一三八号

(十一月二十一日接受)

露国政変ニ付テハ既電ノ通ナルカ尚大体ノ形勢ヲ綜合スル  
ニ過激派ハ軍事革命委員会ヲシテ兵力ヲ以テ臨時政府ヲ顛  
覆セシムルト同時ニ本月七日開会サレタル第二回全露勞兵  
大会ノ名ヲ以テ国民委員会ナル名称ノ下ニ「レーニン」初  
メ過激派ヨリ成ル勞農政府ヲ組織シタルカ同政府ハ直ニ非

トシテ芬蘭露都間ノ鉄道電線不通有力ナル独逸艦隊「ヘル  
シングフアールス」沖ニ游弋中ナル旨ヲ報セルカ一方「ゼ  
ネバ」電報トシテ当地ニ伝ヘラル所ニ拠レハ哥薩克ハ独立  
共和国ヲ宣言シタル由ナリ

往電第四七四号末段 to send 25000 トアルハ to send a  
delegate from 25000 ノ誤記ナリ

四九八 十一月十日<sup>(?)</sup>  
在モスコ<sup>(?)</sup>熊崎総領事代理ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

モスコ<sup>(?)</sup>ニ於テ保安委員会側ト革命委員会側  
トノ間ニ衝突起リタル件

第一五一号

(十一月十九日接受)

莫斯科市会、農兵会其他団体及陸軍官憲等代表者ヨリ成立  
セル当地保安委員会ノ要請ニ依リ軍管区司令官ハ戒嚴令ヲ  
施行シ過激派ノ組織セル革命軍委員会ニ降伏ヲ要求シタル  
モ応セサリシ趣ニテ十一月九日夜以来両者ノ間ニ衝突起リ  
多少戦死者アリ爾来銃声止マス市街往来殆ント杜絶、物情  
騒然タリ  
在露大使ヘ郵報セリ



社会党ヨリ否認セラルノミナラズ社会民主労働党穩和派、社会革命党其他ノ社会党亦之ヲ承認セズ当地ノ労働者及守備隊ハ全部軍事革命委員会ノ命ニ服スルニ拘ラズ戦線軍隊ノ態度明瞭ナラズ哥薩克軍ノ多数ハ労働政府ヲ否認セリ当地ヨリ脱出シテ大本营ニ赴キタル「ケレンスキー」ハ哥薩克其他ノ兵ヲ率ヒ労働政府ヲ倒スカ為当地ニ向ツテ進軍シ目下「ガツチナ」「ツアルスコエセロ」ニ在リ一方社会党穩和派ヲ中心トスル仮国会派労兵農民両会本部「ペトログラード」市会等ノ諸団体ハ祖国革命救済委員会ナルモノヲ組織シ過激派排斥運動ヲ始メ過激派ヲ除ケル社会党内閣組織ヲ主張セル非社会民主労働党中ノ万国社会主義者ハ過激派ヲ包含セル社会党連合内閣組織ノ必要ヲ説キ極力運動中ナリ立憲民主党ヲ中心トスル非社会党ハ未タ直接事件ニ関係スルニ至ラズ形勢ヲ傍觀シ時機ヲ見テ活動スルノ準備中ナルカ如シ

形勢右ノ通ナルヲ以テ労働政府ノ運命ハ先ツ第一ニ「ケレンスキー」ノ率ユル軍隊ノ威力ト態度如何ニ懸レルモノト言フヘク若シ「ケレンスキー」ニシテ労働政府ノ軍ヲ擊破シ当市ニ侵入スルトキハ同政府ハ立所ニ倒ルヘク之ニ反シ

候次第モ有之旁見聞事項中其重要ナルモノヲ據撫シテ別冊報告書ヲ作成シ御参考迄差進候 敬具

大正六年十一月十五日 滯京中

南滿洲鐵道株式会社

理事 川 上 俊 彦 (印)

外務大臣子爵法学博士 本野一郎殿

(附屬書)

露國視察報告

- 一、露國將來ノ政体
- 二、鐵道輸送ノ状態
- 三、財政ノ状態
- 四、無併合無償金主義及露獨單獨講和説
- 五、日本ノ露國背面攻撃説
- 六、露國社會黨ノ活動現況
- 七、陸海軍隊將兵ノ意向及兵役應募者ノ心理状態
- 八、食糧供給一斑
- 九、地方農民ノ態度
- 十、土地問題ニ對スル輿論
- 十一、露國ノ對英感情

「ケレンスキー」軍ヲ喰止メ得タリトスルモ果シテ過激派ノ自称スル如ク戦線軍隊ノ大部分カ軍事革命委員会ノ下ニ立ツニ至ルヘキヤ不明ナリ

五〇一 十一月十五日 川上満鉄理事ヨリ  
本野外務大臣宛

露国視察報告書提出ノ件

附屬書 右報告書

本職儀曩ニ閣下ヨリ露國民間視察ノ御依頼ヲ受ケ本年六月中旬宮川外務屬ト共ニ東京ヲ出発シ爾来十月下旬歸京ニ至ル迄往復四箇月有余ニ亘リ西伯利鐵道沿線一帶、欧露各地方(ペトログラード)及莫斯科ヲ中心トスル北部及中部地方、「ニージニー、ノヴゴロド」、「カザン」、「サマラ」、「サラトフ」等諸市ノ散在スル「ウォルガ」河沿岸一帶、「キエフ」及「ハリコフ」兩市ヲ中心トスル南部地方即小露西亜又ハ「ウクライナ」及高加索方面ヲ巡歴シ其行程実ニ六千有余里ニ達セリ其間露國ノ朝野ニ於ケル幾多知名ノ人士ニ面接シ見聞セシコロ鮮少ナラズ候右視察ノ結果ニ関シテハ大体既ニ閣下及外交調査会ニ対シ口頭ニテ陳述致置候得共兼テ政務局長ヨリ特ニ注意ヲ要スヘキ点ニ付御垂示ヲ受ケ居

十二、日露同盟ニ對スル一般感想竝東清鐵道讓渡ニ關スル感想

十三、結論

一、露國ノ將來ノ政體

今回ノ露國革命ハ一朝ニシテ成就セルカ如キ觀アルモ其ノ由來スルトコロ遠ク千八百二十五年ノ往時ニ在リ同年十二月貴族出身近衛將校ノ一部カ專制政府顛覆及共和政府樹立ノタメ叛亂ヲ企テタル以來革命運動ハ漸次西欧哲學及社會主義ニ心酔セル中流智識階級ノ手ニ移リテ農民、労働者及軍隊ノ啓發煽動トナリ千八百八十一年三月「アレクサンドル」二世ノ暗殺トナリ千九百五年十月「ニコライ」二世ノ獨裁權ヲ奪ヒ今回遂ニ其ノ退位ヲ餘儀ナカラシメタリ而シテ今回ノ革命運動カ斯克モ迅速ニ成功ヲ見タルハ開戦以來政府ノ失政ニ對スル國民一般ノ不平ト多年自由主義者ノ間ニ横溢セル革命熱ハ一時ニ勃發シ政府ヲシテ全ク孤立ノ地位ニ陥ラシメタルカ爲ナリ

各派社會黨ハ多年革命ニ就テ畫策スル所アリ今回之カ原動力トナリテ活動シ全國到ル處ニ労兵會又ハ農民代表者會議ヲ組織シテ盛ニ革命ノ確立ヲ謀リ將來共和制ヲ主張スヘキ

ハ論ヲ俟タサルナリ、由來穩健ヲ以テ稱セラレタル「ミリ  
ユコフ」一派ノ立憲民主黨ハ四月七日ノ總會ヲ以テ露國ハ  
議會制度ノ民主共和國タルヘキコトヲ決議シ、「グチコフ」  
一派ノ十月黨ハ六月十七日共和自由黨ト改稱スル等現今凡  
ソ政黨ト稱セラルルモノ一トシテ共和派ナラサルハナシ又  
八月中旬ヲ以テ終了セル全國市會議員選舉ノ如キ當選議員  
ノ大多數ハ社會黨ニ屬シ立憲民主黨及其他ニ屬スルモノ甚  
タ少ク王黨ト稱スルモノ一名モナシト云フ全國村會議員選  
舉ノ結果ハ本職露都ヲ出發スル迄未タ不明ナリシモ是レ亦  
社會黨ノ勝利ニ歸セリト信スヘキ理由アルヲ以テ若シ此ノ  
勢ヲ以テ進マシカ來ルヘキ憲法會議ハ悉ク民主的分子ヲ以  
テ充サルルコト疑ヒナカルヘシ果シテ然ラハ露國ハ將來ト  
モ共和國タルヘキハ殆ント確定ノ事實ト云フモ敢テ過言ニ  
アラサルヘシ

復辟運動ノ如キモ必シモ皆無ト云フヘカラス現ニ「コルニ  
ーロフ」將軍ノ舉兵ハ素ト愛國ノ精神ニ出テ毫モ革命政府  
ヲ顛覆セントスルカ如キ意思ナカリシモ王黨中ノ一派ハ此  
機ヲ利用シ復辟ヲ策セル者アリシト云フ假政府カ九月十四  
日急遽共和ヲ宣言セルハ社會黨ノ要求ヲ容レタルニ依ルヘ

之カ選舉ヲ行ヒ十月十三日召集スヘキ旨發表セラレタレト  
モ其後準備事業ノ進捗セサルタメ選舉ヲ十一月二十五日ニ  
召集ヲ十二月十一日ニ延期スル旨發表セラレタリ而シテ選  
舉法ハ八月二日ヲ以テ其ノ第一類ヲ發布シ九月末之カ第二  
類ヲ發布ヲ終リタレハ多分豫定ノ期日ニ選舉及召集ヲ行フ  
コトナルヘシ又之カ開設ノ場所ニツキテハ從來莫斯科説  
ト「ペトログラド」説トアリテ兩々相下ラサリシカ假政府  
ハ五月十九日ノ宣言ヲ以テ「ペトログラド」ニ召集スヘキ  
旨ヲ公表シ同時ニ舊國會議事堂ヲ以テ之カ議場ニ充ル準備  
ヲナシタルモ今後ノ戰況如何ニヨリテハ「ペトログラド」  
ニ召集シ能ハサル場合ナシトセサルヘシ

## 二、鐵道輸送ノ状態

地積百平方露里ニ對シ英國ハ十二露里、仏國ハ九露里半ノ  
鐵道ヲ有スルモ露國ハ僅ニ一露里十分ノ三ノ鐵道ヲ有スル  
ノミナレハ平時ニ於テスラ既ニ輸送力ノ不充分ナル國ナリ  
然ルニ開戦ト同時ニ輸送貨物ノ数量頓ニ増加シ益輸送力ノ  
缺乏ヲ感シ而シテ車輛ノ使用過激ナルニ從ヒ其ノ破損ノ程  
度モ著シク増大シ昨年末來輸送力ノ減退更ニ一層甚シキヲ  
加フルニ至レリ加フルニ全露國ノ下級鐵道従事員ハ革命後

ケレトモ一ハ之ニヨリテ復辟運動ヲ法律ニ違反スルモノタ  
ラシメ以テ將來此ノ如キ運動ノ起ルヲ阻止セントセシニ外  
ナラサルヘシ「コルニーロフ」將軍ノ舉兵一敗地ニ塗レシ  
ヲ見ルモ軍隊カ如何ニ民主化セシカヲ推知スルヲ得ヘク兵  
卒ハ將校ノ命令ヲ奉セス將校却テ兵卒委員會ノ決議ニ服從  
セサルヘカラサルカ如キ狀態ヲ呈セリ復辟運動モ唯一ノ武  
器タル軍隊ニ依頼スルコト能ハスンハ到底成功スルコト覺  
東ナカルヘシ況ンヤ「ロマノフ」家三百年ノ統治ニ戀々タ  
ルモノハ帝權ノ威ヲ借りテ專恣暴橫唯一身一家ノ榮華ニ没  
頭セル少數ノ官僚及宮廷派ノ一部貴族ニ過キサルノミナラ  
ス古來君主神聖説ヲ唱ヘテ君主獨裁權ノ發達ヲ助成セル露  
國希臘正教會ノ權威モ亦今日ノ如ク揚ラサルニ於テヲヤ  
此ノ如ク露國將來ノ政體ニ對スル輿論ハ共和ニ一致シ他ニ  
異議ナキモ今回革命運動ヲ共ニセル社會黨ト非社會黨トノ  
間ニ外交及内政上大ニ政見ノ相容レサルモノアリ從テ兩者  
ノ軋轢ハ今後容易ニ解決ヲ告クルコトナカルヘク露國ハ更  
ニ渾沌ノ狀態ヲ重ネタル末時局收拾ノタメ或ハ一時執政官  
ノ出現ヲ必要トスル時機到來スルヤモ知ルヘカラス

憲法議會ハ最初六月二十七日日附假政府令ヲ以テ九月三十日

社會主義ノ影響ヲ受ケ労働時間ヲ八時間ニ短縮シ（其労働  
能率ハ従前ノ二分ノ一ニ減セシト云フ）給料ノ増加ヲ要求  
シ獨リ上長ノ命令ニ服從セサルノミナラス動モスレハ同盟  
罷業ヲ爲サント威嚇シ形勢頗ル穩ナラス其結果トシテ鐵道  
業務ハ無規律不統一トナリ輸送力ハ急轉直下ノ勢ヲ以テ減  
退シツツアリ

今機關車ノ破損程度ヲ見ルニ昨年三月ヨリ五月ニ至ル三ヶ  
月間ノ破損數三千三百六十四輛ニシテ全數ノ一割七分ナリ  
シカ本年度同期ニ於ケル破損數ハ四千五百九十三輛ニ達シ  
テ全數ノ二割二分ニ當リ昨年ノ破損高ニ比シ三割六分ノ増  
加ヲ呈セリ

現時露國ニ於ケル機關車ノ總數ハ約式萬輛ト稱セラルルモ  
本年七月ノ調査ニ依レハ其ノ内既ニ破損使用ニ適セサルモ  
ノ約七千輛即全數ノ約三割五分ニ達セリト云フ  
又客貨車ノ破損數ハ昨年末迄ハ未タ全數ノ五分ニ達セサリ  
シカ本年ニ入り其數著シク増加シ既ニ全數ノ一割以上ニ達  
セリ、本年七月ノ調査ニ依ルニ現時露國ニ於ケル客貨車ノ  
總數ハ約五十六萬輛（内客車ハ其二十分ノ一）ニシテ其内  
既ニ破損使用スヘカラサルモノ約六萬六千輛即總數ノ一割

二分アリト云フ

貨車ノ破損ハ機關車ニ比スレハ其ノ程度稍低シト雖機關車ノ数充分ナルニ非サレハ貨車如何ニ多数アリト雖之ヲ利用スルノ途ナシ機關車一輛ノ牽引力ヲ貨車二十五輛トスレハ此割合以上如何ニ多数ノ貨車アリト雖モ輸送上何等ノ効果アルコトナシ本年八月一日現在ノ調査ニ依レハ機關車破損ノ爲使用セラレサル貨車ノ数ハ全数ノ五分ノ一(約十萬輛)ニ達セリト云フ

千九百十七年度上半期ノ輸送貨物中鐵道線路上ニ於テ停滯シタル数量ハ前年度同半期ニ比シ千二百萬噸増加シ其内石炭ノミニテモ百六十萬噸アリト云フ而シテ機關車ノ速力ハ最初一昼夜平均七拾式露里ナリシカ此頃ニ至リ既ニ平均五十二露里迄ニ減少セリト云ヘハ列車一時間ノ平均速力ハ僅ニ二露里強ニ過キサルナリ之ヲ要スルニ鐵道輸送力ノ減退ヲ醸セシ原因種々アルヘシト雖其内最重要ナルモノヲ舉クレハ第一、鐵道行政ノ中央集権的ニ過キタル爲事務ノ敏活ヲ缺キシコト第二、鐵道工場ノ不備ナリシコト第三、車輛ヲ濫用セシコト第四、倉庫ノ缺乏ニ由リ貨物ヲ收容スルニ場所ナク急速ニ貨車ヲ解放スル能ハサリシコト第五、下

ムノ諸國ニ於テスラ戰費ノ支弁ニ窮シツツアル有様ナレハ租税制度不完全ニシテ商工業モ亦未タ幼稚ノ域ニ在ルヲ免カレサル露國ニ於テハ一層財政上ノ困難ヲ感スヘキハ寧ロ當然ノ結果ナリト云ハサルヲ得サルナリ加フルニ露國ハ戰爭ノ當初ニ於テ禁酒令ヲ發布シ其効果ハ國家ニ取り裨益鮮少ナラサリシト雖之カ爲財政上非常ナル打撃ヲ蒙ムルニ至レリ由來酒精專賣ヨリ生セシ收入ハ老簡年八億留ノ多キニ達セシヲ以テ國家ハ開戰後三年間ニ亘リ二十四億留ノ財源ヲ失ヒタリ而シテ禁酒令ノ実施ハ恰モ戰爭中最モ多大ノ財源ヲ要スルノ時機ニ際會セシニ由リ財政上困難ヲ感スルコト一層切実ナルモノアリ千九百十七年度露國歳入豫算ハ經常臨時兩部ヲ合セ總計四拾億餘留ニシテ前年度ニ比シ五億三千五百萬餘留ノ増加ナリ該豫算ノ編成ニ際シ酒精專賣ノ撤廢ニ由リ生シタル減収八億留ヲ補充センカ爲三年來各種ノ直接税及間接税ヲ増徴シ漸ク其目的ヲ達シ得ルニ至リタルモ莫大無比ノ戰費ニ至リテハ之ヲ支弁スヘキ財源ナク單ニ公債ト紙幣ヲ發行スルノ外他ニ方法ヲ發見スルコト能ハサルニ至レリ

公債ハ内外債共ニ之ヲ募集シ外債ハ本年六月迄ニ七十五億

級従事員ノ勞力著シク減退セシコト等ニ過キサルカ如シ今回ノ大戰ニ際シ露國ハ軍事上ノ必要トハ云ヘ比較的多数ノ機關車ヲ戰線方面即戰闘地域ニ集中專屬セシメ而シテ之カ使用ノ必要ナキ場合ニ該地域以外ノ線路ニ之ヲ流用スルノ途ヲ講セサリシモ亦確ニ輸送力ヲ減退セシメタル一原因ナリト説ク者アリ其レ或ハ然ラン鐵道輸送力ノ減退ハ其影響スルトコロ頗ル重大ナルモノアリテ第一ニ物資分配ノ澁滯ヲ招キ工場ハ材料ト燃料ノ缺乏ヲ感シ業務ヲ中止スルノ外ナク商店ハ輸入禁止令ト生産中止ノ影響ヲ受ケテ店頭ニ飾ルニ商品ナキノ悲境ニ陥リツツアリ更ニ進ンテ若シ一朝鐵道従事員ノ同盟罷工ニシテ再燃センカ軍隊ハ食糧及軍需品ノ供給ヲ受クル能ハス「ベトログラド」及莫斯科ハ糧道杜絶シ忽チ飢餓ノ巷ト化スルナキヤヲ保シ難カラシ

### 三、財政ノ状態

露國ノ財政ハ歐洲大戰ト共ニ著シク紊亂シ今ヤ國費ノ多額ニシテ且多端ナル実ニ驚クヘキモノアリ就中戰費ノ如キハ開戰當初ニ於テ一日僅ニ千五百萬留内外ナリシモ漸次膨脹シ今日ニ於テハ一日約七千萬留ノ多額ヲ要スルニ至レリ現戰爭ニ參加セシ諸國中英、仏、獨ノ如キ資本ト納税力ニ富

留ニ達シ重ニ英仏之ヲ負擔シ次ニ日米モ亦其ノ一小部分ヲ引受クルニ至レリト雖其應募高ハ僅ニ費消シタル戰費全額ノ五分ノ一ヲ支弁スルニ過キス而シテ内債ハ最初三億留、四億留及五億留ツツ發行シ次ニ最高額三拾億留ヲ募集セシカ最後ニ至リ自由公債ナルモノヲ無限ニ發行スルコトニ決定シ六月迄ニ内債應募額百二十億留ニ達シ内外債合計百九十億留トナレリ(本項ハ露國前大藏大臣シンガレヨフ氏演說中ノ一節ナリ数字ニ多少疑アルモ暫ク録シテ以テ參考ニ供ス)又紙幣ノ流通高ハ開戰前迄十六億留ノミナリシカ開戰後舊政府ハ今回革命マテノ間ニ紙幣發行權ヲ帝國銀行ニ附與スルコト前後五回其ノ總額六十二億留ナリ此ノ外英國トノ協議ニヨリ英蘭銀行ノ保證ヲ得テ二十億留發行セラレタルヲ以テ舊政府カ開戰後三十一箇月間ニ發行セル紙幣ノ總高ハ八十二億留ニシテ平均一箇月ノ發行高二億六千四百萬餘留ナリ

革命後二三週間非常ノ好成績ヲ舉ケタル自由公債ハ其後過激社會主義者ノ煽動ノ結果成績漸次不良トナリ且外債ノ成績モ亦面白カラサリシノミナナス租税ノ不納額頗ル多ク千九百十七年革命後三箇月ノ納税成績ニ徴スレハ前年度ニ比

シ地租三割五分、都市不動産税四割壹分、家屋税四割參分、戰時税貳割九分、營業税壹割九分、農奴償還金六割五分ノ減少ヲ見ルニ至レリ

又政府ハ兵卒ニ對スル手當ノ増給年末迄五億留、出征軍人家族ニ對スル扶助料三十億留、郵便電信配達夫ニ對スル増給一億五千萬留、鐵道従事員ニ對スル増給三億五千萬留、小學校教員ニ對スル増給四千萬留、官吏ニ對スル増給一億五千萬留、年金ノ増給七千萬留乃至八千萬留等ヲ要シ其他行政費ノ膨脹以外陸海軍省關係ノ工場ニ使用セラルル労働者ニ對スル増給（一箇月一人ノ所得千留ヲ超ユルモノ稀ナラス）亦巨額ニ達シタルタメ政府ハ革命後六箇月ノ間ニ國立銀行ニ紙幣發行権ヲ附與スルコト前後四回、其額八十億留ニシテ一箇月ノ發行高最高拾貳億留、最低七千三百萬留ナリキ（最近ノ露都來電ニ依レハ去ル十月中露國政府ハ更ニ貳拾億留發行ノ手續ヲ執レリト云フ）

本年六月一日現在ニヨレハ露國ハ既ニ四百十億留ノ負債ヲ有シ明年一月一日ニハ其額六百億留ニ達スヘク之ニ要スル利子ノミニテモ年三十億留ヲ下ラサルヘシト云フ

本年後半期ニ要スル國費ハ百三十億留ニシテ本年前半期ニ

得タル公債應募額ハ僅ニ五十億留ナルヲ以テ之ニテ全部ヲ支弁スルコト能ハサル故ニ又々紙幣ノ増發ヲナスコトナリ紙幣ノ價格ハ益々暴落スヘキハ當然ナリ今後此勢ヲ以テ進マンカ仏國革命ノ際ニ珈琲一杯ノ價壹萬「フラン」靴壹足ノ價四萬五千「フラン」ニ達セルカ如ク留ノ價降下シ露國ハ財政上戰爭ヲ繼續スルコト不可能トナル場合ナシトセサルナリ

#### 四、無併合無償金主義及露獨單獨講和說

露國社會主義者ハ革命勃發ト共ニ首都ヲ始メ全國到ル處ニ労兵會ナルモノヲ組織シ更ニ革命ノ進展ヲ謀リ續テ今日ニ至ル迄此機關ニ依リ社會主義ノ普及ヲ畫策シツツアリ而シテ彼等ハ概ネ皆階級アルヲ知テ國家アルヲ認メス現時ノ國際戰爭ナルモノハ労働階級ノ仇敵タル資産階級カ其私利ヲ謀ルカ爲ニ行ハルモノト了解シ労働階級ハ之カタメ心身共ニ困憊シ將來資産階級トノ階級戰ニ堪ハサルニ至ルヘシト思惟ス從テ彼等カ千九百十二年十一月ノ「バーゼル」會議、千九百十五年九月ノ「ツンメルワルド」會議及千九百十六年四月ノ「キンタル」會議ニ於ケル決議ノ趣旨ニ基キ速ニ戰爭ヲ停止センコトヲ企圖シ將來政治上及經濟上ノ危

機ニ乘シテ政權ヲ掌握シ以テ彼等最終ノ目的タル社會的革命ヲ遂行セントスルニ至ルハ蓋シ自然ノ勢ナリト云フヘシ故ニ労兵會ハ無併合無償金ノ主義ニ基クトコロノ平和速結論ヲ提唱シ四月九日假政府ニ強イテ自由ナル露國カ戰爭ノ目的トスルトコロハ他國民ノ征服及他領土ノ侵略ニ非スシテ諸民族ノ自由決定權ヲ基礎トスル鞏固ナル平和ヲ樹立スルニ在リト聲明セシメ且當時ノ外相「ミリュコフ」氏カ之ヲ連合諸國ニ通牒スルニ際シ稍其意義ヲ没却スルカ如キ解釋の公文ヲ以テスルヤ社會黨ハ同氏ヲ以テ資産階級ノ帝國主義ヲ支持スル者ナリトシテ同氏ニ辭職ヲ迫リ其結果トシテ非社會主義ヨリ成立セシ第一次革命政府ハ遂ニ瓦解シ之ニ代リテ社會黨員五名ヲ有スル連立内閣組織セラレタリ其實際労兵會ハ聲明シテ曰ク社會黨員ノ入閣セルハ諸國民ト妥協ノ方法ニ依リ一般平和ヲ得ンカタメニシテ武器ヲ以テ民族解放ヲ名トスル帝國主義的戰爭ヲ繼續セントスルモノニアラス又資産階級ト妥協ヲ爲スカ爲ニアラスシテ新ニ獲得セル政權ヲ利用シテ階級戰ヲ繼續セントスルカ爲ナリト斯克シテ無併合無償金主義及民族自由決定權ヲ基礎トスル平和促進論ハ益勢力ヲ占ムルニ至レリ該連立内閣ハ五月十九

日ノ宣言中ニ假政府ハ國民ノ意ヲ體シ毫モ單獨講和ノ念ナキモ無併合無償金主義及民族ノ自定權ヲ基礎トスル一般平和ヲ速成スルヲ目的トスル旨ヲ聲明シ竝ニ四月九日ノ宣言ニ基キ連合諸國ト協商ノ手續ヲ採ルヘキ旨ヲ發表セリ無併合無償金主義ノ淵源既ニ此ノ如クナル以上資産階級及國家的ナル智識階級ハ素ヨリ該主義ニ反對ナルモ既ニ長期ノ戰爭ニ倦怠困憊セル露國人民ノ多数ハ平和ヲ渴望シ一モ二モナク社會主義者ノ言ニ雷同附和シツツアル有様ナルヲ以テ政界ニ於ケル社會主義者ノ勢力頓ニ増進セル今日此種ノ平和運動ハ今後益盛ナルヘシト思考セラル

上述ノ如ク露國人民ハ一般ニ内心平和ヲ希望シテ止マサルモ獨逸ト單獨ニ講和センカ連合諸國ニ對スル背信ノ汚名ヲ被ムルノミナラス日本軍ノ背面攻撃等ヲ豫想セサルヘカラス且革命ノ成功ハ前皇帝及前政府ノ賣國の行動ニ對スル膺懲ヲ目的トスル大義名分ニ基因スルトコロ多キヲ以テ結局公然講和ヲ提唱スルニ不便ナル事情アルヲ免レス假政府ハ勿論戰線代表者會議、哥薩克代表者會議、労兵會議、農民代表者會議等何レモ單獨講和ヲ排斥スル旨ヲ聲明シタルハ世人ノ能ク知ル所ナリ

然ルニ近來日々刻々ニ増進シツアル生活難ハ國民ヲシテ平和ノ外他ヲ顧ミルノ暇ナク平和速結單獨講和亦辞スル所ニ非ストノ主義ヲ抱持スル「レーニン」一派（過激社會民主黨）ノ藥籠中ノモノタラシメントシツアリ最近ニ至リ「ペトログラド」市會議員選舉ニ過激社會民主黨カ最多数ヲ得「ペトログラド」労兵會議々長ニ「トロツキー」氏カ推サレタル事實ハ皆之ヲ立證シテ餘アリ故ニ今後若シ労兵會中ノ過激派カ企圖スルカ如ク社會黨カ政權ヲ掌握スル場合アリトセンカ忽チ單獨講和ノ成立ヲ見ルコトナキヲ保シ難カラン

### 五、日本ノ露國背面攻撃説

將來露獨兩國カ單獨講和ヲ爲スカ如キ場合アラハ日本ハ必スヤ連合國側ニ對スル露國ノ背信ヲ責メ直チニ其背面攻撃ヲ開始スヘク之ニ關シテハ既ニ連合國側ニ默契アリトハ露國カ舊制度ノ下ニ親獨的行動ヲ執リシ時代ヨリ夙ニ世間ニ流布セラレタル風説ナリシカ革命後社會黨ノ一部内ニ露獨單獨講和説提起セラルルヤ再ヒ世評ニ上リ之ニ關スル露日協會莫斯科支部長ト同地在勤伊太利総領事トノ談話カ端ナクモ莫斯科發刊ノ一新聞紙上ニ掲載セラルルニ及ンテ該風

説ハ更ニ一層全國ニ喧傳セラルルニ至レリ爾來日本ノ露國背面攻撃説ハ單獨講和ヲ排シ民心ノ覺醒ヲ促スヘキ好個ノ材料トシテ或政治家ニ由リ屢々利用セラレツツアリ曩ニ労兵會ハ之ニ關シ外相「ミリュコフ」氏ニ質問スル所アリ同氏ハ最初絶對ニ斯カルコトナシ今ヤ日本ノ視線ハ「バイカル」湖畔ヨリモ太平洋ノ彼岸ニ集中セラレツツアリト答ヘタリシカ其後同様ノ質問ニ對シ同氏ハ沈黙ヲ守ルヘント答ヘ暗ニ斯カル事アルヘキヲ警告シ國民一部ノ單獨講和熱ヲ冷却セシメント努メタリ又最近ニ至リ陸海軍大臣心得「サーヴィンコフ」氏モ亦本年九月二十四日「ペトログラド」ニ開催シタル哥薩克兵代表者會議ニ臨ミ其演說中單獨講和ハ決シテ之ヲ許スヘカラス假令之ヲ許ストスルモ日本ハ必ス背面ヲ攻撃シ露國ハ今日ヨリ更ニ一層恐ルヘキ困難ノ状態ニ陥ルヘキヲ以テ到底之カ成立ヲ望ムヘカラサル旨ヲ聲明セリ

此ノ如ク日本ノ露國背面攻撃説ハ相當ノ方面ニ信用セラルルノミナラス日本ハ國際上ノ情義ニ背キシ露國ニ懲罰ノ兵ヲ送り以テ同國人ノ覺醒ヲ促スヘント提唱スル者サヘアリ（前陸海軍大臣グチコフ氏ノ弟ナル前莫斯科市長グチコフ

氏ノ直話）一般民間ニテハ露國カ獨逸ト單獨講和ヲナス場合日本カ露國ノ背面ヲ攻撃スルカ如キハ当然ノ成行ナリト信シ居ルモノノ如ク本職旅行中露國內地ニ於テハ或ハ日本軍カ既ニ浦鹽方面ヲ占領セルモノト解シ或ハ何故ニ日本ハ未タ西伯利ヲ占領セサルヤト云フカ如キ質問ヲ發スル者アルヲ見タリ

### 六、露國社會黨ノ活動現況

露國社會黨ハ大別シテ社會民主黨及社會革命黨ノ二トナスコトヲ得ヘシ

社會民主黨ハ労働階級ノ利益ヲ代表シ千八百九十八年「ミンスク」市ニ於テ成立ヲ告ケ其政綱ハ千九百三年「ブラツセル」市ニ開催セル第二總會ニ於テ決議セシ所ニシテ純正「マルクス」主義ヲ骨子トス

同黨ハ前記千九百三年第二總會以來「レーニン」氏ヲ中心トスル過激多数黨及之ニ反對ナル温和少数黨ノ二派ニ分レタリ

千九百五年ノ自由運動ニ際シ過激派社會民主黨ハ議會ヲ排斥シ武装の動亂ニヨリ政權ヲ労働階級ノ手に収メ速ニ社會の革命ヲ行フヘキコトヲ主張シ温和派社會民主黨ハ之ニ反

シ議會ヲ承認シ之ニ議員ヲ選出シ漸ヲ以テ其社會主義ヲ實現セントスルノ方針ヲ執レリ主義上温和派社會民主黨ハ純正「マルクス」主義及歴史学派ノ物質主義ヲ唱道シ過激派社會民主黨ハ「マルクス」主義ニ加味スルニ最新哲學ヲ以テシ殆ント無政府論者ニ類似スルノ觀アリ

千九百六年「ストツクホルム」ニ社會民主黨連合大會開催セラレシ際先ニ少数ナリシ温和派社會民主黨ハ多数ヲ占ムルコトナリ過激派社會民主黨ハ爲ニ表面上温和派社會民主黨ノ決議ニ服従スルコトナリタレトモ兩派ハ是ヨリ統一セラルルコトナク以テ今日ニ至レリ

温和派社會民主黨ハ「チヘーゼ」、「ツエレテリ」、「スコーペレフ」、「ダン」、「リーベル」等ノ諸名士ヲ領袖ニ戴キ革命後全國到ル處ニ組織セラレタル労兵會ノ中堅ヲ占メ「チヘーゼ」ハ全國労兵會中央委員會及「ペトログラド」労兵會議長タリ機關紙「ラボーチヤヤ、ガゼータ」（労働新聞）ヲ發行ス過激派社會民主黨ハ今回ノ革命ニ際シ最初勢力微々トシテ振ハサリシカ四月中「レーニン」一派瑞西ヨリ歸國シ活動ヲ開始シテ以來其勢力頓ニ加ハリ屢々政府ノ危機ヲ促シ八月「ペトログラド」市會議員選舉ニ大勝ヲ博シ又

最近「ペトログラド」及莫斯科兩市ニ於ケル労兵會ノ支配權ヲ握リ領袖「トロツキー」氏ヲ擧ケテ「ペトログラド」同會議長ヲラシメ其猛威ヲ振ヒツツアリ又文豪「ゴーリキ」氏經營ノ新聞「ノーヴァヤ、ジーズニー」(新生涯)之ヲ支持ス

右ノ外英佛社會黨ト提携シ之ト連絡ヲ保チツツアル國家的社會民主黨「ブレハーノフ」一派アリテ機關紙「エヂンストヴォ」(統一)ヲ發行ス

一億五千餘萬ノ農民ヲ後援トシテ労兵會ト並ヒテ全國到處ニ農民代表者會議ヲ組織シ全國ノ都會、地方兩方面ニ亘リテ盛ニ活動シツツアル社會革命黨ハ千九百一年結黨式ヲ擧ケ千九百五年其政綱ヲ決定セリ「ケレンスキー」、「チェルノフ」、「ブレシユ、ブレシコフスカヤ」、「アフクセンテイエフ」等ノ諸名士之カ領袖タリ其機關紙トシテ「ヴォリヤ、ナローダ」(民意)及「デーロ、ナローダ」(民事)アリ

千九百六年雜誌「ルースコエ、ボーガートストヴォ」(露國ノ富源)ヲ中心トスル社會革命黨ノ一部ハ土地問題ニ關シテ異議ヲ抱持シ獨立シテ別ニ人民社會黨ヲ組織セリ同黨

定權ヲ基礎トスル平和ノ確立ニアルコトヲ宣言セシメタリ次ニ最モ頑強ナル主戰論者タリシ外務大臣「ミリュコフ」氏ヲ退閣セシメ又五月十八日成立ノ連立内閣ニハ五名ノ社會黨員ヲ入閣セシメタルカ之ヲ英佛ノ社會黨ニ通告スルニ當リ露國社會黨員ノ入閣セルハ武器ヲ以テ民族解放ヲ名トスル帝國主義的戰爭ヲ繼續スルカタメニアラス諸國民ト妥協ノ上速ニ一般平和ヲ成立セシメンカタメナルコト及獲得セル政權ヲ利用シテ資産階級トノ階級戰爭ヲ行ハンカタメナル旨ヲ公言セリ彼ノ五月十九日連立内閣ノ發表セル政綱中、外交ニ關シテ無併合無償金主義及民族ノ自定權ヲ基礎トスル一般平和ノ迅速ナル成立ヲ期スト云ヘルハ實ニ前述ノ理由ニ基クモノナリ

又内政上ニ於テハ革命成就ト共ニ假政府カ舊來ノ地方官ヲ免シ警察ヲ廢セル過渡期ニ乗シテ地方ノ政權ヲ地方労兵會ノ手ニ収メ五月十八日連立内閣成立後ハ假政府ニ對シ種々ノ壓迫ヲ加ヘ其關係ハ宛然議會ノ責任内閣ニ對スルカ如クナルニ至レリ

壤地利及獨逸ハ革命前ヨリ露國專制政府ノ戰捷ハ勞働階級ノ不幸ナリト云ヘル「レーニン」及「マルトフ」一派ノ非

ハ第二議會解散後其活動ヲ中止シツツアリシカ今回ノ革命ト共ニ再ヒ勃興シ最近第一乃至第四議會ニ於テ所謂労働黨ト稱セル者ノ一部ヲ合併シ労働人民社會黨ト改稱シ其政綱ヲ確定セリ、領袖ニ「ペシエホーノフ」氏機關紙ニ「ナロードノエ、スローヴォ」(民論)アリ其勢力微々決シテ社會革命黨又ハ社會民主黨ノ比ニアラサルナリ

由來露國社會黨ハ其過激派タルト温和派タルトヲ問ハス總テ戰爭ハ資産階級ノ帝國主義的行爲ニ外ナラサルヲ以テ一日モ速ニ之ヲ中止シ以テ労働階級ノ利益ノ爲ニ社會的革命ヲ遂行セサルヘカラストナス者ニシテ彼等ノ代表機關タル労兵會ハ先ツ反革命ノ孵化器タル軍隊ノ威力ヲ殺カンコトヲ謀リ所謂命令第一號ヲ發シテ軍規ヲ顛廢セシメ且戰爭繼續論者ノ巨魁タル陸海軍大臣「グチコフ」氏ヲ失脚セシメ國際上ニ於テハ獨逸社會黨ニ對シテ專制君主ヲ驅逐シテ侵略ト殘虐ノ武器ヲ放棄スヘシト勸告シ各交戰國ノ社會黨ニ對シテハ戰爭終結及講和ノ方法ヲ討議センカタメ社會黨萬國會ヲ開カンコトヲ提議シ且委員ヲ海外ニ派シテ遊說セシメ四月九日假政府ニ迫リテ自由ナル露國カ交戰ノ目的ハ他國民ノ征服又ハ他領土ノ侵略ニアラスシテ民族ノ自由決

國家的社會黨ヲ保護シ露國內ニ反亂ヲ誘起セシメンコトヲ謀レリ次テ革命後モ彼等ニ種々ノ便宜ヲ與ヘ露國內ニ於ケル非國家的思想ノ傳播ヲ容易ナラシメ以テ輿論ノ紛糾ヲ謀ルト共ニ獨逸ハ千九百十五年「ツンメルワルド」會議ニ議長タリシ瑞西ノ社會主義者「グリム」氏ヲ「ペトログラド」ニ密派シ單獨講和ヲ策セシムル所アリシカ偶々「グリム」氏カ獨逸政府ノ密使ナルコト發覺シタル爲該計畫ハ幸ニ成功ヲ見ルコトナカリキ

又英、佛、白各國ノ社會黨ハ「ヘンダーソン」、「トマ」、「ワンダーヴィルド」ノ諸名士ヲ派遣シ今回ノ戰爭ニ對シ「ブレハーノフ」、「アレクシンスキー」等ト共ニ露國社會黨ヲ善導シテ最後迄戰爭ヲ繼續セシメ以テ獨逸ノ軍國主義ヲ打破センコトヲ画策スル所アリシモ一瀉千里ノ勢ヲ以テ社會主義ノ理想ヲ實現セント焦慮シツツアル露國社會主義者ハ円熟セル英、佛、白ノ社會主義者ノ議論ニ耳ヲ傾クル遑ナク為ニ英、佛、白社會黨ノ諸名士モ亦何等具體的ノ成功ヲ収メスシテ歸國セリト云フ

七、陸海軍隊將兵ノ意向及兵役應募者ノ心理狀態

前項露國社會黨ノ活動現況中ニモ述ヘタル如ク該黨ハ軍隊ヲ以テ非革命、非民主主義ノ搖籃ナリト認メ夙ニ之カ糜爛ヲ企テ頻ニ軍隊ヲ民主化スルコトニ努力セリ曩ニ與國ト提携シテ決定の勝利ヲ獲ンカタメ革命ヲ助成シタル議會ノ反對アリシニ拘ラス勞兵會ハ革命成功後間ナク軍隊ニ民主主義ヲ扶植スル爲ナリト稱シ假政府ヲシテ軍隊ノ生命トスル紀律及將卒ノ關係ヲ無視セル命令第一號ナルモノヲ發セシメタリ是ニ於テカ無智文盲ナル兵卒ハ恰モ檻ヲ脱セル野獸ノ如ク自由ヲ放縱ト誤解シ己ノ欲スル所之レ爲ササルナク偶々勞兵會カ無併合無償金主義ヲ提唱スルヤ之ヲ戰爭ノ中止ナリト速斷シ將校ノ前進ヲ命スアルモ畜ニ之ニ服從セサルノミナラス將校ヲ以テ資産階級ノ私利ヲ支持スル公敵ナリト見做シ却テ之ニ對シ危害ヲ加フルニ至レリ四月末「レーニン」一派ノ過激社會黨員カ外國ヨリ續々歸露セシ以來非戰爭論益々盛ニ唱道セラレ露國兵卒ハ獨逸軍ノ奸策ニ欺カレテ敵陣ニ至リ敵兵ト交歡ヲ開始シ爲ニ獨逸ハ東方ヲ顧慮スルノ要ナク多数ノ軍團ヲ割キテ西方戰場ニ送り一時英佛ヲシテ憂慮措ク能ハサランメタリ「グチコフ」氏ハ五月十四日遂ニ陸海軍大臣ノ職ヲ罷メ法相「ケレンスキ

ヲ恐レテ敢テ斷乎タル處置ニ出ツルコトナク七月二十四日漸ク戰線ニ於ケル死刑復活ヲ命シタリシモ頃日「ペトログラド」開催ノ全國民主大會ニ於テ死刑復活ニ關シ社會黨側ヨリ詰責ヲ受クルヤ同氏ハ死刑ノ宣告ニ一度タリトモ承認ヲ與ヘタル上ニテ此詰責ヲ甘受スヘシト答ヘタルカ如キ以テ其決心ノ欽如セルヲ見ルヘシ

「アレクセーフ」將軍カ莫斯科大會（八月二十五日乃至八月二十八日）ニ報告セル所ニ依レハ平均一連隊中ニテ突撃スル者士官二十八名ニシテ連隊全將校ノ半数ヲ超エ下士ハ二十名ニシテ全下士ノ十六分ノ一ニ當リ兵卒ハ僅ニ二名ニシテ全兵卒ノ二千二百二十分ノ一ニ當ルト云フ又「コルニーロフ」將軍カ同會議ニ報告セル所ニ依レハ獨軍ノ爲占領セラレタル自國領土ヲ割讓スルニ至ルモ何等顧ミルトコロナキノミナラス兵卒一名ニ付二百留宛ノ償金ヲ支拂ヒテ獨逸ト講和セントノ希望ヲ發表セル連隊アリシト云フ

露軍ハ斯ル狀態ニ在ルヲ以テ今後露國カ軍紀ヲ振肅シテ連合國側ト協同作戰ニ出テ東方ヨリモ攻勢ニ出ツルカ如キハ到底豫想シ能ハサル所ナリ況ンヤ「コルニーロフ」將軍ノ拳兵以來將校ニ對スル兵卒ノ不信更ニ増大シ今ヤ將校ノ命

「氏」之ニ代リタレトモ一生ノ智能ヲ專制政府ノ顛覆ニ傾注セシノミニテ徒ニ革命ノ成功ニ醉ヒ民主的施設ノ將來ニ及ホス影響ヲ顧慮スルノ暇ナク兵卒ノ權利ナル宣言書ヲ公ニシテ更ニ前述ノ命令第一號ニ裏書セリ斯クシテ一方民主的傾向ハ益々軍隊中ニ普及シ五月中軍隊各部ニ兵卒ヨリ成ル委員會組織セラレ軍隊内ノ事項ハ總テ之カ決議ヲ待テ決行セラレツツアリ

「ケレンスキ」氏ハ露軍ヲシテ攻勢ヲ執ラシムルノ必要ヲ認メ五月末以來各戰線ヲ歴訪シテ得意ノ雄弁ヲ振ヒ大ニ攻撃ノ機運ヲ養成スル所アリタレトモ攻勢ヲ執ルニ實際最モ必要ナル軍紀ノ回復ヲ行ハサリシ爲遂ニ「タルノーボル」及「ストホード」ニ於ケル不名譽ノ敗戦ヲ演スルニ至レリ七月中「ケレンスキ」氏ハ各軍附假政府代表委員ノ制ヲ設ケ司令部ト兵卒委員會トノ緩和機關タラシメントシタルモ社會黨員タル委員ハ司令部ト兵卒委員會トノ緩和ヲ計ルト云ハンヨリハ寧ロ兵卒委員會ヲ支持シ司令部ニ對スル政府ノ監視機關タリト云フノ當レルニ如カサルノ觀ヲ呈セリ「コルニーロフ」將軍ハ曩ニ軍紀振興策ヲ提出シテ假政府ノ承認ヲ求メタリシカ「ケレンスキ」氏ハ勞兵會ノ異議

令全ク行ハレサルノミナラス「ヴィボルグ」「ヘルシングフォース」等ノ各地ニ於テ多数ノ陸海軍將校カ兵卒及水兵ノタメ虐殺セラレタルカ如キ狀態ナルニ於テオヤ、左レハ政府モ勞兵會ノ信用最モ厚キ「ヴェルホフスキ」少將及「ヴェルデレフスキ」少將ヲ陸軍大臣及海軍大臣ニ任命シ軍隊ノ民主主義カ發達スルニ任セツツアリ又軍紀頹廢ノ結果逃亡兵卒相次キ新任陸軍大臣「ヴェルホフスキ」少將ノ最近勞兵會ニ報告セル所ニヨレハ其數二百萬ノ多キニ達セリト云フ農民同盟會ノ如キモ八月ノ大會ニ於テ逃亡兵ヲ排斥スル旨ノ決議ヲナセルモ自由ナル露西亜ニ欲シテ尚爲ス能ハサルコトナキヲ如何セン

畢竟スルニ露國ノ陸海軍ハ軍紀頹廢士氣沮喪ノ結果將卒共ニ戰志ナク僅ニ防禦の地位ヲ保持シ偶々敵軍ノ優勢ナル攻撃ニ遇ヘハ豫定ノ退却ヲ爲シツツアル今日ナレハ兵役應募者ハ最初ヨリ國家ノ爲一身ヲ犠牲ニ供シ敵軍ヲ打破セシンハ死ストモ止マスト云フカ如キ決心ナキハ勿論ナルヘク從テ其心理狀態如何モ亦略ホ之ヲ推知スルニ難カラサルナリ加フルニ現時露軍ノ兵數ハ各方面ノ戰線ニ於ケル軍人軍屬ヲ合セ約五百萬、後方勤務ニ従事スル者約百萬トスレハ通

計六百萬人ノ多キニ達シ獨逸軍ト對比シテ少クトモ一ニ對シニ乃至三トナルヘシ故ニ或露人カ露軍兵數ノ過多ナリシハ武器及糧食ノ供給ヲ困難ナラシメシヲ以テ確ニ敗戦ノ一原因ナリト認メサルヲ得スト論セシモ決シテ一理ナキニ非ス現ニ假政府ハ戦線ニ於ケル兵數ヲ減少スル措置ヲ執リツツアルヲ見レハ恐ラク昨今新兵ヲ募集スルノ必要ヲ感セサラン

#### 兵卒ノ權利ニ關スル宣言

- 一、軍人軍屬ハ公民權ヲ享有ス但軍隊ノ服務規律及軍紀ヲ遵守スヘシ
- 二、軍人軍屬ハ政治、人種、宗教、經濟又ハ職業團體、協會又ハ結社ノ會員タルコトヲ得
- 三、軍人軍屬ハ服務時間外ニ於テ口頭、文書又ハ印刷ヲ以テ其政治、宗教社會及其他ニ關スル意見ヲ開陳スル自由ヲ有ス
- 四、軍人軍屬ハ信仰ノ自由ヲ有ス
- 五、軍人軍屬ノ信書ハ一般ノ規定ニ依ル
- 六、軍人軍屬宛印刷物ハ定期刊行物ト否トヲ問ハス何等ノ支障ナク配達スヘキモノトス

特別勤務、監督ニ關スル命令權亦同シ陸軍軍令ニ規定セル場合ノ軍隊自治權、處罰權及監視權ハ選舉制ニ由ル兵卒團體委員會及裁判ニ屬ス

八、食糧供給一斑

抑露國ハ世界有數ノ農業國ニシテ戦前ニ於ケル穀類ノ生産高ハ實ニ年額四十億布度<sup>ブイド</sup>ニ達シ世界總産額ノ五分ノ一ニ當リ國內ノ需要三十億餘布度ヲ除キタル過剩ハ年々之ヲ外國ニ輸出セリ故ニ開戦當初露國ノ農事關係者中ニハ穀物ノ輸出不可能トナリ價格ノ暴落ヲ來サンコトヲ憂フル者コソアリタレ露國ニ食糧難ノ襲來ヲ豫想スル者ノ如キハ曾テ之レアラサリキ然ルニ何ソヤ戦争後一年ニシテ早ク既ニ食糧難ヲ訴フルニ至ラントハ然レトモ當時ノ食糧難ハ國內ニ於ケル食糧ノ絶對的欠乏ニアラスシテ單ニ輸送ノ停滯ニ起因スルモノナリキ廣大ナル露國ハ地味一樣ナラス北部諸縣ハ不毛ノ地多ク穀物ノ補給ヲ農産豐富ナル南部諸縣ニ仰カサルヘカラサル地位ニアリ然ルニ露國ノ鐵道ハ前述ノ如キ狀態ナルヲ以テ北部諸縣ハ南方ヨリ潤澤ニ穀物ノ供給ヲ受クルニ由ナク絶ヘス食糧難ノ威嚇ヲ受ケツツアリ加フルニ戦争ノ永續スルニ從ヒ農村ハ八百萬ノ壮丁ヲ奪ハレ爲ニ全國ニ

- 七、服務時間外ニ於テ軍人軍屬ハ戰地及臨戰地帯ニアル者ノ外平服ヲ着用スルコトヲ得
- 八、軍人軍屬相互ノ關係ハ軍紀ニ依ルノ外自由公民タルノ自重心、相互ノ信用、尊敬及禮讓ヲ基礎トスヘシ
- 九、從來軍隊ニ使用セラレシ敬語ヲ廢ス
- 十、從卒ヲ廢ス
- 十一、敬禮ヲ廢ス
- 十二、臨戰地帯外ノ軍管區ニ於ケル軍人軍屬ハ服務時間外ニ於テ營舎及艦船ヲ離ルルコトヲ得但上官ニ届出ツルヲ要ス
- 十三、軍人軍屬ハ何人タルヲ論セス裁判ノ判決ニ依ルニアラサレハ刑ノ執行ヲ受ケ又ハ科料ニ處セラルルコトナシ
- 十四、軍人軍屬ノ名譽及威嚴ヲ毀損スル刑罰竝ニ健康ニ有害ナル刑罰ヲ禁ス
- 十五、服務規律ニ記載ナキ刑罰ヲ行ヒタル者ハ裁判ニ附セラルヘシ部下ヲ殴打セル上官亦同シ
- 十六、軍人軍屬ニ體刑ヲ科スヘカラス
- 十七、任免ノ權ハ上官ニ屬ス戰闘作業、戰闘準備、訓練、

於ケル穀物ノ耕地面積著シク減少シ歐露ノミニテモ千九百十五年ニ於テ四百萬町歩ヲ減シ千九百十六年ニ於テハ千萬町歩ヲ減シ食糧難ハ輸送難ニ加フルニ絶對的欠乏ヲ以テセントスルニ至レリ此ノ時ニ當リ舊政府ハ趙趙巡邏徹底セサル國家的干涉ヲ行ヒ爲ニ穀類市場ノ混亂ヲ惹起シ一時穀物ヲシテ市場ヨリ其姿ヲ没セシムルニ至リ革命勃發前數週間ニ於ケル軍隊ノ受ケタル供給ハ定量ノ四割ニ過キサリシコトアリト云フ

斯ル狀態ニ於テ舊政府ヨリ食糧問題ヲ繼承セル革命政府ハ四月七日附假政府令ヲ以テ全國（外高加索及土耳其斯坦ヲ除ク）ノ農作物ヲ國有トナシ農家ニ必要ナル一定ノ分量ヲ除キタル以外ノ穀物ハ全部之ヲ國家ノ手ニ収メ以テ之カ分配ノ公平ヲ計ルト共ニ他方穀物ノ播種ヲ監督獎勵センカタメ中央及地方食糧委員會ヲ設ケ更ニ五月ニ至リ食糧省ヲ新設シ専ラ食糧ノ調節ヲ擔任セシメタリ

然レトモ露國ハ外未曾有ノ大戰ニ臨ミ、内激烈ナル階級戰ヲ行ヒツツアリテ假政府屢々改造セラレ其政令地方ニ及ハス農民ノ一部ハ土地分配ニ熱狂シテ地主ノ模範農場ヲ破壊シ一部ハ地主ニ向テ勞銀ノ引上ヲ要求シテ止マス之カ爲



ニ最モ生産力ニ富ム大農場ハ多ク荒廢ニ歸シ收穫更ニ減少セサルヲ得ス此ノ如クニシテ一方耕地面積ノ減少スルト同時ニ他方ニ於テ五億留ノ經費ヲ要スル食糧委員會ハ普ク民主的分子ヲ包容スト雖今日ニ至ル迄實地穀物ノ買入ニ從事シ經驗ニ富ミ商機ニ敏ナル六十萬ノ穀商ヲ除外シ且該委員會カ制定スル穀物ノ公定價格ナルモノハ他ノ物價ニ比シ著シク低廉ナリ爲ニ開戦以來禁酒令ノ實施及兵卒家族扶助料ノ支給ヲ受ケ生計ニ餘裕ヲ生シタル農村ハ何ヲ苦ンテカ其收穫ヲ即賣スルノ必要ヲ認メンヤ殊ニ都會ハ革命後、工業ノ頽廢ニヨリテ農村ニ必要ナル物資ヲ供給セサル今日、農民ハ競フテ穀物ヲ隱匿シ國家ノ急ヲ顧ミサル有様ナリ是ニ於テ假政府ハ九月十一日從來ノ公定價格ヲ二倍ニ増加スヘキ旨公表シタルニ穀物ハ一時ニ多量市場ニ現出シタリト云フモ果シテ永ク此ノ如キ好結果ヲ収メ得ヘキヤ假令一時豫期ノ好果ヲ得タリトスルモ近ク河川ノ結氷スルアリテ穀物ノ輸送ハ前述ノ如キ輸送力少キ鐵道ニ依賴セサルヘカラサルコトトナリ食糧供給ノ前途容易ニ樂觀ヲ許ササルモノアリ

都會ニ於ケル重ナル食糧ノ供給ハ總テ切符制度ヲ採用シ莫

斯科市ノ如キ一人一日ノ麵包配給額ハ半「フント」ニシテ平時給養額ノ七分ノ二ニ當ルノミ「ベトログラド」ニ於テハ此程迄一人一日四分ノ三「フント」ノ配給ヲ受ケ居リシカ最近莫斯科市ト同額ニ減シタリ此外、乾酪ハ一箇月一人ニ付一「フント」ヲ限リ砂糖ハ一箇月二「フント」ニシテ近來人ヲ訪問スルニ當リ砂糖ヲ携帶シ茶ノ馳走ヲ受クルトキハ自分所持ノ砂糖ヲ使用シテ之ヲ飲ムノ奇觀ヲ呈シツツアリ

#### 九、地方農民ノ態度

露國舊政府ハ「民ハ由ラシムヘク知ラシムヘカラス」トノ主義ヲ抱持シ國民ノ教育ヲ忽諸ニ付シタル結果一億八千餘萬ヲ算スル國民一般殊ニ農民（全人口ノ八割四分強ニ當ル）ハ概ネ（七割九分）無智文盲ノ愚民ニシテ何等革命ノ意義ヲ了解スルモノニアラサルモ其容易ニ革命ニ賛同セル所以ノモノハ蓋シ革命ニ依リ生活上ノ安逸ヲ得ンコトヲ望メルニ外ナラス決シテ政治的ニ覺醒セル良心ノ發動ニ依ルモノニアラサルナリ左レハ地方農民ノ思想カ都會ノ住民ニ比シ稍穩健ナリト稱セラルルモ要スルニ其穩健ナルヤ否ヤハ全ク如何ナル政黨カ地方農民ノ啓發運動ニ成功シツツアルヤ否ヤニ依リテ之ヲ判斷スルヲ得ヘシ而シテ農民ノ同情

ヲ得ルコト最モ大ナルモノハ農民ニ最モ多キヲ惠ム者ナリ、社會革命黨ハ全土ヲ掌ケテ農民ノ耕作ニ委センコトヲ約スルカ故ニ農民ノ氣受ケ最モ好シ社會民主黨殊ニ過激派ハ都會ノ労働者ヲ以テ唯一ノ革命者ナリトナス者ニシテ地方農民ノ啓發運動ニ熱中セス從テ地方農民ハ「レーニン」一派ノ如キ過激論者ト接觸スルノ機會ナク其態度幾分カ都會ノ労働者ニ比スレハ穩健ナルカ如シ然レトモ其代表機關タル農民代表者會議ハ地方ト中央トヲ問ハス常ニ社會民主黨ノ左右スル所タル労働會ト提携シ所謂民主團體ヲ形成シテ非社會主義ノ政黨ニ對抗シ政權ノ受授其他重要事件ニ關シテハ總テ協議會ヲ開キテ其態度方針ヲ決定シツツアリ

全露農民代表者會議ハ五月十七日「ベトログラド」ニ組織セラレ社會革命黨員「アフクセンティフ」氏之カ議長ニ推サレ「チュエルノフ」、「ブレシユ、ブレシコフスカヤ」及「フイグネル」ノ諸氏之カ名譽議長ニ選ハル之ト同時ニ地方ニハ縣、郡、村農民代表者會議組織セラレタリ全露農民代表者會議ハ同會報ト稱スル日刊新聞ヲ發行シツツアリ農民代表者會議ノ外ニ千九百五年ノ自由運動時代ニ組織セラレ其後解散シ今回更ニ復活シタル農民同盟會ナルモノアリ

リテ八月十三日乃至十九日莫斯科ニ全國大會ヲ開催シタルカ其綱領及主張ハ社會革命黨ノ主義ニ類スルモノナリ

#### 十、土地問題ニ對スル輿論

「アレクサンドル」二世ハ千八百六十一年農奴ヲ解放スルニ當リ地主ヨリ一定ノ耕地ヲ買上ケ之ヲ農民ノ共有耕作ニ附セリト雖其地積タル僅ニ農民カ農奴時代ニ耕作セル土地ノ一小部分ニ過キスシテ自由ヲ獲得セル農民ハ依然地主ノ經濟的羈絆ヲ脱スルコト能ハサリキ次ニ「アレクサンドル」三世ハ農民ノ爲土地銀行ヲ創設シテ土地購入ノ便ニ資シタレトモ租税ノ過徴ニ苦メル農民ノ經濟狀態ハ斯ル機關ノ利用ヲ許サス一方人口ノ増殖スルニ從ヒ耕地ノ欠乏ヲ感スルコト益々痛切ニシテ千九百五年ノ調査ニヨレハ耕地ノ不足セル農民ハ實ニ全農民ノ三分ノ二ニ達セリト云フ

是ニ於テ曾テ「ゲルツェン」「チエルヌイシエフスキー」等ノ諸人士ニヨリテ唱道セラレタル「土地ハ自ラ耕ス者ニ歸スヘキモノナリ」トノ說、社會運動者ノ標語トナリ千九百六年ニ於ケル自由運動ノ結果タル議會ハ掌ケテ共產主義又ハ之ニ類似スル土地制度ヲ主張シテ止マサリキ當時ノ政府ハ地主及資本家ニ聽キ露國共產主義ノ根源タル農村組合

ヲ解散シテ其共有耕地ヲ農民ニ分與シ之カ私権ヲ認メ以テ共産主義ノ敵タラシムルト共ニ千九百七年選挙法ヲ改正シテ議會ヲ地主及資本家ノモノタラシメ以テ土地問題ニ對スル過激論ヲ鎮壓スルコトヲ得タリ今回革命ノ成功ハ主トシテ立憲民主黨及各社會黨ノ活動ニ負フトコロナルヲ以テ彼等ノ唱道スルトコロ是レ即チ露國現今ノ輿論ナリ今前記諸政黨ノ土地問題ニ對スル主張ヲ見ルニ社會民主黨ハ土地ノMunicipalization, 社會革命黨ハ Socialization, 人民社會黨ハ Nationalization, ヲ持シ前二黨ハ官有地、御料地、寺院地及修道院附屬土地ハ勿論私有地ノ無償沒收ヲ要求シツツアリ目下政黨中最モ優勢ナル社會革命黨ハ千九百七年ノ第二議會ニ於テ既ニ土地ニ對スル私權ノ全廢、土地賣買ノ禁止及土地ノ平等及無料使用ヲ主義トスル土地法案ヲ提出シテ農民間ニ勢力ヲ扶植セリ

社會黨ニ非サル民主黨ノ主張ハ稍穩健ニシテ私有地ハ相當ノ價格ヲ以テ政府ヨリ之ヲ買ヒ上クヘキモノナリトナシ社會黨ト均シク千九百七年ノ第二議會ニ於テ土地法案ノ提出ヲ發議セル立憲民主黨ハ地方毎ニ一定ノ耕地面積ヲ定メ該定額ニ達セサル耕地ヲ有スル者又ハ全ク耕地ヲ有セサル者

党ヨリ入りテ農相ノ椅子ニ就ケル「チエルノフ」ハ土地委員會ノ議ヲ經スシテ自己ノ作成セル土地法案ヲ閣議ニ提出シ憲法會議ノ決定ヲ待タシテ土地問題ヲ解決セント試ミタルモ立憲民主黨側ヨリ強硬ナル反對ニ遭ヒテ實施セラルルニ至ラス七月二十日成立ノ新連立内閣ハ國民經濟上ノ要求及民主派諸党ニヨリテ唱道セラルル所ニ聴キ「土地ハ自ラ耕ス者ニ歸スヘキモノナリ」トノ主義ニ基キテ土地法案ヲ作成シ來ルヘキ憲法會議ニ提出スヘキコトヲ聲明セリ

### 十一、露國ノ對英感情

露國保守党カ其主義上ヨリ民主的ナル英國ニ對シ好感ヲ抱ク能ハサルハ固ヨリ其處ニシテ自由党カ動モスレハ英國ノ政治組織ヲ賞揚シ之ヲ露國ニ移植センコトヲ企ツルヲ見ルヤ自由ヲ惡ムコト蛇蝎ノ如キ保守党中ノ極端派（露民同盟右派國民党ノ如キ）ハ英國トノ提携ヲ排斥シ主義上、血統上及經濟上最モ密接ナル獨逸ト親近セント試ミタリ歐洲戰爭前露國保守党ノ新聞紙カ頻ニ親獨的態度ヲ表示シ甚シキニ至リテハ露獨同盟ヲ主張スルモノアルニ至リシハ能ク此間ノ消息ヲ語ルモノナリ殊ニ開戦後連戦連敗露軍ノ形勢日ニ非ニシテ國內ノ不平漸次ニ昂ク自由党ノ非政府運動漸ク

ニハ無償収用セル官有地、御料地、寺院及修道院附屬地ヨリ成ル耕地準備ヨリ貸シ出シ尚不足アルトキハ耕地定額ヲ超ユル地主ノ私有地ヲ相當ノ價格ニテ買上ケ之ニ充ツヘシト云フニアリ

假政府ハ五月四日附法律ヲ以テ中央及地方土地委員會ヲ設置シ憲法會議ニ提出スヘキ土地法案ノ起稿及憲法會議ノ開設ニ至ル迄土地ニ關スル臨機ノ處分ヲ爲サシムルコトセリ越エテ五月十九日連立内閣ハ土地問題ノ解決ハ結局之ヲ憲法會議ノ決定ニ待タサルヘカラサル旨ヲ聲明シタレトモ地方農民ハ労働者カ既ニ労働時間ノ短縮及労働賃金ノ引上ニ成功セルヲ見テ彼等モ亦直チニ耕地ノ欠乏ヲ補ハサルヘカラストナシ恣ニ地主ノ耕地ヲ分配スルカ如キ現象ヲ呈スルニ至レリ五月十七日「ペトログラド」ニ開催ノ全露農民代表者會議ハ六月九日土地問題ニ關シ社會革命黨ノ主張ト同一ノ決議ヲナシ一方全露地主同盟會ハ七月十五日莫斯科ニ大會ヲ開キ第一、土地ニ對スル私權ヲ尊重スルコト第二、憲法會議ノ開設迄土地關係ヲ變更セサルコト第三、萬止ムヲ得スシテ私有地ヲ収用スルコトアラハ市價ニヨリ之ヲ買ヒ上クルコトノ三項ヲ決議シタリ五月十八日社會革命

其聲ヲ大ニセントスルヤ保守党ノ極端派ハ再ヒ獨逸ヲ思フノ情切ニ同党ノ巨魁タリシ故「ウキツテ」伯カ英國ト事ヲ共ニスルコトノ決シテ露國ヲ利スル所以ニアラサルヲ公言セルカ如キ彼等ハ連合國ニ背キテ獨逸ト和シ以テ國內ノ自由ヲ抑壓シ自党ノ勢力ヲ保タンコトヲ謀レリ然ルニ英國ハ自由党ヲ支持シテ露國ニ責任内閣ノ制度ヲ採用セシメントコトヲ画策シタル結果端ナクモ今回ノ革命ヲ促進シ保守党ノ没落ヲ招クニ至リタルヲ以テ彼等保守党カ英國ヲ惡ムコト尋常一樣ニアラサルハ想像スルニ難カラサル所ナリ

自由党（立憲民主黨及改進黨ノ如キ）ハ元來保守党政府ヲ支持シテ戰爭ノ責ヲ分ツコトヲ屑シトナスモノニアラサレトモ現戰ノ主敵ハ彼等ノ憎惡スル露國保守主義ノ淵源タル獨逸ニシテ之ヲ打破スルハ軀テ露國ノ保守主義ノ根據ヲ挫ク所以ナルヲ以テ開戦以來温和保守党（十月党、進歩國民党ノ如キ）ト共ニ努メテ妥協的態度ヲ執リ舊政府ヲ支持シ英佛ト協力シテ獨逸ノ軍國主義ヲ撲滅シ以テ自由運動ノ階梯ヲ作ラントセルモノナルカ故ニ其英國ニ對スル感情最モ良好ナリ

社會党ハ元來民主主義ヲ執ル英佛ヲ惡ムノ理由ナキモ彼等

革命ノ目的ハ英佛ノ如ク戦争ヲ續行シテ決定的勝利ヲ得ルニアラスシテ成ルヘク速ニ戦争ヲ中止シ彼等最終ノ目的タル社會的の革命ヲ爲サントスルニアルヲ以テ戦争中止ニ反對ナル英佛ニ快カラサルハ無理ナラヌ次第ナリ

然ルニ露國ニ於ケル一般人民ハ既ニ戦争ニ倦ミ平和ヲ欲スルノ餘リ知ラス識ラス社會党殊ニ過激派ノ主張ニ雷同附和シ漸次英、佛殊ニ英國ヲ嫌忌スルノ風潮一般ニ發生シツツアルカ如シ

### 十二、日露同盟ニ對スル一般感想並東清鐵道讓渡ニ關スル感想

現戦争ニ於テ日本ハ連合國側ニ参加シ露國ニ對シ種々ノ援助ヲ與ヘタル爲露國人カ日本ニ對シ感謝ノ意ヲ表シ居ルハ事實ナリト雖身代ノ小ナル日本ニ取リテ大ナル援助モ身代ノ大ナル露國ヨリ見レハ必スシモ然ラサル場合ナシトセス且軍艦讓渡ノ如キ何故カ露國ニ於テ公表セラレサリシニ由リ一般人民ハ之ヲ知ラス爲ニ日本人ノ豫期スル如ク露國人カ我國ノ援助ヲ認メ居ラサル場合尠カラス

又千九百十六年締結ノ日露同盟協約ハ露國人カ焦眉ノ急トセル現戦争ノ成行ニ對シ直接ノ影響ヲ及ホスヘキ性質ヲ有

トナシ是レ我國ハ連合國側ニ屬スルモ他國ノ如ク決定的勝利ヲ得ル迄戰ハントスルカ如キ戦争中止論者タル彼等ノ嫌忌スル挑戰的の宣言ヲナシタルコトナク又米國ノ如ク後レ馳セニ參戰出兵ヲ爲ス等彼等ノ憎惡スル戦争永續ノ拳ニ出テサルカ爲ナリト解セラル

### 十三、結論

今回ノ露國革命ハ咄嗟ノ間ニ成就シ一見偶然ノ出來事タルカ如キ觀アレトモ仔細ニ考察シ來レハ其胚胎スルところ決シテ一朝一夕ノ故ニアラス少クトモ過去一世紀ハ殆ント連續セル革命ノ歴史ナリト云フモ決シテ謬説ニアラサルヘシ西歐ニ於ケル自由民權ノ思潮ハ夙ニ露國ノ智識階級中ニモ波及浸潤シ彼等カ多年ニ亘リ幾多ノ犠牲ヲ拂ヒタル献身的運動ニ由リ民主主義ハ一步專制政治ノ堅壘ヲ陥レ特ニ國際戦争ノ起ル毎ニ著シク進展シタルノ事述ヲ認メサルヲ得サルナリ即第一ニ「クリミア」戦争ノ結果農奴ノ解放、地方自治制ノ創設、憲法草案ノ作成、裁判所ノ改革トナリ第二ニ日露戦争ハ憲法ノ發布ト議會ノ開設ヲ誘致シ第三ニ今回ノ歐洲大戰ニ際シ專制主義ハ遂ニ埋葬シ去ラレ民主主義ハ遺憾ナク發揮セラルルニ至レリ而シテ革命ハ最初純然タル

セサリシ爲現金主義ナル露國人ハ何トナク物足ラサル感ヲナシ之ニ對シ大ナル歡喜ノ情ヲ表明セルモノ甚尠カリキ立憲民主党ノ領袖「ミリュコフ」氏ノ如キ親米論者ハ之カ爲日本ノ卷添トナリ米國ト不和ヲ醸スカ如キコトナキヤヲ憂フルモノノ如ク「サゾノフ」氏ノ辭職ニ際シ其機關紙タル「レーチ」紙上ニ於テ「サゾノフ」氏ノ外交政策ヲ稱揚シタル後其極東政策ニ對シテハ多少賛成スル能ハサルモノアリトテ暗ニ該協約ニ反對ナルカ如キ口吻ヲ洩セルコトアリ又東清鐵道讓渡ニ關シテハ東清鐵道關係者ハ勿論其他ニモ多少ノ反對者アリタリト傳ヘラルルモ一般民間ノ人士ハ是レ日本ノ援助ニ對スル當然ノ報酬ナリトシテ協約發表前ヨリ樺太北半讓與説ト共ニ久シク風説セラレタルモノニシテ之カ爲特ニ露國人ノ日本ニ對スル惡感ヲ誘致スルニ至レリト史料スルヲ得ス今ヤ露國人ハ革命ノ效果ヲ収ムルニ汲々トシテ斯ル小問題ヲ顧慮スルノ暇ナシ又日本ノ背面攻撃説ニ對シテハ極東ニ在ル者及一部ノ人士ヲ除クノ外露國人一般ニ冷淡ナルカ如シ目下露國ノ政界ニ牛耳ヲ執リツツアル社會党ハ屢々英、佛乃至伊、米ノ帝國主義的野心ヲ罵倒セシコトアルモ未タ曾テ我國ノ態度ニ對シ攻撃ヲ試ミタルコ

政治的色彩ヲ帶ヒタルノ觀アリシモ前皇室及舊政府ヲ脆クモ顛覆シタル後革命ノ主動者中社會党ハ此好機ニ乘シ政治的の革命ト同時ニ社會的の革命ヲモ遂行シ其懷抱スル理想ヲ直チニ實現センコトニ全力ヲ傾注シツツアリ社會主義者ノ説クトコロニ據レハ西歐諸國ニハ政治上種々ノ傳説アリテ到底新社會ヲ建設スルノ餘地ナキモ露國ハ何等此ノ如キ傳説ヲ有セサルノミナラス現ニ存在スル共產主義ニ基ク農村組合ノ如キハ全然社會主義ノ實現ニ外ナラス故ニ露國ハ彼等ノ理想ヲ實現スルニ最も適合シタル邦國ナリト云フト雖露國ニ於テ此ノ如キ社會的の革命カ果シテ如何ナル程度迄實行セラレ得ルヤ否ヤ未タ疑問タルヲ免レサルナリ然ルニ露國ノ民衆ハ無慮七億八千萬ヲ算スト雖其内多少ノ教育ヲ受ケ智識階級トモ稱スヘキ者ハ僅ニ其式割老分ニ過キス其他ノ七割九分ハ目一二丁字ナキ蠢愚ノ民タルヲ免レス彼等ハ何等政治的の覺醒セントコロナク徒ラニ社會主義ノ好餌ニ心酔セルニ過キス其結果兵卒ハ將校ノ命ヲ奉セス労働者ハ資本家ニ對シ反抗ノ態度ヲ執リテ不當ノ要求ヲ提出シ農民ハ妄リニ地主ノ土地及財産ヲ占領スル等弊害百出シテ殆ント底止スルトコロヲ知ラス近頃各地方ノ狀態ヲ見ルニ「タン

ポー「タシケント」等ノ諸市ヲ始め國內到ル處ニ暴動續發シ市民ノ安寧秩序ハ常ニ擾乱セラレツアルモ政府ノ威令行ハレス地方官憲ハ之ヲ鎮壓スルノ力ニ乏シ今ヤ露國ノ内地ハ無秩序無政府ノ状態ニ在リト云フモ決シテ過言ニ非サルナリ是レ政府カ革命後間モナク從來ノ各州縣知事ヲ罷免シ之ニ代ユルニ地方行政ニ經驗ナキ政府委員ヲ以テシ之ト同時ニ又警察ヲ撤廢シテ之ニ代ユルニ警察上ノ素養ナキ民兵ヲ以テシタルモ其原因タルヘク又近來過激社會党カ國內到ル處ニ跳梁シ良民ヲ煽動教唆スルモ亦之ヲ助成スルノ一原因タルヘシト雖畢竟スルニ是レ皆假政府ノ權力鞏固ナラサルノ致ス所ナリ

由來現首相「ケレンスキー」氏ハ革命政府ノ閣員中夙ニ一頭地ヲ抽ケルヲ以テ必スヤ鞏固ナル政府ヲ組織シ國內ノ秩序ヲ回復シ軍隊ノ戰鬥力ヲ復興スルヲ得ヘシト世人ハ一般ニ同氏ニ對シ多大ノ望ヲ屬シタルノミナラス同氏自身モ亦政党中ノ穩健派ト稱セラルル立憲民主黨商工代表者團體若クハ軍人側ト提携シ鞏固ナル政府ヲ組織セントスルノ意思ヲ有セシモ之カ實行ニ際シ常ニ勞兵會ノ牽制ヲ受ケ躊躇逡巡何等斷乎タル措置ニ出ツルヲ得ス殊ニ過般「コロニーロ

フ」將軍蹶起以來同氏ノ態度ハ著シク輕躁ニ失シ慎重ヲ欠キタル爲内外ニ對シ威信ヲ損セシコト一ニシテ足ラス同氏ハ今後特殊ノ機運ニ際會セサル限リ恐ラク内外人ノ期待ヲ満足セシムルコト困難ナラン

繚テ露國軍隊ノ状態ヲ見ルニ前段ニ縷述セシ如ク社會主義カ軍隊内ニ浸潤瀰蔓セシ結果兵卒ハ將校ノ命ニ服セサルノミナラス將校ハ却テ兵卒ノ鼻息ヲ窺フテ行動セサルヲ得サル陋態ヲ演スルニ至リ軍紀頹廢士氣沮喪將卒共ニ戰志ナク僅ニ防禦的地位ニ踞躋シテ幾分ノ體面ヲ保ツニ過キス今後敵軍カ攻勢ヲ執ルアラハ露軍ハ唯豫定ノ退却ヲ爲スノ外ナカルヘシ此ノ如クニシテ殆ント解體シツツアル露軍ノ現状ハ之ヲ救済スルニ途ナク近頃前參謀總長「アレクセーフ」將軍ヲシテ「嗟露國ニハ最早陸軍ナシ」ト長大息セシメタルヲ以テ略ホ其一斑ヲ推知スルニ難カラサルナリ

又戰爭ト至大ノ關係ヲ有スル鐵道ハ充分ニ其機能ヲ發揮スヘキ場合ナルニ拘ラス其業務ハ全ク無規律無秩序ノ状態ニ在リ車輛ハ破損スルモ之ヲ修理セス燃料ハ欠乏スルモ補給ノ途ナク下級従事員ハ社會主義ニ熱狂シテ上長ノ命ニ反抗シ國家危急存亡ノ秋ニ當テ奮ニ勞働時間ヲ短縮セシメシノ

ミナラス唯自家ノ所得ヲ増加スルニ汲々トシテ貪婪飽クヲ知ラス動モスレハ同盟罷業ヲ企テントシ形勢頗ル穩カナラサルモノアリ其結果トシテ近來露國ノ鐵道ハ著シク其輸送力ヲ減シ獨リ日用必需品ヲ充分ニ都市ノ住民ニ配給スルコト能ハサルノミナラス戰線ニ在ル軍隊ニ對シ必要ナル糧食及軍需品ヲ適時ニ輸送シ得サルノ状況ヲ呈スルニ至レリ若シ全露鐵道従事員ニシテ一朝同盟罷業ヲ實行センカ二十四時間内ニ全國ノ交通ヲ杜絶スルコトヲ得ヘク戰線ニ於ケル軍隊ハ戰爭ヲ續行スヘカラサルハ勿論早晚餓死スルノ外ナク「ペトログラド」及莫斯科ノ如キモ糧道閉塞シ忽チ餓莩道ニ横ハルノ慘境ト變センコトナキヲ保シカタシ

其他財政ノ紊乱ト云ヒ糧食ノ欠乏ト云ヒ又土地問題民族問題等緊急解決ヲ要スルモノ枚舉ニ遑アラスト雖何レモ皆樂觀ヲ許ササルモノアリ今ヤ露國ハ内憂外患一時ニ至リ國事紛々殆ント收拾スヘカラサルノ状態ニ在ルヲ以テ此際一日モ速ニ鞏固ナル政府ヲ組織シ外軍隊ノ戰鬥力ヲ復活シテ敵軍ニ當リ内秩序ヲ確立シテ國政ヲ整理スルハ焦眉ノ急務ナルモ首相「ケレンスキー」氏ハ前述セシ如ク今日ノ時局ヲ收拾シ國民ノ輿望ヲ双肩ニ擔フノ力量ト材幹ナシ而カモ同

氏ニ代ルヘキ一大中心人物ノ出現亦急速ニ期待スヘカラス縦シ出現スルトスルモ似テ非ナル第二ノ「ケレンスキー」氏ニ過キサルヘク恐ラクハ矮人觀場ノ醜狀ヲ呈セン而シテ一方露國ノ革命ナルモノハ既ニ其第一期ヲ經過セシニハ相違ナキモ未タ之ヲ以テ完了セシモノト謂フヲ得サルヘシ今後露國民カ果シテ政治的ニ自覺シ確實ニ革命ノ成果ヲ收ムルニ至ル第二期及第三期ニ到達スル迄ニハ更ニ幾多ノ年月ヲ要シ幾多ノ犠牲ヲ拂ヒ幾多ノ辛酸ヲ嘗メサルヘカラサルハ豫想シ難カラサル所ナリ又現時ノ露國ニ於ケル如キ混沌タル時局ヲ收拾シ政治上一大改革ヲ遂行センカ爲無限ノ權力ヲ獲ント欲セハ必スヤ唯一ナル武器即陸海軍ノ力ニ依頼スルノ必要アリト雖此武器カ今日ノ如ク解體シテ使用ニ適セサルニ於テハ今後如何ナル大政治家如何ナル大英雄ノ出現スルコトアルモ恐ラク國家救済ノ目的ヲ達スルコト困難ナルヘキヲ以テ露國ハ今後特殊ノ政變發生セサル限リ暫ラク鞏固ナル政府ノ成立ヲ見ルコト覺束ナシト斷定スルモ過言ニ非ラサルヘシ

露國ノ現状既ニ叙上ノ如クナル以上本職ノ考察スル所ニ依レハ今後露國ハ過激社會黨ニ政權ヲ掌握セラレ獨逸ト單獨

講和ヲ締結スルニ至ルカ或ハ現状ヲ維持シ連合國側ニ對スル德義上單ニ守勢ヲ執リテ當面ヲ糊塗シ敵軍ノ進展ニ從ヒ豫定ノ退却ヲ續行シ事實上單獨講和若クハ休戦ヲ爲シタルト同一ナル状態ニ陥ルカノ二途アルノミ我政府當局ハ露國ノ現状ヲ洞見シ特ニ前述二箇ノ場合ニ關シ慎重ナル考慮ヲ加ヘラレ豫メ之ニ對スル施政方針ヲ確定シ置カレンコトヲ切望スルト同時ニ第一ノ場合ニ際シテハ少クトモ北滿洲及貝加爾湖岸ニ至ル露領極東ヲ占領シ第二ノ場合ニ當リテハ同方面ニ於ケル各種利權ノ獲得ヲ條件トシテ成ルヘク多額ノ公私資本ヲ露國ニ投下シ以テ他日ノ發言權ヲ確保シ置クハ國家焦眉ノ急務ナリト思料セサルヲ得サルナリ

五〇二 十一月十五日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

ケレンスキーノ逃走其他革命ノ其後ノ發展ニ  
關スル情報ノ件

第一一四九号 (十一月二十三日接受)

十一月十五日露都情報

一、労働政府ノ軍ハ Gatchina<sup>ガツチナ</sup>ヲ占領セリ「ケレンスキー」ハ変装シテ逃走シ同地哥薩克兵ハ過激派側ニ投セリ

狀況ニ付報告ノ件

第一五二号 (十一月二十三日接受)

十一月十日莫斯科軍管区司令官及莫斯科市保安委員会ハ夫々布告ヲ發シテ政府軍カ過激派軍隊ノ根拠地タル「クレムリン」ヲ占領シ叛軍ノ主力ハ既ニ全滅セラレタルモ殘党ハ各所ニ出沒スルヲ以テ市民ハ各自注意スヘキ旨ヲ諭告セリ当地兵士代表者委員會ハ過激派ヨリ成レル現革命軍委員會反對サビエツト各種団体及(脱)等何レモ同様過激派ノ暴挙ヲ論難シツアリ又過激派ニ差押ヘラレ居ル重ナル諸新聞労働者ハ言論圧迫ノ不当ナル旨過激派本部ニ抗議ヲ提出セル由当地叛軍鎮庄ノ為メ西南軍ヨリ差遣シタル軍隊ハ十二日來着ノ筈ナリト十一日兩軍ノ衝突ハ「トヴェルスカヤ」街ヲ中心トシ行ハレ銃砲声頻リニシテ全市人心恟々タリ但シ本邦人無事

在露大使ヘ電報セリ(十一日後五時)

五〇四 十一月十六日 在モスコ熊崎總領事代理ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

英仏伊各国大使露都引揚ケレンスキー軍ノ反  
攻其他首都ノ情勢ニ關スル新聞報道報告ノ件

一三 露国革命關係一件 五〇四

二、社会党連合内閣 Chernoff<sup>チェルノフ</sup>ヲ總理トシテ組織セラルヘキ模様ナルモ未タ協議纏マラズ

三、社会革命党(脱)ヨリ除名センコトヲ要求セリ

四、「カレヂン」將軍ハ哥薩克兵ヲ率ヒ Voronezh<sup>ヴォロネジ</sup>ニ到着セリ

五、当地瑞典公使館員ハ独塊捕虜ノ所在地ニ向フ為勞農政府外務大臣 Trotsky<sup>トロツキ</sup>ニ請求シテ証明書ノ(脱)

六、独逸軍ハ北部戦線ニ於テ攻勢ヲ執リ露国第一軍ハ退却セリ尚独逸軍ハ Aland Island<sup>アランド島</sup>ヲ占領セリ

七、当地商店ハ大部分開店シ電車ハ平常通運轉セルモ電信電話ハ殆ント不通

昨十四日巡洋艦及駆逐艦各二隻當館前ヲ通過シ「ネヴ」河ヲ遡レリ右ハ過激派本部タル Smolny Institute<sup>スモルニイニステ</sup>護衛ノ為ナリト謂フ

八、莫斯科ニテハ最近數日間過激派及臨時政府軍ノ間ニ市街戦行ハレ死傷約五千建物被害大ナリ又糧食欠乏ノ為貧民ハ一揆ヲ始メタリ

五〇三 十一月十六日 在モスコ熊崎總領事代理ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

モスコニ於テ政府側ノ過激派ニ對スル抗争

第一五三号 (十一月二十三日接受)

当市新聞ニヨレハ露都其他ノ情報左ノ通り

英、仏、伊各国大使ハ引揚ケノ命令ヲ受ケ目下芬蘭ニ在リト「ケレンスキー」ノ率ユル軍隊ハ露都ヲ去ル十五露里ノ地点ニ在リ政府軍ハ「ガチナ」「ツアルスコエセロ」ヲ占領シ叛軍ハ続々投降シツツアリト一説ニヨレハ露都軍隊ハ全部帰順セリト露都労兵会ハ十一月七日ノ決議ニ於テ過激派今回ノ成功ヲ祝シ過激派ハ其新設シタル政府ヲ労働者及農民ノ政府ト号シ同政府ハ社会主義ニヨル困難ヲ救済スヘク且速カニ交戦各国ニ向ツテ公平ナル民主的の議ヲ提唱シ土地問題解決ハ農民ニ有利ナラシメ生産力及銀行ニ監督ヲ加フル方針ナル旨ヲ發表セリ而シテ同政府ニ於テハ「レニン」首相、「トロツキー」外相、「ルイコフ」内相、「スコウオルツオフ」蔵相、「オブセンコ、クリレンコ」及「ヂベンコ」陸海軍委員等夫々就任セルモ各省官吏ハ新大臣ノ下ニ服従スルヲ欲セズ外務省員ノ如キハ新外相カ秘密条約文書ノ引継ヲ要求シタルモ之レヲ拒絕シテ全員退任ス露都新聞員ノ執政ハ事実不可能ノ状態ニ在リト「キエフ」「オデツサ」「エカテリノスラフ」等南露重要都市及此等軍隊ノ殆ント

全部ハ政府援護ノ意ヲ表セリ  
在露大使ヘ電報セリ

五〇五 十一月十六日 在モスコ―熊崎総領事代理ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

モスコ―ニ於テ政府革命両派ノ武力衝突ノ状

況ニ関シ報告ノ件

第一五四号 (十一月二十三日接受)

前報後形勢益々險惡銃砲擊愈猛烈ニシテ当館附近ニモ砲彈  
数発来ルニ至リ又市内各所掠奪暴行続発シツツアリトノ報  
ニ接シタルヲ以テ十日ヨリ十一日ニ亘リ当地保安會長タル  
市長ニ対シ当館ノ警護駐在武官古谷陸軍中佐及邦人三名ヲ  
當時危險区域ノ中心タリシ旅館ヨリ救出スルコト及一般在  
留邦人ノ保護方ニ関シ要請スル所アリシモ市長ハ目下両軍  
交戦中ニシテ官軍側ニ於テハ年遺憾各個ノ場合ニ対シ警護  
救済ノ途ナキニ付各自自衛ノ方法ヲ講セラレタキ旨答ヘタ  
リ尚本官ハ叛軍側代表者ニ対シテモ同軍勢力圈内ニ於ケル  
帝國臣民及店舗保護方ヲ要請シ置キ一方在留民ニ対シ一層  
自重方諭告シ置キタルカ古谷中佐ハ十二日危險ヲ冒シテ当  
館ニ避難スルヲ得其他邦人今日迄無事、全露鉄道従業者会

代表者ナルモノノ仲介ニ依リ十一日夜半ヨリ十二日夜半ニ  
至ル休戦規約成立シ両軍ノ間ニ会商行ハレタルモ不調ニ了  
リ又右休戦期間中モ規約遵守セラレズ砲擊頻リニ行ハレタ  
リ、目下ノ戦況ハ概シテ叛軍ニ有利ナルカ如ク同軍力頻リ  
ニ官軍側重要建物ヲ砲擊シ威嚇ヲ以テ之ヲ屈服セシメント  
スルニ対シ兵力不足ナル官軍ハ之レニ対シ自衛の応戦ヲ為  
シ只管援軍ノ来着ヲ俟ツモノノ如シ(十三日午後五時)  
在露大使ヘ電報セリ

五〇六 十一月十七日 在ハルビン佐藤総領事ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

居留民保護ノ為警察官増派方稟請ノ件

第一四六号 (十一月十八日接受)

貴電第一二七号ニ関シ「ホルワツト」將軍ハ十一月十四日  
未明浦潮ニ於ケル鉄道附屬工場ノ同盟罷工鎮定ノタメ急遽  
出發不在中ニ付再度交渉スルヲ得サルモ既ニ機密第四九号  
拙信所載ノ如ク警官ノ増員ハ同將軍ニ内話シ其ノ内諾ヲ得  
タル所ニシテ外國領事団若クハ智識階級ト執行委員會並ニ  
労兵会トノ間ニ板挟トナリ過激派ニ対シ何等実力ナキ同將  
軍ノロヨリ之レ以上具体的ノ証言ヲ取付ルコトハ殆ント不

可能ニシテ此ノ上ハ現下ノ危険状態ニ鑑ミ自衛策トシテ警  
官ヲ増員シ既成ノ事実トシテ承認セシムルノ外ナク右増員  
カ単ニ自衛ノタメニシテ進ンテ露國ノ警察權ヲ侵害スルモ  
ノニアラサル以上別段露國官民ノ猜疑ヲ招ク虞ナシト信ス  
各國領事モ大ニ自衛策ヲ講シタキ希望ヲ有スルモ其ノ手段  
ヲ有セサルニ困惑シ居レリ二千五百名以上ノ居留民ヲ有ス  
ル当館ニ執リテハ警察ノ増派ハ至当ノ手段ナルヘク尤モ之  
ニ依リテ市内ノ秩序ヲ恢復シ各種犯罪ヲ減少スルコトハ到  
底不可能ナルヘキモ増派警官ヲ居留民ノ集合セル市街ニ駐  
在セシメ居留民ノ急報ニ応シテ出張スルコトトシ他方管内  
警察ヨリモ露國側ト打合セ現場ニ急行シ内外協力スルヲ得  
セシメハ居留民ノ被害丈ハ大ニ軽減スルヲ得ヘシト信ス露  
都ニ於ケル過激派ノ行動全然鎮圧セラルレハ当地ニ於テモ  
組織立タル政事の変乱ハ免レ得ヘキモ何分多数ノ刑事犯人  
革命後当地ニ入込ミタルタメ兇惡ナル犯罪頻出シ市民不安  
ニ堪ヘサル有様ニ付我居留民保護ノタメ今後警官ノ増派ハ  
今以テ希望ニ堪ヘサル所ナルニ付至急御詮議願上ケタク露  
國側ニ対スル顧慮ハ其ノ必要ナカルヘシト存セラル但シ増  
派ノ人数ハ宿舍ノ都合ニヨリ十名以上ハ收容困難ナルカ十

名モアラハ十分自衛ノ目的ヲ達シ得ヘシト思考ス尚十一月  
十一日当地大商店掠奪ノ噂アリ支那官憲ハ伝家甸ヨリ百名  
乃至二百名ノ巡警ヲ引キ入レ支那商店並ニ停車場ヨリ埠頭  
区ニ至ル道路ヲ警戒シ今尚之レヲ続行シ居レリ「ホルワツ  
ト」將軍ハ執行委員會ノ決議ニ由リ支那側ニ巡警ノ撤廃方  
ヲ申込メリ同將軍帰哈ノ上ハ直ニ面談結果電報スヘシ  
(長春經由十一月十七日後九、二〇)

五〇七 十一月十七日 在英國珍田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

革命ニ関シ在露國英國大使ヨリ本國宛報告ニ

付路透社報道ノ件

第五〇三号 (十一月十八日接受)

十一月十六日夕「ルーター」電報社ハ左ノ通り報セリ  
在露英國大使ヨリノ最近電報ハ十三日露都發 All is well  
トノ電報ナルガ其前十日發電報ヲ以テ同大使ハ Savinkoff  
並ニ Alexieff ハ英國大使館ニ避難中ニテ露都並ニ莫斯科  
ニ於ケル死傷者ハ多数ニ上ラザルヘキ旨ヲ報告セルカ当地  
露國大使館ニハ何等ノ報道到着シ居ラズ尚十一月十五日附  
稍信用スヘキ筋ヨリ出デタリトノ Haparanda 電報ハ露都

ニ於テハ Guerrilla 戦モ大分行ハレ市街ハ将校ヲ有セザル  
Bolshevik 軍隊ノ下ニ在リ電信電話ハ破壊セラレタル旨  
ヲ報セリ

五〇八 十一月十七日 在英國珍田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

「ドン」地方コザック勢力ノ反革命運動ニ関

スル件

第五〇五号 (十一月十九日接受)

十一月十六日「ストックホルム」發電報ハ十一月十一日芬  
蘭新聞所報トシテ莫斯科ニ於ケル軍隊側ト「ボルシエビッ  
ク」派トノ市街戦ヲ報シ尚ホ「ボルシエビツク」カ露都ノ  
西南「アレクサンドロウスク」<sup>Isd.</sup>「イスボ」間七哩鉄道線路  
ヲ破壊セル旨ヲモ附加セルカ十一月十七日「テレグラフ」  
紙所載十一月十二日露都発同紙通信員電報(延着)中左ノ  
報道アリ

余ハ今回騒擾發生當時恰モ露国内地旅行中ナリシカ十一月  
九日「ロストフ」ニテ初メテ騒擾ヲ耳ニシ同市駐屯軍並ニ  
労働者ハ「ボルシエビツク」加担ノ決議ヲ為シタルモ同地  
方ノ首府「ノヴォチエルカツスク」ニ於テハ「カザツク」

リタリ然モ一般人民ハ治安ノ秩序恢復ヲ希望シ居ルモノノ  
如シ

往電第五〇三号中「同大使」ヨリ以下「避難中」マテハ  
『同大使ハ「ケレンスキー」「サヴィンコフ」並ニ「アレ  
クセエフ」ト共ニ「ガツチナ」ニアリ」ノ誤ニ付訂正ス

五〇九 十一月十七日 在浦潮菊池總領事ヨリ  
本野外務大臣宛

浦潮ニ於テ暴動發生ノ危険アル状況ニ付報告

ノ件

機密第七四号 (十一月二十日接受)

大正六年十一月十七日

在浦潮斯德總領事 菊池義郎(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

浦潮斯德不穩微候ニ関スル件

本月八日露都ニ於ケル暴乱突発ガ政治上及經濟上当地ニハ  
何等影響ヲ及ホサザリシ旨ハ拙電第一一七号ヲ以テ及報告  
置候ニ付既ニ御了知ノコトト思考致候処其後当地社会党過  
激派ハ連夜會議ヲ開催シ時局ニ就キ過激ナル決議ヲナシ居  
リ例ヘハ戦争ハ革命ノ敵ナルヲ以テ平和促進ノ為メニハ手

政府ハ「カレジン」將軍ノ下ニ直ニ臨時政府ニ対スル忠誠  
ヲ表彰シ尚ホ同地方ニ於ケル實權ヲ収メ附近ノ「カザツク」  
政府ト連絡ヲ開始セルカ之ヨリ先キ数日「ドン」「クーバ  
ン」並ニ「アストラハン」地方ノ「カザツク」「ステツプ  
ス」ノ「カルムイク」及「ダゲスタン」並ニ黒海沿岸ニ於  
ケル種族ハ一団トナリテ「カスピイ」海ト黒海トノ間ニ跨  
ル高架索北部ニ横ハル地方ヲ支配スル政府ヲ有スル一連合  
自治体ヲ組織シ露国ノ宝庫タル同地方ノ治安ヲ維持シツツ  
アリ十一月八日「カレジン」將軍政府ハ「ドネツツ」鉾山  
ノ不穩ノ為メ戒嚴令ヲ布キタルモ直ニ其ノ鎮定ヲ見タルカ  
如ク「キエフ」ニ於テハ騒擾ノ際恰モ「カザツク」會議開  
催中ナリシニ付「カザツク」ハ直ニ「ウクライン、カウ  
ンシル」ヲ捕縛シ「ボルシエビツク」運動ヲ圧滅セリ又「ノ  
ヴォチエルカツスク」ニ於テモ「カザツク」ハ「ボルシエ  
ビツク」派遣捕中ナリトノコトナリ旅行中ニ談話ヲ試ミタ  
ルモノノ中一人トシテ「ケレンスキー」ニ同情ヲ表スル者  
ナク何レモ彼ノ「ボルシエビツク」統御ニ対スル不成功並  
ニ騒乱釀成ノ責任ヲ鳴ラシ居リ「レニン」「トロツキー」  
ノ徒ト共ニ彼ヲ「ネワ」ノ河底ニ沈ムヘシト言フ者スラア

段ノ如何ヲ問ハス之レカ貫徹ヲ期スヘシト議決セルカ如キ  
延テ種々ノ流言蜚語ヲ生ミ人心恟々タル有様ニ付当館ハ同  
派ノ行動ニ対シ精々注意致居候特ニ本月十五及十六日ノ兩  
夜ハ労働者及軍隊ノ暴動ヲ見ルヘシトノ情報ニ接シタルヲ  
以テ在留民保護上相当ノ警戒ヲ加ヘ置候処幸ニ何等事實ニ  
現ハルコトナクシテ經過致候案スルニ当地ニ於テ過激派  
ト称スル者ハ多数ハ暗愚ナル労働者及軍隊ナレハ實際ニ何  
等政見或ハ主義ヲ持シ居リ此際腕力ヲ以テシテモ貫徹セン  
トスルカ如キ氣力ト主張トヲ有スルモノハ僅少ナレハ目下  
ノ処同派トシテハ混沌タル中央ノ状態ヲ觀望シ居ルニ過キ  
サル次第ナレトモ而モ右ノ事情ハ却テ人ヲシテ主張ナク秩  
序ナキ暴動ノ突発ヲ懸念セシムル所以ト信シ申候右ハ兎ニ  
角当地現況ハ客月九日付政機密第五九号ヲ以テ申進置候当  
時ニ比シテ少シモ改善ヲ見サルヲ以テ無頼ノ徒輩カ此ノ絶  
好ノ機ニ乘シテ奪掠ノ目的ヲ以テ暴動ヲ演セサルヤモ保シ  
難キ情勢ハ依然繼續スル大体ノ情况ニ有之候此段申進候

敬具

写送付先 在露帝国大使

五一〇 十一月十七日 在モスコ―熊崎総領事代理ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

在留邦人ノ安否ニ付報告ノ件

第一五七号

(十一月二十三日接受)

在留邦人一同無事、財産等ノ損害トシテハ原商会支店長宿舎焼失シタル外僅少ノ見込、兵燹ノ為市内ノ惨状甚タシキモ軍隊ノ警戒嚴重ニシテ秩序一先回復ノ緒ニ就ケリ在露大使ヘ電報セリ

五一 十一月十八日

在ストックホルム梅崎少佐ヨリ  
上原参謀総長宛(電報)

革命後ノ露都ノ状況ニ関スル石坂少将ノ電報

転電ノ件

瑞第四四号

(十一月十九日接受)

石坂少将ヨリノ電報転電ス十七日発号外露都ト外国トノ電信ハ事件ノ為メ十日頃ヨリ取扱ハズ但瑞典トノ間ニハ継続ノ模様ナルヲ以テ本電ハ瑞典經由ニ依レリ当地発、二三〇乃至二三六号ノ着否如何

過激派臨時政府ヲ倒シタル後引キ続キ露都ニ於ケル主権ヲ掌握シ露都ニ於テハ数日ニ亘リ社会党ノ間ニ政府組織ノ間

二分ノ一ナルヲ承知セラレ度

五二 十一月十八日

在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛

過激派ニ依ル革命ノ經過概況ニ関シ報告ノ件

政公第一九五号

(十二月十日接受)

大正六年十一月十八日

在露特命全權大使子爵 内 田 康 哉(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

露国政変ニ関スル件

当国社会党過激派ノ臨時政府顛覆ニ就テハ隨時電報ノ次第有之候処当地近來無秩序ノ結果右電報不着若クハ延着ノコトアルヘント思料セラレタルニ付不取敢經過概況取纏メ此段及報告候也

露国政変記

本年十月二十日開会ノ仮国会ハ無責任ナル「ケレンスキー」内閣ヲ支持スルモノナリトノ理由ヲ以テ同会ヨリ退場セル社会党過激派ハ「ペトログラード」労兵会ヲ根拠トシテ運動ヲ開始シ同労兵会内ニ軍事革命委員会(以下軍革委員会ト称ス)ナルモノヲ設ケベ市軍管司令部乗取策ヲ講セリ

題ヲ議シツツアリ未タ決定ニ至ラサルモ社会派ノ一部ト過激派トノ連立ナルヘク何レニシテモ「ケレンスキー」及有産階級ノ代表者ハ到底新政府ニ入ラス又過激派ノミヲ以テスル組織ハ成立セサルヘシ各種公共団体及ヒ戦線軍隊ノ大部分モ過激派ニハ反対ナルモノヲ操縦スヘキ中心勢力ナク「ケレンスキー」ハ遁走シテ既ニ人望モ無ク政府軍ハ皆進入行動ヲ中止セルヲ以テ目下ノトコロ臨時政府復活ノ見込立タス「カレンジン」大将ハ哥薩克ヲ率ヒテ「ハリコフ」附近迄北進セリトノ説アルモ距離ト兵力ノ關係上成功覚束ナシ露都ハ十二日以来静穩ニシテ駐在武官一同無事、莫斯科ハ十五日ヨリ静穩ニ帰セシモ未タ電報不通ニシテ古谷中佐ノ消息ヲ得ス戦線ハ平穩ナルカ如シ但コレトモ電報ハ数日間不通ナリ露西亞参謀本部ハ両三日間ニ外国電報ノ復旧スヘキヲ約セリ要スルニ政界ハ尚不安定ニシテ殊ニ事件ノ余波トシテ都下ノ糧食供給窮迫ヲ告ケ之カ為メ再ヒ騷擾ヲ来スノ憂ナシトセズ。以下梅崎ヨリ

・当地ヨリノ直電ハ賃銀非常ニ高クシテ本電報ハ約千円ヲ要ス故ニ予備金ノ残余幾何モナシ至急電送アリ度又送金ニ際シテ目下ノ為替相場ノ關係上日本貨ノ価値以前ノ約

十一月五日右委員会ハ其委員ヲ軍管司令部及各部軍隊ニ任置スルト共ニ從來ノ軍管司令部ニ対シ協同動作ヲ提議シタルトコロ同司令部ハ臨時政府ト協議ノ上右提議ヲ拒絶セリ是ニ於テ軍事委員会ハペ市衛戍軍代表者ヲ集メ會議ノ結果同委員ノ是認セサル司令官ノ命令ニ従フヘカラストノ檄文ヲ発シタルヲ以テペ市ノ軍隊ハ士官学校生徒隊及哥薩克ヲ除キテハ臨時政府ノ命令ニ従ハサルコトナレリ

十一月七日ハ前記ノ如ク態度ノ不穩ナル労兵会大会当日ノコトトテ何モノヲカ期待セラレ同日午後三時頃ヨリ「ペトログラード」ノ市中何トナク物騒ナリシカ同夜八時頃ヨリ軍革委員会ノ命令下ニ在ル軍隊ハ水兵及労働者ト共ニ市内ヲ横行シ諸官衙郵便電信局ヲ占領シ仮国会ヲ閉鎖シ臨時政府ノ諸大臣ヲ拘引セリ「ケレンスキー」ハ身ヲ以テ免ル右軍隊ハ「ネバ」ヲ遡江セル巡洋艦「アウロラ」ノ水兵ト共ニ士官学校生徒隊並ニ女隊ニ衛ラレツツ冬宮ノ引渡ヲ臨時政府ニ請求シ午後九時ヨリ射撃ヲ開始シ翌朝之ヲ占領セリ

斯テ軍革委員会ハ臨時政府ヲ顛覆シ政権ヲ掌握セルコトヲ全国ニ電報セリ



政府ニ対スル平和談判ノ速開及戦線全部ニ亘ル三ヶ月休戦条約ノ締結提議セラレ「レーニン」ハ大会ノ名ヲ以テ左記意味ノ宣言案ヲ提出セリ

今回ノ成功ニヨリ建設セラレタル労兵及農民ニ信頼スル我等ノ政府ハ各交戦国民及政府ニ対シ速ニ正当ナル民主的平和談判ヲ開始セムコトヲ提議ス我政府ハ併合ノ目的ノ為ニ戦争ヲ継続スルコトヲ一大罪惡ト信スルヲ以テ速ニ無併合無償金ノ平和ヲ締結スルヲ必要ト認ム

十一月八日右大会ニ於テ憲法議會召集迄国政ヲ行フ為メ国民委員會議ト称スル労働者及農民ノ政府（労働政府）ヲ組織シ大会ノ声明セル政綱ヲ施行セシムルコトトシ「レーニン」総理ニ「トロツキー」外務委員ニ就任セリ一方身ヲ以テ免レタル「ケレンスキー」ハ戦線ニ於テ総司令官トシテ命令ヲ発シ「ペトログラード」ニ向テ進撃中ナリ

此際ニ当リ国民ノ態度如何ト見ルニ「ケレンスキー」政府ニ嫌ラサルモサリトテ社会党過激派ニ対シ多キヲ期待セサル彼等ノ帰趨ハ自ラ一定セス非社会党派ハ一般ニ「レーニン」ヲ総理トスル国民委員會議ヲ否認シ又社会党中ニ在リテモ社会民主労働党温和派及社会革命党ノ如キハ右會議ヲ

ヲ組織セシムル目的ヲ以テ過激派對社会党諸派ノ兩者ニ対シ武装の党争ヲ速ニ中止セサレハ十一日夜半ヨリ鉄道ノ同盟罷業ヲ行フヘキ旨ヲ警告シテ幹旋ノ勞ヲ執レル結果同日來各派間ニ連合内閣組織ノ交渉開始セラレ從テ鉄道従業者ハ暫ク罷業ヲ延期シ社会民主労働党温和派中ノ万国社会派亦鉄道側ト協力シテ大ニ調停ニ力メタリ

右内閣組織ニ関シ過激派以外ノ社会黨員ハ過激派ノ領袖ヲ除外シ且新政府ヲシテ単ニ新ニ諸団体代表者ヲ以テ組織スヘキ国民會ニ対シ責任ヲ負ハシメムト主張スルニ反シ過激派ハ其領袖「レーニン」及「トロツキー」ノ入閣ヲ必要トシ且新政府ハ労兵會ニ対シ責ヲ負フヘシト主張セリ斯ノ如ク兩派ノ妥協成立セサルヲ以テ過激派以外ノ社会党ハ連合内閣組織ニ関スル協議會ヲ脱シタルカ今ヤ過激派間ニ於テモ其把持スル主義上ヨリ硬軟二派ノ區別ヲ生シ「レーニン」及「トロツキー」等ハ兵卒及労働者ニ信頼シ出版及言論ノ取締ヲ厳ニシ強圧手段ヲ断行セムトスルニ反シ「カーメネフ」「ルイスコフ」等領袖ノ一部ハ右ノ手段ニ出ルヲ不可トシ過激党本部幹部員タルコトヲ辞シ併セテ同志ト共ニ労働政府ノ委員ヲ辞シタル結果内閣組織ハ此所暫ク行悩ノ状

認メサル有様ナリ尤モ右温和派及社会革命党ヲ中心トスル仮国会、農民會本部、「ペトログラード」市會等ノ諸団体ハ祖国救済會ヲ組織シ進撃中ノ「ケレンスキー」軍ニシテ成功セハ之ト呼応シテ過激派ヲ排シ時局收拾ノ考ナリシモ妥協主義ノ「ケレンスキー」ハ其態度不定ナルニ反シ軍參謀長「クラスノフ」ハ極力ベ市進撃ヲ主張シ兩者間ニ意見ヲ異ニセル結果軍ノ軌一ヲ欠キタルモノノ如ク遂ニ「ツアレスコイセロ」ニ於テ過激派軍ノ迎撃ニ抗スル能ハス「クラスノフ」ハ「ガツチナ」ニ於テ擒ニセラレ「ケレンスキー」ハ逃亡シテ其所在ヲ晦セリ

今回ノ政変ニ際シ次官以下臨時政府ノ官吏ハ概ネ職ヲ休ミテ就業セサルカ故ニ事務一向ニ進捗セス実務ニ熟達セサル過激派モ亦手ヲ着クルニ由ナク彼等ハ内国民ニ対シテハ兎モ角政令ヲ発シ居ルカ如キモ遵從セサルモノ多キノミナラス外交団ニ対シテモ交渉ノ端ヲ開カムトスルカ如キモ從來之ニ關係セル官吏ハ概ネ其地位ヲ去レルカ故ニ之ヲ為スコトヲ得ス彼等ヲ拘禁シ執務ヲ強制セムトスル有様ナリト云フ

斯ル有様ナルヲ以テ全露鉄道同盟會本部ハ社会党連合内閣

態ナリ

五一三 十一月十八日

在英國珍田大使ヨリ  
本野外務大臣宛（電報）

タイムス露都通信員ガ露国ノ現状及日本ノシ

ベリア出兵方等ニ付重光書記官ニ語リタル件

第五一〇号

（十一月二十二日接受）

十一月十八日帰朝中ノ「タイムス」露都通信員「ウイルトン」カ露国ノ現状ニ関シ重光書記官ニ語ル所左ノ通露国ノ事情ニ就テハ新聞所載ノモノ以外自分ニ於テモ何等ノ報道ヲ有セス英國政府モ同様トノコトナリ然シ概括シテ言ヘハ過去数ヶ月トモ無政府情態ハ今日ト略ボ同様ニシテ哥薩克地方芬蘭竝「ウクレイン」ノ独立モ事實以前ヨリノコトニシテ掠奪殺戮モ至ル所ニ行ハレタルガ唯タ是等報道ノ外国ニ伝ヘラレザリシ迄ナリ混乱情態漸次進ミ今日ノ事態ヲ齎ラスニ至リタリトテ世人カ今更ノ如ク騒立テ居ルハ洵ニ笑止ノ至ナリ然レトモ自分ハ露国ノ事態カ險惡トナレバナル程之ヲ喜ブモノナリ何トナレハ露国ニ於テハ其腐敗極度ニ達セザレハ反動的勢力起ラズ国民ノ覺醒モナク從テ救済策ナケレバナリ自分ハ私ニ是等自然ノ経路ヲ經テ遂

ニハ再ヒ王朝復旧ノ時期アルヘキヲ疑ハズ現在トテモ戦線輸送ヲ初トシテ国内運輸ノ停止ヲ見ザルハ健全分子ノ今猶ホ命脈ヲ絶タザル確証ナリト考ヘ居ル次第ナリ

政府ハ是迄トテモ国民ニ対シ何等ノ実権ヲ有セズ租税ハ地方委員会ノ消費スル所トナリ中央政府ハ殆ント何等ノ収入ナキニ依リ露都ニ於ケル多数ノ印刷所ニテ製造シタル紙幣ガ政府唯一ノ財源トナリ之ヲ以テ軍費支弁並農民カ供給スル都市食料品ノ支払ニ充テ居ル始末ナルガ此遺線リヲモ続ケ得ル間ハ軍隊モ安静ナルヘク(脱)シムルヲ得ルモ(開戦当初ノ禁酒令ハ人民ヲ神經質ナラシメ革命ノ機運誘発ニ与テ力アリタルガ革命後右禁止ノ自然的解除ハ却テ人民ノ気分ヲ乱暴ナラシメ騒乱ノ原因トナルコト多シ)独軍ノ露都占領等ニ依リ此遺線リ不可能トナルカ又ハ運輸ノ崩壊ニ依リ総テノ組織ヲ破壊セラルル場合ニハ軍隊ノ総括的不穩並農民ノ騒乱トナルベシ故ニ自分ハ寧ろ独逸ノ進軍ヲ歡迎スルモノニシテ之ヲ以テ間接ニ健全分子ヲ煽動スル所以ナリトス之ト同様ノ理由ニ依リ極端社会主義者カ政府ノ地位ニ立チ無政府主義ヲ実現シ騒擾ヲ頻出スルモ亦自分ノ喜フ所ナリ之ニ反シ国内異分子カ妥協ニ妥協ヲ重ネテ一時ヲ弥

縫スルハ露国墮落ノ自然ノ行程ヲ永クシ從テ覚醒ノ時機ヲ遅クスル所以ニシテ今日「レニン」一派カ他ノ社会党ト交譲妥結スルカ如キハ決シテ好現象ト謂フヘカラズ上述ノ如ク露国ハ今ヤ当然ノ順路ヲ辿リ漸ク混乱ノ極点ニ近ツキツアルヤニ觀測セラルル処其結果漸次健全分子ノ醺醉ヲ見ルニ至ルヘキカ(重光ハ極端社会党政府ニシテ独逸ト握手スルコトナキヤト問ヒタルニ「ウイルトン」ハ彼等ハ實際国家ヲ左右スルノ実権ヲ有セズ彼等ノ為ス講和ハ露国ノ講和ニアラズ從テ何等ノ意義ヲ有セズト答ヘ又各民族ヨリ成ル自治体ヲ統轄スル極端派以外ノ鞏固ナル政府現出セバ此政府ハ戦争継続ノ不利ヲ知り国家救済ノ方法トシテ独逸ト結ヒ其力ニ依リテ国内ノ整頓ヲ急ク様ノコトナラズヤトノ問ニ対シテハ自分ハ露国カ敵側ト握手スヘキヲ信ゼズト答ヘタル趣ナリ)連合側トシテハ此露国ノ覚醒ヲ助成スルノ政策ヲ執ルノ外ナキモ出兵ハ既ニ時機遅レタリ而シ自分ハ今後三四ヶ月内ニ連合側ハ露国ニ対シ「グレーヴ、デシイジョン」ヲ執ルノ必要ニ迫ラルヘキ様感ズ其結果ハ西欧同盟国ヨリ軍隊ヲ露国ニ入ルルコトナルヘキモ最密接ノ關係ヲ有スル日本カ折角ノ時期ヲ無為ニ過スハ自分ノ解スル

能ハザル所ナルガ日本政府ハ革命思想ノ軍隊ニ伝播センコトヲ恐レ右出兵ヲ控ヘ居ルコトヲ耳ニセルカ事実ナリヤト

ノコトニ付重光ハ此点ハ此迄余リ聞キ居ラザルモ派兵ノ不可能ナルハ縱令日本輿論ノ反抗ヲ避ケ得タリトスルモ国民ノ満足スル大軍輸送ノ困難ヨリ見ルモ明カニシテ況ンヤ露国目下ノ民意ニ鑑ミルトキハ日本兵ヲ露国ニ入ルルハ甚ダ危険ナルヘク要スルニ日本出兵論ハ連合側全体ニ取リテモ不利益ナルノミナラズ日本ニ対シ不親切ノ議論ナラズヤト答ヘタルニ「ウイルトン」ハ日本カ将来優越ナル地位ヲ確保スル上ニ於テ或時期ニ露国ニ兵ヲ送ルハ日本ノ利益ナルベキヲ衷心確信ス約ニケ軍団モアラハ西伯利亚ニ於ケル鐵道都市ヲ占領シ西伯利亚ノ自治ヲ宣言セバ秩序ヲ渴望シ居ル一般人民ハ茲ニ日本ノ政治ヲ詠歌スベク斯クシテ後方ノ安全ヲ保ツ方法モアルニアラズヤ兎ニ角自分ハ「ボルシェビク」一派カ他国ヨリノ派兵ヲ妨クル為鐵道橋梁ヲ破壊センコトヲ惧ル云々ト言ヘル趣ナリ

在露大使ヘ転電ス

五一四 十一月十八日

在英國珍田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

在露国内田大使發本野外務大臣宛電報念ノ為  
転電ノ件

別電一 同日珍田大使發本野外務大臣宛電報第五一三號  
十一月十二日内田大使發本野外務大臣宛電報第一一三九號転電ノ件  
二 同右第五一三號ノ二  
十一月十四日内田大使發本野外務大臣宛電報第一一四六號転電ノ件

第五一二號

(十一月二十日接受)

在露大使發貴大臣宛電報第一一三九號(右転電十月十二日午後八時四十分發十七日午後八時半着)及第一一四六號(右転電十一月十四日―時間不明―發十七日午後九時五十分着)為念別電ヲ以テ転電ス

(別電一)

十一月十八日在英國珍田大使發本野外務大臣宛電報第五一三號  
社会党右派ノ連立内閣組織ノ動キニ関スル十一月十二日在露国内田大使發本野外務大臣宛電報第一一三九號転電ノ件  
第五一三號 別電  
(十一月二十日接受)

在露大使發外務大臣宛電報

第一一三九號

万国社会主義派カ時局救済ノタメ社会党各派連合内閣組織

ニ極力尽力中ナル次第ハ往電第一一三八号ノ通りナルガ同時ニ全露鉄道同盟会本部ハ速ニ武装の党争ヲ中止シ社会党連合内閣ヲ組織スルニアラザレバ十一日夜半ヨリ全国鉄道同盟罷業ヲ行フヘキ旨警告シタル結果十一日以来当地及莫斯科ニ於テ社会党各派間ニ連合内閣組織ノ交渉開始セラレ鉄道側ハ罷業ヲ延期セリ過激派本部労兵会中央本部ハ既ニ右連立内閣組織ニ同意ヲ表シタル趣ナリ又「ケレンスキー」ノ態度ニ関シテハ八百長の駆引ナキヤヲ疑ヒ居リタル次第モ之レアリ或ハ意外ノ変局ヲ生シ来ルコトナキヲ保セズ

(別電二)

十一月十八日在英國珍田大使發本野外務大臣宛電報第五一三号ノ二

革命勃發後ノ露国外務省内部ノ動靜ニ関シ十一月十四日在露国内田大使發本野外務大臣宛電報第一一四六号転電ノ件

第五一三号ノ二

(十一月二十一日接受)

在露大使發外務大臣宛電報第一一四六号

往電第一一四五号ニ関シ

在日本露国大使館参事官「シエキン」ノ内話左ノ通

同人ハ帰着早々今回ノ事変ニ遭遇シタル事トテ頗ル当惑ノ体ニテ開口第一時局ハ益々險惡トナリツツアリ今後如何ニ

ヲ得ザル事トナルヤモ保シ難シ「ケレンスキー」ハ飽迄對抗ス可キ旨外務省員ニ命令シ居ルモ身ニ寸鉄ヲ帶ビザル者ニ対シスル命令ハ無理ナリ故ニ自分等ハ出事得ル限り過激派ニ道理ヲ説明シ対外關係上露国ヲシテ取返シノ付カザル不面目ノ事ヲ行ハシメザル様(主トシテ機密書類ノ發表ヲ云フナラン)最善ノ途ヲ尽シツツアリ兎ニ角右ノ事情ヲ「ケレンスキー」ニ内告セン為密使ヲ派遣シタルモ直ニ捕ハレ間モナク放還セラレ帰来シタルガ其内報ニ依レバ「ザルスコエセロ」ハ確ニ過激派ニ占領セラレタリトノコトナリ一説ニ「ケレンスキー」軍ハ莫斯科線ニ沿ヒ当市ニ進軍シツツ優勢ナリトノコトナレドモ確報ナシ又莫斯科ノ消息ニ至リテハ皆無ナルガ同地日本領事ヨリ何等電報ナキヤトノコトニ付一兩日来殆ト電信不通ノ模様ナル旨答ヘタル処彼ハ頻リニ同市モ過激派ノ掌中ニ陥リタルニアラザルカラ氣遣ヒ居レリ尚同人ハ波斯公使ニ任命セラレ居リタル処右關係書類ハ冬宮ノ變ニ際シ焼棄セラレタルモノノ如ク今後ノ進行如何ニ成行ク可キヤ不明ナリト語レリ(十四日)

五一五 十一月十九日

在モスコ熊崎總領事代理ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

成行ク可キヤ貴見如何トノ事ニ付本使ハ之ニ対シ差当リ何事モ過激派ノ兵ト「ケレンスキー」側ノ兵トノ間ニ於ケル勝負如何ニ依ル事ナルガ双方自分勝手ノ説ヲ流布シ常ニ矛盾シタル情報行ハルルヲ以テ真相ヲ知ルニ苦シム旨ヲ述ヘ何等最近ノ確報ナキヤト反問シタル処自分ハ帰着早々此事變ニ会ヒ外務大臣ハ今尚要塞ニ拘禁セラレ次官「ネラトフ」ハ逃亡「ゴザコフ」及外二名ノ外務省幹部員捕縛ノ命令出デ居リ「ネラトフ」ハ窃ニ当市ヲ遁レ出テ莫斯科ヘ向ヒタルモ同市ハ当市以上ノ騷擾ナルニ付果シテ逃ケ了セタルヤ否ヤ不明ナルカ多分生命ニハ別条ナカル可ク又「ゴザコフ」ハ市内ニ潜匿シ是亦生命ニ危険ナシ外二名モ夫々隠レ家ヲ得居レリ外務省員ハ全部同盟罷業ノ体ニテ自分ノ上ニハ唯一人ノ先任者アルノミニテ同人ト共同シテ外務省官舎内ニ宿泊シ留守番ヲナシ居ル様ノ次第ナリ官舎ハ無知文盲ノ輩ニ荒サレ見ル影モナク侵入ノ兵隊ハ官舎内ノ酒ニ泥酔シ言語應對不体裁ヲ極メタルモ幸ヒニ書類ニハ未ダ手ヲ触レズ機密文書ハ其書庫ノ鍵ト共ニ今尚自分等ノ保管中ニアルモ外務省ノ態度ハ甚タシク「ツロツキー」等ノ面目ヲ損ヒタルニ付何時自分等ニモ危険差迫リ踪跡ヲ暗マサザル

在留外国人保護問題ニ関シ事務上ノ交渉ノ為

米国及瑞典領事官ニ於テ革命軍委員會代表者

ト面会シタルニ付請訓ノ件

第一六二号

今回ノ事変ニ関シ当地列国領事官ハ先任米国総領事ノ發議ニ依リ目下ノ急務タル一般外国人保護方ニ付革命軍委員會ナルモノニ対シ事務上ノ交渉ヲ為スニ決シ米及瑞典領事官(聯合國一名中立国一名ノ割)ヲ委員ニ挙ケ十八日右委員ハ革命軍委員會代表者ニ面会シタルガ同会ニ於テハ外国人保護ニ付出来得ル限り尽力スヘキヲ約シ今後外国人關係事務ヲ取扱フ為特ニ委員ヲ挙ケ時々前記領事側委員ノ許ニ来リ打合ヲナスコトナレリ右領事側ノ行動ハ過激派政府ノ訓令無キ現在ニ於ケル当座ノ処置ニシテ且何等各自ノ独立行動ヲ拘束セザル了解ノ下ニ成立シ又革命軍委員會ニ対シテハ領事側今回ノ処置カ彼等ノ政府承認問題ニ何等關係ナキ旨ヲ明カニセリ

右領事ノ聯合行動ニ加ハリタルハ英國ヲ除キタル当地現在本任領事ノ全部即チ米、仏、伊、白、瑞典各領事及本官ノ六名ニシテ英國領事ノ之ニ加ハラザルハ同領事ハ特ニ本国

政府ノ訓令ナキ限り何等ノ行動ヲ為シ得ズト曰フニ在リ尚過激派政府ニ対スヘキ態度ニ関シ当地領事官中本國政府ノ訓令ヲ受ケタルモノ無キハ既述ノ通りナルモ米、白両領事官ハ在露都当該大公使限りノ意見トシテ不承認ノ態度ヲ執ルヘキ旨来訓アリタル由内話アリタリ本官心得方至急御電訓ヲ請フ

在露大使へ電報セリ

五一六 十一月二十日

在ハルビン佐藤総領事ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

日本警察官増派ニ関シホルワット將軍同意ニ

付右早急取計方稟請ノ件

第一四八号

(十一月二十日接受)

往電第一四六号ニ関シ十一月十九日「ホルワット」將軍ニ会见既電第一一七号警官増派ニ関スル同將軍ノ意見ヲ問ヒタル所元来当地方ニ外人ノ居住スルハ露国側ニ於テ安寧秩序ノ維持ヲ保障スルカ為メナル所昨今ノ状態ニ於テハ露国自身絶対ニ秩序維持ヲ保障シ得ザルニ立至リ右事情ハ自分等ニ於テモ明カニ自認セザルヲ得ザル次第ナルニ付テハ各国人カ自衛上適當ノ手段ヲ講スルハ真ニ已ムヲ得ザル所

ニシテ日本警官ノ増派ノ如キモ同將軍ハ之ニ対シ絶対ニ異議ヲ有セサル旨言明シ居タリ依テ本官ハ交通機関欠如セル当市ノ現状ニ顧ミ右増派警官ハ之レヲ日本人ノ比較的集合セル埠頭ノ一地点タル居留民会内ニ宿泊セシメ急変ノ際訴ニ依リ直ニ出動シ得ル様致シタキ考ナリト陳ヘタル所同將軍ハ右ハ機宜ニ適シタル処置ト認ムル旨答ヘタリ事情右ノ如クニシテ露国側ニ対スル顧慮ハ全ク不要ニ付一日モ早ク増派方御取計相成リタシ著服ノ如キモ私服ヲ纏テ人目ニ触ルルヲ避クルニ及バズ却テ正服ノ佩往来スル方労兵会若ハ兇漢等ニ対スル有効ナル印象ヲ与フヘシト信ス

(長春經由十一月二十日午後一、五〇)

五一七 十一月二十日

在羅馬尼荒木中佐ヨリ  
田中參謀次長宛(電報)

露国前線軍隊ノ動向及地方ノ政治情勢ニ関スル在ペトログラード石坂少將電報転電ノ件

十七日発石坂特号

(十一月二十一日接受)

露軍戦闘力及国内ノ秩序回復ハ目下ノ処自力ニテハ望ミナク刻々志氣ヲ消磨シ一事件毎ニ益々紛糾ヲ来スノミ高級指揮官及將校ノ戦力恢復ニ努力スルモノ相亜テ兇手ニ斃レツ

「ドン」ニハ騎兵十二ト歩六連、砲二中アリ

五一八 十一月二十一日

在ハルビン佐藤総領事ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

ハルビンニ於テ國際警察組織ニ関シ領事団会議開催ノ件

第一五三号

(十一月廿二日接受)

ツアリ、伊太利ノ戦況益々不利ニ羅馬尼ノ位地刻々危険ニナリ「ゴツアルコ」中將使節ノ長トシテ九日露都ヲ発セル管旁兵会外交団ノモノハ恐ラクハ出発シ得ザリシナラン。事件ノ為開カレタル軍各部隊臨時軍事革命委員會略々十四日ニテ結了シタリ、大体ニ於テ各軍モ方面軍司令部モ武装行動ハ徒ラニ軍第一線ヲ嬰退シ敵ニ乗セラルルモノトシ血ヲ流サズシテ事ヲ解決スルニ決シタリ換言スレハ之ヲ以テ中立ヲ為シ建国大会ヲ期限内ニ開クコト連立内閣反対、平和促進、土地分配ノ実施、国内秩序ノ恢復ニ一致シ居レリ軍ハ大体此假平和ヲ待ツヘキカ。露都郊外「ツアルスコエセロ」ニテ政反兩軍妥協談判成立シ目下新政府組織ノ討議中、「ケレンスキー」行衛不明、総參謀長「ドホウニン」臨時總司令官トナル、南方都市中「キイエフ」ハ事實上政權過激派及小露西亜會議ノ手ニ在リ「オデツサ」ハ政治的ヨリモ掠奪ニ恐慌ヲ来シツアリ、莫斯科ハ兩軍相半バス「ドン」ハ小露西亜ト前後シテ建国大会マテ独立ヲ宣スト、西伯利亞ノ高加索ノ独立ノ噂アルモ疑ハシ。今後事件ノ成行キハ逆賭シ難ク其行動「ドン」ノ形勢ハ注意ヲ要ス、露国ノ統一ハ「ドン」ノ力ヲ藉リルコト多カラン今

哈爾濱市内殆ト無警察ノ状態ニテ強盜被害事件頻出シ外人ノ生命財産ノ安全ヲ保シ難キニ至リ諸外国領事ヨリ累次東支鉄道長官ニ対シ警告スル所アリシモ今以テ警察力ノ改善ヲ見ルニ至ラザル処兩三日前連立タル英米人二名午後八時頃街路上ニ兇器ヲ持シタル六名ノ兇漢ノ為メ金品ヲ強奪セラレタル事件アリタル以來一層外国領事団ノ不安ヲ招キ治安維持ニ関シ英米領事ヨリ領事団會議ノ開催ヲ要求シ来リタルヲ以テ十一月二十一日日本官主宰ノ下ニ当館ニ於テ日英米露仏及和蘭領事會議ヲ開キ意見ヲ交換シタル処米國領事ハ極メテ率直ニ意見ヲ開陳シ東支鉄道庁ニシテ警察力ヲ回復シ從來ノ如ク治安ヲ維持シ得ルニ於テハ吾人ハ何等干涉ノ必要ヲ認メザルモ現政府ノ如ク東清ノ力ニテハ既ニ警察力ノ回復ヲ望ミ難キ以上吾人ハ何等カノ手段ヲ講スル

コト絶対ニ必要ニシテ支那領内ノ一地区ニ於テ米国人ノ生命財産ヲ危殆ニ瀕セシムルヲ許容スルハ予ノ職責ノ許サザル所ナリト述ヘ英國領事ハ各国領事東支鉄道長官及露国領事ヨリ成ル合議体ノ委員会ヲ設ケ露国警察ヲ改善シ之ヲ右委員会ノ指揮ノ下ニ立タシムヘントノ意見ヲ述ヘ仏国代弁領事ハ之ニ対シ露国警察ヲ改善スルハ殆ト不可能ニシテ警察トシテノ実果ヲ収ムルコト困難ナルヲ以テ寧ロ日本及支那ノ軍隊ヲ招致シ差当リ警備ニ任セシメ追テ各国ノ軍隊ヲ入市セシムヘント唱ヘタリ此等ノ意見ニ対シ本官ハ東支鉄道庁ヲシテ警察力ヲ回復セシムルコト此際最モ望マシキ処ニシテ此点ハ米國領事ト全然同意見ナルモ外國軍隊ヲ招致シ以テ國際警察制度ヲ布クカ如キハ極端ナル場合ニ於テノミ之ヲ實現シ得ヘク殊ニ南滿ニ於テ或勢力ヲ有スル日本ノ代表者トシテハ混沌タル形勢ヲ利用シテ自己ノ權力ヲ伸張セントスルノ猜疑ヲ招クノ虞アルニ付重大ナル危険ノ迫ラザル限り進ンテ提言スルヲ憚ル次第ナリト述ベタル処各領事ハ斯ノ如キ遠慮ヲ為スニハ形勢余リニ重大ナリトシ且ツ領事団ノ決議トシテ行動スルニ於テハ猜疑ヲ招ク憂ナカルベント答ヘタリ(本官カ以上ノ如キ遂巡ノ態度ヲ執リタル

別電

同日佐藤総領事発在中国林公使宛電報第七〇号  
在ハルビン領事団ヨリ「ホルワット」將軍宛電書

第一五四号

(十一月廿三日接受)

本官発在支公使宛十一月二十二日第六九号

外務大臣宛電第一五三号ニ関シ十一月二十二日各国領事ホルワット將軍ヲ訪問シ本官ヨリ領事団會議ノ動機及決議ヲ説明シ同將軍ノ意見ヲ求メタル処同將軍ハ本官ニ対シ本件ハ極メテ重大ナル意義ヲ有シ何分ニモ即答スルコト困難ナルヲ以テ属僚ト熟議ノ上來ル二十四日午後二時會議スヘク又東清側ニ於テ領事団ノ提議ヲ容ルルコトナリタル場合ニ於テモ在北京露国公使ト協議ノ後ニアラザレバ確定スルヲ得ズト答ヘタルヲ以テ領事団ハ兎ニ角二十四日ノ回答ヲ俟ツコトトシ且同將軍ノ請求ニ依リ電書ヲ提出スルコトトシ引取リタル上更ニ協議ノ結果別電第七〇号ノ如キ仏文「エイド・メモアル」ヲ認メ首席領事タル本官ノ署名ヲ以テ同將軍ニ提出シ尚ホ各国領事ハ領事団ノ決議及「ホルワット」將軍トノ会見ノ次第ニ付直ニ在北京公使ニ電稟シタル筈ニテ貴地外交団ノ協議事項ト相成ルヘキニ付右御含ノ上可然御措置アリタシ

ハ露国領事ノ手前モアリタルニ付態ト英米領事ニ「イニシアチーブ」ヲ取ラシムルヲ便宜ト思考シタル故ナリ)右討議ノ結果東支鉄道長官ノ同意ヲ經タル上各国軍隊ヲ招致シ改善セラレタル露国警察ヲ併セ英領事提議ノ委員会ノ指揮ノ下ニ置キ治安ヲ維持セシムルコトニ略ホ意見一致シ十一月二十二日各国領事ハ同長官ト会見シ右提議ニ関シ會議ノ筈其結果ハ追テ電報スヘシ尚ホ本官ハ以上ノ如キ國際警察組織ノ場合ニ於テ日本軍隊ヲ招致シ上記ノ如キ民政委員会ノ指揮ノ下ニ立タシムルハ不可能ニシテ軍隊トシテハ治安維持ニ関シ与ヘラレタル職權内ニ於テ独立ノ行動ヲ執ルノ外ナカルヘク仍テ寧ロ日本警察隊ノ出動ヲ見ルヲ便宜ト思考スル旨私見トシテ述ヘ置キタリ

在支公使、在露大使、奉天ヘ転電シ浦潮、齊々哈爾ヘ郵報セリ

(長春經由十一月廿二日後八、〇〇)

五一九 十一月二十二日

在ハルビン佐藤総領事ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

國際警察組織問題ニ関シホルワット將軍ニ申

入ノ件

又別電電書ハ英、米、露、仏、白及和蘭公使ヘ夫々御交付アリタシ

外務大臣、在露大使(別電略ス)ヘ転電セリ

浦潮、齊々哈爾、奉天ヘ暗号ノ便郵送セリ

(長春中継十一月二十二日後七、二六)

(別電)

十一月二十二日佐藤総領事発在中国林公使宛電報第七〇号

在ハルビン領事団ヨリ「ホルワット」將軍宛電書

Aide-Mémoire

En vue de la situation présente à Kharbine, (不明) avec lamentable fréquence faisant de nombreuses victimes parmi la population étrangère sans que la police paraisse être en état y porter un remède efficace, le Corps Consulaire de Kharbine, à la demande de plaintes nombreuses présentées à des différents consuls, a décidé à l'unanimité de soumettre à l'examen et considération de Son Excellence le Général Holwat la question suivante demandant une réponse immédiate.

La police russe à Kharbine et dans la zone de chemin de fer sera placée sous le contrôle et direction d'un comité composé du Corps consulaire et du Direc-

toire de Chemin de fer et sera renforcée par de soldats ou de police de différentes nationalités dans la mesure qui sera jugée nécessaire par le susdit comité.

Le Corps consulaire attire l'attention de S. E. le Général Holwat sur le point qu'en posant la question précédente, il désire aucunement empiéter sur les fonctions et droits que les différentes conventions reconnaissent au Gouvernement russe. Il est uniquement guidé par le souci des intérêts qui lui sont confiés et par le sincère désir de collaborer avec les autorités russes dans la mesure nécessaire.

Au surplus, il est bien entendu que la mesure proposée n'aurait qu'un caractère temporaire.

Sato.

五二〇 十一月二十二日

在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

労農政府ニ依ル講和商議開始ノ提議其他情勢

ノ進展ニ関スル新聞情報ノ件

第一一六一号

(十一月二十六日接受)

十一月二十二日新聞情報

(一) 労農政府ハ二十一日交戦諸国ニ対シ休戦布告平和談判

開始ノ提議ヲナスト同時ニ総司令官「ブホーニン」將軍ニ対シ平和談判開始ノ目的ヲ以テ速ニ敵軍ニ休戦ノ提議ヲナシ労農政府ノ同意ヲ経テ休戦条約ヲ締結スヘキ旨命令セリ

(二) 全軍々委員ハ大本營ニ於テ會議ヲ開キ「チエルノフ」ヲ総理トシテ左ノ主義ニ依リ社会党連合内閣(過激派ヲ含ム)ヲ組織スヘシト決議セリ

一、政治的過激手段ヲ止ムルコト

一、自由選挙ニ依リ憲法會議員ヲ選挙スルコト

一、土地ヲ農民委員會ニ引渡スコト

一、速ニ平和談判ヲ開始スルコト

(三) 農民代表者會議ハ「チエルノフ」ノ提議ニ基キ大本營所在地ニ移転サルヘク尚ホ同地ニ於テ社会党各派會議開カルヘシ

(四) 社会革命党左翼ハ労農政府ニ入閣ヲ拒絶セリ

(四) 労農政府ハ帝国銀行ニ対シ千万留ノ支出ヲ命シタルモ銀行側ハ頑トシテ応セズ両者間ニ悶着ヲ重ネツツアリ

(六) 外務省ニテ「ネラトフ」登省シテ書類ノ鍵ヲ労農政府ニ引渡シタルガ省員ハ未ダ登省セズ「トロツキー」ハ秘

密条約全部入手シタルヲ以テ速ニ之ヲ公表スヘキ旨労兵會本部ニテ演説セリ

(七) 労農政府ハ昨日官報ニテ憲法議會ノ選挙及召集ヲ予定ノ期日ニ断行スヘク之カ為メ労兵會本部ハ既ニ選挙委員ヲ認定シタル旨公表セリ

(八) 芬蘭ニ於テハ過激派ハ元老院ヲ解散シ「ウクライナ」ニ於テハ中央議會ハ戦線ニ於ケル「ウクライナ」軍隊ニ対シ引揚ケ帰還ヲ命令セリ

(九) 陸海軍委員ハ労農政府ニ対シ兵卒ノ權利ニ関スル条令案ヲ提出シタルガ右ニ依レハ軍人ノ權利ハ総テ平等ニシテ官位ノ差別ヲ廃シ服装モ凡テ同一ナルヘシ

(ストックホルム) 經由大正六年十一月二十四日後四時第二二五号)

五二一 十一月二十三日

在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

労農政府ニ依ル講和商議其他ノ動向ニ関スル

新聞情報ノ件

第一一六二号

(十一月二十五日接受)

十一月二十三日新聞情報

一、「ツコーニン」將軍ハ休戦申込ニ関スル労農政府ノ申

一三 露国革命關係一件 五二一

入ヲ拒絶シタル為メ総司令官ノ職ヲ免セラレ同政府陸軍委員「クリレンコ」少尉其後任トナレリ同少尉ハ戦線軍委員ニ対シ各自ニ敵軍ト休戦談判ヲ為スヘキ旨電報シタルカ戦線特ニ西部及西南部戦線ニ於テ敵味方ノ親睦始マレリ

二、労農政府ハ交戦國政府ト平和談判ヲ行ハシムル為メ委員ヲ「ストックホルム」ニ派遣シタリ

三、外務委員「トロツキー」ハ外務省官吏一同ニ対シ来ル二十六日迄ニ出勤セサルモノハ免職者ト見做シ恩給年金ノ權利ヲ剥奪スヘキ旨訓令セリ

四、軍事革命委員會ハ労農政府ニ反対セル祖国救済委員會ニ解散ヲ命シ又帝国銀行ヲシテ五百万「ルーブル」ヲ支出セシメタリ

五、当地波蘭兵連合會ハ露国軍籍ヲ脱シ現下ノ内政ニ対シ中立ヲ維持スルノ希望ヲ表明セリ

六、農民會大會ヲ大本營所在地ニ開クノ件ハ戦線代表者及社会革命党左翼ノ反対アル為メ実行困難ナルカ如シ又同党左翼ハ「チエルノフ」内閣組織ニ反対ノ意ヲ表セリ

五二二 十一月二十三日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

労農政府ノ休戦及講和提議ニ対シ外交団會議  
開催ノ件

第一一六三号 (十一月二十四日接受)

一週間程前社会主義各派連立内閣成立セムトセシ際同内閣  
ニ対スル当地協商国側外交団ノ態度ヲ定メム為會議ヲ開キ  
(十一月十七日)種々意見ノ交換ヲ行ヒタルモ何等要領ヲ  
得ズ愈々新内閣出現ノ上更ニ會議ヲ開キ成ルヘク協同動作  
ニ出ヅヘキ申合ヲナシ散会シタル処其後連立内閣ハ既電ノ  
通成立セズ過激派ハ同派一味ノモノヲ除クノ外各方面ノ攻  
撃アルニ拘ラズ全然政權ヲ同派ノ掌裡ニ収ムル決心ヲナシ  
着々其ノ政策ヲ実行シ終ニ一昨二十一日夜先ツ別電<sup>(注)</sup>ノ通牒  
ヲ仏国大使ニ送り昨日英、米、伊、白、塞爾比、各使臣モ  
同文ノ通牒ヲ受取りタルニ付(本使初メ羅馬尼、葡萄牙、  
希臘、支那、暹羅、亜尔然丁、各使臣ハ未タ接受セズ發送  
漏ナルカ又ハ他ニ理由アルコトナルヤ判リ次第追電ス)昨  
日更ニ外交団會議ヲ開キ大要左ノ協議ヲ遂ゲタリ  
(一) 労農政府ノ通牒ハ明ニ一九一四年九月五日ノ倫敦宣言

過激派政府ノ講和及休戦提議ニ関スル当地ノ

新聞論評報告ノ件

第一六七号 (十一月二十五日接受)

過激派政府カ今回提議シタル講和及休戦ニ関スル当地諸新  
聞論評大要ハ同派機關紙カ得意氣ニ政府ノ措置ヲ称揚セル  
外社会党穩和派機關紙ハ仏国ガ今回併合主義者内閣ニ変更  
シタルノ事實ハ過激派政府ニ対スル好箇ノ回答ナリト謂フ  
ヘク其他ノ与国モ仏国ト同様ノ態度ニ出ヅルトセバ既ニ敵  
軍ト休戦ノ商議ヲ開キタル過激派総軍司令官及予テ国人ニ  
対シ平和トパンヲ約束シ来レル「レニン」一派ノ運命察ス  
ルニ難カラズト冷評シ有産階級ニ属スル重ナル新聞ハ講和  
条件カ曩ニ露国ノ地位稍有利ナリシ当時(脱)及独乙ノ  
(不明)ヲ受ケタルニ形勢一変ノ今日独逸カ「レニン」一  
派ヲ相手トシテ講和提議ニ傾聴スヘキヤ否ヤ問題タルノミ  
ナラズ第一連合国側ハ過激派政府ヲ以テ商議ノ資格ヲ有ス  
ルモノト承認セザルヘク亦過激派政府カ連合側ノ意向ヲ  
(脱)至ラバ条約違反ノ背信行為ニシテ之ニ依リ過激派カ  
露国ニ齎ラスヘキ不名誉ト不利益ハ甚大ナリト謂フヘシ然  
レトモ今後ノ戦争継続カ露国ニトリ無益ナルノ現状ニ顧ミ

ニ違背スルモノニシテ労農政府カ協商諸国ニ一応ノ協議  
ヲモナサズ敵国ニ対シ同一ノ提議ヲナシタル行為ハ背信  
ノ甚シキモノナルヲ以テ右通牒ニ対シテハ何等ノ回答ヲ  
与ヘザルコト尤モ右通牒ハ返却スヘキコト当然ナランモ  
時局ニ顧ミ此際公然労農政府ト抗争ノ態度ニ出ヅルハ面  
白カラザルニ付之ヲ受領シ置キ徐ニ時局ノ發展ヲ待ツコ  
ト

(二) 右ノ趣旨ヲ各自本国政府ニ電報シ其ノ考慮ニ資スルコ  
ト

(三) 新聞記者ノ質問ニ対シテハ単ニ右通牒ニ接シタル事實  
ヲ答フルノミニ止ムルコト尤モ其処分方ニ関シ更ニ質問  
ヲ受ケ已ムヲ得ズ何等カノ挨拶ヲ要スルトキハ他ノ一般  
事項ト同シク右通牒モ本国政府ヘノ一報告トシテ転電シ  
タル旨ヲ答フルコト

在欧米各大使ヘ転電セリ

註 後出ノ内田大使発本野外務大臣宛電報第一一六五号ナリ  
(五二四文書)

五二三 十一月二十四日 在モスコ―熊崎総領事代理ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

吾人ハ今ヤ困厄ヲ忍テ速ニ与国ト共ニ戦争休止ノ策ヲ講セ  
ザルベカラザルノ悲境ニ在リト論セリ

在露大使ヘ郵報セリ

五二四 十一月二十四日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

新政府首長ニレニン、外務人民委員ニトロ

ツキー夫々就任並休戦及講和提議ニ関スル十  
一月二十一日附露国外相ヨリ仏国大使宛通牒

報告ノ件

No. 1165 (Betsuden)

J'ai l'honneur vous informer que Congrès Panrusse  
des Conseils des D. O. S. a constitué 26 octobre nou-  
veau Gouvernement de République Russe dans forme  
d'un Conseil des Commissaires du Peuple. Président  
de ce Gouvernement est Vladimir Lenine. La direction  
de politique étrangère m'est confiée à moi en qualité  
de Commissaire du Peuple aux Affaires Etrangères.  
Tout en attirant votre attention sur texte approuvé  
par Congrès Panrusse des Conseils des D. O. S. de  
proposition d'armistice et de paix démocratique sans  
annexions ni contributions sur base du droit des

peuples à disposer d'eux-mêmes, j'ai l'honneur vous prier de considérer dit document comme une proposition formelle à armistice immédiat sur tous fronts et d'ouverture immédiate de pourparlers de paix, proposition que Gouvernement autorisé de République Russe adresse en même temps à tous peuples belligérants et à leurs Gouvernements. Agréer l'assurance de profonde estime du Gouvernement des Soviets envers Peuple français qui ne peut pas ne pas aspirer à paix comme tous autre peuples épuisés et anémiés par cette boucherie sans exemple.

Uchida

(右和訳文) (註 日本外務省ニ於テ作成シタル仮訳ナリ)

露国外務委員トロツキーヨリ在露仏国大使宛通牒

以書翰致啓上候陳者労働兵会全露会議(Congrès Panrusse des Conseils des D.O.S.)ハ露曆十月二十六日国民委員会(Conseil des Commissaires du Peuple)ノ名義ヲ以テ新露国共和政府ヲ組織シ「ウラヂミール・レーニン」ヲ該政府ノ首長(Directeur du Gouvernement)トシ外交事務ハ外務委員(Commissaire du Peuple aux Affaires Étrangères)ノ資格ニテ予ニ委任セラレタルコトヲ閣下ニ

通告スルノ光榮ヲ有シ候

尚休戦竝国民自決ノ權利ヲ基礎トセル無併合無償金ノ民主的平和ニ関スル提議ノ本文ハ已ニ労働兵会全露會議ニ於テ承認セラレタル所ナルカ右ニ関シ玆ニ閣下ノ注意ヲ喚起スルト同時ニ予ハ閣下ニ於テ右公文ヲ以テ全戦線ニ於ケル即時ノ休戦竝平和商議急速開始ニ関スル公然ノ提議ト看做サレムコトヲ希望致候右提議ハ露国共和国ノ正当権限政府カ各交戦国国民ニ宛ツルト同時ニ其ノ政府ニ宛タルモノニ有之候

予ハ玆ニ閣下ニ向ツテ敬意ヲ表スルト共ニ未曾有ノ殺戮ノ為ニ困憊セル他ノ諸国民ノ如ク平和ヲ希望セサルヲ得サルヘキ仏国民ニ対シ我政府ノ深厚ナル敬意ヲ表シ候 敬具

五二五 十一月二十四日

在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

トロツキー外務人民委員ニ依リ秘密外交文書

公表ノ件

第一一六六号

(十一月二十五日接受)

労働政府外務委員「トロツキー」ハ労働兵会機関紙「ブラウダー」ヲ以テ秘密外交文書ヲ公表スヘキ旨声明シ第一着手

トシテ二十三日ノ同紙ニ左ノ文書ヲ發表セリ

一、海峡問題ニ関シ千九百十五年二月十九日(露曆以下同シ)露国外相ヨリ在仏露国大使ニ宛テタル文書及之レニ関スル千九百十七年二月二十六日駐仏露国大使發電報ニシテ右文書ハ「コンスタンチノーブル」及同海峡ヨリ「エナス」「メデイヤ」線ニ亘ル一帯地方、「ボスフォラス」海峡ヨリ「サカリ」及「イスミド」線ニ至ル小亜細亜地方、「マルマラ」海諸島「イムブロス」「デネドス」諸島ヲ露国ニ領有セシムルコト其他小亜細亜、波斯「アフガニー」問題ニ関セリ

二、千九百十六年二月二十四日外相「サゾノフ」ヨリ駐仏露国大使ニ宛タル一般対外政策ニ関スル電報ニシテ其内ニ支那市場ヨリ独逸ヲ駆逐スルコトハ重大ナル意味ヲ有シ日本ノ参加ナシニ解決スルヲ得ス本件ハ連合国經濟會議ニ附セラルヘキモノニシテ同會議ニハ日本代表者モ出席スヘシトアリ

三、千九百十七年一月三十日外相「ボブロフスキー」ヨリ駐仏大使宛電報ニシテ主トシテ仏国ノ「アルサス、ローレン」併合ニ関ス

一三 露国革命関係一件 五二六 五二七

四、同年八月五日在瑞典露国公使発同地万国社会党會議ニ

関スル電報同年九月四日在瑞西露国代理公使ニ宛同国ニ於テ開カレタル交戦国財政各會議ニ関スル電報

五二六 十一月二十四日

在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

トロツキーノ休戦及講和提議通牒ノ日本側ニ

接到セザル点ニ付シエキン内話ノ件

第一一六七号

(十一月二十五日接受)

往電第一一六三号ニ関シ今二十四日ニ至ルモ労働政府ヨリ通牒ニ接セザルガ昨日「トロツキー」側ヨリ在当地本邦諸新聞通信者ニ就キ我態度ヲ内探セントセシ形跡アリタル処今朝本使ヲ來訪セシ「シエキン」ノ内話ニ拠レバ此際労働政府ノ最モ恐れ居ルモノハ日本ニシテ其態度ニ対シ余程顧念シ居ルニ付成ルベク日本ヲシテ英仏諸国ト同一ノ態度ニ出デザラシメンガ為故意ニ右通牒發送ヲ見合セ居ルモノト信ズルトノコトナリ尚同人ノ時局談ハ後電ニ譲ル在歐洲各大使ヘ転電セリ

五二七 十一月二十四日

在仏国松井大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)



露国ノ新情勢ニ鑑ミ日本側ヨリ与ヘラルル援  
助ニ関シ仏国首相ヨリ打診ノ件

第一四五号

十一月二十四日「クレマンソー」氏ニ会見シタルニ伊国戦線ニ於テ段々士氣モ恢復シ来リタル由「フォッシュ」將軍ヨリ電報アリタル趣ヲ語リ露国ノ現状ハ実ニ言語道斷ナレドモ去リトテ全然絶望スルニモ及バザル可ク各種方面ノ報告ニ依ルニ時日ヲ要スルコトナル可キモ露国民トテモ斯ル状態ニハ満足セザル可キニ付追テ再ビ秩序ヲ恢復シ来ル可シト思ハル露国ハ此低ニテ亡ブ可キモノニアラズト云ヘリ之ハ本使ガ露国ノ現状ニテハ何時秩序恢復セラル可キヤ不明ニテ聯合与国ハ最早ヤ露国ヲ当ニスルコト能ハザル可シト言ヘルニ対シ日本ヨリ何等カ同方面ニ協力ヲ与ヘラレンコトヲ内々期待シ右ノ如ク態ト樂觀的説ヲ述ベタルニアラズヤト察セラル同氏ハ更ニ羅馬尼ノ窮境ヲ説キ独乙ガ此上伊太利ヲ撃破スルノ見込ナキコトヲ知ラバ更ニ巴爾幹方面ニ進撃ス可ク其際ハ羅馬尼ハ不得已露国ニ退却スルノ外ナカル可ク痛嘆ニ堪ヘズト云ヒ日本ヨリハ尚一層ノ協力ヲ期待シ居ルガ日本出兵ノ困難ナル事情ヲ承知シ居ルニ付自分ノ

考ヘトシテ別ニ提議ヲナスコトナク日本ヨリ如何ナル協力ヲ与ヘラルルヤヲ聞カンコトヲ欲スルモノナリト云ヘルニ付日本出兵ノ問題ハ先年英国政府ヨリ申出デアリ日本ニテモ篤ト研究ヲ遂ゲタル後到底不可能ナリト決定シ当時最有力援助ハ露国ニ兵器ヲ送ルニアリト思考シ其通り決行シタル次第ナルガ露国今日ノ状態ニテハ如何トモシ難ク又他ノ方面ニ対シテハ輸送ノ困難アリテ到底出兵出来難シ日本ハ從來ヨリ出来得ル限りノ援助ヲナシ居ルガ比範圍外ニ何程ノ事ヲナシ得ベキヤ自分モ之ニハ苦心シ居ル次第ナリト語リタル処仏国ハ既ニ露国ヲ援ケンガ為勘ナカラズ犠牲ヲ払ヒ今ヤ又伊国ヲ救フニ多数ノ兵ヲ送リタル様ノ次第ニテ唯サヘ少ナキ兵員ヲ更ニ他国ノ為ニ之ヲ割キ実ニ目下我々ニ取りテハ死活ノ大問題ナリ本野子爵ニハ何トカ工夫ヲ附ケラレ度ク又各与国トモ篤ト相談シ度キモノナリト云ヒ其語調氏ノ流儀トハ申ナガラ頗ル力ヲ込メ最初日本出兵ノ困難ナルコトヲ承知スト云ヒナガラ尚我出兵ニ望ミヲ属スル様察セラレタルニ付本使ハ尚モ出兵ハ實際ニ不可能ナリト云ヒ本問題ヲ各国出揃ノ會議ニ附セラルル如キハ甚ダ迷惑ニテ又面白カラズト存ズルニ付若シ必要アラバ内相談ニテ篤

ト話シスル様致シ度クト述ベタル処至極御同感ナリ英仏米及日本丈ノ寄合ニテ御話シスル様致ス可シト云ヘリ但シ伊国ヲ云ハザリシニ付或ハ未ダ伊国委員参列ノ議決定セザルガ故ニアラズヤト察セラル

在英米伊露各大使ニ転電セリ

五二八 十一月二十五日

在本邦英国大使ヨリ  
本野外務大臣宛

過激派新政府ニ対スル態度ニ関シ在露連合  
国側使臣ノ間ニ意見ヲ交換シタル旨ノ在露国英  
大使ヨリ本国政府宛電報送付越ノ件

(訳文) (註 日本外務省ニ於テ作成シタル仮訳ナリ)

在露英国大使ヨリ英国外務大臣宛電報 (日付不明)

過激派中ニ意見ノ不一致アル為目下ノ処正式政府ノ組織困難ナリ国内全ク混乱ニ陥リ戦争ノ事ハ殆ント忘レラレタリ大都会ヲ飢饉ノ急迫ヨリ救ヒ諸工場及鉄道ニ必要ナル石炭ヲ供給シ、戦闘員ノ為ニ必要ナル食糧及冬服ヲ確保スル等ノ一切ノ措置ハ全然放棄セラル

本使ハ十一月十七日聯合國ノ同僚等ト協議ノ上確立スルコトアルヘキ新政府ニ対スル態度ヲ調査セリ各使臣ハ各自ノ

政府ニ向テ現ニ成立セル政府ノ公式承認ヲ勸告スルヲ得ザルモノト認ムルニ於テ一致シタルモ公然トナク該政府ト關係ヲ開始スベキヤ否ノ点ニ付テハ意見一致セズ或ル者(内ニ米国大使ヲ含ム)ハ過激党ノ組織シタル政府ト交渉ヲ開クノ意見ヲ排斥シ或ル他ノ者ハ市会(Douma Municipale)ヲ聯合國代表者ト政府トノ連絡線トシテ利用シ適法ニ組成セラレタル唯一ノ右団体ニノミ聯合國ノ請求及通信ヲ為スノ好都合ナルコトヲ述ベタリ本使ハ投票ニ依テ選挙セラレタル右市会ハ仮令地方議會トシテ完全正当ナル資格ヲ有スト雖モ現政府ノ公務ヲ執行スル以上ハ現今ノ過激派政府ト同様正当ナル権限ヲ有スルモノニアラザルコトヲ注意セリ市会ト交渉ヲ開ク事実ハ過激派ヲシテ吾人ニ耳ヲ傾クルヲ快シトセザルニ至ラシムベク而カモ新政府ノ性質如何ニ拘ラス終ニ吾人ヲシテ日常事務処理ノ為之レト接触ヲ保タザルヲ得ザルニ至ラシムベシ現状ヨリ判断スルニ新政府ハ今後尚ホ暫クノ間ハ具体的保護ヲ為シ得ル唯一ノ事実上ノ権力ナルノ觀アルヲ以テ聯合國国民ノ安寧ニ関スル場合ニハ該政府ニ頼ルノ必要アルモ計リ難シ

羅馬尼亞公使ハ同意ヲ表スルト同時ニ若シ国交断絶セハ羅

国軍隊ニ必要ナル供給品ノ運輸杜絶シテ羅国ヲ荒廢ニ陥ルルナラント確言セリ

出席者ノ大多數ハ本使ノ陳述シタル意見ニ賛成シタレトモ政府ノ確実ニ成立スルマテ此ノ討議ヲ延期スルコトニ決定セリ

吾人ノ会合後過激温和兩派ノ一致ハ益困難トナレリ而シテ過激派ニ反対ノ感情鞏固トナリシモ温和派ハ反対派ヲ打破スルニ足ル正式ノ軍隊ヲ有セズ故ニ勢力ハ依然極端ナル此小団体ノ手ニ集中スヘク彼等ハ計画ニ基ク恐怖政策ヲ以テ多數ヲ圧迫シ自己ノ意ノ便ニ振舞ハシ

昨夜過激派カ労働組合ノ決定ニ反シテ鉄道員ヲ強制シテ軍隊乗込ノ一列車ヲ発車セシメントシタル為一鉄道停車場ニ於テ騷擾ヲ惹起シ之レカ為同盟罷業ノ虞アリ此事件ヲ除キテハ市内安全ナリ

各省皆執務セズ、食糧品ハ入市セズ、然レトモ露国ノ北部ハ全部過激派ニ属スルヲ以テ公然之レニ反対ノ態度ヲ示ス者ナシ

カレディン將軍ノ活動振及其ノ軍隊數ニ付テハ確實ナル報告ナシト雖露国ノ南部ニ於テ反対政府ヲ設立スルコト可能

第一五六号

(十一月二十七日接受)

十一月二十四日早朝約八名ノ露人強盜兇器ヲ携ヘ本邦人ノ経営ニ係ル哈爾賓倉庫会社ヲ襲ヒ支那人番人ヲ脅迫シ倉庫内ヨリ若干ノ物品ヲ持去リタリ損害大ナラサルモ再ヒ來襲ノ恐アルニ付同夜ハ我警官ヲ倉庫会社ニ宿泊セシメ翌日ヨリ露国警備兵數名ヲ宿泊セシムルコトセリ

十一月二十六日早朝約八名ノ露国兵軍服ノ便當地三井物産支店ヲ襲ヒ表戸ノ開扉ヲ逼リ窓硝子ヲ破リ短銃ヲ発射スルニ至リ店員屋内ヨリ之ニ応シ発砲シタル為メ退散セリ死傷無シ

(長春經由大正六年十一月二十六日後ハ 四〇)

五三一 十一月二十六日

在ハルビン佐藤總領事ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

警察力ノ強化ニ関シ領事団側ホルワット將軍

ト折衝ノ件

第一五八号

(十一月二十七日接受)

本官発在支公使宛電報第七三三号

往電第六九号ニ関シ「ホルワット」將軍ハ領事団ノ要求ヲ東支鐵道執行委員會、労兵会等ノ代表者ヨリ成ル委員會ニ

ナリ

千九百十七年十一月二十五日

五二九 十一月二十五日

在本邦英國大使ヨリ  
本野外務大臣宛

過激派新政府トノ連絡方ニ関スル英國外相ヨリ在露同国大使宛電送付越ノ件

(訳文) (註 日本外務省ニ於テ作成シタル仮訳ナリ)

英國外務大臣ヨリ在露同国大使宛電報

本大臣ハ聯合國ノ利益上過激派政府ト連絡關係ヲ保ツヲ必要ナリト認ム然レトモ此ノ關係ハ如何ナル方法ニ依ルモ主トシテ外国臣民ノ保護ノ為ナレバ領事ヲ仲介者トシテ必要ノ接觸ヲ維持スル方然ルベント思ハル而シテ領事ハ各自国臣民ノ利益ノ為其ノ地位ヲ利用スルヲ得ヘシ乍去過激派ヲ公然承認スルモノト解釈セラレ得ベキ一切ノ措置ハ惡結果ヲ生ズルナラムト思考ス

千九百十七年十一月廿五日

五三〇 十一月二十六日

在ハルビン佐藤總領事ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

ハルビンノ治安狀況惡化ニ付報告ノ件

附議シ同將軍ニ於テ警察ヲ完全ニ掌握スルニアラザレハ到底外国人ノ生命財産ノ安全ニ対シ責任ヲ負フヲ得ズ若シ同將軍ノ提議容レラザルニ於テハ領事団ノ要求ヲ容ルル前ニ辭職スル外ナシト断言シ労兵会代表者ハ市内ノ秩序決シテ紊乱セリト曰フヲ得ズ外国人ノ不安ハ根柢ヲ有セズト称シ或ハ外国人ガ果シテ市内ノ居住ヲ不安トセハ何故ニ南滿地方ニ移住セザルヤ等ノ暴論ヲ吐キ警察權ヲ労兵会側ニテ握ラントスル運動アリタル由ナルモ結局同將軍ノ提議ヲ容レ東支側労兵会執行委員會ノ代表者ヨリ成ル東支鐵道民政委員會ニ警察ノ監督權ヲ与ヘ同委員會ノ決議ハ長官ノ同意ナシニ実行スルヲ得ザルコトトシ且軍隊ヨリ出スヘキ巡邏兵ハ東支長官ノ要求ニ依リテノミ行動シ自發的行動ヲ許サザルコトトナリタルヲ以テ同將軍ハ十一月二十六日右新制度ヲ以テ領事団會議ニ臨ミ往電第六九号領事団決議ノ実行ヲ強要スルコトナク暫ク同將軍ニ警察改善ノ余裕ヲ与ヘンコトヲ請求セリ之ニ対シ領事団ハ同將軍ノ立場ヲ諒シ其申出ニ依ル二週間ノ期限内ニ警察力ヲ改善増加スルコトニ同意セリ但応急ノ手段トシテ左ノ条件ヲ提出シタリ

(一)、直ニ市内夜間巡邏兵ヲ派出スルコト

(二)、外出許可書ヲ有セザル兵士ヲ総テ逮捕シ且浮浪者ヲ検査スルコト

(三)、失業者ノ取締ヲ為スコト

(四)、關係各領事ノ請求ニ依リ必要ノ場合自国民ノ利益保護ノ為露国側ヨリ護衛兵ヲ出スコト

(五)、二週間内ニ同將軍ノ約言セル警察力ノ恢復ヲ見ルヲ得ザル場合ニハ各国領事ハ何等ノ予告ヲ与フルコトナクシテ直ニ本国政府ニ必要ノ措置ヲ執ルコトヲ稟請スヘシ以上ハ實書ニ認メ同將軍ニ提出ノ答尚同將軍ハ今回外国領事ノ圧迫ニ依リ僅ニ一日ニシテ革命後七ヶ月努力シテ得ザリシ權力ヲ恢復シ得タリト却テ内々領事団ニ謝意ヲ表シタリ又当地ニハ不良ノ徒約百五十名入込ミ居ル由ニテ速ニ彼等ヲ逮捕シ西伯利亞ニ送還スヘシト曰ヘリ  
外務大臣へ転電シ、露都、奉天、浦塩、齊々哈爾へ暗号ノ便郵送セリ

(長春經由二十六日後一〇)

五三二 十一月二十六日

在仏国松井大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

露国過激派政府ニ対シ採ルベキ態度ニ付宣言

官ヨリ共同警告ヲ発スル議ニ關スル件

第一一七四号

(十一月二十八日接受)

大本営高柳少将発陸軍武官宛電報ニ依レバ二十三日与国代表武官ノ間ニ单独休戦講和ニ關シ「ログナ」総司令官ニ警告ヲ発スルノ議起リ英伊両武官ハ各自大使ヨリ内告ヲ受ケ居リテ其発動者タリ同少将ハ我国カ单独不講和条約ニ加盟セル關係上自己ノ地位ヨリ之ヲ賛成シ仏、羅両武官之ニ加ハリ他ノ武官ハ大使等へ照會ノ上必要アラハ单独ニ之ヲ為スコトトナレリ

右警告ノ内容ハ

「若シ露軍ニシテ休戦ヲ為サンカ单独不講和条約ヨリシテ外交上重大ナル事變ヲ起ス可シ」  
ト云フニアル趣ナリ然ニ外務委員「トロツキー」カ右警告ヲ内政干渉ト見做シ激烈ナル檄文ヲ軍隊及労兵農民両会ニ発シタルコト住電第一一七二号ノ通ナルガ目下露国ニ対シ

実力ヲ以テ圧迫ヲ加ヘ得ルハ独リ我国ノミナル状態ニ顧ミ右警告ノ責任ト之ニ対スル勞農政府ノ反感ハ主トシテ我国ヘ向ケラルル虞ナキニアラズ同政府ニ対スル我態度ニ付テハ周密ノ考慮ヲ要スル際十分慎重ノ態度ヲ取ル様陸軍武官

ヲ行ハンコトヲ仏国ハ巴里會議ニ於テ提議スベキ趣ノタン紙記事ニ關シ請訓ノ件

第二四七号 至急

巴里會議ノプログラムハ早クモ明二十七日ニアラザレハ決定セサル趣ノ処本夕ノ「ル、タン」紙ニ仏国政府ハ該會議ノ劈頭ニ於テ(一)露国ハ現ニ「ペトログラード」ヲ支配スル寡奪者ノ為ニ危険ニ暴露セラレ居ルコト(二)敵ト单独ノ交渉ヲ試ムルハ露国ノ締結シタル条約ノ違反ナルコト及(三)相手国ノ同意ナクシテ外交文書ハ公表セラルベカラザルコトノ三点ヲ包含スル宣言ヲナサンコトヲ提議スヘキ趣ノ記事掲載セラレ右ハ露国現下ノ状態ニ鑑ミ或ハ提出セラルベキカト思考セラルルニ付テハ右ノ如キ趣旨ノ宣言文殊ニ其ノ第一点ニ対シテ執ルヘキ帝國委員ノ措置ニ關シ至急何分ノ御訓示相仰キタク尚在英大使宛貴電第七八七号在本邦露国大使ハ十一月十二日「レーニン」政府ノ代表者トシテ協約ニ調印シタル次第ナリヤ本使参考ノ為成行詳細御電報ヲ請フ

五三三 十一月二十六日

在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

露国ノ单独休戦及講和ノ動向ニ対シ連合國武

ヲ通シ同少将ニ注意シ置ケリ(二十六日)

五三四 十一月二十六日

在本邦英國大使ヨリ  
本野外務大臣宛

トロツキーノ休戦提議ニ対シ採ルベキ措置ニ  
關シ在露國英大使ヨリ英國外務大臣宛意見具  
申ノ電報送付越ノ件

(訳文) (註 日本外務省ニ於テ作成シタル仮訳ナリ)

在露英國大使發英國外務大臣宛電報

露国大本営宛電報文ヲ一見シタル米國新聞通信員ヨリ得タル報告ニ依レバ「トロツキー」ハ電信ニテ即時三箇月ノ休戦ヲ締結セヨトノ命令ヲ総司令官ニ発シタリト云フ若シ此ノ報告確實トセハ千九百十四年九月五日ノ協約ヲ直接ニ侵害スル問題ナルコトヲ総司令官ニ告ケンコトヲ本使ヨリ「バーター」將軍(駐露英國武官ニシテ大本営ニ屬スルモノナルヘシ)ニ提議セリ

「トロツキー」ヨリ仏國大使ニ宛タル公文ニ直接ノ回答ヲ与フルハ「マキシマリスト」(過激派)政府ヲ公然認メタリトノ解釈ヲ与フルニ至ルヘキヲ以テ本使ハ聯合國政府ガ如何ナル回答ヲ与フルニ決スルトモ各自其ノ議會ニ於テ為

スヘキ宣言ノ形式ニ由ランコトヲ提議セムトス  
然シナカラ右宣言ハ戦線ニ於ケル休戦ノ商議カ既ニ開始セ  
ラレタルコトヲ知ルマテ延期スルヲ可トスヘン斯卡ル場合  
ニハ本使ハ「英国政府ハ組織セラレタル露国政府ト戦争ノ  
目的及平和条件ヲ協定センコトヲ承諾シタルモ露国力前以  
テ英国ノ意見ヲ問フコトナクシテ休戦ノ為ニ商議ヲ為ス事  
実ハ右協定ヲ不可能ナラシムヘシ故ニ英国政府ハ今後単ニ  
自国及他ノ聯合國ノ利益ノミヲ考量セザルヲ得ザルヘシ」  
ト声明センコトヲ提議ス

此ノ「マキシマリスト」政府ノ存続期間ヲ予想スルコト能  
ハザル時ニ当リ今直チニ聯合國ノ大使ヲ召還スルハ誤ナル  
ヘシト思考ス

本使カ「サンド」氏ト談話ノ際同氏ハ目下ノ処露国ヲ退去  
セサルコトヲ本使ニ懇請セリ

千九百十七年十一月二十六日

五三五 十一月二十七日

本野外務大臣ヨリ  
在ハルビン佐藤総領事宛（電報）

日本人警察官ノハルビン急派内定ノ件

第一二三号

ント評論シタルガ昨二十六日（不明）ハ目下「トロツキー」  
ノ片腕トシテ外務省ヲ切り廻ハシ居ルトノ噂アル Poliva-  
nov（露日協会員ニシテ曾テ日本ニ留学シ貴大臣当地御出  
発前「コロツオフ」宅ニ於テ日本語ニ関スル講演ヲ為シタ  
ルコトアリ同人ハ過般「テレスチエンコ」ノ過激派征伐ニ  
関スル秘密書信ヲ盗ミ出シタル関係ヨリ「トロツキー」ニ  
用ヒラルルニ至レル趣尚ホ御承知ノ「プロズネセンスキ  
ー」ハ「トロツキー」ノ外交顧問ヲ勤メ居レリ）ハ同記者  
ノ質問ニ対シ日、羅兩國ヲ除外シタルハ予ノ関知セザル所  
ナルガ労働政府ハ必ズシモ連合各国ニ対シ同一通牒ヲ送ル  
モノト限ラズ日、羅兩國ニ対シテハ特別通牒ヲ発スルノ議  
アル旨ヲ答ヘタル趣掲載セリ（廿七日）

五三七 十一月二十七日

在本邦英国大使ヨリ  
本野外務大臣宛

トロツキー通牒ニ対スル回答ハ議會又ハ新聞

紙上ニ於ケル公式宣言ヲ以テスベキ旨ノ在露

英国大使ヨリ同国外相宛電報送付越ノ件

（訳文）（註 日本外務省ニ於テ作成シタル仮訳ナリ）

在露英国大使発露国外務大臣宛電報

一三 露国革命関係二件 五三七

貴電第一四八号及第一五五号並十月三十一日附機密第四九  
号貴信ニ関シ

長春警務署ヨリ警部補一名及警官十名急派セシムルコトニ  
内定セリ右不取敢

右北京、露都、浦塩ニ転電アリ度シ

五三六 十一月二十七日

在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛（電報）

日本側ニ対シトロツキーガ通牒ヲ未ダ送付セ

ザル点ニ関スル新聞論評報告ノ件

第一一七五号

（十一月二十九日接受）

往電第一一六七号ニ関シ今二十七日迄未ダ労働政府ノ通牒  
ニ接セザル処同政府力連合国ノ一部ニ対シ本件通牒ヲ為サ  
ザル事実ハ昨今世評ノ種トナリ二十四日ノ夕刊「ウエーチ  
エル」ハ「トロツキー」如何ニ倉卒ノ際トハ云ヘ日、羅兩  
国ヲ失念スルガ如キコトハ有リ得ベカラズ惟フニ日本ノ如  
キ隣強ニ対シテハ「トロツキー」独特ノ議論モ其ノ用ヲ為  
サザルヲ知り之ヲ恐ルル余リ故意ニ通牒ヲ見合セタルモノ  
ナルベク羅馬尼ニ至リテハ到底露国ト運命ヲ共ニスヘキモ  
ノナルヲ以テ特ニ通牒ノ必要ヲ認めザリシニ依ルモノナラ

本日（十一月十七日）午後当大使館（在露英国大使館）ニ  
開カレタル會議ニ於テ本使ハ各聯合國使臣ニ対シ先般貴大  
臣ニ申述ヘ置キタル意見ヲ開陳シタルニ各使臣ハ政府ガ其  
ノ使臣ヲ通シテ露国公文ニ回答ヲ与フルコトナク各國議會  
又ハ新聞紙上ニ於ケル公式宣言ノ形式ニテ政府ノ見解ヲ了  
知セシムル様各自本国ニ勸奨スルコトニ満場一致セリ

各使臣ノ意見ニ依レハ該宣言中ニ「暴力ヲ以テ権力ヲ篡奪  
セル政府ハ平時ト雖國民ノ明白ナル意思表示ニ由リ其ノ地  
位正當ト認メラルルニ至ル迄何等公式ノ承認ヲ受クヘキモ  
ノニ非ザルコト」ヲ明示スベク同時に依然同盟ニ忠実ナル  
露国ノ諸政党ト同盟ノ約ニ叛キ敵国ト休戦ノ商議ヲ開クヘ  
キコトヲ司令長官ニ訓令シ又ハ秘密条約公表ノ意思ヲ声明  
セル政府トノ間ニ明白ナル區別ヲ為スコトヲ該宣言中ニ明  
示スルヲ要ス將又聯合諸国ハ此等ノ諸政党トハ平和条件ニ  
付協議スルヲ辞セザルベキモ現政府ニシテ飽ク迄此ノ如キ  
態度ヲ固執スルニ於テハ聯合國ハ終ニ唯自己ノ利益ノミヲ  
考量セザルヲ得ザルニ至ラム

同時に各使臣ハ出来得ル限り露国トノ正式ノ断絶ヲ避ケ時  
日ヲ遷延シテ終ニ露国ニシテ依然同盟ニ忠実ナル上ハ決シ

テ聯合与国ヨリ見捨テラレザルヘキコトヲ露国ニ了解セシムルヲ要ストノ意見ニ一致セリ

五三八 十一月二十七日 在本邦仏国大使ヨリ  
本野外務大臣宛

仏国ハ露国過激派政府ノ協定違反ニ対シ抗議  
スル意思アル旨通知ノ件

(訳文) (註 日本外務省ニ於テ作成シタル仮訳ナリ)

仏国大使ハ本国政府ノ命ニ依リ左ノ通り帝国外務大臣閣下  
ニ通報スルノ光榮ヲ有ス

本日附他ノ覚書中ニ問題トナレル宣言ニ關係ナク仏蘭西共  
和国政府ハ露国ノ為セル仏露同盟条約違反、即チ秘密協定  
ノ公表及敵国ト休戦条約締結ノ為開始セル商議ニ因リ生ス  
ル違反ニ対シ仏国ノ名ニ於テ抗議ヲ提出スルノ意思ヲ有ス

千九百十七年十一月二十七日 東京ニ於テ  
註 次掲文書

五三九 十一月二十七日 在本邦仏国大使ヨリ  
本野外務大臣宛

過激派政府ニ対シ採ルベキ態度ニ付在露連合

財産ヲ尊重スルニ必要ナル一切ノ手段ヲ講ゼシムル様嚴重  
ナル共同宣言ヲ為スノ有益ナルヘキ旨説示セリ 帝國政府  
ニ於テ此ノ意見ニ賛同セラレ且露国ニ正規ノ政府存在セザ  
ル為通常ノ経路ニヨリ列国使臣ヲシテ要求又ハ提議ヲ為サ  
シムルヲ得ザル今日ニ於テ執リ得ル唯一ノ手段ト思考セラ  
ルル手續ニ同意セラルルニ於テハ右宣言文ヲ送付シ帝國政  
府ノ承諾ヲ求ムヘシ  
仏国大使ハ上述ノ諸点ニ関スル本野子爵ノ回答ヲ可成速ニ  
接受スルヲ得ハ大幸ナリ

千九百十七年十一月二十七日 東京ニ於テ

註 仏国大使ハ十一月二十八日附私信ヲ以テ仏国政府ハ何等ノ  
宣言ヲモ発セザルコトニ決定セシヲ以テ右二十七日附覚書  
ノ後半宣言案ニ関シテハ取消サレタルモノト認メラレタキ  
旨申越セリ

五四〇 十一月二十八日 在米国佐藤大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

露国兵ノ西部戦線ヨリ浦潮送還ニ関シ巴奈馬  
浦潮間ノ輸送ヲ日本側ニテ引受ケ呉レ得ザル  
ベキヤ問合方國務省ヨリ依頼ニ付請訓ノ件

一三 露国革命關係一件 五四〇

国代表者一致ノ決議ニ関シ本野外相ノ回答要  
請ノ件

(訳文) (註 日本外務省ニ於テ作成シタル仮訳ナリ)

最近彼得具羅士ニ開カレタル會議ニ於テ聯合列国代表者ハ  
左ノ諸決議ヲ各自本国政府ニ送致スルコトニ全然一致セリ  
一、国民ノ投票ニ依リ承認セラレタルニモ非ズ且其ノ權力  
僅ニ露国領域ノ一小部分ニ及ブニ過ギザル一政府トノ公  
式關係ノ開始ヲ拒絶スルコト

二、千九百十四年九月五日ノ協約ノ違反ニ対シ聯合諸国政  
府ハ公然抗議ヲ提出スルヲ要スルコト

三、露国ニシテ国民ノ承認セル確實ナル政府ヲ有スルニ於  
テハ仮令同国ガ軍事上無力ナリトモ聯合諸国ハ同国トノ  
協同ヲ拒絶セザル意思ナルコト並同国ニシテ单独講和ヲ  
敢テスル場合ニハ聯合諸国ハ同国ノ運命ニ関シ全然無関  
渉タルヘキ決心ナルコトヲ了知セシムルニ足ル一宣言ヲ  
議會又ハ新聞紙上ニ於テ発表スルノ有益ナルコト

此等ノ諸提案ニ関スル帝國政府ノ意見ヲ照会スヘキ旨仏国  
大使ニ命スルト共ニ仏国政府ハ現ニ露国ニ於テ權力ノ残片  
ヲ握持セル者ヲシテ責任ヲ負ハシメ且在留諸国民ノ身体及

第五二九号(極秘) (十一月二十九日接受)

遣欧米国軍總司令官「パーシング」將軍ヨリ仏国政府ニテ  
ハ從來其費用ニテ西欧戦線ニ出征セシメ居タル露国兵約一  
万二千ヲ今般本国ニ送還シ米国兵ヲシテ之ニ代ラシムルノ  
議アリ之カ送還ニ米国運送船ヲ使用セシメ得ヘキヤ請求ノ  
次第アリタル処米国陸軍省ニテハ仏国ヨリ巴奈馬迄ハ其運  
送船ニテ運送シ得ヘキ見込ナルモ巴奈馬ヨリ浦潮迄ハ日本  
ニテ運送ヲ引受ケ得ラル可キヤ否ヤニ依リ本件処理方ヲ決  
定シ度キ趣ニテ日本ニテ可成之ヲ応諾セラレ間敷ヤ照会セ  
ラレ度キ旨二十四日附書面ヲ以テ國務省ヨリ内密依頼アリ  
タリ依テ右ニ対シ回答振リ至急御回電アリ度シ尚口頭ヲ以  
テ國務省ニ聞質シタル処ニ依レハ本件ハ前記ノ事項以外未  
タ何等提供スヘキ材料ナク從テ輸送費用ノ償還問題ハ勿論  
輸送開始及継続期間等モ予定セル処ナク唯相当速ニ之ヲ着  
手実行スルモノトシテ日本ニテ之カ運送ヲ引受ケ得ラル可  
キヤ然リトセハ先ツ如何ナル条件ヲ必要トセラルルヤ等ノ  
根本問題ニ付大体日本政府ノ御見込ヲ聞キタシトノ趣ニテ  
露国政府ノ承諾ヲ得ルコト及運送契約上ノ細目等ハ更メテ  
決定スルコトトシ度シトノ由ニ付右御含置アリ度シ

五四一 十一月二十八日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

勞農軍使ニ対シ独軍司令官ガ休戦交渉開始ニ  
同意スル旨正式回答ヲ与ヘタル件

第一一七六号 (十二月一日接受)

勞農政府ハ独逸軍ト休戦談判ノ為メ戦線ニ向ヒタル同政府  
陸海軍委員兼総司令官「クリレンコ」少尉ヨリ昨二十七日  
大要左ノ電報ヲ接受シタル趣  
二十七日午後我軍使ハ何等ノ故障ナシニ独逸軍壕ヲ越エ独  
逸軍司令官ヨリ全戦線ニ亘ル休戦談判開始ニ同意スル旨ノ  
正式回答ヲ携ヘ歸レリ彼我全権委員第二回ノ会见ハ十二月  
二日行ハルヘシ依テ陸海軍一般ニ右通報スルト共ニ全戦線  
ニ亘リ射撃ヲ中止シ速カニ敵兵ト親睦ヲ開始シ敵ノ態度ニ  
注意シ戦闘行為ハ単ニ敵ノ攻撃ニ対スル場合ニ限ルヘク尚  
ホ全員其地位ヲ保持スヘキヲ命令セリ尚ホ戦線ハ糧食、被  
服欠乏セルヲ以テ之レカ補給ノ道ヲ講ズルコト必要ナリ

五四二 十一月二十八日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)  
休戦提議ニ關スルトロッキークーノ通牒ニ付報告  
ノ件

第一一七七号 (十一月二十九日接受)

十一月二十七日参謀総長ヨリ聯合國武官(石坂少将出席シ  
タリ)ヲ招集シテ左ノ如キ書面ヲ交付シタリ

(1) Ainsi qu'en (脱) tous nos pas nous tendons vers  
armistice général et non pas particulier, à une armi-  
stice partiel particulier nous pouvons être contraint  
par les alliés s'ils ferment les yeux sur la réalité.

(2) Nous sommes prêt, à tout moment et n'importe  
lequel de nos alliés, à mener des pourparlers sur les  
voies et moyens à adapter pour arriver à une armistice  
le plus rapidement possible. Nous n'exigeons pas  
d'être préalablement reconnu, nous sommes reconnu  
par le peuple, nous désirons pourparlers de réalisation.  
Nous nous réservons droit de publier protocole.

(3) Accueil hostile et négatif avec lequel notre ini-  
tative en vue de paix a été accueilli par quelques uns  
des Gouvernements alliés, ne peut changer le cours de  
notre politique. Les alliés doivent répondre s'ils cons-

entent dès le commencement des pourparlers en vue  
d'armistice immédiat, ayant pour but la conclusion  
de la paix sur la base démocratique.

Consentent-ils contenir notre initiative dans cette  
voie?

Exigent-ils d'autre mesures et moyens et lesquels?  
(4) Dans la mesure où les Gouvernements alliés ré-  
pondraient par un refus non déguisé de nous recoma-  
ndre et notre initiative, nous suivrons notre voie et en  
appelons aux peuples contre leurs Gouvernements; si  
résultats de cette politique nous obligent à une paix  
séparée que nous ne désirons pas, responsabilité en  
retombera en entier sur les Gouvernements alliés.

(Signé) Trotsky  
Uchida

五四三 十一月二十九日 本野外務大臣ヨリ  
在仏国松井大使宛(電報)

露国過激派政府ニ対スル連合国共同宣言ノ議  
ニ關シ回訓ノ件

第一四四号 至急

貴電第二四七号ニ關シ第一点即現ニ露都ヲ支配セル篡奪者

一三 露国革命關係一件 五四三 五四四

ノ為ニ露国ガ危険ニ暴露セラレ居ルコトハ明白ナル事実ナ  
リト雖之ヲ連合側ニ於テ公然宣言スルハ徒ラニ「レーニン」  
一派ヲ挑発シ其結果在露連合国人ノ生命財産ヲ危殆ノ地位  
ニ置ク外何等実益ナカルヘシト思考セラルルニ付右ニ關シ  
我方ノ意見ヲ求メラルル場合ニハ右ノ趣旨ニテ応答セラル  
ベシ尤時局ニ鑑ミ右ノ宣言ヲ為スヲ利トスルコト連合側大  
多数ノ意見ナルニ於テハ帝國政府ハ強イテ其主張ヲ固執セ  
ントスルモノニ非ザルニ付右様御含置相成度シ第二及第三  
ノ点ヲ宣言スルハ比較的ニ無害ニシテ又多少効果アルヘキ  
ニ付大体ニ於テ異存ナシ  
東清鐵道讓渡調印ノ件ハ従来在本邦露国大使ト交渉中ニテ  
大体双方ノ意見一致シ調印ニ至ラムトスル際今回ノ政変ト  
ナリシモ同大使ニ於テ前臨時政府ヨリ受ケ居リタル権限ニ  
基キ終ニ調印シタルモノニシテ「レーニン」政府ノ代表者  
トシテ為シタルモノニ非ズ

五四四 十一月二十九日 本野外務大臣ヨリ  
在露国内田大使宛(電報)

日常事務ニ關シ緊急必要ノ場合ニハ裁量ニ依  
リ新政府ニ対応シ差支ナキ旨回訓ノ件

第八六七号

貴電第一一三二号ノ三ノ(註)ニ関シ居留民保護上其ノ他日常事務ニ付貴官ニ於テ緊急措弁ノ必要ヲ認メラルル場合ニハ貴官ノ裁量ヲ以テ臨機新政府ニ対応セラレテ差支ナシ尤モ申迄モナク他日新政府承認問題ニ関スル帝国政府決定ノ自由ハ全然留保セラルル様御注意アリタシ在莫斯科領事ヘモ同様趣旨ニテ電訓シ置ケリ

註 前掲五〇〇文書

五四五 十一月二十九日

在本邦仏国大使ヨリ  
本野外務大臣宛

在露連合諸国大使ノ為シタル決議第一項及第

二項ニ関スル日本政府ノ意見承知シ度キ旨申

越ノ件

(訳文) (註 日本外務省ニ於テ作成シタル仮訳ナリ)

彼得具羅士ニ於ケル聯合諸国大使ノ為セル決議ニ関スル十一月二十七日附賞書ニ(註)關聯シテ仏国大使ハ同国政府ニ於テ前記決議ノ最初ノ二項ヲ承認スル意見ナルモ目下第三項ハ之ヲ取除キ露国ノ権力寡奪者ニ対シテ何等公然ノ約束モ威圧モ行ハザルヲ可ナリト思考セル旨不取敢帝国外務大臣ニ

通報ス

従テ本野子爵ニ於テ右在露都大使會議ノ提案第一項及第二項ニ関スル帝国政府ノ意見ヲ仏国大使ニ通報セラルレバ大幸ナリ

千九百十七年十一月二十九日 東京ニ於テ

註 前掲五三九文書

五四六 十一月二十九日

在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

ケレンスキーノ脱出其他米國ノ對露援助ニ関

シ米國大使談話ノ件

第一一八二号

(十二月一日接受)

本月二十六日及二十七日兩日米國大使ト会谈要領左ノ通

(一) (極秘)「ケレンスキー」ハ冬宮ヨリ婦人ニ変装シ脱出シタルカ如ク一般ニ信セラレ居ルモ右ハ事実ニ非ズ同日米國大使館ノ自動車「モイカ」附近ニ在リタル処「ケレンスキー」方ノ者来リ総理大臣ノ為是非共暫時借用シタシトテ如何ニモ真実ラシク見エタルニ付其ノ請ニ応シ米國々旗ヲ立テタル低冬宮ニ到リタル処「ケレンスキー」ハ身震ヒシナカラ如何ニモ落着カザル体ニテ出テ来リ直

来ルヘキ危険アリト脅迫の要求ヲ為シタルモ右借用金ニ調印スヘキ責任者ヲ認メザルヲ理由トシ謝絶シ居レリ  
在欧米各大使ヘ転電セリ

五四七 十一月三十日

在浦潮菊池總領事ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

日本軍艦ノ浦潮派遣ニ付請訓ノ件

第一二一号

(十二月一日接受)

累次機密拙信ヲ以テ申進シタル通当地不穩狀況ハ何人ニ於テモ暴動ノ突発ニ対シ警戒ノ必要アルヲ感セシメタル処最近露都騷擾ノ報当地ニ達スルニ從ヒ不穩ノ徵候益々濃厚トナリ特ニ英米領事ハ切ニ不安ヲ感スル事ヲ明言シ居リタル

カ去ル二十三日米國軍艦「ブルークリン」入港シタレハ之カ為地方民心ニ多大ノ影響ヲ与ヘ日夜不安ニ驅ラレタル彼等ニ大ニ安意ヲ与ヘタルモ同艦ハ来ル十二月三日出帆ノ予定ニ付其後ノ狀況如何ニ就テハ人々今日ヨリ甚タシク憂慮シ居レリ尤目今ノ処暴動ノ計画ニ關シ具体的情報無之モ形勢

今ニ險惡ニシテ就中過激派ニ属スル波止場人足ノ態度ハ最注意ヲ要スル処アリ之カ為十一月三十日英米領事ハ外交事務官「クレーンコフ」ト共ニ本官ヲ訪問シ当地ノ現狀ニ関シ

ニ一名ノ副官ト同乗其低 Kyoooga (註)ニ走リ自動車ハ翌日同地ヨリ帰り来レリ数日後右副官出京シ特ニ「ケレンスキー」ノ命ニ依リ自分ヲ訪問シ謝意ヲ伝ヘ「ケレンスキー」ハ「ガツチナ」ニ於テ其ノ頼ミトセル哥薩克兵ニ捕ハレタル旨ヲ語り同副官ハ米國ニ渡航シタシトテ周旋ヲ願出デタルモ程好ク謝絶セリ「ケレンスキー」目下ノ居所ハ不明ナルモ彼ハ最早ヤ永久ニ政界ヨリ葬リ去ラレタル卑怯漢ナリ本件自動車使用ノ事ハ極秘ニ付他言ナキ様願ヒタシ徒ラニ過激派ノ怨恨ヲ買フモ愚カナルコトナレハナリ

(二) 過激派近来ノ挙動ハ言語道斷傍若無人ノ振舞ナリ米國ヨリ廻送スヘキ軍需品及貨車等当分一切差止ムルコトト為シタルモ鐵道従業者及其ノ家族用ノ為注文セル約百万足ノ靴ハ如何ニモ嚴冬ニ際シ不憫ニ付送付シ来ルコトトナルヘシ

(三) 米國ヨリ露國ニ貸与スヘキ資金中芬蘭軍隊及波羅的海軍用トシテ七千五百万弗ノ一ト口アリ其内五千万弗ハ既ニ交付シタル処事變後ハ殘金ノ支払ヲ停止セシニ若シ貸与セザルトキハ右陸海軍兵ハ饑渴ニ迫マリ当地ニ押寄セ

意見ヲ交換シタルカ此際米艦ニ引続キ帝国軍艦ノ派遣方切望ニ堪ヘサル意見ヲ申出テ外交事務官又全然之ニ同意セリ卑見ニ依レハ暴動ノ発生ニ関シ何等末タ証跡ノ捕捉ス可キモノナキ今日は非共軍艦派遣ヲ稟請スルコトハ早計ニ失スルト信スルモ而モ如何ナル暴動殊ニ主義ナク主張ナク単ニ暴動ヲ目的トスルノ暴動カ何時発生スルヤ計リ難キ危険ノ甚タシク大ナル現今ノ形勢ニ於テ我軍艦ノ派遣ヲ得ハ我国ノ威厳、地方ノ治安、居留民ノ安堵ニ取り効果多大ナル可キヲ確信ス唯懸念ス可キ一点ハ軍艦差遣ノ為恰モ本邦カ西比利亜ニ対スル政治的野心アリト云フカ如キ誤解ノ端緒ヲ与フルコトナキヤニアルモ外交事務官ハ此点ニ付テハ打消シノ方法ニ援助ヲ約言セリ右外交事務官ノ同席セルコトハ本人ノ希望ニ応シ極秘ニ附セラレ度ク就テハ至急本件御詮議希望致シ度ク御詮議ノ上ハ前記米艦ノ進退ニモ関係スル処アル可キニ付御返電相成度ク尚軍艦差遣ニ御決定ノ上ハ露国官憲ニ通牒ノ形式ニ付此際心得ヘキ事項アラハ御訓電ヲ請フ

在露大使へ転電シ在哈爾賓總領事へ暗号ノ便郵報セリ

### 公報報告ノ件

第一二〇八号

(十二月九日接受)

十二月四日労働政府公報

一、総司令官 <sup>クリレンコ</sup> Krilenko ハ昨三日全軍ニ布告シテ曰ク大本營ハ我軍ノ包囲ヲ受ケ戦ハズシテ降服シ「コロニロフ」ハ逃走シ「ジホーニン」ハ <sup>モグリエフ</sup> Mogrief 停車場ニ於テ列車ヨリ引出サレ殺害セラレタリ予ハ此ノ暴行ヲ悲ミ加害者ヲ嚴重処罰スベシ云々

二、休戦談判委員一行ハ <sup>ドヴィンスク</sup> Dvinsk ニ於テ一般公衆及第五軍ノ盛大ナル歡迎ヲ受ケタル後独乙側委員ト指定ノ地点ニ於テ会見ヲ遂ケタリ

五五〇 十二月四日

在ベトログラード石坂少将ヨリ  
上原参謀総長宛(電報)

露国大本營側軍隊ノ過激派側ヘノ屈伏並過激派ノ单独休戦及講和其他政局ニ関スル觀察報

告ノ件

第二四七号

(十二月十日接受)

大本營ト過激派トノ武力的對抗ハ大本營側軍隊ノ軟化ト総司令官決心ノ不可ナル為争闘ヲ演ズルニ至ラズシテ過激派

一三 露国革命関係一件 五五〇

五四八 十二月三日 本野外務大臣ヨリ  
在本邦仏国大使宛

露国過激派政府ニ対スル聯合國ノ態度ニ関シ  
照会アリタルニ付回答ノ件

覚書

帝国外務省ハ露国ノ盟約違反ニ対シ仏国政府ノ名ニ於テ抗議提出ノ意思ヲ有スル旨ヲ通報セラレタル仏国大使ノ本年十一月二十七日附覚書並最近彼得具羅土ニ開カレタル聯合國使臣會議ノ決議ニ関スル仏国政府ノ意見ヲ通報シ同時ニ右ニ関スル帝政府ノ見解ニ付照会セラレタル仏国大使ノ同年十一月二十七日附及同月二十九日附覚書ヲ受領閱悉セリ

帝政府ニ於テハ前記在露聯合國使臣會議ノ決議ニ関シ其ノ第一項第二項ヲ承認シ第三項ハ四囲ノ形勢ニ鑑ミ之ヲ実行スヘキモノニ非ズトノ仏国政府ノ意見ニ全然同意ス

千九百十七年十二月三日

五四九 十二月四日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

クリレンコ総司令官ノ布告ニ関スル労働政府

ノ勝利ニ帰シ総司令部ハ移転ノ計画ヲモ實施スルニ至ラズシテ過激派ニ屈伏シ事実上「クリレンコ」ノ指揮權ニ移リタルモノノ如ク一説ニハ「ドホウニン」ハ射殺セラレタリト云ヒ又「クリレンコ」ハ過激派軍隊側ノ意見ヲ容レ今晚北方面軍司令官「ブルエウイチ」將軍ヲ総司令官ニ推薦セントスルモ同將軍ノ諾否不明ナリト云フ、要スルニ大本營ハ今ヤ過激派ノ手裡ニ全權ヲ掌握セラレタルモノト信ス、各代表武官モ大本營ニ止マリ在ルモノノ如シ、单独休戦談判ハ目下独塊側ト交渉中ニシテ其結果ハ不明ナルモ一説ニハ独逸ハ非賠償、非割讓ノ名義ノ下ニ戦後ノ関税免除等ニ有利ナル条件ヲ附帶シ媾和ヲ承諾セントスル模様アリ列国各使臣ハ依然待機ノ姿勢ニ在リ其活動ハ一ニ巴里會議ノ結果ニ在リト觀察セラルルモ時日ノ経過ト形勢ノ推移トニ伴ヒ列国ノ態度ハ多少其步調ヲ乱シツツアルノ疑ナキアラズ現ニ英國側ガ軟化ノ傾向ヲ示シ米國大使館附武官ガ個人ノ資格トハ謂ヘ政局ニ関シ「トロツキー」ト意見ヲ交換セシ形跡アルカ如キ要スルニ露国現下ノ情況ハ事実上着々武力ヲ有スル過激派ノ成功ニ帰シツツアルヲ以テ休戦及单独媾和ハ協商側ノ実力の干渉ナキカ独塊側ノ拒絶ナキ限りハ



之ヲ中止スルコト不可能ナルヘシ目下過激派ニ反対スル各政党ハ口ヲ極メテ其無謀ヲ批難スルト雖單ニ空談ニ止マリ實力ヲ以テ之ニ對抗スルノ意氣ナキノミナラズ内心ニ於テハ媾和問題ハ寧ロ其成立ヲ希望シアリテ彼等ノ反対ハ爾後ノ政權爭奪ノ伏線タラザルナキヤノ疑ナキ能ハズ但シ媾和成立後ノ露ハ復員ノ混乱、財政ノ窮迫、自治問題、土地問題等各方面ニ亘ル政治問題ト兵卒及失職労働者ノ始末ノ為メ秩序、内政共ニ益々紛糾シ其結果「レニン」政府ノ永続ヲ許サザルヘク依然紛争ヲ反復スルハ明カニシテ或ハ一時各地方分立ノ情況ニ立到ルノ公算ナキニアラズト考フ

五五一 十二月四日 在伊国伊集院大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

在伊国仏国大使来訪シテ日本ノ對露出兵ニ付

意見ヲ質シタル件

第一七六号

(十二月五日接受)

十二月三日仏国大使使ヲ訪問シ先頃「ラパロ」會議ニ引續キ戦地ニ出張等ノ為メ暫時會見ノ機ヲ得ザリシガ近來小閑ヲ得タルニ付訪問セル次第ナリト前置シ語ヲ次ぎ今回伊国敗戦ノ結果事態容易ナラズト認メ本国政府ニ急遽援兵派

遣ヲ電稟セルニ政府モ直チニ之レニ応シ時ヲ移サズ出兵シ英國又同様ノ措置ニ出デタルヲ以テ伊国モ軍容ヲ整ヘ敵ヲ抑ヘ危機ヲ免レタルハ協商側ノ幸ナリ目下ノ処仏國ハ軍事内政トモ稍々落付キタルヲ以テ今後ハ独リ伊国ノ防戦ニ援助スルノミナラズ場合ニ依テハ攻勢ニモ出デタキ心組ナルモ伊国ノ「アムール、プロブル」ニ対シ余リ干涉ガマシキ行動ハ遠慮シ居ル次第ナリ今回伊国ノ敗戦ハ其原因種々アルモ其重ナルモノハ羅馬ニ一種ノ怪物存在シ其時々ノ行動ガ伊国社会党等ノ声援トナリタルニ基ク、怪物トハ即チ法王之レナリ法王ハ其從來ノ立場ヨリ独塊ノ勝利ヲ以テ自己ニ有利ト思考シ居ルモノナレバ其行動ハ此際伊国ノ最モ不便トスル処從テ先般「ソソニノ」男力議會ニ於テ法王ノ行動ニ痛撃ヲ加ヘタル以來同王ハ非常ニ憤懣シ居ル由ナルモ右ノ痛撃ハ「ソソニノ」男ニ於テ確証ヲ握リ居ル結果ナリ唯現法王ハ大政治家ニアラズシテ小才子ナルガ為其為ス処小策ニ止マリ居ルハ幸ナリ

次ニ一般戦局ニ関シ同大使曰ク伊国ノ敗戦露国ノ政變ハ協商側ニ多大ノ悪影響ヲ与ヘ何レモ苦心シ此ノ上日本ニ対シ一層大ナル援助ヲ希望シ居ル次第ハ貴官モ御承知ノコトト

信スル所日本ハ此上如何ナル援助ヲ与フルモノナルヤ本使ノ意見モアラバ承知シタシトノコトニ付本使ハ從來日本ハ叶フベキ援助ハ辞セザル決心ニテ既ニ最近式驅逐艇ノ大部分ヲ地中海ニ派遣シ又米國トノ協議ニ基キ一層進ンテ太平洋ノ監視ヲ引受ケ尙軍局財政上ノ援助ノ如キ出来得ル限りヲ為シ居ルモノナルガ独リ有効ナル陸兵派遣ノコトハ輸送ノ点ヨリ事実上不可能ナルコト及二三万ノ兵ヲ派遣スルカ如キハ国民ノ欲セザル所ナルノミナラズ仮リニ之レヲナスモ單ニ一時的の聲援ニ止マリ事実何等ノ効果ナキニ至レバ却テ悪影響アラザルカト述ベタルニ同大使ハ日本ノ今日迄ノ努力ハ自分モ能ク承知シ居ルモ何分仏國ハ当初ヨリ難局ニ當レルタメ著シク国力ヲ減殺セラレ英國又各方面ノ戦局ヲ引受ケ米國カ多数兵ノ派遣ハ其ノ揚言セルカ如ク急速ニ実行シ得ベカラザルモノト認メラレ有力ナル米國兵ヲ得ルニハ尚一ヶ年ヲ要スベク加之露國ノ事態益々陰惡ニ傾キ言語道斷ノ始末ナルガ元ヨリ「レニン」政府ハ永続スヘキモノニアラザルモ去リトテ有力ナル後継者ヲ得ルコト容易ナラズ露國ノ現状ハ恰モ「Alle」ノ如キモノニテ自カラ引キ締マルノ機能ヲ有セザルモノナレバ他力ニ依ルノ外ナシ此方面ニ

何トカ日本ノ工夫ナキヤトノコトニ付本使ハ此方面モ数千里ノ後方勤務ヲ控ヘ居リ出兵ノ困難ハ海上ト異ナラズ且露國民中ノ之ヲ歡迎セザルモノ多キ実情ニ鑑ミ出兵ハ却テ予期ニ反スル結果ヲ生ズ可シト答ヘタルニ同大使ハ多少ノ無理アリテモ一ノ中心ガ出来レバ露國民中ノ良分子右ノ中心力ニ依頼シ秩序恢復ヲ得ンカ一時ノ不人氣ハ消散ス可シト云ヒタルニ付本使ハ日本モ露國ニ関シテハ他ノ協商側ト全然利害ヲ共ニスル事故同國ノ救済上可能的ノコトハ辞セザル可シ但シ其方法如何ハ協商各國間ニ於テ周到ナル研究ト用意ヲ要シ輕率之ヲ行フ可キニアラザル可シト思考スト述ベタルニ同大使ハ之ニ対シ意見ヲ述ベズシテ語ヲ繼ギ唯露國ニシテ独乙ノ「ペネトレーション」ノ下ニ販ス可キ状態ニ置クハ真ニ由々シキ大事ニテ各國共今後一層其危險ヲ感ズルニ至ラン目下ノ弥縫策トシテ仏國ハ南露「キエフ」地方ニ望ヲ属シ同地方ガ團結シテ「マキシマリズム」ニ感染ノ氣味少ナキヲ以テ此方面ニ各種ノ人物ヲ密派シテ之ヲ誘導シ糧食物資等可成独乙ニ利用セラレザル様措置シ羅馬尼ヲシテ之ヲ保管セシムルノ手段ヲ尽シ一面ニハ独塊捕虜解放ヲ防遏スル方法ヲ講シ居ル次第ナリ伊國ニテハ敵ハ露國戰

線ヨリ引揚ゲタル兵ノ多数ヲ此方面ニ増派セリト揚言セル  
モ事実ハ之ニ反シ多数ノ兵ハ依然仏白方面ニ移送シ居レル  
事ナレバ英仏側ニテモ一々此方面ヲ警戒スル必要アリ仏国  
ハ今後国民ノ男数ヲ減ズルモ最後ノ目的ヲ達スル迄奮闘ス  
ル決心ナルモ同時ニ余力アル他国ノ一層ノ援助ヲ期待スル  
次第ナリト述ベタリ

在英、仏各大使へ暗号ノ郵便送シ在露大使へ転電セリ

五五二 十二月四日 在浦潮菊池總領事ヨリ  
本野外務大臣宛

革命ノ極東露領ニ対スル影響ニ関シ報告ノ件

機密第七九号 (十二月十日接受)

大正六年十二月四日

在浦潮斯德總領事 菊池 義郎(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

政変ノ影響ニ関スル件

露曆十月二十五日以降露国中央政界ニ於ケル政変ノ当地方  
ニ対スル影響ニ関シテハ時々電報ヲ以テ及報告置候処当時  
当地方住民ハ右政変ニ対シ比較的冷淡ノ感アリシモ最近憲  
法議會議員選挙アリテ政治的問題ニ関シ刺激ヲ与ヘラレ且

シ外ハ各連合国トノ条約ニ対シ飽ク迄忠実ナルヘキ旨ヲ決  
議シタル由ナルカ右ハ過激派ニ対スル反抗運動ノ熾烈ナル  
モノト見ルヘク次ニ經濟界ニ於テハ当地銀行ハ露都本店カ  
暴動突発後休業セルカ為メ本店発行信用状其他ニヨル支払  
ヲ停止シタレハ大ナル商取引ハ殆ント全ク休止セラレ剩ヘ  
露都ヨリ貨幣ノ供給杜絶シタレハ当地ノ貨幣ハ滿洲其他ヘ  
現送ノ為メ減少ノ一方ニテ現金不足シ商人ハ多大ノ不便ヲ  
感シ居レリ

右及報告候

写送付先 在露大使

敬具

五五三 十二月五日 本野外務大臣  
在本邦仏国大使 会談

歐洲出兵聯合諸国ヘノ武器供給及財政援助ニ

関スル申出並我回答ノ件

十二月五日外務大臣ト仏国大使トノ会談要領  
仏国大使ハ口頭ヲ以テ其ノ本国政府ヨリ接受セル二通ノ電  
報ノ内容ヲ外務大臣ニ通知セリ其ノ一通ハ脱語多カリシモ  
露国ノ事態ニ関スルモノニシテ其ノ意味ハ次ノ如シ  
十二月三日開催ノ大國代表委員ノ秘密會議ニ於テ現下ノ事

過激派ノ横暴跋扈ヲ加フルニ從テ地方ノ秩序紊乱シ生命財  
産ノ危険愈甚シキヲ感スルニ至リテ中産階級及資本家ハ漸  
次過激派ニ対スル反抗ノ意ヲ固クシ下層階級中ニモ過激派  
ノ實際ニ行フトコロヲ見テ其無謀無責任ニシテ何等恃ムニ  
足ラサルニ氣付キテ次第ニ反感ヲ生セントスル傾向認メラ  
ルルトコロ只最初ヨリ過激派多数ヲ占ムル浦潮斯德及「ニ  
コリスク」ニ於テハ今以テ同派ノ勢力衰微セサレトモ其他  
ノ各市ハ然ラス市会ハ孰モ過激派ノ暴動ヲ非難シタル決議  
ヲ發表シ從テ今次ノ憲法議會議員選挙ニ於テモ同派ハ他ノ  
政党ニ一籌ヲ輸シタルカ就中「ハバロフスク」ニ於テハ政  
變当初同地ニ駐在シ仮政府機關タル極東代官及新任沿黑竜  
江軍管区代官カ市会、同地労兵会、沿黑竜江地方労兵会、  
郵便電信局員同盟支部ト連署シテ時局ニ関スル宣言書ヲ発  
シ過激派ノ政權篡奪ヲ非難スルト同時ニ住民ノ妄動ヲ警メ  
タル程アリテ同派ノ勢力益振ハサルカ尚「ブラゴウエシチ  
エンスク」発新聞電報其他ニ依レハ最近同地州代官、哥薩  
克軍司令官、黑竜江艦隊、市長ハ市会及黑竜州地方議會ノ  
監督ノ下ニ同地ニ於ケル文武ノ權ヲ掌握スルコトヲ決議シ  
次テ地方議會ハ臨時會ニ於テ内ハ一部政党ノ政權篡奪ヲ排

態ニ於ケル露国ニ対シ如何ナル態度ニ出ヅヘキカラ協議セ  
リ  
独逸ハ露国民ヲシテ連合諸国ハ自己ノ利益ノ為ニ露国ヲシ  
テ戦争ヲ繼續セシメトスルモノナルコトヲ信セシメント  
シツアルニ顧ミ露国ニ対スル聯合諸国ノ態度ヲ公然宣言  
スルハ策ノ得タルモノニアラザルヘシ故ニ此ノ際ハ単ニ在  
露都聯合諸國代表者ニ対シ次ノ意味ノ訓令ヲ下スニ止ムル  
ヲ可トス

「千九百十四年九月五日ノ倫敦宣言ノ調印国及其ノ後之ニ  
参加シタル諸國ハ戦争ノ目的及正当ナル平和ニ達シ得ヘキ  
条件ヲ攻究スルコトヲ辞セザルベシ而シテ露國ガ其ノ国民  
ニ依リ承認セラレタル正式ノ政府ヲ有スルニ至ラハ右諸國  
ハ露國ト共ニ之ヲ為スベシ」

在露聯合諸國代表者ハ右ニ関シ公然ノ宣言ハ之ヲ為スコト  
ナク只新聞紙トノ關係ニ於テハ右訓令ノ意味ニ從ヒ其ノ態  
度ヲ示スヲ要ス

第二ノ電報ニ依リピシヨシ氏ハ十二月三日開催ノ大國代表  
委員秘密會議ニ於ケル談話ヲ通報シ来レリ

「露國ニ於ケル政變ニ基ク事態ノ結果聯合諸國ハ共同ノ敵

ニ対シ戦争ヲ継続スル為メ今後大ナル努力ヲ為シ非常ノ犠牲ヲ払フノ必要アリ日本カ独逸ニ対スル戦争ニ参加シ既ニ私ハレタル犠牲及聯合諸国ニ与ヘラレタル援助ニ対シテハ大ニ感謝スル次第ナルモ聯合諸国政府ハ尚此ノ上トモ日本政府ガ対独戦争継続ニ関シ今一層ノ協力ヲ致サレムコトヲ冀フモノナリ援助ノ方法種類等ハ素ヨリ日本政府ノ自由ノ撰択ニ一任スヘキモ日本政府ニ於テ何レノ戦線ニ対シ幾何ノ兵力ヲ派遣シ得ヘキカノ問題、海軍若ハ船腹ニ依リ如何ナル援助ヲ提供シ得ヘキカノ問題及財政上如何ナル程度ノ援助ヲ与ヘ得ヘキカノ問題ヲ攻究セラルルヲ得ハ幸ナリ」右ニ関シ本野外務大臣ハ仏国大使ニ対シ左ノ如ク答ヘタリ「帝國政府ハ珍田子爵及松井氏ノ報告ニ依リ巴里ニ開催セラレタル聯合諸強國代表委員ノ秘密會議ニ於ケル談話ヲ承知セリ我両大使ハ政府ノ訓令ニ基キ日本ハ現戦争ニ於テ出来得ル限りノ努力ヲ為スコトヲ期スルモノナルモ歐洲ニ出兵スルコトハ事實上不可能ナル旨及歐洲出兵ノ如キハ到底國論ノ容ルル所トナラザルヘキ旨ヲ明瞭ニ説示セリ巴里ニ於テ帝國代表者カ最明確ニ右ノ宣言ヲ為シタルニ拘ラス仏國外務大臣ガ更ニ出兵問題ヲ提起シタルハ誠ニ了解ニ苦ム

所ナリ今次ノ大戦ニ付テハ如何ニ本大臣ガ同情ヲ有シ居リ又本戦争ニ関シ日本カ如何ナル責任ヲ負担シ居ルヤノ問題ニ付自分ノ懷抱スル見解ハ貴大使ハ申スニ及バス貴國政府ニ於テモ十分承知セラルル所ナリ而シテ本大臣ハ有ラユル方面ヨリ日本兵ノ歐洲派遣ニ関シ研究ヲ遂ケタルモ日本出兵ハ事實上到底不可能ナリトノ結論ニ到着セリ抑々日本ハ極東ニ於ケル平和維持ノ責ニ任ゼザルベカラズ聯合諸國ハ極東ニ於ケル平和ノ維持ハ日本ノ力ニ待ツモノナルコトヲ認ムルニ吝ナラザルベシ独逸ノ勢力カ極東ヨリ其ノ影ヲ没シタルモ亦日本ノ力ニ因ル將又太平洋及印度洋ニ於ケル通航ノ安全モ亦日本ノ保障スル所ナリ故ニ日本ニシテ今其兵力ヲ割クカ如キコトアラバ日本ハ直ニ現戦争ニ参加シ極東ニ於テ負ヒタル其ノ任務ヲ果ス能ハザルニ至ルベシ船腹供給問題ニ関シテハ珍田子爵及松井氏カ巴里會議ニ於テ述ヘタルカ如ク日本ハ出来得ル限り船腹ヲ融通シ聯合側ノ不足ヲ補ハントスルモノニシテ帝國政府ハ具體的提案ヲ見バ直ニ之ヲ講究スヘシ

財政上ノ援助ニ関シテモ日本ハ均シク之ヲ聯合諸國ニ供与セントスルモノナリ然レトモ日本ノ与ヘ得ヘキ財政上ノ援

助ハ極メテ僅小ノ範圍ニ限局セラルルコト勿論ナリ日本ノ財界ハ甚小ニシテ其ノ与ヘ得ヘキ援助ハ之ヲ聯合諸國ノ非常ナル経費ニ比較スルルトキハ其ノ一小部分タルニ過ギザルヘシ聯合諸國ニシテ若シ日本ヨリ武器彈藥ノ供給ヲ得ントセラルルニ於テハ日本ハ全力ヲ挙ケテ之カ供給ニ努ムヘシ尤モ本件ニ関シテハ英米兩國カ鋼鉄ノ輸出ヲ禁ジタル結果日本ハ甚困難ナル地位ニ在ル次第ニ付聯合諸國ニシテ日本ヨリ武器供給ヲ望マルルナラバ鋼鉄ノ問題ニ関シ協定ヲ為スノ要アルヘシ

尚閣僚トモ十分協議ノ上追テ確答ニ及ブヘシ」

五五四 十二月六日 本野外務大臣ヨリ 在浦潮菊池總領事宛 (電報)

居留民保護其他緊急必要ノ日常事務ニ関シテハ裁量ニ依リ先方ニ対シ臨機ノ措置ヲ執リ差支ナキ旨訓電ノ件

第六九号

在露大使宛貴電第五三号ニ関シ居留民保護其他緊急措弁ヲ要スト認メラルル日常事務ニ関シテハ貴官ノ裁量ヲ以テ随時臨機ノ措置ヲ執ラレ差支無キモ如何ナル場合ニ於テモ新

政府承認問題ニ関スル帝國政府決定ノ自由ヲ拘束スルカ如キコトハ絶対之ヲ避ケラルル様注意セラレタシ例ヘハ先方ト交渉ヲ要スル事件ニ付テハ非公式且口頭ヲ以テシ已ムヲ得ズ書面ヲ用ユル場合ニ於テモ全然私信ノ体裁ヲ以テスルコトト致度シ

右為參考在露大使ニ転電アリタシ

五五五 十二月七日 在浦潮菊池總領事ヨリ 本野外務大臣宛 (電報)

日本軍艦ノ出動準備ニ付詮議方稟請ノ件

第一二五号 (至急) (十二月八日接受)

貴電第七一号ニ関シ前電ニ述ヘタル米艦碇泊ハ果シテ人心鎮撫上有効ナル効果ヲ与ヘ為ニ暴動ノ計画ニ関スル流言ハ一時屏息ヲ見ルニ至リタレトモ内面ニ於ケル不穩ノ状勢ハ毫モ改善ヲ見ズ且形勢ノ推移逆睹スヘカラザル際ニモアリ何時如何ナル暴動勃発スルヤモ計リ難キ次第ニ付帝國軍艦必要ノ場合即時出動シ得ル様準備ノ御詮議希望ニ堪ヘス尤モ米艦ハ十二月十一日出帆ノ予定ナル所特別ノ事由発生セザル限り此上直ニ引続キ帝國軍艦ヲ来航セシムルコトハ外國人ニ対スル露國人ノ反感激成ノ虞アリ暫ク之ニ対スル稟

請ヲ差控ユルヲ得策ナリト思考ス尚往電第一二三号ニ関シ  
州代官ノ地位尚依然タリ又彼ニ代ラントスル新要求者モ未  
タ出来ラス地方ノ状況ニ関シテハ過激派跋扈ヲ極ム  
「ニコリスク」ニ於テ暴動突発ノ懸念アル旨居留民ノ情報  
ニ接シ居レトモ其他ノ地方ニ関シテハ各地居留民会ヨリ何  
等特ニ不穏ノ状態アル旨未タ報告シ来ラス新聞紙亦同断ナ  
リ右委細ハ十二月八日発汽船ニテ郵報ス

五五六 十二月七日 在中国林公使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

ハルビン地方ノ物資独乙ニ流出ノ虞アルニ付

場合ニ依リ我方ノ出兵問題発生シ得ベキ件

第一六八六号

往電第一六八四号具申ノ次第ハ専ラ哈爾濱ニ於ケル治安維  
持ノ見地ヨリ立論セル処ナルガ其後佐藤総領事来電(同官  
発閣下宛第一六二号)ニ依レバ今後過激派ノ勢力益々増大  
スルニ於テハ哈爾濱地方ヨリスル食料品其他ノ物資ハ総テ  
独乙ニ輸入セラル可キ虞アルヤノ趣ナル処万一右ノ如キ事  
態ニ陥ルニ於テハ既ニ單純ナル治安維持ノ問題ニアラズシ  
テ戦争ノ目的ニ接触スルガ故聯合側ニ取り極メテ甚大ナル

結果ヲ生ズル次第ニ付右場合ニ於テハ或ハ我方ニ於テモ出  
兵ヲ躊躇スルコトヲ得ザル可クト思料ス尤其際ニ於テモ先  
ヅ英仏米並出先露国官憲ニ於テ我出兵ヲ希望スルノ意嚮ヲ  
表示スルヲ待テ決行スル方得策ナル可キハ申迄モ無之素ヨ  
リ果シテ右ノ如キ事態ノ発生ス可キヤ否ハ今日ニ於テ尚予  
断シ難キモ諸般ノ報道ヲ綜合スルニ何時局面ノ急変ヲ来ス  
コトナキヤモ保シ難クト存ゼラレ旁々帝國政府ニ於テ右ノ  
如キ場合ニ処スル手段ニ関シ今日ヨリ万違算ナキヲ期セラ  
ルル様致度ク切望ニ堪ヘズ 御参考迄ニ

(奉天經由十二月七日前四、八)

五五七 十二月八日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

反過激派ノ計画ニ関シ「コザコフ」来談ノ件

第一二一九号 (十二月十日接受)

昨七日「コザコフ」来談要領

過激派ノ天下ハ一ヶ月モ継続スマジト思惟シ居リタルモ最  
早ヤ一ヶ月トナリ之ニ對抗シ得ヘキ勢力現出セズ日々悲境  
ニ進ミ行クコト如何ニモ慨嘆ノ至ナリ唯恃ム所ハ「コルニ  
ロフ」「カレジン」兩將軍合体シ之ニ健全分子加ハリ「ハ

リコフ」又ハ「ノオチエルカスク」方面ニ新旗幟ヲ押立ツ  
ルコトニアルガ漸次右ノ計画進行シツツアリト云ヒ哥薩克  
ハ自己圈内ノ治安ハ維持シ得ヘキモ他ノ助力ナクシテ全露  
ヲ支配スル力量ナシ莫斯科ニシテ過激派ノ侵ス所トナラザ  
リセバ同地ヲ中心トシテ哥薩克ヲ用ヒ容易ニ回天ノ業ヲ遂  
ケ得ヘキモ今日ハ南露ニ拠点ヲ見出ス外ナシ又前述計画ノ  
内ニハ追々過激派ヲ孤立セシメントスル策モアリテ彼等ト  
地方的ニ絶縁スル外鉄道、電信、郵便、糧食、燃料等ノ交  
通又ハ給養ヲ断タントスルモノニシテ已ニ莫斯科方面ニ於  
テサヘ勞農政府ノ電報ヲ取次カサル所出来タリト云フ云々

五五八 十二月八日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

露国問題ニ関シ在露仏国大使ガ本国政府ヨリ  
受ケタル訓令ヲ協商国使臣會議ニ於テ披露シ  
タル件

別電

同日内田大使発本野外務大臣宛電報第一二二二号  
対露態度ニ関スル仏国政府発在露同国大使宛訓令  
ニ付報告ノ件

第一二二二号 (十二月十日接受)

巴里會議ノ結果露国ノ件ニ関シ在当地各使臣へ各自ノ本国  
政府ヨリ訓令アルヘキ趣ノ処本使ハ今日ニ至ル迄帝國政府  
ノ訓令ニ接セザルガ英仏大使ハ右訓令ニ接シタル旨ヲ以テ  
本月五日協商側使臣會議ヲ開キ仏国大使ヨリ別電第一二二  
二号ノ通り(貴電ニ接スルコトヲ期待シ今日迄本電發送方  
ヲ見合セタリ)披露アリ各使臣何レモ之レヲ諒トセリ就テ  
ハ右御電訓ノ有無折返シ御回電アリタシ当日ノ會議ハ他ニ  
格別ノ事ナカリシモ雜談中日本出兵問題起リ本使ハ其ノ実  
行シ難キ次第ヲ陳弁シ又仏国大使ノ問ヒニ対シ巴里會議ニ  
於ケル帝國委員陳述ノ趣旨(在仏国大使發大臣宛第二五五  
号)ヲ述ヘ置キタルモ同大使ハ帝國委員ノ陳述力最後のノ  
モノニアラザルコトヲ切望スル旨自分限り繰返シ居レリ  
(八日)

在英、仏大使へ転電セリ

(別電)

十二月八日在露国内田大使発本野外務大臣宛電報第一二二二号  
対露態度ニ関スル仏国政府発在露同国大使宛訓令ニ付報告ノ件

(訳文) (註 外務省ニ於テ作成シタル仮訳アリ)

連合国会議ハ「レニン」及「ツロキー」等ノ僭称セル露国

政府ノ決議ノ為起レル同国ニ於ケル連合國ノ地位ノ變転ヲ考究シ該政府及露国民ニ對シテ執ルヘキ適當ナル態度ヲ決スル為努力スヘシ

独逸ノ鼓吹ニ依リ露國ノ或方面ニテ組織セラレタル運動ニ對抗スル為殊ニ戰爭ノ目的ヲ放棄シ只管平和ヲ希望スル露國ニ對シテ連合國ハ単ニ自己ノ特殊ナル目的ヲ満足セシメムカ為露国民ニ戰爭ノ繼續ヲ強求スルコトヲ固執スルモノナリト誣ユルニ努ムル此ノ計画ニ對抗スル為公然一宣言ヲ發スルノ議アリタルモ是カ為却テ抗議ヲ惹起スル等面白カラザル結果ヲ生スヘキヲ慮リ單ニ連合國大使ニ其ノ為シ得ル一切ノ手段ニヨリ千九百十四年九月五日ノ倫敦條約ニ調印セル諸大國及其ノ後之ニ加盟シタル諸國ハ露國ニ於テ國民ノ承認セル適法ノ政府確立セハ直ニ之ト協同シテ戰爭ノ目的及正當ナル平和ニ到達シ延テ條件ヲ攻究スルヲ辞スルモノニ非ズトノ趣旨ヲ通告スル様訓令セムコトヲ決議セリ刻下連合國全体ノ一致セル感情ヲ表示セル此ノ形式ハ公然ノ通告文ト為スベキニ非ズ單ニ連合國代表者ノ話題、新聞記事會見其ノ他大使力有益ト認メタル一切ノ意見傳播方法ノ議題トシテ使用スヘキモノトス

シ時ヲ移サス艦船ノ急派ヲ得ル様並ニ之カ為メニ必要トセラルル措置ノ手配ニ付御詮議相成候様希望ニ不堪右別紙相添報告旁此段及稟請候

敬具

(附屬書)

別紙

浦潮斯德ノ其後ノ狀勢

米艦「ブルクリン」ノ滯泊カ人心鎮靜ニ取リ不少効果ヲ及ホシタルコトハ最早何人モ之ヲ非認スルモノナシ謠言百出荒唐ニシテ無稽ヲ極ムル流言カ時々刻々ニ市中ニ傳播セラレ人心ヲ迷惑セシムルコト今尚昨ノコトクナリト雖モ同艦來航以前ニアリテハ一切ノ謠言ハ凡テ暴動ノ豫言ニ外ナラサリシニ同艦來航ノ以後ニアリテハ一切ノ流言ハ其ノ性質ヲ一變シ偏ヘニ列國ノ態度ヲ臆測スルモノト早變リシタルコトハ右ノ説述ヲ裏書シテ餘リアル可シ

「ブルクリン」ハ十二月十一日當地ヲ出帆ス可ク行先ニ付テハ當分ノ内日本若クハ上海ニ在泊セリト稱セラル可シ此レ同艦カ浦潮ヲ去ル遠カラサルノ地點ニ游弋セリト信セシムルコトハ有益ト認メラルルニ由ル暴動ノ流言カ暫ラク屏息シタルト同時ニ列國ノ態度若シクハ列國領事ノ行動ニ關

前記ノ意味ニテ行動スルニ付キ同僚諸氏ト商議アリタシ

五五九 十二月八日

在浦潮菊池總領事ヨリ  
本野外務大臣宛

浦潮ノ情勢報告及日本軍艦ノ派遣差控方意見

具申ノ件

附屬書 浦潮斯德ノ其後ノ狀勢

機密第八〇号

(十二月十三日接受)

大正六年十二月八日

在浦潮斯德總領事 菊池義郎(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

浦潮物情ノ不穩並ニ米艦「ブルクリン」ノ滯泊カ當分民心ヲ鎮靜スルニ對シ不少効果アル可キ見込ニ付テハ曩ニ已ニ電報ヲ以テ御報告申進候所ニ有之疾ク御了承ノ所ト思考致候処其後ノ狀勢別紙ノ通りニ有之結局物情不穩ハ尚依然タル次第ニ有之候モ本月十一日出帆ノ予定ナル米艦「ブルクリン」ニ引続キ直チニ帝國軍艦ノ出動ヲ稟請致候事ハ新ニ特別ノ事情發生セサル限り此際暫ラク差控フルヲ得策ト思考致候但シ目下ノ不穩ナル狀況ニ顧ミ何時帝國軍艦ノ急派ヲ稟請致候緊切必要ヲ見ルニ至ルモ計ラレス候間稟請ニ際

シ不斷流言カ市中ニ傳播セラレ居ルコトハ前述ノ如シ此種流言蜚語ノ焦點カ日本ノ行動ニアルコトハ自然ノ勢ニシテ殊ニ最近「ハルビン」ニ於テ日本兵ノ招致セラレントスルノ風説アルヤ此種ノ流言ハ火上ニ油ヲ注ギカケラレタルノ勢ヲ呈シ來レリ何レモ居留民ノ引揚トカ日本兵ノ上陸トカニ關スルモノナリ日本ニ次テ流言ノ多キハ米國ノ行動ニシテ「ブルクリン」ノ滯泊ニ基因セルモノタルコト勿論ナリ暴動ノ流言カ一時屏息シタルコト前述ノ如クナリト雖モ浦潮一般ノ狀勢ニ關シテハ依然トシテ毫モ樂觀ヲ許サス我與國ノ各領事即チ英米佛支等各國領事カ最近ニ於テ探聞セル所ハ後段ニ記載スル通りナルカ彼等ハ右ニ徴シテモ浦潮ノ狀勢カ内面ノ實際ニ於テハ最近毫モ改善セラレタリト稱ス可カラサルノ意見ニ一致シ居レリ但シ帝國軍艦派遣希望ノ問題ニ付テハ彼等ハ其後ノ形勢ニ關シ更ニ注視熟慮ヲ經タルノ結果問題カ最早簡單ニアラサルコトヲ了得シタリ彼等ハ米艦カ已ニ相當ノ長期間―自十一月二十三日至十二月十二日―當港ニ滯泊シタル事實ト列國ノ行動ヲ揣摩スル道聽塗説ノシカク荒唐ニシテ而モ頻繁ナルノミナラス此等ノ道聽塗説カ智識階級ニ於テスラ相當ニ信用セラレ居ルノ事實

ト乃至又如何ナル暴動カ生起スヘキニモセヨ刻下ノ判斷ニ於テハ暴動カ外國人ヲ目當テトスルモノニアラスト思考セラルルノ事實ト（日英米佛領事カ茲ニ外國人ト稱スル事ハ恐ラク彼等ノ真意ニ於テハ支那人ヲ除外スルモノト解スルヲ適當トス可シ但シ支那總領事ハ概博ニ外國人ト稱スル右ノ意見ニ賛同シタリ）此等諸事實ニ付テ考慮ヲ重ネタル結果此際特別ノ事情特別ノ状況カ新ニ發生セサル限りハ米艦ニ引續キ直チニ日本軍艦ノ來現スルコトハ或ハ却テ愚民ヲ激シテ波瀾暴動ヲ催促シ若シクハ暴動ヲ驅リテ排外的色彩ヲ帶フルニ至ラシムルナキカヲ憂慮スルニ至レリ一言以テ之ヲ掩ヘハ彼等ハ帝國軍艦ノ出現ハ其熱望シテ止マサル所ナルモ出現カ却テ彼等ノ希望ト相反スルノ結果ヲ招致スルナキヤニ關シ懸念ヲ不絶結果トシテ前途後巡左軋右悟頗ル欲シシ怖シノ態度ヲ學ヒ居レリ

卑見ニ由レハ人心激昂危惧ハ危惧ヲ生シ誤解ハ誤解ヲ生シ易キ事未タ今日ノ如ク甚シキモノアルナキノ際ニ於テ帝國軍艦ノ出動ハ宜シク輕々ナルナカル可シ曩ニハ一度時態ニ取り効果ノ重要ナルモノアルヲ認メ並ニ當時誤解ノ消散ニ對シ外交事務官ヨリ極力助力ノ誓約ヲ得タルニ由リ軍艦御

ル可シト云フニアリ

一、十二月三日頃當地英國領事館々員ハ浦潮ヨリ數哩ノ地點ニアル「セダンカ」停車場ニアリ偶々一輛ノ貨車カ野砲ヲ滿載シテ停止セルヲ實見セリ右ノ野砲ハ日本製ノモノナルヤニ看取シタルカ其何レノ方面ヨリ輸送シ來レルカハ聴キ出スヲ得ス但シ傍ニアリタル兵員等ハ右ノ野砲ヲ指シ浦潮到着モ最早兩三日以内ニアリト意味ヲ含メテ語リ居タリ英國領事館ハ直チニ右ノ趣ヲ以テ當地停車場長ニ問合セ問題ノ野砲ノ行先來所ニ付テ聞糺シタルニ停車場長ハ右ハ寢耳ニ水ナリト申述ヘ早速取調ノ必要アリト答ヘタリ

一、砲兵第四連隊ハ一般ニ暴動ヲ懸念セラルル當地ノ軍隊中ニアリテモ最モ危險視セラルル連隊タルコトハ公然且ツ周知ノ事實ニシテ最近ノ一實例ヲ以テセハ現ニ本月二十三日及二十四日發行當地勞兵會機關新聞ハ露都勞兵會ノ政權奪取ヲ賛同シ同會ノ組織セル新政府ヲ承認スルト同時ニ當地ニ於テモ勞兵會カ政權ヲ收メントヲ主張シ之カ遂行ノ爲メ武力の援助ヲ辭セサル旨ノ當地要塞砲兵第四連隊第一、第九及第十二中隊ノ決議文ヲ掲載セルノ

差遣方ニ關シ稟申ノ次第モアリタレトモ爾後米艦カ此要求ヲ充タセル事已ニ十數日此上引續キ直チニ我軍艦ノ出動ヲ稟請スル事ハ新ニ特別ノ事情發生セサル限り之ヲ差控フルヲ得策トス但シ極東露領在住ノ帝國居留民ハ申スニ及ハス一切外人ノ委固ハ結局帝國ノ威力ヲ外ニシテ保護頼ルヘキモノ無キ目下ノ實際ニシテ且又形勢ノ推移ハ殆ト揣摩ヲ許サス端倪ニ違ナキ今日ノ際ナレハ何時即時ニ帝國軍艦ノ出動ヲ稟請スルノ必要ヲ認ムルニ至ルナキヲ保セス左レハ右様ノ場合ニ於テ時ヲ移サス軍艦ノ急派ヲ得ルカ為メ豫メ政府ノ御詮議ヲ稟請シ必要トセラルル措置ニ關シ手配ヲ稟請スル事ハ緊切ノ必要アリト信ス

以下御參考ニ資スルカ爲メ最近ニ於ケル道聽塗說ノ内ニ付キ稍注目ニ値ス可キモノヲ摘記シ當地狀勢ノ一斑ニ付説明ヲ資クル事トナセリ

一、十二月五日當地佛國領事館書記カ公用ヲ帶ヒテ海軍兵器廠附近ニ赴キタル處偶々一ノ倉庫内ニ在リテ兵員勞働者カ高聲ニ會話セルヲ聴取シタルカ其要領ハ吾人ハ此レニテ最早銃器千九百挺彈丸一萬九千發ヲ擁スル事トナレリ浦潮市民カ赤衛軍ノ活動ヲ味フ事モ今後數日ヲ出テサ

狀況ナルカ右ノ連隊ハ浦潮郊外「第一河」驛「第二河」驛附近ニ營舎シ該驛ニ堆積セラルル無數ノ砲彈ハ此連隊ニ由リテ護衛セラルル次第ナルカ英領事ノ主張スル所ニ由レハ同領事ハ該堆積砲彈ノ中ニ多數ノ「ダイナマイト」アルヲ探知シタリ結局最モ危險ナル武器ハ最モ危險ナル連隊ノ手中ニアリ

一、當地駐在陸兵ノ大多數カ秩序ノ維持ニ對シ信頼スルニ足ラスシテ寧ロ危險分子ト認メラルルノミナラス水兵亦何レモ危險ナリ但タ「アリヨール」乗組員ヲ除外トストハ當地官民一般ニ認メラルル所ナリシカ「アリヨール」ハ十二月一日出帆シタリ恰モ同夜日英米佛支各國領事ハ仏領事館ニ於テ最近戰地ヨリ當地ニ派遣セラレタリト稱スル「ワエンマイ」「コミサル」ナルモノニ紹介セラレ同人ハ自己カ假政府ヨリ派遣セラルル所ニシテ過激派ノ人ニアラサルコトヲ目的トシテ種々陳述スル所アリタルカ「ハバロフスク」「ブラゴウエシチエンスク」「スレチエンスク」等諸市ノ形勢ニ關シ同人ノ陳述スル所ハ何レモ肯綮ニ當レリト信セラルル處同人ハ浦潮ノ兵員ニ關シテハ卒直ニ遺憾乍ラ不良ナリ陸兵水兵ノ別ナク穩カナラ

サルコトヲ告白シタリ

一、本官ハ十二月二日郵便ニ由リテ匿名ノ投書ヲ接手シタルカ相當智識アルモノノ手簡ト信セラル内容ハ労兵會々員ノ名ニ於テ最近中産階級及資本家膺懲ノ爲メ浦潮ニ暴動ノ起ル可キ次第ヲ通告シ外人ハ速ニ浦潮ヲ引揚クルヲ利トス暴動ニ際シ抵抗ヲ試ムルノ輩ハ容赦ナク責罰ス可シ此警告ニ係ハラス浦潮ヲ去ラス爲メニ暴動ニ際シ生命財産ノ損害ヲ被ムルノ輩ハ其責己ニアル可シト云フニアリ素ト之レ匿名ノ一書本官ハ初メヨリ齒牙ニカクル所ナカリシカ偶々坐談ニ際シ与國領事ニ告クルニ此事ヲ以テシタルニ何レモ興味ヲ感シタルモノナルカ兩三日ニシテ支那總領事ハ同人ノ探知ニ由レハ該書簡ハ砲兵第四連隊兵卒ノ中ニ出ツルモノト報告シ來リ英領事ハ該手簡ヲ以テ前ノ労兵會長「ミハイロフ」ニ示シタル趣ニシテ該「ミハイロフ」ハ現在労兵會勢力者中此筆跡ヲ有スルモノアラサルコトハ明確ナルカ真面目ノ沙汰ト認ムル次第申述ヘタル由報告シ來レリ

五六〇 十二月十一日 本野外務大臣ヨリ  
在浦潮菊池總領事宛（電報）

独乙潜水艇ノ極東廻送ニ付警戒方訓電ノ件

第七三号

露国ニ於ケル騒乱ノ釁ニ乗ジ独乙ガ潜水艇ヲ東洋方面ニ廻送スルカ如キ企画モ亦有リ得ベキコトト思惟セラルル旨海軍省ヨリ照会アリ就テハ貴官ハ特ニ深甚ノ注意ヲ払ハレ何等情報ニ接セラレタルトキハ時機ヲ逸セズ電報アリタシ右訓令トシテ莫斯科、哈爾賓及齊々哈爾「ニコラエウスク」ヘ又参考トシテ在露大使ニ転電アリタシ

五六一 十二月十一日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛（電報）

在露国米国大使ヨリ日本ノ欧露方面出兵勸説

ニ関シ報告ノ件

第一二三一号

本月九日米国大使突然來訪本日稍信ジ得ベキ筋ヨリ聞込ミタル所ニ拠レハ独逸軍ハ二週間以内ニ当市ニ侵入シ來ルベシトノコトナルガ何等聞込ミタルコトナキヤトノコトニ付本日ノ新聞ニモ露都引渡ニ関シ独逸側ト過激派トノ間ニ過日交渉アリタリトノコトナルガ本使ハ何レモ之ヲ信スルコト能ハズ何者カ為ニスル所アリテ斯ル説ヲ流布スルモノナ

ラント答ヘタル処或ハ然ラン今日ノ露国ハ出現シ得ヘキ純然タル無政府情態ニ在リ此假ニ放任センカ早晚独逸ノ侵入モ實現スヘク勞農政府傍若無人ノ振舞ハ益々昂ジテ到底我々ノ忍ビ能ハザル程度ニ達シ軋地若ハ引揚ヲ要スルニ至ルベシト思ハルガ当方面ニ日本ノ出兵ハ絶対的ニ行ハレ難キコトナルヤト從來ヨリモ一層真面目ニ尋ネタルニ付本件ニ関シテハ貴大使ニ屢開陳セル通り絶対的ニ実行サレ難キ問題ナリト答ヘタル処我々ノ承認シ得ベキ露国政府ノ請求アルモ行ハレ難キコトナルヤトノ反問ニ付右様ノ政府ガ此際果シテ出現シ得ベキヤ否ヤ先ヅ此点ヨリ研究ヲ要スルコトナルガ縱令出現シ得ルトスルモ露国ノ国民性ニ顧ミ又今回ノ大戦乱ニ対スル露国ノ態度ニ徴シ大兵ヲ当方面ニ出動セシムルコトハ危険千万ナリ浦潮ヨリスレバ八千露里以上又哈爾賓ヨリスルモ七千露里以上ノ長距離ニ於テ後方断絶ノ危険ヲ冒シ西伯利亜線ノミヲ以テ数十万若ハ百万以上ノ兵ヲ給養センコト到底行ハレ難キ旨答ヘタル処同大使曰ク然ラバ日米共同シテ出兵スルコトハ如何又加奈陀モ多少ハ出兵シ得ベシ鐵道輸送ノ改良ハ米国其任ニ膺ルモ可ナリ幸ヒ「コロニコフ」將軍モ安全ニ通ゲ延ビ「ハリコフ」ニ於

テ七千余ノ兵ヲ得「カレヂン」將軍ノ軍ニ合体シタル模様ナルヲ以テ是等健全分子ニ援助ヲ与フルニ於テハ自然露国ノ面目ヲ立直ス望ミモアル可シトノコトニ付本使ハ之ニ対シ日米共同出兵ノ如キハ一層ノ大問題ニシテ之ニ伴フ困難モ亦一層大ナルベク御互ニ慎重ナル考量ヲ要スヘキモノト認ムル旨答ヘ程ヨク談話ヲ打切りタルガ右出兵問題ハマサカ本国其筋ヨリ内意ヲ受ケタルモノトハ思ハレサルモ露国ノ南方及東南ニ於ケル英仏側ノ画策ニ声援ヲ与ヘンガ為偶々米国大使ガ本使ト昵懇ナルヲ利用シ同大使ヲシテ本使ニ勸説セシメタルニアラサルカトモ思ハル右米国及加奈陀ヨリ出兵ノ件ハ到底行ハレ難キコトト信ズルモ西欧ノ戦況及露国今後ノ状態如何ニ依リテハ或ハ日本出兵ヲ余儀ナクセシムル為何等カノ形式ヲ以テ米加出兵問題提起セララルコトナキヲ保セズ何等御参考迄ニ（終）

在欧米各大使ヘ転電セリ

五六二 十二月十一日 本野外務大臣ヨリ  
在露国内田大使宛（電報）

露国革命政府ニ対シ執ルベキ態度ニ関シ訓令

ノ件

第八八三号

貴電第一二二二号ニ関シ本月五日在本邦公使館大使ハ貴電第一二二二号ト略同一ナル本國政府ヨリノ電報ノ内容ヲ本官ニ口頭ニテ通知セリ右ニ関シテハ巴里會議ノ經過ニ付松井大使ヨリ電報セル本省宛電報殊ニ第二五九号訓令案及同訓令ノ性質ニ関スル松井大使電報第二七五号ニ依リ既ニ御承知ノコトト存ス就テハ貴官ハ前述ノ諸電報ノ趣旨ヲ体シ本件ニ関シテハ貴地聯合國使臣ト同一步調ニ出ツル様セラレタシ

五六三 十二月十一日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

一 露国人ヨリ日本ノ對露出兵ヲ懇請ノ件

第一二三二号

十二月十日紹介ノ為葡萄牙公使同伴帝政時代地方官ヲモ勤メタル「ロウスキイ」來談露國ノ一憂國者トシテ默スルニ忍ビズ其職分ヲ尽サンガタメ腹藏ナク所見ヲ開陳シ日本ノ援助ヲ乞ハンガタメ來レリト前置シ大要左ノ通語レリ  
露國今日ノ情態ハ言語道斷純然タル無政府ニシテ露國人トシテ洵ニ慚愧ニ堪ヘザル次第ナルガスル情態ニ立到ラシメ

タル責任ノ一部ハ甚ダ露骨ナガラ日本ヲ初メ協商側諸國ニ在リ協商側ガ今日迄日本ヲシテ立タシメ得ザル外交上ノ大失策ハ申ス迄モナキコトナルガ日本ノ威力ノ関スル所モ甚大ナリトス蓋露國人ノ眼中ニハ勿論祖國ナシ又今日ノ英米仏伊ニ對シテモ何等考量ヲ払ハズ唯ダ恐ルル所ハ日本ニアリ日露戰爭ノ經驗ハ一般農民ハ勿論社會黨過激派ニ至ル迄今猶記憶ニ新タナル所ニシテ日本出兵ノ一語ハ直チニ露國人心ヲ緊縮セシムルニ足ル之レ自分ガ各階級各地方ノ露國人ニ親シク接觸シ得タル確實ナル信念ナリ若シ數ヶ月前ニシテ此事アラシメバ今日過激派ノ跋扈ヲ見ルコトナカリシナラン唯ダ日本出兵ニ全然相反スル兩様ノ趣旨アリ一ハ征服ヲ目的トスルモノ他ハ友誼ヲ趣旨トス無論自分等(脱)ハントスルモノハ友誼の援助ナリ此際日本ガ兵ヲ動カシ西伯利亞ヲ攻略センコト易々タルヘキモ之レ日露間永遠ノ平和ヲ維グ所以ニアラズ露國ガ一時他國ノ庄迫ヲ受クルモ遂ニ之ヲ排除セサレバ已マサルコトハ歴史ノ証明スル所兩國ノ為メ取ラサル所ナリ此際友誼の援助ヲ得ンカ露國ハ永ク徳トナシ茲ニ初メテ兩國親交ノ基礎ヲ定メ得ベシ露國ガ今日最モ其必要ヲ感ズルモノハ中心勢力ヲ得ルニ在リ遺憾ナ

ガラ露國自身ニ此勢力ヲ造リ出シ得ンコト当分望ナシ恐ラク十數年ヲ要スヘキモ若シ日本ニシテ公然友誼の精神ヲ宣言シ四五萬ノ兵ニテモ出ダシ例ヘバ之ヲ莫斯科ニ派遣センカ彼等ハ露國ニ最モ欠如セル規律ト組織トヲ輸入シ來ルモノニシテ今後三四ヶ月ニモ中心勢力出現シ有ラユル露國ノ健全分子ヲ糾合シ得ベシトテ最熱心ニ且誠實ニ陳述シタルヲ以テ本使ハ從來右様ノ論旨ハ屢々耳ニシタルコトアルモ地位經驗アル露國人ヨリ率直ニ之ヲ聞クヲ得タルハ今日ヲ以テ始トス且日本兵ニ斯ル多大ナル信用ヲ払ハルルコトハ感謝ノ外無シ唯問題カ如何ニモ重大ナルヲ以テ玆ニ何等明答ヲ与ヘ難キモ尚本使ノ參考迄ニ伺ヒタキカ此露國大ヲ以テ一億七八千萬ノ民衆中何故ニ四五萬團結ノ健全分子ヲ集合シ得サルヤ過激派ト云フモ其數大ナラス之ニ對抗シ得ル位ノ勢力ヲ作成スルコト格別至難ニモ思ハレス支那ニ於テサヘ斯ル勢力ハ立所ニ現ハル之レ本使等カ甚タ理解ニ苦ム所ナリ亦日本ヨリ友誼の精神ヲ以テ出兵スルトスルモ之ニハ露國中歡迎スルモノト同時ニ之ニ反對スルモノアルヲ

覺悟セサルヘカラス結局ハ独逸又ハ之ニ露國ノ或部分ヲ加ヘタルモノヲ敵トシテ戰フ準備ヲ要スルコトト思ハルルカ

如何ト反問シタル(脱)曰ク露國人ハ韃靼支配ヲ除ケハ數百年來殆ント外國ノ庄迫ヲ感セシコトナク「ムジーク」ハ其農村アルヲ知リテ他アルヲ知ラス「コサツク」ト雖彼等ノ故郷トスル四五ノ州鼎以外ノコトハ顧ミサル有様ニテ日本又ハ他國ニ於ケルカ如キ愛國心ナルモノハ直接外國ノ庄迫ヲ被ラサル限り直ニ之ヲ發現セシムルコト殆ント望無シ之レ露國自ラ奮起スルコト至難ナル所以ナリ之ニ反シ日本ニ依リ中心勢力ヲ得ンカ露國ニハ散布シタル健全分子今尙尠カラス地方ノ狀況ハ決シテ絶望ニ非ス故ニ日本出兵ノ結果各一線ニ兵士ヲ要センカ遙々日本ヨリ増派ヲ煩サス日本ノ勢力ヲ中心トシテ所要ノ露國兵ヲ(不明)スルコト決シテ難カラス云々

右日本援助說ハ露國中ニモ案外広ク行ハレ居ルモノノ如ク葡國公使ハ「ロウスキイ」ノ說ニ(以下脱)

五六四 十二月十二日 在公使館松井大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

巴里連合國會議ニ於ケル西比利亞鐵道ニ依ル物資補給提案ノ議事ニ関シ我方ノ所見ニ付フ



オッシン將軍ノ注意喚起ノ件

第二八一号

羅馬尼ニ対スル補給及露国ニ対スル方策ニ関シ十二月三日外務省ニ於ケル會議ノ次第ハ往電第二六一号報告ノ通ナル処其後三日附ヲ以テ「フォッシン」將軍ヨリ同將軍ガ該會議ニ提出シタル西北利亞鐵道ニ依ル物資補給ヲ確実ニスルノ提案ヲ會議ニテ可決シタルガ如キ形式ニ認メタル覺書ヲ送り越セルガ更ニ四日附ヲ以テ該會議ノ結果ヲ記録セル趣ノ覺書ヲ送附シ来レリ該覺書ハ長文ノ理由ヲ掲ゲタル後結論トシテ

之ヲ要スルニ

(一)、浦潮及哈爾賓ニ於テ直ニ西北利亞鐵道ヲ占領シ

(二)、南露西亞ニ組織セラレタル抵抗団体ニ対スル戦争材料ノ補給ハ該鐵道ニ依リテ之ヲ確保シ

(三)、将来該団体ニ与フ可キ軍事上ノ援助ヲ必要ニ応ジテ準備シ

(四)、露西亞及西北利亞ヲ通シテ朝鮮及太平洋ヲ脅カス独乙分子ノ進入ヲ防止スルヲ適當ト認ム而シテ聯合國中右ノ案ヲ実行シ得ルモノハ米日兩國ノ外ナシ云々

ト述べ最後ニ *Telles sont les idées auxquelles s'est arrêtée Conférence* ……ノ文句アリテ恰モ三日ノ會議ニ於テ我委員モ「フォッシン」將軍ノ案ニ賛成シタルモノノ如ク見エ誤解ヲ生ズル虞アリト認メタルヲ以テ当方ヨリハ覺書ニ依レバ我委員ガ三日ノ會議ニ於テ敷衍セラレタル案ニ賛成シタルモノノ如クニ見ユルモ右ハ事実ニ相違シ我委員ハ該案ニ賛成セザリシノミナラズ露国ノ現状ニ鑑ミ該案実行ノ為生ズルコトアル可キ危険ニ付注意ヲ喚起シタリ云々ノ趣旨ヲ書面ニ認メ之ヲ同將軍ニ送付シ置ケリ

以上ハ聯合國會議ニ關聯シテ生ジタル「フォッシン」將軍ト当方トノ曲折ニ過ギザルニ付本官申進セザリシ処在英日本大使発往電第五四四号中本件ノ記述有之ニ付為急電報ス

五六五 十二月十二日

在ハルビン佐藤総領事ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

在哈爾賓邦人ノ生命財産保護ノ為日本軍ノ出

動ヲ稟請ノ件

第一六六号

(前略)

当地現在露国兵数ハ四千ニシテ過激派ニ属スルモノ二千ナ

在支公使、在露大使、奉天、齊々哈爾、浦潮へ転電セリ

(長春經由十二月十二日後七、三五)

五六六 十二月十二日

在英國珍田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

露国国内ノ時局及之ニ対スル聯合國ノ方策等

ニ付バルフォア英外相ト意見交換ノ件

第五五四号(極秘)

十二月十日「バルフォア」氏ニ会见巴里發電第二六一号協議會ノ件ニ關スル十二月三日及四日附「フォッシン」將軍覺書並右ニ対スル十二月五日附松井大使書面写ヲ示シ殊ニ右四日附覺書末段ヲ指摘シテ尋ヌル所アリタルニ同大臣ハ右覺書ナルモノハ本使ノ内示ニ依リ始メテ見タルガ前述協議會ノ結末ハ該覺書末段ノ如キ意味ニアラズト同大臣モ記憶スル旨ヲ答ヘ夫ヨリ談露国ノ時局ニ及ビタルニ同大臣ハ内密ノ話トシテ実ハ「フォッシン」將軍ノ名声ハ予テ聞及ビ居タルガ今回ノ提案ニ至ツテハ如何ニモ杜撰粗漏ニシテ到底実行不能ノ計画ナリト云ハレタルニ付本使ハ加之巴里會議ハ飽迄露国内健全分子ノ感情ヲ尊重シ与国ニ於テ敢テ露国ヲ見放シ居ルモノニアラザルノ意ヲ驗証シ以テ彼等健

全分子ノ手ヲ強ムル事ヲ終始一貫ノ精神トシタル次第ナルニ「フォッシェ」將軍ノ提案ハ正シク此精神ト矛盾スルノ嫌アリト思考スト述ベタルニ「バルフォア」氏ハ右本使ノ所言ヲ首肯シ次デ語ヲ転ジ段々取調ノ結果ニ依ルニ浦潮ニハ軍事上貴重ナル荷物大分堆積シタル趣ナルガ若シ是等ニシテ独乙ノ手ニ陥ルガ如キコトナリテハ甚ダ厄介ナリト憂慮シ居ル旨語ラレタルニ付本使ハ露国昨今ノ形勢ニ付所見ヲ叩キタルニ同大臣ハ一般ノ報道以外格別ノ消息ナキ模様ナルニ「カレヂン」ヲ中心トスル哥薩克地方其他高加索ノ如キ芬蘭ノ如キモ夫々「ボルシェヴィツク」政府ニ対シ反抗ノ旗幟ヲ翻シ「ヂスインテグレイション」ノ風潮追々拡ガリツツアリ夫レダケ「ボルシェヴィツク」ノ地位ヲ弱メツツアル次第ニテ其意味ニテハ先ヅ結構ナルモ彼等「ボルシェヴィツク」反対分子ガ果シテ如何ナル程度迄成功ス可キヤ其辺ハ何等見込立タズ唯此際外部ヨリ出兵スルガ如キハ目下ノ微妙（デリケート）ナル時局ニ対スル措置トシテ余リニ過激ニ失シ其結果却テ健全分子ノ地位ヲ弱カラシメ所期ノ目的ト正反對ノ結果ニ導クニ至ル可シ此点ハ巴里ニ於テ貴大使等ノ開陳セラレタル意見ト今尚同感ナリト述

### シ馮總統ヨリ各省督軍ニ対スル通電ニ付報告

ノ件

第三〇五号

本官発在支公使宛電報第二四六号

閣下発大臣宛電報第一七一四号ニ関シ馮總統ヨリ各省督軍ニ宛テタル通電ナリトテ暗号ノ伝張督軍ヨリ内示ヲ得タル全文左ノ通

今般東隣方面ノ消息ヲ得タルニ露国革命政府ト独国トノ單獨講和ハ協商国ノ利害ト大ニ關係アリ日本ハ將ニ出兵シ露国ヲ攻メ以テ西比利亞ヲ窺ハントシ深ク我国ノ出兵援助ヲ望ミ英仏各国又我国ノ日本ト同一進行シ以テ将来ノ均勢ヲ保タンコトヲ望ミツツアリ云々ト聞ク查スルニ我国カ独国ニ対シ宣戦後既ニ協商国ト手ヲ携ヘツツアリ今回日本ニ於テ出兵シ露国ニ向ハントセバ東三省滿蒙各地共ニ進軍線路タル可シ苟モ連合動作セズンハ断ジテ袖手傍觀スル能ハズ且将来列国大会議中ニ於テ必ズ人ノ笑ヲ招キ余地ヲ止メザラン必ズヤ大兵ヲ派シテ以テ彼ノ後継タランカ希クバ親善ノ誠意ヲ示シテ独立国ノ精神ヲ失ハザル可シ近年我国ノ内部分争ハ絶大ノ外交問題ヲ惹起スルノ邊ナカラシメントス

ベ尚全然一己ノ私見トシテ本使ノ意見ヲ求メ度キガ万一出兵ノ場合ニ於テモ日本ヨリノ出兵ハ露人ノ誤解ヲ惹起スノ憂ヒアルヤニ思ハルト云ハレタルニ付本使ハ何分十年前迄ハ敵對ノ間柄ナリシ事故如何ニ善良ノ企画ヲ以テスルモ我方ノ出兵ニ対シテハ露人ノ誤解ハ事実免レ難キノ数ナル可シト本使モ思慮スト答ヘタルニ「バルフォア」氏ハ之ニ反シ米國ハ領土の野心ナキモノト一般ニ認メラレ居ルコト故米國ノ出兵ハ何等右様ノ誤解ヲ招カザル可シト思フ貴見如何トノ事ニ付出兵ト云フ事ハ聯合側ニ於テ露国ニ望ヲ絶テタルコトヲ前提トシテノ事ナリ其場合ニハ出兵ハ日本ニ於テ之ヲ行フ可キコト日本ノ地位上当然ノ權利又義務ナリ米國ノ出兵ハ単ニ我國民ノ自負心ニ鑑ミルモ日本ノ輿論ヲ激昂セシメ頗ル局面ノ紛糾ヲ招クニ至ル可シト信ズル旨本使ノ私見トシテ述ベタル処外務大臣ハ日本ノ地位感情ニ関スル本使ノ所説ハ如何ニモ尤ト存ズル旨ヲ答ヘラレタリ在欧米各大使ヘ転電セリ

五六七 十二月十四日

在奉天赤塚總領事ヨリ  
本野外務大臣宛（電報）

日本ノ西比利亞出兵ニ対スル中国ノ協力ニ関

今ヤ歐洲戰ノ風潮ハ東亞ニ波及シ其大波ハ目睫ノ間ニ逼ラントス同舟風雨ニ會シ誰カ傾覆セサラン詞ニ云フアリ兄弟牆ニ鬩クモ外其侮ヲ禦ク速ニ各方ノ意見ヲ徴シ以テ方針ヲ定メントス勸メテ望ム各位論ヲ述ヘ同心救国セハ幸甚ナリ外務大臣ヘ転電シ長春、哈爾濱、吉林ヘ郵報セリ

五六八 十二月十五日

在仏國松井大使ヨリ  
本野外務大臣宛

西比利亞鐵道占領ノ提案ノ議事ニ関スルフォ  
ッシェ將軍ノ黨書寫及之ニ対スル我方ノ書翰  
寫送付ノ件

附屬書一

十二月三日附フォッシェ將軍ノ黨書寫

二

十二月四日附フォッシェ將軍ノ松井大使宛  
書翰及黨書寫

三

十二月五日附松井大使ヨリフォッシェ將軍  
宛書翰寫

機密公第三〇号

（大正七年二月二十六日接受）

大正六年十二月十五日

在仏特命全權大使 松井慶四郎（印）

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

本月十二日往電第二八一号ヲ以テ具報申進タル「フォッシ

「」將軍覚書ニ通及右ニ対スル本使ノ書翰別紙等ノ通ニ有  
之候此段為念及報告候 敬具

(附屬書 1)

十二月三日附ノオミンニ將軍ノ覺書寫

(COPIE)

Paris, le 3 Décembre 1917.

SECRET

Les Représentants de la GRANDE-BRETAGNE, de  
l'ITALIE et de la FRANCE, réunis à PARIS le 3 Dé-  
cembre 1917 avec les Représentants des ÉTATS-UNIS  
et du JAPON, arrêtent, après examen de la situation  
actuelle en RUSSIE, que les Représentants de ces  
deux dernières Puissances demanderont sans retard à  
leurs Gouvernements des directives en vue d'assurer  
le ravitaillement de la RUSSIE par le Transsibérien,  
et de prévoir dès à présent les moyens de nature à  
faire arriver ces Ravitaillements même en cas de  
troubles.

(附屬書 11)

十二月四日附ノオミンニ將軍ノ松井大使宛書翰及覺書寫

(COPIE)

RÉPUBLIQUE FRANÇAISE

MINISTRE DE LA GUERRE.

Paris, le 4 Décembre 1917.

Le Général FOCH

Chef d'État-Major Général de l'Armée  
à Son Excellence Monsieur MATSUI

Ambassadeur de S. M. l'Empereur du Japon  
auprès de la République Française,  
PARIS.

Monsieur l'Ambassadeur,

J'ai l'honneur de vous adresser ci-joint le Mémo-  
randum que vous m'avez fait l'honneur de me deman-  
der et qui résume les propositions auxquelles a  
abouti la Conférence du 3 Décembre 1917.

Je prie Votre Excellence de vouloir bien agréer les  
assurances de ma haute considération.

Signé : F. FOCH.

(COPIE)

ÉTAT-MAJOR GÉNÉRAL

DE L'ARMÉE

Groupe de l'Avant

Le 4 Décembre 1917.

3e Bureau A

SECRET

MÉMORANDUM

au sujet des mesures à prendre  
à l'égard de la RUSSIE.

La Russie est dans un état d'anarchie et de dé-  
sordre qui met en péril sa puissance militaire, politique,  
et ses richesses économiques.

I

Les conséquences de cette situation sont :

a) — Communications rompues de l'Occident avec la  
Russie et avec la Roumanie.

En effet, les communications de l'Occident avec  
la Russie par Arkhangelsk, par Port-Mourman et par  
la Suède, sont fermées par la saison ou interceptées  
par l'ennemi.

Cette situation accélère la désagrégation de  
l'armée russe, et menace l'existence même de l'armée  
roumaine encore vigoureuse.

b) — Cessation prochaine de la résistance sur le front russe.

Quel que soit le sort réservé aux négociations  
d'armistice actuellement en cours (I), la résistance  
russe est sur le point de prendre fin :

—le peuple russe, gangrené par la propagande germa-  
nomaximaliste, semble vouloir la paix ; les éléments  
désireux de poursuivre la lutte sont entraînés dans le  
désarroi général et réduits à l'impuissance.

—l'armée se dissocie. La désagrégation est déjà  
commencée sur les fronts Nord ; son développement  
vers les fronts Sud est inévitable.

c) — LARGE EXTENSION DE LA CONQUÊTE

ALLEMANDE.

Sans parler des résultats militaires, de la dispari-  
tion de la force organisée devant lui, l'ennemi va pouvoir  
mettre la main sur les centres de résistance du front  
russe.

Mais en outre, il va, sans difficultés, pouvoir  
s'emparer des foyers de productions militaires et éco-  
nomiques (armement et produits manufacturés), ainsi  
que des richesses naturelles du pays, pour en faire,  
son bien, et les exploiter à l'avenir.

C'est ainsi qu'il va lui être possible de gagner  
d'abord Pétrograd, où est concentrée la majeure partie  
des usines de guerre ; puis de s'emparer des centres

(I) Depuis le 2 Décembre, midi.

industriels de la région de Moscou, d'atteindre sans doute le riche bassin du Donetz (charbon, industries, céréales) et d'aller peut-être même jusqu'à Vladivostok, (1) débouché sur le Pacifique, et tête du chemin de fer qui relie l'Europe à cette mer.

À la faveur de cette extension, il disposera des ressources qui lui manqueront, rompant ainsi pratiquement le blocus des Alliés, et s'assurant de larges moyens d'existence dans le présent. Il aura en outre, constitué un vaste domaine économique et dressé une carte de guerre impressionnante, avantages incontables comme éléments de discussion, lors de règlement de la paix. Pour l'avenir, il aura enfin organisé une base de départ favorable à son essor industriel et commercial, mettant en péril le développement économique des pays d'Extrême-Orient, notamment États-Unis, Japon, et rompant l'équilibre de l'Orient Asiatique.

Ces résultats considérables, il peut les obtenir sans sacrifices de forces importants. Il peut en effet

(1) Les dépêches du 2 Décembre signalent la prise de possession de cette ville par les maximalistes.

la partie septentrionale du théâtre d'opérations.

L'armée roumaine, forte de 15 divisions, d'une valeur éprouvée, constitue un noyau de forces solide qui permettra, s'il continue à être ravitaillé, de réaliser le groupement de tous les éléments du Sud de la Russie capables de prolonger la lutte (éléments ukrainiens-cosaques-peuplades du Caucase-éléments tchéco-slovaques organisés).

Les Chefs des Missions française et anglaise de ce pays ont été invités à diriger leur activité dans ce sens.

Mais, pour que les noyaux de résistance ainsi constitués puissent vivre, recevoir les armes et les munitions nécessaires, pour qu'ils puissent ensuite être développés, il faut d'abord maintenir avec eux la seule communication encore possible :

le *Transsibérien* ; puis renforcer au besoin les éléments russo-roumains par de nouveaux contingents, préparer même une intervention militaire par l'envoi de troupes à leur appui.

*Au point de vue économique*, pour limiter l'extension allemande en Russie et en Asie, c'est encore

maintenir à la fois le gros de ses troupes en Occident et, grâce à l'état de décomposition de la Russie, conquérir la Russie, même la Sibérie, menacer la Corée, paraître sur le Pacifique, et réaliser la prise de possession du vaste domaine envisagé ci-dessus (Russie, Sibérie), vers des détachements relativement faibles, occupant des points habilement choisis, si par des dispositions particulières et rapides, l'Entente ne s'oppose pas à ses progrès.

## II

Il en sera tout autrement si, par ces dispositions, l'Entente vise :—

1.—*au point de vue militaire* :

d'abord à soutenir et renforcer tous les éléments de résistance qui existent encore sur le front oriental, en Russie et en Roumanie.

2.—*au point de vue économique* :

à empêcher la conquête par les Allemands de la Russie déorganisée.

En ce qui concerne le *point de vue militaire*, la situation générale des forces alliées est moins défavorable sur les fronts Sud-Ouest et roumain que dans

l'organisation des éléments de résistance envisagés ci-dessus qui constitue le moyen le plus efficace, mais à la condition, toujours, que ces éléments soient ravitaillés par le Transsibérien.

La première mesure à adopter consiste donc à prendre possession de la voie ferrée du Transsibérien, à Vladivostok d'abord, puis à Kharbin, et de là jusqu'à Moscou, au moyen de détachements qui étendraient progressivement leur action le long de la ligne.

Dans ces conditions, et même si nous ne parvenons pas ainsi à soutenir la résistance roumaine, l'occupation réalisée par des détachements de l'Entente du Transsibérien en rendrait l'emploi difficile aux Empires Centraux et interdirait par là une expansion facile des Allemands en Orient.

Le Japon et l'Amérique sont, par leur situation géographique et l'état de leurs moyens militaires, les seules puissances de l'Entente en état de réaliser cette occupation.

L'opération ne doit pas être un acte d'hostilité vis-à-vis de la Russie, mais elle demande à être pré-sentée comme un appui sous forme de ravitaillement

et autres matières. Elle serait donnée comme une mesure de sûreté réalisée par des détachements de police pour assurer la garde des approvisionnements existant à Vladivostok et les faire arriver à Moscou.

Le chemin de fer Transsibérien étant militairement tenu, des transports de troupes, destinées à venir renforcer les centres de résistance constituée dans la Russie méridionale, pourraient être envisagés ultérieurement.

En résumé, il conviendrait :

- 1.—De prendre possession immédiatement du Transsibérien par Vladivostok et Kharbin.
- 2.—D'assurer par cette voie le ravitaillement en matériel de guerre des groupes de résistance formés en Russie méridionale.
- 3.—De préparer au besoin des secours militaires ultérieurs à ces combattants.
- 4.—D'arrêter, en tous cas, la pénétration de l'élément german, qui, à travers la Russie et la Sibérie, menace, si on s'y oppose sans retard, la Corée et le Pacifique.

Une fois de plus, les Etats-Unis et le Japon sont,

par leur situation géographique et l'état de leur moyens militaires, les seules puissances de l'Entente qui puissent réaliser ce programme, aussi indispensable à leurs intérêts propres qu'aux intérêts généraux de la Coalition.

Telles sont les idées qui ont été développées à la Conférence du 3 Décembre 1917, à laquelle prenaient part les représentants de l'Angleterre, de l'Italie, des Etats-Unis, du Japon et auxquelles s'est arrêtée la Conférence.

(signé) F. Foch.

(附屬書III)

松井大使ヨリフオッシニ將軍宛書翰寫

(COPIE)

Paris, le 5 Décembre 1917.

SECRET

Mon Général,

Par lettre en date d'hier, vous avez bien voulu me faire parvenir copie du mémorandum relatif aux mesures à prendre à l'égard de la Russie.

Ce mémorandum, de même que la note que vous m'avez communiquée avant-hier, fait supposer l'acceptation par les représentants du Japon des idées qui

avaient été développées à la conférence du 3 décembre.

Or, étant donné l'incertitude de la situation actuelle en Russie, le vicomte Chinda et moi nous n'avons par cru pouvoir nous rallier à l'ensemble de ces idées; nous avons même tenu à attirer l'attention de la conférence sur le danger qu'il pourrait y avoir au cas où elles seraient mises à exécution.

Ce qui a été arrêté à la conférence du 3 décembre, c'est tout simplement que nous, représentants de toutes les Puissances sans distinction, demanderons à nos gouvernements respectifs de donner des instructions à nos consuls en Russie pour avoir des renseignements circonstanciés pris sur place.

Veillez agréer, Mon Général, l'assurance de mes sentiments dévoués.

(signé Matsui)

Monsieur le Général Foch,

Chef d'Etat-Major Général de l'Armée.

五六九 十二月十五日

本野外務大臣ヨリ  
在英国珍田大使宛 (電報)

極東露領ノ狀態及之ニ対スル聯合國ノ措置ニ

付在本邦英國大使ト談合ノ件

一三 露国革命關係ニ付 五六九

第八二三号

十二月十四日英國大使來訪本國政府ノ電報ヲ示シテ浦潮ニ日本兵上陸ニ関スル「タイムス」所報ノ真否ヲ確メタルニ付本大臣ハ其ノ全然事實無根ナルコトヲ答ヘタル後極東露領ニ於ケル狀態ハ實ニ憂慮ニ堪ヘサルモノアリ最近ノ情報ニ依レハ哈爾濱ハ過激派ノ掌中ニ歸シ「ホルワット」將軍モ同派ニ対スル威力ヲ失ヒタリ浦潮ハ今尚仮政府派ノ支配ノ下ニアルカ如キモ哈爾濱同様ノ運命ニ陥ルヘキ懸念アリ而シテ同港ニハ露國政府用ノ軍需品及其他物資多量ニ存スルヲ以テ是等物品カ敵手ニ落チサル様適當ノ措置ヲ執ルノ要アルヘント思考セラル本件ハ巴里會議ノ際大國委員秘密協議会ニ於テ「フオッシニ」將軍ノ提議ニ基キ話題ニ上リタルモ何等解決ヲ見サリシモノナルカ浦港ノ運命計リ知ルハカラサルモノアルニ顧ミ甚憂慮シ居ル次第ナリト内話シタルニ英國大使ハ日本軍ヲ以テ浦潮占領ヲ決行スルコト不可能ナルヘキヤト問ヒタルニ付本大臣ハ之ニ答ヘテ本件ハ未タ政府ノ考量セサル所ナルモ本大臣一己トシテハ露國全般ノ形勢及極東露領ノ事態ニ関シ常ニ考慮ヲ加ヘ居ルモノニシテ若シ哈爾濱浦潮其他極東ノ都市カ過激派ノ掌中ニ落

ツルカ如キコトアラハ極東露領ニ於ケル事態ハ愈險惡トナルヘシト述ヘスル場合ニ於テ執ルヘキ措置ニ関シ英國政府ニ於テハ如何ナル意見ヲ有シ居ラルルヤ承知シ置クコトヲ得ハ幸ナリト附言シタルニ英國大使ハ貴電第五五四号所載閣下ト「バルフォア」氏トノ会谈要領ヲ開示シタルヲ以テ本大臣ハ閣下ノ所言ヲ承認スルト同時ニ聯合与国ノ極東ニ於ケル利益ヲ保護スル為何等措置ヲ執ルノ必要ヲ生スル場合ニ於テハ其ノ任ニ当ルヘキモノハ正ニ日本国ナルヘシト述ヘ尚日米両国軍隊ヲ以テ浦潮ヨリ莫斯科ニ至ル迄ノ鉄道ヲ占領セシムヘシト「フォッシュ」將軍ノ提案ハ実行不可能ナルヘク若シ浦潮ニ軍隊ヲ上陸セシムルノ必要アリトセハ日本軍隊最之ニ適任ナルヘシ加之米國軍隊ノ亞細亞海岸上陸ノ如キハ日本國民ノ感情ヲ害スルコト甚大ナルヘク甚好マシカラサルコトナリト語り置キタリ右御含迄

五七〇 十二月十五日 在露国内田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

在哈爾賓總領事ノ同地へ日本出兵意見ニ対シ  
適宜訓戒ヲ与フル様稟請ノ件

第一二四九号 (大正七年一月四日接受)

往電第一二四三号ニ関シ本年六月在哈爾賓總領事ヨリ閣下宛第四三号及第五九号電報出兵意見ニ対シテハ其当時相当御訓戒アリタルコト思ハルガ万一同総領事ニ於テ今尚該意見ヲ固執シ偶々哈爾賓地方ノ不穩ヲ機トシ該意見ノ貫徹ヲ計ラムトスルカ如キコトアルニ於テハ今後時局ノ推移ニ伴ヒ如何ナル椿事ノ惹起セストモ(脱)ニ付此際殊ニ慎重ナル態度ヲ執ル様至急御訓示相成同時ニ同地駐在武官ニ対シ其筋ヨリ同様訓示方御取計相成タク尚北滿及東部西北利亜駐在各領事及海陸軍武官ニモ時局ニ対スル心得方々訓示アリタシ (十五日)

五七一 十二月十六日 在露国高柳少將ヨリ  
田中參謀次長宛(電報)

極東露領ニ一独立州ヲ立ツル案ニ付意見具申  
ノ件

高電第八八号(十二月十六日發)

(大正七年一月十二日接受)  
「レニン」一派ノ成効センカ将来或ハ独露提携ノ勢ヲ来スナキヲ恐ル之ニ対スル日本ノ政策ニ於テ極東露領ニ一独立州ヲ立テ之ヲ我保護ノ下ニ在ラシムルモ亦一法ト信ス、今

ヤ旧皇帝遁走ヲ伝フ將校ノ職ヲ捨ツルモノ多ク今後中産階級ノ地位ヲ蹂躪サルル咍ニ於テ露国東南州一部ノ之等ヲ收容スル力ナキカ、極東露領独立州ハ將サニ之等ニ依リテ建設セラレ此建設タル日本ノ極東出兵ニ俟ツ如キ情勢ヲ馴致セントモ限ラレス而シテ日本ノ極東露領出兵ハ避クルヲ可トスルモ与国ニシテ戦争継続ノ決心昂カラシカ所期ノ情況ニ基キ或ハ之ヲ余儀ナクサルルヤモ図リ難シ、敢テ将来ノ作戰上所感ヲ述フ

代表武官ハ露国ニ対シ又与国トノ關係上單純ナル從軍者ト見做ス能ハス之レカ為メ指示ヲ乞ヒ意見ヲ呈シ置キシカ將來ハ之ヲ止メ高電七十八号ニテ報告セシト同様ナラシムルヲ可トセン而シテ其実施ノ時機ハ今ヲ可トス高電八十七号ノ如ク小官ハ暫ク露都ニ赴カントスルニ際シ是等ニ関スル御意見ヲ承リ得ハ任務服行ノ上ニ好都合ナリ

五七二 十二月十七日 臨時外交調査委員会へノ提出文書

露国ノ現状及之ニ対スル聯合諸國ノ態度並我

方ノ方針ニ関スル件

附記一 露国單獨講和ノ場合ニ於ケル日本ノ對露政策

二 日本ガ將來西比利亞ニ出兵スルコトアルベキ

一三 露国革命關係一件 五七二

場合ノ措置

三 東方露領ニ対スル措置

(大正六年十二月十七日外交調査会ニ提出)

「レーニン」「トロツキー」等ヲ首領トセル露国過激派ハ今猶露都ニ於ケル政權ヲ把握シ漸次其ノ勢力ヲ地方ニ及ホシ現ニ西比利亞諸州県中「イルクツク」以西ハ疾ク其ノ勢力圈内ニ入りタルモノノ如ク今ヤ哈爾賓ニ於テハ本月十二日ヨリ同地方行政權ヲ過激派ノ掌中ニ収ムヘキコトヲ宣言シ「ホルワット」將軍及露国総領事ハ免職セラレ次テ「ホルワット」將軍ヲ逮捕セムトスル狀況ニシテ又浦塩斯德「ハバロウスク」等ニモ著々其ノ勢力ヲ及ホサムトセリ此ノ如キ過激派奔騰ノ潮流ニ対シ「カレヂン」將軍ハ依然「コザツク」軍ヲ擁シテ「ドン」地方ニ拠リ之ニ拮抗ノ態度ヲ持續セルモノノ如ク「コルニロフ」將軍ニ至リテハ最近過激派軍トノ接戦ニ於テ敗北セルヤノ情報アリ而シテ在露内田大使ヨリノ最近著電ニ拠レハ此程大体終了シタル露国憲法議會議員選舉ノ結果ハ一般觀測ニ依レハ過激派第一位ヲ占メ立憲民主党第二位ニ社会革命党第三位ニ居リ社会民主労働党穩和派ハ最少數ナルヘキモ立憲民主党ハ社会革

命党左翼及中央派ト提携シテ過激派ニ当ルヘキヲ以テ所詮過激派ハ憲法議會ニ於テ過半数ヲ占メ得サル形勢ニ在リ因テ過激派政府ハ一面本月十一日召集ノ答ナリシ憲法議會ノ召集ヲ名ヲ員数未滿ニ藉リテ延期スルト同時ニ他面目下立憲民主党ヲ以テ革命反対者ト做シ其ノ領袖ヲ拘引シテ之ヲ革命裁判ニ附スヘキ旨ノ命令ヲ發シ以テ同黨議員ノ出席ヲ阻止セムトスル等憲法議會ニ過半数ヲ占メ自党ノ勢力ヲ維持スルノ方策ヲ運ラセルカ如シ以上之ヲ推スニ過激派ノ勢力未タ牢乎タル根蒂ヲ成セリトハ言フヘカラサルモ少クトモ目下ノ処日々其ノ勢力ヲ張り之ニ対シ深憂ヲ懷キ反対ノ意見ヲ持スル者亦国内到ル処ニ在リト雖未タ頓ニ之ヲ覆シ得ルニ足ルヘキ對抗勢力ノ團結顯出セスト認ムヘキナリ

飜テ過激派政府ノ対敵關係ヲ觀ルニ本月初旬露独壤土勃各軍代表者ノ間ニ行ハレタル休戦談判ハ聊カ要領ヲ得サリシカ如クナレトモ兎モ角独逸側ハ本月八日より二週間休戦期間ヲ延長シ休戦協定成立ニ至ルマテ軍事行動ヲ停止スルコトトシ露国委員ハ自国政府ニ請訓ノ為一週間ノ猶予ヲ期シテ引取レルモノノ如シ勞農政府外務委員「トロツキー」ハ在露内田大使ニ宛テ本月六日附ヲ以テ右休戦談判ノ經過ヲ通

告スルト共ニ露曆十一月二十九日(十二月十二日)平和談判再開ノ期迄ニ休戦及平和談判ニ参加スヘキヤ否ヤヲ決定セムコトヲ愆愆セル照会ヲ寄セ同時ニ同様ノ書面ヲ他ノ在露聯合与国代表者等ニモ送附セリ尚羅馬尼軍モ休戦セリトノ報アリ次テ本月十三日ニ至リ「トロツキー」ハ休戦談判再開ノ為露国全權委員ノ「プレスト、リトウスク」ニ向ヒタルコト同委員ハ休戦条約調印ノ後平和談判ニ著手スヘキ全權ヲ有スルコト及本休戦談判ハ露軍及羅馬尼軍ト敵軍トノ間ニ行ハルル所謂単独休戦ナルガ事ノ玆ニ至レルハ全ク是迄自己ノ休戦平和条件ヲ提出スルコトナク又戰爭繼續ノ理由ヲモ明示セサル諸国ノ責任ナルコトヲ声明シ且単独休戦ハ実ハ単独講和ノ危険ヲ含メリトノ趣旨ト共ニ勞農政府ニ於テ平和談判ノ基礎トスル民主的平和主義ナルモノノ条件五ヶ条ヲ掲ケ独壤勃土諸国代表者ハ既ニ民主的平和主義ヲ是認セル旨並ニ勞農政府ハ現下ノ談判ニ付旧条約ニ拘束セラレサルヘキ旨ヲ公表セリ

更ニ主ナル聯合与国ノ露国現状ニ対スル態度ニ付之ヲ觀ルニ過激派政府ハ飽ク迄之ヲ承認スルヲ欲セサルノミナラス窃ニ其ノ顛覆ノ一日モ速ナラムコトヲ冀望スト雖去リトテ

陽ニ其ノ反感ヲ激発スルカ如キコトハ之ヲ避ケムト努メ居ルモノノ如シ但一面英仏カ「カレデン」將軍其ノ他穩健分子ニ直接又ハ間接ニ声援ヲ与フルノ途ニ付攻究シツアルハ蓋シ想像ニ難カラス過般ノ巴里會議ニ於テモ露国政変ニ処スヘキ対策ニ関シテハ結局何等成案ヲ得ルニ至ラス日本兵又ハ米兵ヲ以テ浦潮斯德莫斯科間ノ鐵道ヲ占領スヘシトノ仏国総司令官「フオッシュ」將軍ノ提案ニ就キ日英米仏伊各代表委員等ニテ討議シタルモ英国委員「バルフォア」氏ハ軍事上其ノ実行容易ナラサルノミナラス政治上ノ見地ヨリスレハ之カ実行ハ事實露国ニ対シ戦闘ヲ為スニ等シク斯ノ如キ手段ハ今日ト雖篤ト熟考ヲ要スヘシト述ヘ松井大使ハ右ノ如キ案ハ事實露国ニ対スル戦争タルノミナラス独逸ニ口実ヲ与ヘ露国ヲシテ吾人ニ反対ノ氣勢ヲ添ヘシメ却テ所期ノ目的ニ反スル結果ヲ生スルニ至ルヘシト説キ米国委員「ハウス」氏モ此ノ意見ニ賛成シ終ニ成立ニ至ラスシテ止ミタリ尚本月十日在英珍田大使ニ対シ英国外務大臣「バルフォア」氏ハ現ニ浦潮斯德ニ堆積セル軍需品カ独逸ノ手ニ陥ルカ如キ危険ヲ憂慮シ結局領土の野心ナキモノト一般ニ認メラルル米國ノ該方面ニ対スル出兵ハ何等誤

解ヲ招カサルヘシト思考スル旨ヲ告ケ珍田大使ノ意見ヲ叩

キタルヲ以テ同大使ハ之ニ対シ若シ聯合国側ニ於テ此ノ方面ニ出兵スヘキモノナリト決スル曉ニハ日本ニ於テ之ヲ行フコト帝國ノ地位上当然ノ權利又義務ニシテ米國ノ出兵ハ單ニ之ヲ我國民ノ自負心ニ鑑ミルモ日本ノ輿論ヲ激昂セシメ頗ル局面ノ紛糾ヲ醸スニ至ルヘキ旨ヲ答ヘタリ尚在露英國大使ハ既ニ其ノ本國政府ヨリ必要ナリト認メラルル場合ニハ聯合国同僚ト協議ノ上任地ヲ引揚ケヘキ旨ノ訓令ニ接シ居リ帝國政府ニ於テモ略之ト同趣旨ノ電訓ヲ在露内田大使ニ發シタリ

欧露ノ動乱其ノ露領亜細亞及北滿洲地方ヘ波及ノ狀況及過激派政府ノ対敵關係即休戦、講和ニ関スル商議進捗ノ模様並主ナル聯合与国ノ露国現状ニ処スヘキ態度等ハ略前陳ノ通ニシテ今日迄ノ処露國ノ事態ハ敵国側ニ取リ著々有利ニ展開シ從テ聯合国側ニ取リテハ頗ル不利ノ形勢トナリツツアリ之ヲ歐洲ニ於ケル戦局ニ就キ考察スルニ伊國ノ戦敗ト相俟ツテ聯合軍側ニ取リテハ頗ル寒心ニ堪ヘサルモノアルヘク而シテ過激派ノ勢力益々極東露領及北滿洲地方ニ波及シ從テ独逸勢力此ノ方面ニ瀰漫スルニ至ラハ我帝國亦晏如

タル能ハサルヘシ今後ニ於ケル露国形勢ノ推移ハ固ヨリ逆睹シ難キモノアリト雖先ツ諸方面ノ觀察ニヨリ之ヲ帰納セハ過激派ノ勢力必スシモ永續セサルヘシト見ラルルト同時ニ又今俄ニ之ヲ驅逐スヘキ勢力ノ出頭セムコトハ之ヲ期シ難キニ似タリ因テ歐洲戦局ニ対スル影響ノ重大ナルト我邦ニ対スル關係ノ容易ナラサルモノアルヘキトニ顧ミ兎モ角歐露及露領亜細亜北滿地方ニ於ケル今日迄ノ趨勢ヲ基礎トシテ此ノ際予メ我邦ノ之ニ処スヘキ大体ノ方針ニ付慎重攻究シ置クノ必要アリト信ス

註 右文書末尾ニ記載セラレタル趣旨ニ適合スル様當時外務省事務当局ニ依リ早急調査作成セラレタルモノガ左掲附記  
一、二、三ノ三案ナリト認メラル但シ右三案ハ其ノ作成時期不明ナルト共ニ果シテ臨時外交調査委員会ニ提出セラレタルモノナリヤ否ヤモ不明ナリ

# (附記一) 極秘

露国单独講和ノ場合ニ於ケル露国ノ対露政策  
露国ノ形勢ハ混沌トシテ容易ニ收拾スヘカラサル局面ヲ顯出シ一方過激派政府ト中欧同盟側トノ講和商議ハ迂余曲折セルモ畢竟独逸側ニ有利ナル单独講和ノ成立ヲ見ルヘキ趨

勢ナリ若シ单独講和成立ノ曉聯合諸国就中英米仏伊ハ如何ナル態度ヲ執ラムトスルカ予メ此等列国ノ意嚮ヲ確メ帝国今後ノ方針ヲ決スルノ要アリト信ズ

按スルニ露国ノ单独講和ハ明カニ千九百十四年九月調印ノ倫敦宣言ノ約ニ背反スル行為ナル処聯合諸国ハ之ヲ等閑ニ附スルノ考ナリヤ若シ之ヲ等閑ニ附スルニ於テハ聯合諸国ノ威信地ニ墜ツルノミナラス独逸ハ之ニ依テ速ニ露国トノ通商交通關係ヲ復活シ聯合諸国ノ拱手傍觀ノ機ニ乘シテ露国ニ対スル經濟上ノ管理ヲ確保スヘク聯合諸国ノ利益ノ侵害セラレ甚大ナル打擊ヲ受クヘキハ講和談判ニ於ケル独逸ノ經濟問題ニ対スル努力ニ徹スルモ明カナリ聯合諸国ハ果シテ之ニ対シテ如何ナル措置ヲ執ラムトスル乎英仏ノ如キハ其ノ露国ニ於ケル經濟的利益ノ迫害ヲ恐レテ過激派政府ニ対シテ強硬ナル態度ニ出ツルコトヲ躊躇シ地理上戦局上露国ニ対シ直接ニ兵ヲ用ウルヲ得サル為斷然タル措置ヲ執ルヲ得ス米国モ亦遠ク露国ヲ威圧スルノ方法ナク僅ニ露国民トノ稍親好ナル接触ニ甘シ居ルモノノ如シ要スルニ聯合諸国皆越趨巡策ノ施スヘキモノナキノ状態ナルノ觀アリ

然ルニ本問題ハ実ニ帝国ノ利害ニ直接甚大ノ關係ヲ有スルモノニシテ特ニ慎重ニ考慮ヲ要スル重大問題ナリ素ヨリ英米仏伊ノ与国ト接触ヲ保チ四周ノ情勢ニ察シテ適宜措置シ万違算ナキヲ期スヘシト雖予メ帝国政府ノ執ルヘキ方針ヲ決定シ置カサルヘカラス而シテ今ヤ左ノ三策ノ一ヲ択フノ外ナシト思考セラル

一、飽ク迄列国ト同一ノ歩調ヲ保チ帝国ヨリ進ンテ何等積極的行動ヲ提議シ又ハ独力之ヲ断行セサルコト  
二、聯合与国ヲ慫慂シ之ト共同ニ又ハ独立ニ背信行為ヲ理由トシテ対露出兵ノ行動ヲ執ルコト

三、列国ト同一歩調ヲ執リツツ其ノ間露国トノ交渉ニ由リ帝国ノ利益ヲ確保スルノ策ヲ執ルコト

第一策ハ最モ無難ナルカ如キモ危險ヲ将来ニ貽スモノナリ抑々独逸カ事実上露国ヲ支配シ西比利亞ヲ其ノ勢力下ニ収メ仮令直ニ兵力又ハ権力ヲ擁シテ極東ヲ擾スコトナキモ先ツ徐ニ西比利亞ノ經濟的征服ヲ完成シ他日北滿ヨリ支那ニ侵入シテ政治的經濟的大活躍ヲ為スノ基礎ヲ建設スヘキハ疑ヲ容レヌ是レ実ニ帝国ノ東亞ニ於ケル特殊ノ地位ヲ北方ヨリ脅威スルモノニシテ日露戦争前ヨリモ一層甚シキ東亞

ノ危局ヲ現出スヘシ然ルニ英米仏ノ諸国ハ前述ノ如ク強硬ナル對抗策ニ出ツルノ意ナキカ如ク帝国ニシテ此ノ越趨巡セル列国ト歩調ヲ保ツニ止マラハ終ニ独逸東侵ノ大勢ヲ看過シテ後患ヲ貽スヤ必セリ此ノ策ノ執ルヘカラサル理由茲ニ存ス

第二策ハ最徹底的ニシテ結局帝国ノ為メ最モ有利ナリト信スルモ多少ノ危險アルヲ免レス蓋シ聯合与国ト共同シテ露国背信ノ行為ヲ責ムル場合ニハ帝国ノ立場甚タ容易ナルヘキモ若シ单独ニ此行動ニ出ツル場合ニハ帝国ハ一方聯合与国ニ対シ孤立ノ地位ニ立ツノ虞アルト同時ニ他方露独ヲ対手トシテ戦争ヲ継続スルノ責任ヲ負担セサル可カラズ是レ第二策ノ実行上大ニ考慮ヲ要スル所以ナリ

然ラハ此ノ際東亞ノ安固保持帝国自衛ノ必要ニ基キ独逸東侵ノ大勢ヲ防止スルニ必要ナル要地ト利益トヲ確保スルノ策即チ第三策ヲ執ルモ亦不可ナカルヘキ乎蓋シ今日露国ノ最怖ルルハ帝国ノ威力ナリ過激派政府ト雖英仏等ニ対シテハ脅威的態度ニ出ツルモ帝国ニ対シテハ調和的態度ヲ執リ寧ロ接近ヲ欲スルノ意嚮ナキニ非ス故ニ先ツ帝国ノ自衛及東亞ノ安固ニ必要ナル条件トシテ左ノ諸利益確保ノ為予メ



内密ニ露国ト協議ヲ試ミ然ルヘシ

一、露国ニ於テ堪察加其ノ他東部西比利亞ニ於テ鉄道其ノ他ノ權利ヲ他国ニ讓与セムト欲スルトキハ予メ日本ト協議スルコト

二、樺太ノ北半ヲ或ル代価ヲ以テ日本ニ讓渡スルコト

三、東支鉄道ハ之ヲ南滿鐵道会社ニ讓渡セシムルコト

但シ鉄道問題ニ関シテハ前項ノ讓渡不可能ナル場合ニ於

テハ西比利亞鉄道及東支鉄道ヲ日英米仏諸国ノ資本ヲ以

テ共同經營スルコトトシ哈爾濱以南ノ支線ハ是非トモ日

本ノ手ニ之ヲ引受クルコトトナスモ亦一案ナルヘシ

露国ニ於テ我要求ヲ承諾セサル場合ニハ更ニ帝国ノ權利ト利益トヲ防護スルニ必要ナル措置ヲ執ルヘキハ論ヲ俟タス

### (附 記二)

日本ガ将来西比利亞ニ出兵スルコトアルベキ場合ノ措置

露国ノ現状ハ今ヤ糜爛紛擾其ノ極ニ達シ其ノ国家組織ハ支離滅裂殆ト解体シツツアルノ觀アリ從テ其ノ政局ハ将来那辺ニ至テ安定ヲ見ルニ至ルヘキカ殆ト何人モ予断ニ苦ム処ナルヘシ最近過激派カ政權ヲ掌握スルニ至テ其ノ形勢ハ益險惡ニ趨キ其ノ為ス処傍若無人殆ト常識ヲ以テ判断シ難キ

底此ノ状態ヲ坐視スルニ忍ヒサルヘシ

以上ノ理由ニヨリ帝国ハ万一ノ場合ニ処スル為メ予メ東部西比利亞地方ニ出兵スルノ覚悟ト準備トヲ為シ置クノ至当ナルヲ認ム

唯夫レ本問題ハ事態頗ル重大ニシテ其ノ影響スル処帝国ノ現在及ヒ将来ニ至大至重ノ關係アルヲ以テ其ノ実行ノ時期及ヒ方法ニ付テハ最慎重周到ナル研究ト考慮ヲ尽スノ要アルハ言ヲ俟タサル処ニシテ從來帝国カ与国ニ対シ歐洲ヘノ出兵ヲ拒絕シ來レル行掛アルヲ以テ今俄ニ不穩ノ故ヲ以テ輕シク西比利亞ニ出兵スルカ如キコトアルニ於テハ与国特ニ英米兩國ヲシテ我利己の欲望ヲ疑ハシムルノ虞アリテ帝国將來ノ為メ極メテ危險ナルヘント認メラルルニ付帝国ハ露国ノ内狀益險惡ニ趨キ与国ヨリ我西比利亞出兵ヲ慫慂シ來ルノ時期ヲ徐ロニ待ツノ絶對的必要ナルヲ認ムルト同時ニ西比利亞方面カ現実ニ過激派ノ手中ニ帰シ在留外國人ノ生命財産カ甚シク危殆ニ瀕シ且ツ過激派政府ノ裏面ニ独乙ノ勢力波及シ其ノ活動カ東洋ノ平和及ヒ帝国ノ国防ヲ威嚇スルノ徵候歴然タルモノアルニ至テ始メテ手ヲ下スコトヲ必要トス然ラスンハ帝国出兵ノ拳ハ恐ラク列国ノ是認ヲ得

モノアリ特ニ近來ノ如ク休戦ノ決行、單獨講和ノ声明等何レモ聯合与国ノ方針ニ背馳スルノミナラス甚シキニ至テハ故意ニ与国ノ不利ヲ図ルノ拳ニ出ツルノ徵候ヲ見ル或ハ独乙カ陰ニ過激派ヲ使噉操縦シ居ルノ疑ナキニ非ス少クモ形勢ノ推移如何ニヨリテハ露国カ全然独乙ノ勢力ニ席捲セラるルノ事ナキヲ保シ難ク而モ其ノ勢力ハ過激派ノ成功ト共ニ漸次ニ東部西比利亞及ヒ北滿方面ニモ波及シ來ルノ懸念ナキニ非ス万一如此趨勢ニシテ益發展センカ将来或ハ西比利亞東部ノ全地域ハ独乙勢力ノ瀾漫スルニ至ルモ測リ難ク斯クテハ独リ現戰爭中東洋方面ニ於テ再ヒ敵勢ノ活動ヲ見ルナキヲ保シ難キノミナラス平和克服後ニ於テモ帝国ハ直ニ独乙勢力ノ脅威ヲ受クルノ地位ニ立タサルヘカラス是実ニ帝国ノ現在及将来ニ対シ至重至大ノ關係ヲ及ホス問題ナリトス

況ンヤ最近哈爾濱、浦塩方面ヨリノ情報ハ東部西比利亞カ漸次過激派ノ手中ニ帰シ数千百ノ帝国及与国臣民ニ甚シキ不安ヲ与ヘ其ノ生命財産ハ日ニ危殆ニ瀕シツツアル旨ヲ伝ヘ而シテ如此險惡ナル形勢カ益發展スルニ至ラハ東亞ノ平和ヲ保全シ帝国竝与国臣民ノ保護ニ關スル責任上帝國ハ到

サルヘク列国ノ是認ヲ得サル出兵ハ独リ講和會議ニ於テ其ノ出兵ノ効果ヲ無意義ナラシムルノミナラス帝國戰後ノ國際的地位ニ容易ナラサル煩累ヲ及ホスヘント認ム

### (附 記三)

東方露領ニ対スル措置

極秘

露国内部ノ變乱カ極東方面ニ於ケル同国ノ領有又ハ管治地域ニ及ホシタル影響ハ地方ニ依リ幾分程度ヲ異ニスト雖目下大体ニ於テ過激派ノ跳梁日ニ甚シキヲ加フルノ狀アリ之カ為第一ニ同地域ノ秩序漸ク絶墜シテ在留外國人ノ生命財産ハ著シク不安ヲ感スルニ至リ第二ニ過激派ノ裏面ニ伏在スル独逸ノ勢力ハ著々東漸シテ間接ニ過激派ノ行動ヲ左右シ現ニ沿海州地方ニ滯積スル多量ノ軍需品其ノ他ノ物資ハ独逸ノ利用スル所トナルノ虞ナシトセス思フニ今次露国政權ヲ篡奪セル「レーニン」「トロツキー」一派ハ固ヨリ全國ノ人心ヲ收攬スルコトヲ得ヘキモノニ非ス其ノ命脈或ハ久シカラサルヘント雖之ニ襲キテ政府ヲ組織スルモノハ亦必スシモ健全分子ナルヲ期スヘカラス帝國其ノ他聯合諸国ノ信賴ヲ博スヘキ鞏固ナル新政府ノ樹立ハ前途尙遠ナル

ニ似タリ其ノ間独逸ノ勢力ハ漸次国内ノ各方面ニ浸潤シ戦禍ニ倦メル民意ノ帰向ト相待テ露独接近ノ機運ヲ促進スルコトナキヲ保シ難シ

右ノ次第ナルヲ以テ帝国政府ハ此ノ事態ニ対シ或時機ニ於テ適當ノ措置ヲ執ルノ已ムヲ得サルニ至ルヘシ就テハ聯合諸国ノ本件ニ対スル意嚮ヲ探リ或ハ進ンテ十分協議ヲ遂クルノ要アルヘキモ之ニ先チ此際予メ別紙ノ通り帝国政府大體ノ方針ヲ決定シ置キ可然ト認ム

(別紙)

一、東方露領殊ニ浦潮斯德及北滿露国管治地域殊ニ哈爾賓ニ勞農政府ノ勢力確立セラレタル場合

單ニ此ノ事実ノミヲ以テ遽ニ何等積極行動ヲ執ルハ必要ナカルヘキモ斯ル事態ハ独逸ノ勢力乃至陰謀ヲ伴フモノトシテ頗ル危険性ヲ有スルモノト看做ササルヘカラス此ノ見地ニ立脚シテ之カ対策ニ就キ聯合強国ト協議ヲ遂クルヲ要ス

二、前項ノ事態ト共ニ独逸ノ勢力乃至陰謀ノ之ニ伴随セルコト明白ナルカ又ハ斯ル認定ニ相当ノ根拠アル場合  
其ノ形勢ノ輕重ニ鑑ミ聯合強国ニ通告ヲ發スルト同時

ニ直ニ北滿及東方露領ニ於ケル必要ノ地点占領ノ措置ニ出ツルカ又ハ其ノ余裕アリト認メラルルトキハ右措置ニ就キ予メ聯合強国ト協議ヲ遂クヘシ

三、前掲地方ニシテ混乱状態ニ陥リ帝国臣民其ノ他聯合与国人在留者ノ生命財産ノ安固保障セラレサル場合

事態ノ輕重ニ從ヒ聯合強国トノ協議ヲ經テ出兵スルカ又ハ聯合強国ニ通告ヲ發スルト同時ニ直ニ出兵スヘシ尤モ本項ニ所謂生命財産ノ安固保障セラレサル場合トハ必スシモ直接現実ニ危害ノ加ハリタル場合ノミヲ指スモノニアラサルト同時ニ亦二三被害事件ノ發生ヲ以テ直ニ斯ル認定ヲ行フノ趣旨ニアラス

四、敵国ノ勢力浦潮斯德ニ及ヒ之ヲ以テ潜水艇ノ根拠地トナスカ又ハ同地ニ在ル軍需品及北滿地方ノ物資ヲ敵国ニ利用セラルヘキ危険

斯ル危険ノ逼迫ヲ認メタルトキハ遲滞ナク我兵力ヲ以テ浦潮斯德及哈爾賓其ノ他必要ト認メラルル地点占領ノ措置ヲ執ルヘシ

五、西比利亞全部又ハ一部勞農政府ニ反对シテ自治若ハ独立ヲ宣言シタル場合

セシムル如キ危険ハ之ヲ防遏シ置クコトノ二点ハ特ニ注意ヲ要ス

五七三 十二月二十日 在中国林公使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

西比利亞ヘノ日中共同干涉ニ関シ段祺瑞談話

ノ件

第一七四五号

(前略)

右各種ノ場合ニ於テ英米仏三国又ハ其ノ一国ヨリ我邦ニ向テ協議ヲ為サハ我ハ直ニ之ニ応スヘキヤ否ヲ慎重ニ考慮ノ上諾否ヲ決定スヘク若東方露領又ハ北滿地方ニ於ケル形勢ノ進転ニシテ相当協議ノ誘因トナスニ足ルモノアリト認メタルトキハ敢テ我ヨリ進ミテ協議ヲ開始スルヲ妨ケス但我協議ノ基礎タル聯合与国ノ援助ニ之ヲ置キ露国健全分子ノ鼓舞声援ニ依リ露国ノ事態ヲ改善セムトスルノ意図ヲ經トシ帝国ノ自衛ヲ緯トスヘシ而シテ列強ヲシテ我ニ何等カ野心アルモノノ如ク猜疑セシムルノ虞アル態度乃至措置ハ敵ニ之ヲ慎ムコト及米國ヲシテ東方露領又ハ北滿地方ニ出兵

那ノ軍隊ヲ以テ東支鉄道沿線ニ於ケル治安秩序ヲ維持シ静ニ形勢ノ推移ヲ注視スル外ナカルヘシ万一支那軍隊ノ力丈ニテ不足ヲ感スル場合ニハ日本ハ何時ニテモ相当ノ援助ヲ与ヘ得ルノ地位ニ在リト答ヘ置ケリ

五七四 十二月二十一日 在仏国松井大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

露国ノ状勢及列国ノ之ニ対スル態度、独逸ノ

平和提議等ニ付仏国外相ト会談ノ件

第二九一号

十二月二十一日外務大臣ニ面会シ今ヤ露独休戦条約調印セラレ次テ单独講和ノ成立ヲ見ルニ至ルヘキカト思ハルル処之ニ付何等カ意見アラハ承知シタク又在露英国大使モ時宜ニ依リ引揚クルコトナリタル由ナルカ仏国大使ニモ同様ノ訓令ヲ与ヘラレタリヤト尋ネタルニ在露英国大使引揚ハ寧ロ大使一身上ニ危害ノ加ハラシコトヲ虞レ同国政府ニテモ同大使ノ申出ニ依リ之ヲ許可シタルモノナル処仏国政府ニテハ在露仏国大使ノ意見ヲ微シタルニ差当リ其ノ必要ナキ旨回答アリタルニ付未タ斯ル訓令ヲ発シ居ラス尤露独休戦条約ニ続キ单独講和ニテモ成立スルニ至ラハ依然大使ヲ

駐留セシムル訳ニモ行カサルヘシ而シテ独逸カ真面目ニ「レーニン」政府ト平和条約ヲ結ハントスル積ナルヤ或ハ又単ニ商議ヲ開始シ置キ休戦条約ヲ其俟ニ継続セシメントスル積ナルヤ其辺ハ不明ナルカ愈々单独講和条約締結ノ場合ニ際シ執ルヘキ仏国ノ態度ニ関シテハ未タ何等確タル意見ヲモ定メ居ラサルカ何レ与国トモ相談スルコトナルヘシ又独逸ニテハ国内困難ノ状況益々甚シク平和ヲ求ムル声愈々高ク議員ヨリ政府ニ迫ルコト急ナルヲ以テ新聞ニ予告セラレタル如ク耶蘇降誕日ヲ機会ニ独逸皇帝ハ更ニ何等カ平和ノ提議ヲナスコトナラン然レトモ白耳義ト云ヒ仏国内ノ占領地ト云ヒ其他塞爾比、羅馬尼、波蘭等ニ関シ独逸ノ意図ヲ言明スルコトハ到底行ハレサルニ付斯ル提議モ結局不成功ニ了ルノ外ナカラント答ヘラレタリ依テ本使ハ今朝「マタン」紙ニ独逸兩國關係ノ問題ニ付兩國宰相ノ間ニ取極メラレタリト称スル簡条書(其要領ハ別電第二九二号)ナルモノヲ示シ其ノ真偽及「ピション」ノ意見ヲ求メ斯ル基礎ニテハ講和ノ成立ハ覺束ナシト思考スル旨ヲ述ヘタルニ同簡条書ナルモノハ確カ「マタン」紙ニ宛テタル報道ニシテ檢閲ノ方ヨリ自分ニ廻シ来リ今朝之ヲ一読シタルカ大分

# 日本ノ西比利亞出兵問題ニ対スル英仏米ノ態度ニ関スル件

第八四八 英秘一八三

当地新聞ハ日本ノ西比利出兵ニ関シテ兩三回米國通信ヲ揭ケタル限りニテ之ニ就テ評論ヲ試ミタルモノ稀ナレハ輿論ノ如何ハ之ヲ洞察スルコト能ハサルモ小官一個ノ私見トシテハ元来此ノ問題ハ巴里會議ニ於テ仏國參謀總長ノ提案セルモノニシテ仏國モ之ニ賛成ナルハ疑ヲ容レス小官過日英國軍事内閣ノ連絡將校タル一仏國參謀ト談話ノ際彼ハ頻リニ日本ノ西比利出兵ヲ慫慂セリ仏國ハ露國トノ同盟ニ旧情アル丈ケ其レ丈ケ露國ノ背戾行為ニ対シ憤怒措ク能ハス其結果ノ如何ヲ顧ミルニ遑ナク敢テ膺懲ノ師ヲ拳クルヲ辞セサルノ意ヲナスモ蓋シ已ムヲ得サル所ナルヘシ其他ノ聯合國ハ仏國トハ稍々趣ヲ異ニスル關係上先ヅ日本出兵ノ政略的影響ノ如何ヲ顧慮スルハ之又至当ノ事ニシテ過般巴里會議ノ議題トナリシ際英米ノ代表者カ之ニ同意ヲ表セサリシハ寧ロ自然ノ成行ト認メテ可ナラン露國ノ背戾行為底止スル所ヲ知ラサル今日ニアリテハ聯合國ノ露國ニ対スル態度ハ曖昧ニシテ今尚「レーニン」派對抗策トシテ「コサツク」

本当ラシキ点モアルガ斯ル基礎ニテハ到底承諾出来スト答ヘラレタリ次テ過去會議ノ際協議ニ及ヒタル西比利鉄道問題ニ付帝國政府ヨリ何等カノ回答アリタルヤト尋ネタルニ付本使ハ同會議ノ席上ニテ述ヘタル通り帝國政府ニ直ニ電報シ西比利又ハ北滿地方ニ関スル情報及之ニ対シ何等カ政府ノ意見アラハ承知シタク旨申送リタルガ之ニ対シ數通ノ回電アリタリトテ貴電ノ要領ヲ極メテ簡單ニ述ヘ何分狀況モ十分明瞭ナラサルヲ以テ未タ政府ニテモ何等ノ決定ヲ為スニ至ラサルモノト察セラルルカ仏國政府ニテハ何等取止メタル報道ヲ得ラレタルヤ又英米政府ニ対シ何等カノ処置ヲ執ラレタルヤト問ヒタルニ是亦的確ナル報告ナク從テ別ニ何等ノ処置ヲ執ラス内協議會談話ノ次第ハ在英米等ノ仏國大使ニ内報シ置キタル迄ナリト答ヘラレタルヲ以テ本使ハ「フォッシュ」將軍ノ計画ハ如何ニモ大仕事ニシテ実行覺束ナシト述ヘタルニ「ピション」氏モ之ヲ諒トセリ

在英、米、伊、米、露、各大使ニ転電セリ

註 別電第二九二号ヲ省略ス

五七五 十二月二十一日 在倫敦田中大佐ヨリ  
田中參謀次長宛(電報)

其他健全分子ノ擁護發展ニ一縷ノ望ヲ属シ百万苦慮シツツアリ果シテ予期ノ成果ヲ挙げ得ルヤ否ヤハ予測シ難キモ至難事タルハ疑ヲ容レス小官ハ昨日英國陸軍省謀報課長及東欧方面作戦課長ノ両者ト談話ヲ交換シ窃ニ両者ノ意見ヲ探リシニ前者ハ健全分子擁護ノ為東南露國ハ日本出兵ノ希望ヲ説キ且ツ露國ニ在ル独逸捕虜百万以上ハ開戦当初ノ捕虜多数ヲ占ムルヲ以テ比較的有為ノ將校多ク若シ独逸ノ使噓ニヨリ「レニン」派力之ニ武器ヲ給シ利用ノ方法ヲ講スル時ハ交戦國ノ露國ニ於ケル企圖ニ少カラサル障礙ヲ来スヲ恐レ居ル旨ヲ語レリ後者ハ独逸力漸次露國內ノ鐵道ヲ手ニ収メ物資原料ノ補充ヲ企ツルニ至ルヘキ西比利鐵道モ亦独逸ノ勢力範圍トナリシ曉ハ日本軍ヲ以テ該鐵道ヲ占領スルヲ必要トセンモ目下西比利出兵ハ時機尚早シト語レリ、要スルニ英國陸軍參謀部ニ於テモ今徹底セル意見ナキカ如シ彼等ハ日本ノ出兵ガ露人ニ如何ナル反響ヲ及ホスカニ就テハ深ク顧慮シアラサルカ如キモ過日外務大臣ト珍田トノ談話中ニ大臣ハ日本ノ出兵ハ露人ヲシテ何等カノ野心アルカ如キ疑ヲ懷カシムルヤモ知レザレド米國軍ナル時ハ此懸念ナカルヘシトノコトナレハ此件ニ就テ顧慮ヲ廻ラン居ルハ

察スルニ難カラストスルモ将来西比利地方ニ独逸勢力弥漫シ傍觀スルニ不利ノ狀況ヲ呈スルニ至ラハ躊躇スルコトナク聯合軍援助ノ理由ノ下ニ巧ニ機會ト口実トヲ捕ヘハ日本ノ西比利出兵ハ英國ノ反抗ヲ惹起スルカ如キコトナキノミナラス却テ歡迎セラルルニ至ルヘシト考ヘラル況ンヤ西比利地方ノ秩序益々案乱シ大半ノ臣民ノ生命財産ノ保護ノ必要ニ迫リ此目目的ニ適応スル兵力ヲ派遣スル場合ニ於テオヤ茲ニ顧慮スヘキハ米國トノ關係ニシテ愈々日本出兵ノ場合ニハ彼亦出兵ヲ主張シ他日西比利ニ於ケル米國ノ地位ヲ獲得スルニ努力スヘキハ顧慮シ置カサルヘカラス若シ一步ヲ誤ルトキハ却テ米國ノ勢力ヲ西比利ニ誘引スルノ動機ヲ与フルコトトナルヲ以テ戒心ヲ要ス聞ク所ニ依レハ米國ハ近來西比利鐵道ニ資本材料ヲ提供シツツアリト果シテ然ラハ益々懸念ヲ深カラシム過日巴里會議ニ於テ「フォッシェ」將軍力出兵案ヲ提出セル際日本又米國軍ト言ヒシハ此辺ノ消息ヲ漏セルモノニ非ルナキヤヲ疑フ其他ノ聯合國ノ意見ノ如キハ重大視スルノ必要ナシト認ム

五七六 十二月二十二日 本野外務大臣ヨリ  
在英國珍田大使宛(電報)

# 露独休戰条約締結ニ付任国政府ノ措置態度確

## メ方訓令ノ件

第八三四号

露独休戰条約締結セラレタルニ付テハ貴官ハ最近ノ機會ニ於テ貴任国政府力之ニ對シ執ラムトスル措置態度ヲ確メラレ結果電報アリタシ

本電本大臣ノ訓令トシテ在仏伊大使ヘ転電アリタシ

五七七 十二月二十二日 在浦潮菊池總領事ヨリ  
本野外務大臣宛

## 西比利亞内地現状報告ノ件

公第二四二号 (大正七年一月十日接受)

大正六年十二月廿二日

在浦潮斯德總領事 菊池義郎(印)  
外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿  
西比利内地現状報告ノ件  
西伯利内地現状左ノ如ク及御報告候 敬具  
一、「スパスコエ」

本月廿一日「スパスコエ」居留民會長ノ来談ニ依レハ十日同所過激派カ労兵会ニ對シ酒類解禁ヲ要求セル為メ

ニ不穩ノ噂アリタルモ当該官憲ハ何レモ充分ノ警戒ヲ与フルコトヲ声明シ居留民モ安神シ居リタリ果シテ何事モナク平穩ニ経過セリ

## 一、尼古利市

同市人心ノ不安ナルコトハ廿二日電報ヲ以テ及御報告候処尚十二月廿三日同市居留民ノ来談ニ依レハ同市物資欠乏漸ク甚シク窮民ノ慘状意外ニ甚シキモノアリ此ノ人心動搖ノ期ニ於テ過激派ノ漸ク勢力ヲ増大シ来リ同地軍隊ノ過半数モ之ニ加入セル模様アリ今ヤ支金庫ニハ過激派ヨリノ番兵アリ郵便局ハ未タ彼等ノ手ニ落チサレトモ早晩其ノ手ニ歸セントスル模様アリ本月廿日同市最大商店「チウリン」商会ハ所持ノ物品ヲ一定ノ價格ヲ以テ共通ニ分配ス可キノ指令ニ接シソノ準備トシテ財産目錄ノ提出ヲ要求セラレタルカ尚同商会ニハ多数ノ兵卒押シ掛ケ酒類ノ交付ヲ迫リツツアリ彼等ノ意見トシテハ酒類売渡ハ從來民兵隊ノ証明書ニ依リテ之ヲ為スヲ得タリシカ過激派力市ノ実勢力ヲ占ムル以上民兵隊ハ存在スルモノニアラス故ニ当然自ラ酒類ヲ要求シ得ルモノナリトシテ右ノ如ク要求セル始末ナルカ但シ右ハ未タ奪掠ガマシキ若

クハ脅迫ガマシキ態度ニ出テタルニアラス先ツ強要ト称ス可キ程度ナリシナラン右兵卒等ハ「チウリン」商会ノ拒絶ニ会ヒテ事無ク引取りタリ要スルニ近來頓ニ総テノ点ニ於テ実権殆ド兵卒等ノ手ニ帰セルモノノ如ク上流社会ノ人士ニシテ日本ニ帰化センコトヲ希望シ居ルモノナド続出セル有様ナリトアリタリ 以上

五七八 十二月二十二日 在ベトログラード石坂少将ヨリ  
上原参謀総長宛(電報)

露都ニ於ケル過激派ト独逸機關トノ關係ニ付

報告ノ件

第二五八号 (大正七年一月十六日接受)

露都ニ於ケル過激派ト独逸機關トノ間ニ密接ナル關係アルコトハ確實ニシテ最近露国参謀本部側ノ謀知スル所ニヨレハ此独逸機關ハ将官以下五名ヲ中心トシ其一部ハ常ニ過激派政府内ニ勤務シ特設電話ニテ相互ノ間ヲ連絡シ居レリ又此将校中ニハ既ニ過激派政府勃興時代ニ「レニン」派軍隊ニ在リテ「ケレンスキー」討伐ノ軍隊ヲ指揮セシモノアリト云フ又最近露都及其近郊ニ多数ノ捕虜(或ハ三万トモ云フ)集中中ナルコトモ事実ナリ而シテ是等ハ或ハ昨今内外ノ紛

込ノ報道ノ反響等報告ノ件

廿三日發露参第六号 (大正七年一月十六日接受)

其一、英仏米等ノ在露使臣カ過激派政府ニ対シ必スシモ常ニ反抗的態度ヲ持續シアラサルハ從來報告セシカ如ク幾分カ之ヲ認ムルヲ得ヘク各国ノ歩調カ自己のニ走ルノ傾向アリ又最近仏大使カ「トロッキ」ヲ引見セルモ注目ニ値ス然レトモ多クハ事務的交渉ノ為メ已ムヲ得ス行ヒタル往復ナリトセリ但最近参謀本部一職員ハ英国カ過激派政府承認ノ下心アルヲ窺フノ意味ヲ漏セリ  
其二、過激派政府ハ米国カ自国ノ供セル数十台ノ自動車ヲ「ドン」ノ為ニ提供セントセル露米武官ノ往復文書ヲ發表シ米国使臣団ノ好意ヲ論難シツツアリ但米国大使ハ右ノ事實ヲ否認セリ

其三、支那軍隊ノ東清鐵道地帯ヲ占領セルコトハ当地新聞ニ記載セラレタルモ反過激派新聞カ露国分裂ノ一例証トセル外大ナル感興ヲ惹キ居ラス却テ日本艦隊ノ浦塩進入及日本將校ノ多数内地ニ入り込メルコトヲ其後モ引続キ掲載セラレ目下ノ所其任務ハ侵略ニアラスシテ秩序維持ニアリトセラルルモ一般ニ今後何等カ日本ノ行動始マル

争ニ困窮シ且ツ都下ノ露軍ト離反シテ漸ク動搖ノ色アル過激派政府ノ為メ要スレハ秩序維持ノ名ノ下ニ支援ヲ与フルモノナラント察セラル然レトモ独逸カ将来永ク過激派ヲ支援スルコトハ在リ得ヘカラサル所ニシテ而モ一旦過激派カ主權ヲ獲得スルノ曉ニハ自国ニ不利ヲ来スコト多カルヘク従ツテ帰化独逸人ヲ利用シ王統ノ復活問題ヲ實現スルノ意図ナラントモ限ラス現ニ近來露国宮廷派ノ一部カ過激派政府ヲ介シテ逐次其歩ヲ進メントスルノ徴アリ「ロウゼン」男ノ出廬説ノ如キ即チ之レナリ又建国大会ノ議員中ニモ過激派議員ノ名ヲ以テ当选シ事實宮廷派ニ属スルモノアルハ強チ無根ノ流説トモ思ハレサル点アリ要スルニ独逸ハ今ヤ自己ノ全盛ヲ利用シテ更ニ露国ノ内政ヲモ掌握シ永遠ニ殖民地タラシムルノミナラス或ハ露国民ノ特性ヲ利用シテ独逸ノ指導ノ下ニ再ヒ武斷的ニ軍隊ヲ改編シ更ニ進シテ極東ニ対スル独逸系ノ一新武力ヲ形成スルコトナキヲ保シ難シ

五七九 十二月二十三日 在ベトログラード石坂少将ヨリ  
上原参謀総長宛(電報)

露国過激派政府ニ対スル在露各国使臣ノ態度、  
日本艦隊ノ浦潮進入及多数日本將校ノ内地入

ヘシトテ注目セラル而シテ其責任ナキ民間側ニハ日本ノ浦塩占領ヲ事實トシ之ニ対シ別ニ惡感ヲ有シ居ラス過激派機關紙ハ未タ之ニ関シ大ナル論議ヲ起サス

五八〇 十二月二十三日 在瑞西国三浦公使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

露国ニ於ケル日本資本ノ侵害措置ニ反対ナル  
旨日本政府ヨリ露国政府ヘ申入アリタル趣ノ  
瑞西新聞報道ニ関シ報告ノ件

第一八九号

二十二日及二十三日瑞西ノ或新聞ハ左ノ如キ報道ヲ掲載シタリ

在露都日本公使ハ本国政府ノ名ニ於テ外交事務委員「トロッキ」ニ通告シテ曰ク露国ガ其財政ヲ処理スルニ当リ日本ハ些少タリトモ損失ヲ蒙ルコトヲ欲セズ若シ露国ニ於ケル日本資本カ何等危険ニ晒サルルコトアラバ「マキシマリスト」政府ハ之ニ対シ全責任ヲ負ハザル可カラズ其場合ニハ日本ハ必要ナル一切ノ干涉ヲナスノ權利ヲ留保シ又必要ノ場合ニハ領土上ノ賠償ヲ要求ス可シ

五八一 十二月二十七日 在英國珍田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

露独休戦条約締結ニ関シ英國政府ノ措置態度

ニ付セシル卿ニ問訊シノ件

第五七五号

(十二月二十九日接受)

貴電第八三四号ニ関シ

「バルフォア」氏静養中ニ付十二月二十六日「ロバート、セシル」卿ニ会見(同卿ハ過日來「ミルナー」卿ト共ニ巴里ニ赴キ「クレマンソー」「ビション」等ト何事カ重要ノ会商ヲナシ帰英シタル許リナリ露国問題ハ恐ラク重ナル協議事項ノ一タリシコトト本使ハ想像シ居タリ)休戦条約締結ノ事實ニ鑑ミ露国ニ対スル英國政府ノ意嚮如何ト尋ネタルニ同卿ハ英國政府ノ意見トシテ此際「ボルシエビイク」政府ニ対シ open rupture ノ態度ヲ取ルハ策ノ得タルモノニアラズト思考ス之ト同時ニ該政府ハ露国ノ民意ヲ真正ニ代表セルモノニアラズトシテ之ニ承認ヲ与ヘズトノ当初ノ方針ハ英國政府ハ依然之ヲ保持スル考ヘナリト答ヘ尚「ブカナン」大使ヘハ昨二十五日ヲ以テ帰朝ノ電命ヲ発シタルガ随時發生スル實際問題処理ノ為メ「ボルシエビイク」政府ト

ノ事実上ノ接触ハ適宜 unofficial person ヲ以テ之ニ当ラシムルコトトスル積リナリ「ウクライン」等南部露西亜ニ於テモ右同様ノ仕組ニテ其地方ニ権力ヲ及ボシ居ル事実上ノ政府トノ接触ヲ保持スル考ナリトテ前述ノ諸方針ニ付テハ過日巴里ニ於テ仏国側トモ相談シタルガ仏国政府モ同意ヲ表セル旨語ラレタルニ付本使ハ

(一)、「ブカナン」大使帰朝ノ命令ハ貴電第八二八号ノ電訓ト何等關係アル次第ナルヤ否ヤ又

(二)、「巴里會議ニ於ケル「バルフォア」氏ノ所言ニ依レバ「ボルシエビイク」政府ト事務上ノ接触ハ領事ヲ以テス可シトノ事ナリシガ只今御話ノ如クバ右方針ハ變更セラレタル理ナリヤト尋ネタルニ

「セシル」卿ハ

(一)、「ニ付テハ「ブカナン」ヨリ最近健康上ノ理由ニ依リ帰朝ノ願出アリ随分久シク困難ノ地位ニ処シタル上ニ医師ノ意見ニテモ是非帰朝静養ノ要アリトノ事故願意ヲ聞届クルコトトシタルモノニテ貴電第八二八号ノ訓示トハ全ク独立ノ意味ニテノ帰朝命令ナリ又

(二)、「ニ関シテハ實ハ露都駐在ノ英國領事ハ(不明)少シク

不安心ノ点アルニ付別ニ官吏外適當ノ人物ヲシテ勞農政府ト大使館トノ間ニ介在接触セシムルコトニ決シタル次第ナルガ要ハ領事其人ノ不十分ヨリ余儀ナクセラレタル特別ノ便法ニテ巴里ニ於ケル外務大臣所陳ノ趣旨ニ變更ヲ来シタル次第ニアラズ「ウクライン」政府トノ接触ハ「オデツサ」駐在領事ヲシテ当ラシメ居ル次第ナリト説明シ尚露国内ノ政争ニ対シテハ不干渉ノ態度ヲ守ルノ方針ナリト雖モ南露ニ於ケル物資ヲ羅馬尼ノ使用ノ為保存充塞セシムルコトハ同国支持ノ為必要ニ属スルヲ以テ此目的ノ為南方露西亜ニ我(不明)ニ保存ノ必要アル次第ナリト述べラレタリ(其裏面ノ意味ハ南方露西亜ヲ支持承認シテ「ボルシエビイク」政府ニ対スル物資及糧道ノ杜絶ヲ行ハシムルコトナルコト言外ニ明カナル様本使ハ印象セラレタリ)

斯クテ「セシル」卿ハ語ヲ轉ジ此際ニ於ケル日本政府ノ意嚮如何ヲ問ハレタルニ付本使ハ帝國政府ニ於テ何等其態度ヲ確定シタルノ報ニ接セザルモ元來極東露領地方ニ於テハ帝國ハ重大ノ利害關係ヲ有スル事實ニ鑑ミ政府ニ於テハ最慎重ノ態度ヲ以テ考慮ヲ尽シツツアル事ト信ズル旨ヲ述ベ

タルニ「セシル」卿ハ日本政府ガ日本ノ利益保護上浦潮ニ軍隊上陸ノ必要ヲ認メラルル場合ニ於テハ露国人ヲシテ日本ノ行動ノ侵略的企圖( aggressive designs )ニ出ヅルモノナルヤノ疑ヲ抱カシメザル様ノ手段ヲ講ゼラルルノ要アル可シト思考スル旨ヲ述べ尚東部西伯利亞露人間ニ同地方自治ノ計画アリトノ噂アリ日本側ニ於テ是等ノ分子ト接触セラルルコト得策ナラザルカ又米國政府トノ間ニモ意見ヲ交換セラルルコト利益ナル可シト思考スト云ハレタルニ付東部西伯利亞獨立ノ計画アル風聞ハ耳ニシ居ルモ今迄ノ処未ダ何等形ヲ備ヘタル運動トモナリ居ラザル様諒解スト態ト輕ク受ケ流シ又米國トノ關係ニ対シテハ往電第五五四号後段「バルフォア」氏ニ対シ開陳ノ趣旨ヲ繰返シ置キタリ在欧米各大使ニ転電セリ

五八二 十二月二十七日 在伊国伊集院大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

露独休戦条約締結ニ関シ伊国政府ノ措置態度

ニ付伊国外相ニ問訊シノ件

第一九四号

在英大使宛貴電第八三四号ニ関シ本月廿七日伊国外相ニ面

会シ伊国ハ何等措置ヲ執ラレタルヤヲ尋ネタルニ其答ニ依レハ伊国ハ素ヨリ「レニン」政府ヲ認メズ事態轉變極リナキ今日ニ於テハ当分傍觀ノ外ナキニ付未ダ何等ノ措置ヲ執ラズトノ事ナリ尚露国ノ事態ハ益々渾沌タル有様ニ付協商側トシテハ西南露方面ノ成行ニ聊カ希望ヲ属シ居ル位ナルモ是亦果シテ如何ニ發展ス可キカ結局露国ハ既ニ芬蘭ノ独立「ウクライン」地方モ亦独立セントスルガ如キ状態ニテ自然分割スルニ至ルナキカト思考スト次ニ外相ハ浦潮方面ノ情報ハ一向ニ真相ヲ知ルヲ得ザルガ果シテ如何ナル事態ナラントノ事ニ付本使ノ承知セル限り大要ヲ告ゲ日本ガ同地出兵ノ無根ナルコト且露国ニ対スル措置ニ就テハ周到ノ注意ヲ要シ輕拳ノ不得策ナルコトヲ述ベタルニ外相ハ先日巴里ニ於テモ日本委員ヨリノ説明ヲ聞キ日本ノ意嚮態度ハ十分諒解シ且道理アルモノト思考シ居レリト述ベタリ

本使ハ外相ニ対シ在露伊国大使代理ヨリハ時々情報アル可キガ外国大公使館員及外国人ニ対スル危険等ニ関シテハ如何ナル報道アリシヤヲ尋ネタルニ露国人間ニハ絶エズ危険ノ行動アルモ未ダ外国人ニ対シテハ危険ヲ加フルコトハ無カル可ク「レニン」政府ハ頻ニ協商側大公使館ト公然ノ関

係ヲ夙ニ工夫シ居ル模様ニテ現ニ仏国大使ハ「トロツキ」ニ会见シタル由ナルガ之ハ協商側使臣トシテハ注意ス可キコトナリ仏国大使ノ会见ハ甚ダ穩当ナラズト思考スト断言セリ

終リニ外相ハ日本ガ露国方面ニ出兵困難ノ事及歐洲方面有力ナル援兵派遣モ不可能ナル事モ承知セルモ少数ノ兵ニテモ「サロニカ」方面ニ出兵ノ事出来レバ寔ニ好都合ナリトノコトニ付本使ハ是迄各方面ニ於テ説明セラレタル理由ヲ以テ其不可能ナルコトヲ述ベ置キタリ

在英仏露各大使ヘ轉電セリ

五八三 十二月二十七日

在米國佐藤大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

巴里聯合國會議ニ於ケル日米間ノ意見一致、  
日米間ノ懸案解決ノ見通シ等ニ関スル「ハウ  
ス」大佐ノ談話報告ノ件

第五七三号

(十二月二十九日接受)

過般巴里會議ニ参列シタル「ハウス」大佐二十七日日本使ヲ訪問シ右會議ニ於テ日本ノ委員トハ期セズシテ意見一致シ万事満足ナル關係ヲ持續スルヲ得タルハ自分ノ愉快ニ感ジ

#### 附屬書一

在露米國大使引揚問題ニ対スル米國政府ノ態度ニ関シ在米國英國大使ヨリ英國外務大臣宛電報

#### 二

中國軍隊ノ哈爾濱露國過激派軍隊逮捕ニ対スル英國政府ノ所見ニ関シ英國政府ヨリ在中國英國公使宛電報

訳文 (註 日本外務省作成ノ仮訳ナリ)

以書翰致啓上候陳者本使ハ本国政府ヨリ接手セル電報式通ヲ玆ニ至急閣下ニ送附致候其ノ老ハ在「ペトログラード」合衆國大使館カ将来執ルヘキ措置ニ関シ合衆國政府ノ所見ヲ開陳セルモノニ有之其ノ式ハ支那軍隊ヲシテ哈爾濱ニ於ケル露國過激派軍隊ヲ逮捕セシムル提議ニ関シ本國政府ノ意圖ヲ声明セルモノニ有之候尤モ右電報發送後支那軍隊ハ哈爾濱ヨリ本件露國過激派軍隊ヲ擊攘シタル模様ニ有之候右申進旁本大臣ハ玆ニ重ねテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

千九百十七年十二月二十九日 東京ニ於テ

カニンガム、グリーン署名

外務大臣法学博士子爵 本野一郎閣下

(附屬書一)

在米國英國大使發英國外務大臣宛電報(訳文)

タル所ニシテ殊ニ松井大使ノ為サレタル演説ハ能ク日本ノ立場ヲ説明シ自分ハ初ヨリ日本ノ参戰協力シ得ヘキ程度ヲ十分諒トシ居タルモ歐洲ノ政治家中ニハ誤解ノ向モアリタル処之レガ蒙ヲ啓クニ与テ力アリタルハ自分ノ欣幸トスル所ナリト述べ尚続イテ露国ニ対スル方策ニ付テハ往電第五六八号國務長官ノ言ト同ジク愁ヒ干渉ケ間敷キ処置ヲ執ルハ面白カラズ姑ク成行ニ委スノ外ナシトノ意ヲ洩セリ

以上在歐各大使ヘ電報済

二、序ヲ以テ本使ヨリ往電第一七二号日米懸案解決ノ件ニ言及シ何等カ処置ヲ執ラレタルヤト聞キタルニ同氏ハ右ハ其當時國務長官ニ自分ノ意見ヲ伝ヘ置キタルガ其後米國ノ参戰及日本ノ特使来航等ニ依リ日米間ノ關係頓ニ敦厚ヲ加ヘ今ヤ互ニ隔意ナク相信頼スルノ地位ニ達シタルヲ以テ此種日米懸案モ戰爭ノ終結ト共ニ自カラ満足ナル解決点ニ達スヘキハ自分ノ疑ハザル所ナリ目下多事ノ秋ニ際シ強テ之レガ解決ヲ急グハ却テ不得策ナルヘキヲ感ジ居レリト謂ヘリ

五八四 十二月二十九日

在本邦英國大使ヨリ  
本野外務大臣宛

英本國政府ヨリノ電報二通送付越ノ件

一九一七年十二月二十三日

米國國務省ハ在ベトログラード英國大使へ送附セラレタル訓令ヲ在ベトログラード合衆國大使へ通報セリ  
合衆國大使フランス氏ハ露國內部ニ於ケル刻下ノ騷擾ヨリ惹起セラルル不安状態ニ拘ラズ其ノ任所ニ留ルヘキ旨申来レリ而シテ合衆國政府ハ同大使カ将来執ルヘキ行動ヲ同大使一己ノ裁量ニ委スヘキ旨申送レリ

(附屬書二)

英國外務大臣發在中國英國公使宛電報(訳文)

一九一七年十二月二十七日

刻下ノ情況ニ於テハ支那軍隊ハ露國過激派首領及軍隊ヲ逮捕セザルヲ可トスヘシ

本大臣ハ本件ニ關シ聯合与國ト目下協議中ナルカ聯合國ノ意見發表ヲ見ル迄ハ貴官ハ支那政府カ右様ノ手段ヲ執ラザル様勧告セラルヘシ

五八五 十二月三十日

在英國珍田大使ヨリ  
本野外務大臣宛(電報)

ロバート、セシル卿ヨリ内送ノ英國政府ノ對

露方針ニ關スル秘密覺書内容電報ノ件

第五八四号 極秘

露都ニ於テハ我方ハ此際直ニ各自國ノ最良ト認ムル「アン  
オフィシアル、エージェンツ」ヲ介シ「ボルセビツク」ト  
ノ接觸關係ヲ附クルコトトスヘシ英國ハ「ブカナン」大使  
ヲ養痾帰朝セシメ露都ニハ一ノ代理大使ヲ駐ムル積ナルカ  
他ノ同盟國ニ於テモ右ノ例ニ倣フヘシト提言スルモノニア  
ラズ「ブカナン」大使ハ久シク露都ニ駐在シ「ボルセビツ  
ク」ノ眼ヨリ觀レハ「カデット」党ノ政策ト到底斷チキレ  
ザル因縁ヲ有シ「ボルセビツク」ノ同大使ヲ見ルコト例ヘ  
ハ尚「ミリュエーコフ」ニ於ケルカ如シ

「ボルセビツク」ニ對シテハ我方ハ露國ノ内政ニ何等ノ方  
法ニテモ関与セムトスルノ意志苟モ之レナキコト竝我方ニ  
於テ反動の革命ヲ歡迎スルモノトスルノ見解ハ深大ノ誤解  
ニ属スルコトヲ説示スルヲ要ス此種ノ政策ハ独塊ノ如キ專  
制政府ニハ或ハ歡迎セラルヘキモ西欧及米國ノ民主國ニ取  
リテハ然ラス尤我方ハ為シ得ル限り「ウクレイン」、芬蘭、  
西比利亞、高加索等ト接觸ヲ保ツノ必要ヲ感ス其ノ所以ハ  
此等ノ半自主的地方(セミ、オートノマス、プロビンセ  
ス)ハ露國国力ノ頗ル大ナル部分ヲ代表スルヲ以テナリ殊

ニ「ウクレイン」ニ對シテ我方ニ於テ是非共其ノ好感情ヲ  
開拓セサルヘカラス何トナレハ羅馬尼ノ給養ハ「ウクレイ  
ン」ニ仰クノ外ナク而カモ羅馬尼救済ハ我方ニ取リ名譽上  
ノ義務ニ属スルヲ以テナリ戰爭ニ関シテハ我方ハ敵國ト講  
和談判ヲ開始シタル露人ノ背信ヲ有怨スル意味ノ一切ノ言  
動ヲ切ニ注意シテ避クルヲ要スルト同時ニ我方ニ於テ民族  
自決ノ原則竝右原則ノ下ニ無併合無賠償ノ主義ヲ受諾スル  
ノ意思ナルコトヲ絶エズ反覆スルコトトスヘシ我方ハ「ボ  
ルシェビツク」ニ對シテハ彼等ニ於テ独逸側ノ空虚ナル文  
句ニ満足スヘカサル所以ヲ説得シ且彼等ヲシテ「アルサ  
ス、ローレン」及「トレンチノ」ハ勿論波蘭、「ボヘミヤ」  
竝羅馬尼民族所屬ノ「トランシルバニア」ノ部分ニ関シ具  
体的ノ約束ヲ独逸側ヨリ取附ケサル限り彼等ノ折衝ハ画餅  
ニ歸スヘキ次第ヲ指摘スルヲ要ス而カモ此間独逸ニ對スル  
「ボルシェビツク」ノ抵抗力ハ融解シツツアリ惟フニ久シ  
キヲ出デズシテ彼等ハ其ノ死命ヲ独逸皇帝ニ制セラルルニ  
至ルヘク事茲ニ至レハ独帝ハ彼等「ボルシェビツク」ノ連  
発セル優麗ナル文句ノ全部ヲ捉ヘテ其ノ意ノ仄ノ条件ヲ彼  
等ニ課スルニ至ルヘシ就テハ我方ハ宜シク「ボルシェビツ

ク」ニ告クルニ軍隊ノ紀律匡正ノ措置ハ今ヤ恐ラク時機後  
レナルヘキモ火炮類(マテリアル、オブ、アーチレリー)  
ノ保存ハ此際ニテモ尚行ハレ得ヘク少クトモ之ヲ敵手ニ委  
附シ以テ西欧各民主國ニ對シテ使用セシムルカ如キコトナ  
キ様致サザルヘカラス殊ニ何レヨリモ大切ナルハ「ボルシ  
ェビツク」ニ於テ為シ得ヘクハ「ウクレイン」ノ如キ小麦  
産出地方ヲ中央帝國側ノ監理又ハ利用ニ附セシメザルニア  
ルコトヲ以テセザルヘカラス此最後ノ点ハ即チ我方ニ於テ  
「ウクレイン」ヲ支持シ之ヲ鞏固ニスルニ腐心スル所以竝  
我方カ切ニ「ボルシェビツク」ニ向テ「ウクレイン」ニ對  
シテハ強制的手段ヲ避ケ寧ロ之ト親密協力ノ關係ヲ作ルヲ  
要スト勧告スル所以ノ別種ノ理由ナリトス

南方露西亜ニ於テハ我方ノ主要目的ハ能フヘクハ羅馬尼ヲ  
救済スルニアリ之ニ次テハ露國物資ノ独逸ニ向フヲ予防ス  
ルコトヲ眼目トセサルヘカラス  
最後ニ我方ハ為シ得ヘクハ是非「アルメニヤ」ノ殘部ヲ保  
護スルノ必要アリ右ハ単ニ我「メソポタミヤ」軍ノ波斯及  
高加索ニ於ケル側面掩護ノ為ノミナラス自主國又ハ獨立國  
トシテノ「アルメニヤ」ノ存立ハ(為シ得ヘクハ小亜細亞



ト合体セシメテ）西、君斯坦丁堡ヨリ東、遠ク支那ニ到ル迄モ拡大シ「バクダッド」鉄道ノ管理權ヨリモ更ニ一層重大ノ危険ヲ世界ノ平和ニ与フルニ足ル底ノ其ノ大武器ヲ独逸ニ供スルコトナルヘキ彼ノ全土耳其民族運動（turban movement）發展ニ対スル唯一ノ防禦タルヲ以テナリ

我方ニ於テ若シ南方露西亞ノ各軍ヲシテ戦闘ヲ再ビセシムルコトニ説得スルヲ得バ事甚ダ望マシキモ右ハ多分不可能ナル可シ是等ノ目的達成ノ為ニハ第一必要物ハ

一、「ウクレイン」改造ノ為

二、哥薩克及高加索軍隊ニ支払ノ為並又

三、波斯側ニ贈賄ノ為ノ資金ナリ其所要額ハ差向キ莫大ニハアラザルモ為替ノ点ニ多大ノ困難アリ若シ仏國側ニシテ「ウクレイン」ニ対スル資金供給ヲ引受ケ得ルニ於テハ其他ノ向ニ対スル金策ハ英國側ニ於テ之ニ当ル可シ米國政府モ補助スルコトアル可シト了解セラル

財政上ノ手段以外ニ於テハ各地方政府並其軍隊ニ対シ助言ト支持ヲ与フル為 agents 及將校ヲ派遣スル事肝要ナリ右ハ可成我方ニ於テ「ボルシェビツク」ニ対シ戦争開始ノ準備ヲナシツツアリトノ讒誣ヲナシ得ル限りハ避ケ得ル様可

成速ニ之ヲ実行スルコト切要ナリトス此点ニ付テモ「ウクレイン」ハ仏國ニ於テ之ヲ担当シ英國ハ他ノ東南各地方ヲ受持ツ事トシ度シ英仏兩國ヨリハ右關係地域ニ於ケル各自ノ活動ノ主任者トシテ各將官一名ヲ派遣スルコトス可ク右將官ハ双方活動ノ一致確保ノ為慎重ニ選任セラル可キ聯絡將校ヲ使用シ以テ相互ノ間ニ最密接ノ接觸ヲ保ツ可キコト勿論ノ義ナリトス

現ニ仏國及英國ニ在留スル幾多露國將校ヲ補助シテ南方露西亞ニ帰還セシム可キヤ否ハ研究ヲ要スル問題ナリトス在仏、露各大使ヘ転電セリ

五八六 十二月三十一日

在露國古谷中佐ヨリ  
上原參謀總長宛（電報）

休戰條約成立後ノ諸案件交渉ノ為獨逸側委員

露都着ノ件

a 四十号

（大正七年一月十七日接受）

露古電第三十五号

近日「ドウインスク」ヲ經テ露都ニ入りタル獨逸側四國ノ委員及屬員ハ二百名ニ達シ其ノ十分ノ九ハ將校ナリト伝ヘラル尚噂ニ依レハ將校ハ電信本局ノ室ヲ独占シ本國ト通信

ヲ始メタリト委員ノ任務ハ捕虜交換郵便交換ノ事務及将来經濟關係ノ予備商議ニアリト称セラルモ直チニ開始スヘキ露國ノ糧食輸出及獨逸ノ製造品輸入ヲモ議スヘシト云フ

委員ニ対スル「レーニン」政府欲待大ナリ現政府ト敵國トノ關係ハ休戰關係以上ニシテ曩ニ虚説ナリト思ハレタルモノ日ニ事実トシテ現ハレツツアリ過激派トシテ此事アルハ

怪ムニ足ラサルモ与國ノ面目ハ全ク蹂躪セラレツツアリト謂フヘシ

政府ヲ認メサル理由ノ下ニ之レヲ看過スル時ハ既ニ去レリ今ヤ断乎タル処置ニ出ツルノ時来レリト信ス殊ニ過激派ノ地盤已ニ動揺ヲ始メタルオヤ